検　査　年　報

昭和２８年度

通商産業省工業品検査所

国立国会図書館蔵書

国立国会
30.2.25
図書館

K 7726

6745 Ka521k

— 目　次 —

第1編　総　説

第2編　業　務

機械金属関係

Ⅰ 機械金属関係総概況……11

Ⅱ 機械金属関係品目別概況……15

1. 光学機械……15
(1) 双眼鏡……15
(2) 写真機……16
(3) 顕微鏡，測量機械，その他……17
2. 軸　受……18
3. 計量器……19
4. 家庭用ミシン及び同部品……22
5. 繊維機械用品……25
6. 時　計……30
7. 蓄音機……32
8. 作業工具……33
9. 一般工具……34
10. 超硬工具……34
11. 農機具……35
(1) 噴霧器……35
(2) 脱穀機……36
(3) その他の農機具……37
12. 食糧加工機械……39
精米機……39
13. 手引のこぎり……40
14. 木工用ノコ……41
15. 鉄管継手……41
16. 自転車及び同部品……41
17. 自動車部品……46
18. 小形陸用内燃機関……48
19. 軽電機器……51
(1) 配線器具……51
(2) 電　球……51
(3) 携帯電灯……54
20. 無線通信機器……54
筒形紙コンデンサ……54
21. 強電機器……55
22. 非鉄金属……57
23. 鉄鋼二次製品……62
(1) 亜鉛メツキ鋼板……62
(2) 線材製品……67
(3) 木ネジ……71
(4) 鉄鋼金網……76

雑貨関係

Ⅰ 雑貨関係総既況……80

Ⅱ 雑貨関係品目別概況……83

1. 陶磁器……83
(1) 食器類……83
(2) ノベリテイ類……85
(3) タイル……87
(4) 衛生陶器……88
(5) 低圧碍子……89
2. 豚毛及び刷子類……90
3. バンコツク帽体……93
4. ゴム製品……94
5. セルロイド製品……97
6. セルロイド生地……99
7. 石けん……100
8. 安全マツチ……101
9. 硝子製品及び人造真珠……102
10. 金属洋食器……105
11. アルミニウム板製品器物……106
12. ほうろう鉄器……107
13. アンチモニー製品……108
14. 洋傘骨……110
15. 手縫針……111
16. 喫煙具……112
17. ポケツトナイフ……113
18. 金属及び機械がん具……114
19. 万年筆……115
20. 鉛　筆……116
21. サラダボール……117
22. 漆　器……118
23. 竹製品……119

化学製品関係

Ⅰ 化学製品関係総概況……122

Ⅱ 化学製品関係品目別概況……124

1. 輸出試薬……124

2. 輸出化学肥料 ……133
3. ダイナマイトグリセリン ……140
4. 検定試薬 ……141
5. 一般試薬の依頼検査 ……144
6. 一般化学工業品の依頼分析 ……154
7. ビルマ向輸出品の依頼検査 ……156
8. 所内委託検査 ……157

附　　録

1. 輸出品取締法関係告示等一覧表 ……159
2. 輸出取締法による登録検査機関一覧表 ……160

第一編　総　　説

昭和28年度における工業品検査所の業務を特徴づけるものは，輸出品取締法の改正により新法による輸出検査制度の確立とビルマ向輸出品に対するサーベイ・リポートの発給及びこれに伴う輸出品依頼検査の実施である。

輸出品取締法の改正と検査業務について

現行輸出検査制度の基本法である輸出品取締法は昭和23年制定されたが，その実施について種々難点もあり，又本邦における輸出検査機構に対する海外の批判においても第三者的検査機関の活動を要望する声がようやく高くかつ輸出検査の本質上，第三者による公平厳正な検査こそ最も適当なるにかんがみ，これを主眼として，ここに根本的改正が加えられ本年4月1日より施行された。

改正の要点は次の7点である。

1. 品質に関する最低標準を定める輸出品の範囲を拡大したこと。
2. 仕向地別に異なる最低標準及び包装条件を定めることができるようにしたこと。
3. 本邦にある外国公館が送付する貨物その他省令で定める貨物及び主務大臣が輸出品の声価を害するおそれがないと認めた貨物を本法の適用例外とすることができるようにしたこと。
4. 被登録者による強制検査品目の範囲を拡充できるようにしたこと。
5. 被登録者の登録基準を引き上げ且つその認定に実質的審査を加え得るようにし，その基準は，必要な設備と十分な検査人及び事務所を有し，公正な表示の業務を行うことができるものに限定し，かつその数についても，著るしく過剰にならないよう制限し得るようにしたこと。
6. 被登録者の業務規程を主務大臣の認可を要することとする等，被登録者に対する監督を強化したこと。
7. 被登録者のした処分に対し不服のある者が聴聞会開催の請求が認められる等の不服申立規定をおいて，その利益を保護したこと。

以上が今回の改正の中の要点であるが，これが運用にあたつては，その方針として，臨検々査を徹底して行うことが一項掲げられたので，当所においてもこの趣旨に則り臨検々査を強化し，検査件数も19,405件と昨年度に比し4.2%の増加を見た。検査の結果は事故3,750件（事故率19.8%）であつた。

いま，事故率の高い品目をあげると機械金属関係では作業工具，軽電機械，光学機械，鉄鋼二次製品，雑貨関係では万年筆，鉛筆，硝子製品，食器（陶磁器），金属洋食器，ほうろう鉄器等である。

（注）下線のある品目は昨年度も事故率の高いもの。

一方第7条の2指定品目関係においては，旧登録基準による登録検査機関から新登録基準によるそれへの切替が，軸受を最初にして順次ミシン，双眼鏡と行われ，本年11月までに旧登録基準によるものは，全くその業務を廃止し，切替が完了した。又必要に応じて第7条の2品目を拡充するという方針から，本年7月3日に自転車，リヤカー並びにこれらの部品及び附属品，29年3月2日にはセルロイド生地及び製品が新たに第7条の2品目として指定された。

新しい登録検査機関は従来と異り，相当な権限をもつて表示の業務を行うものであり，従つて，これ

に対する監督は，厳正に行うと共に，一方これを指導育成してゆくという立場から，これに対する臨検々査は，監督上必要と認められる限度において行うべく通牒されこのため通常の形の外に，立合検査の形による臨検を行うように，その方法を従来と変更することになつた。

ビルマ向輸出品に対する Survey Report の発給及び輸出品依頼検査について

昭和28年におきたビルマ向亜鉛鉄板の不正輸出事件は意外に大きな波紋を生じ，遂にビルマ政府の外貨徒費を防止するための手段として，ビルマへの全輸入品に対し公認の Survey Report の添付が必要であるとし，9月25日 Union bank の Circular No. 7 が発せられ，10月26日よりL/C発行のものに適用する旨明かにした。

ところで公認の Surveyor としては，国営検査機関及び交渉の結果政府の包括的保証のもとに Survey Report の発給を認められた民間検査機関財団法人日本紡績検査協会外39社とが検査を行なうことになり，それぞれ活動を開始した。当所に於ても民間検査機関がない場合等，已むを得ない場合には，依頼により検査を実施し件数も次のとおり516件にのぼつた。

ビルマ向輸出品に対する検査証明書発給実績調

	11月	12月	1月	2月	3月	計
機械金属関係	32	66	36	20	7	161
雑貨関係	97	103	54	59	24	337
化学製品関係	1	4	5	5	3	18
計	130	173	95	84	34	516

其の後この件について，ビルマのバイヤーの中 Steel Brothers & Co., Ltd. 外26社が品質及び数量に関し政府が外貨損失を蒙つた場合，同社で補塡すると云う条件で Survey Report の添付を要しない特例の許可を得た情報があつた。又29年1月30日に到り3月31日まで添付の要なき旨の通知があり更に3月18日付 Union Bank of Burma の Circular No. 4 をもつて4月1日以降如何なる国からの輸入に対しても Survey Report を要求することを停止する旨発表があつて，ここに通常の貿易にもどつたのである。

従来当所においては化学製品を除いて依頼による検査はわずかに委託検査として実施してきた程度であるが，前述の如くビルマ向 Survey Report の発給等もあつたので，29年2月以降は新たに輸出品についての証明書を必要とするための検査依頼に関する規定をもうけ，この種の検査に対して通商産業部内職員受託出張規則（昭和22年8月8日総理庁，商工省令第3号）第3条，但書の規定による15割の旅費額を徴収することとした。

組　織

- 庶務課 — 所管業務の総合調整，庶務，人事，文書，厚生，調査
- 会計課 — 予算決算，主計，歳入，営繕，用度
- 機械金属部
  - 精密機械課 — 機械金属部の総合企画，光学機器，計量器，軸受及び同部品，その他の検査，規格
  - 産業機械課 — ミシン，繊維機械部品及び同用品，管継手，農機具，家庭用軽機械，工具，木工及び製材用ノコの検査

- 本所
  - 雑貨部
    - 動力機械課 — 自動車部品，自転車及びリヤカー同部品及び附属品，陸用内燃機関，電気機械器具の検査
    - 金属課 — 鋼材(その半製品を含む)，鉄鋼製品，非鉄金属及び同製品の検査
    - 雑貨課 — 雑貨部の総合企画，陶磁器及びその他の検査，規格
    - ゴム雑貨課 — ゴム製品，石けん，セルロイド生地，セルロイド製品及びマツチの検査
    - 金属雑貨課 — 金属喫煙具，金属洋食器，アンチモニー製品等日用金属製品，ガラス製品及びほうろう鉄器の検査
    - 工芸雑貨課 — 漆塗製品，木製品，文房具等の工芸雑貨及び金属がん具の検査
  - 化学製品部
    - 化学課 — 化学製品部の総合企画，試薬アルコール及び試薬塩化ナトリウムの製造工場の資格の調査，輸出試薬及びその他の検査業務，規格
    - 試薬課 — 一般試薬及び標準試薬の検査，検定試薬（試薬アルコール，試薬塩化ナトリウム及び火薬類試験用試薬）の検定
    - 肥料課 — 輸出化学肥料，有機，化学工業品及び無機化学工業品の検査
- 大阪支所
  - 庶務課 — 庶務，文書，厚生，調査及び会計に関する事項
  - 機械金属部
    - 精密機械課 — 機械金属部の総括事務並に自転車，リヤカー及び同部品，附属品，軸受，光学機械，計量器，工具，管継手，製材木工機械用品の検査
    - 産業機械課 — ミシン及び同部品，蓄音機，時計，繊維機械用品，農機具，家庭用軽機械の検査
    - 金属課 — 鉄鋼二次製品，非鉄金属製金網，鉛，亜鉛，伸銅品，軽金属の検査
  - 雑貨部
    - 雑貨課 — セルロイド生地及び製品，ほうろう鉄器，ゴム製品の検査
    - 窯業課 — ガラス製品，陶磁器，人造真珠の検査
    - 日用品課 — 万年筆，鉛筆，豚毛，刷子，アルミ板製品，アンチモニー製品，金属洋食器，喫煙具，洋傘骨，手縫針，ポケツトナイフ，金属玩具，機械玩具，竹製品，釣竿，木製品，マツチ，漆塗製品，帽体の検査
  - 化学製品部
    - 化学課 — 化学製品部の総括事務，並に輸出化学肥料，輸出工業薬品，一般化学工業品の検査
    - 試薬課 — 一般試薬，輸出試薬，検定試薬の検査
- 名古屋支所
  - 庶務課 — 庶務，会計，調査
  - 精密機械課 — 検査総括事務，並に光学機械，軸受，計量器，蓄音機，時計，自転車，リヤカー及び同部品，附属品，管継手，製材木工機械用品，工具，自動車部品同附属品，陸用内燃機関の検査
  - 産業機械課 — ミシン及び同部品，農機具，家庭用軽機械，電気機械器具，繊維機械用品，鉄鋼二次製品，非鉄金属及び同製品の検査
  - 雑貨化学品課 — 雑貨，並に化学製品関係品目の検査
- 福岡支所
  - 機械金属課 — 検査総括事務並に機械，金属関係品目の検査
  - 雑貨化学品課 — 雑貨並に化学製品関係品目の検査
- 出張所 — 横浜，新潟，富山，神戸，広島，丸亀

所在

名称	所在地
工業品検査所（本所）	東京都中央区銀座東6の1
大阪支所	大阪市生野区勝山通8の40
名古屋支所	名古屋市東区長塀町2の15
福岡支所	福岡市鳥飼字玄丹269

横浜出張所	横浜市中区北仲通り5の57（横浜生糸検査所内）
新潟出張所	新潟市流作場元新淵2499の1
富山出張所	富山県婦負郡婦中町笹倉885（日産化学工業(株)富山工場内）
神戸出張所	神戸市生田区新港町（神戸税関構内）
広島出張所	広島市基町1（広島通商産業局内）
丸亀出張所	丸亀市大手町（四国通商産業局内）

建　　物

所属	建物 区分	様式	棟数	建物総面積 (m^2)	備考
東京本所	国有	鉄筋コンクリート4階建	1	452	
大阪支所	国有	鉄筋コンクリート3階建	2	517	
	〃	〃 2階建	1	36	
	〃	〃 平屋建	2	14	
名古屋支所分室	国有	木造2階建1階の一部		240	名古屋通商産業局庁舎内
	借入	木造平屋建の一部		40	名古屋市立工業研究所庁舎内
福岡支所分室	国有	木骨耐火造の一部		138.6	福岡通商産業局庁舎内
	借入	鉄筋コンクリート建の一部		29.5	福岡県立工業試験場内
横浜出張所	国有	鉄筋コンクリート建の一部		21	生糸検査所庁舎内
新潟出張所	国有	木造平屋建の一部		68	新潟通商産業局庁舎内
富山出張所	借入	鉄筋コンクリート2階建	1	15	日産化学(株)富山工場内
広島出張所	国有	木造2階建の一部		9	広島通商産業局庁舎内
神戸出張所	国有	鉄筋コンクリート2階建	1	45.4	神戸税関内
丸亀出張所	国有	木造平屋建		91	四国通商産業局庁舎内

工業品検査所歳出予算額

昭和27年度 項目	金額	昭和28年度 項目	金額
工業品検査所	86,036,000	工業品検査所	91,803,000
職員基本給	48,634,000	職員基本給	56,474,000
職員諸手当	38,000	職員諸手当	1,022,000
職員特別手当	6,220,000	職員特別手当	9,175,000
超過勤務手当	2,032,000	超過勤務手当	2,617,000
職員旅費	8,101,000	職員旅費	5,771,000
受託業務旅費	400,000	受託業務旅費	320,000
庁費	18,610,000	庁費	16,365,000
会議費	76,000	会議費	59,000
各所修繕	1,925,000	通商産業本省	1,411,000
		通商産業省施設その他災害復旧及応急諸費	
		繊維製品検査所庁舎その他水害復旧費	117,000
		通商産業本省各所修繕	1,294,000
定員	329名	定員	329名

昭和27，28年度歳入状況

検査区分	歳入額 昭和27年度	昭和28年度	計
	円	円	円
表示依頼検査 検査手数料	777,571	471,333	1,248,904
表示依頼検査 受託業務旅費	211,337	138,550	349,887
国内依頼検査 検査手数料	1,022,850	1,007,400	2,030,250
国内依頼検査 封緘手数料	533,358	477,789	1,014,147
輸出品依頼検査（15割）	0	19,865	19,865
登録申請手数料	16,000	0	16,000
合計	2,564,116	2,114,937	4,679,053

主な検査用機器

名称	諸元	用途	製作者名
プロツクゲージ	A級 103ヶ組 A級 18ヶ組 B級 103ヶ組	長さの第1次基準，ゲージ類の検定用 測定の際の長さの基準	津上製作所製 三井精機製
プロツクゲージホルダー	ホルダー4個(51mm～200mm)，ハイトゲージ台1個，ジョー5対，クライバーおよびセンターポイント各1個，直定規1個	プロツクゲージの補助用具	ヨハンソン製 不二越鋼材製
アングルプロツクゲージ	85ヶ組	角度の基準	黒田挟箍製
標準巻尺原器	鋼製 5m. 18呎，18尺	標準巻尺の規正用	田島製作所
標準分銅	板状分銅1mg～500mg，精度1/100mg，標準分銅1g～200g，精度5gまで1/100mg，200gまで1/10mg	分銅の検査の基準	〃
温度計用標準温度計	硝子製棒状二重管7本組 −6°C～300°C	温度の基準（温度計用）	帝国化成工業製
体温計用標準温度計	硝子製棒状二重管 目盛 精度 34°C～42°C…1/20°C 1/50°C 32°C～43°C…1/10°C 1/50°C	温度の基準（体温計用）	関東体温計製
特別精密級標準電流計	測定範囲 150アンペア迄，精度0.2%	電流計，電圧計の規正，検定用	(株)横河計器製作所
同上 電圧計	測定範囲 150ヴオルト，精度0.2%		
標準比重計	20本組	比重測定用	日本計量機
ウルトラオプチメーター	測定範囲 250 mm，目盛範囲 ±0.083mm，最少目盛 0.2μ，測定精度0.02μ	プロツクゲージ，およびゲージ類の超精密比較検定用	カール，ツアイス製
大型工具顕微鏡	測定範囲左右150mm，前後50mm，最少目盛(テーブルの動き)0.005mm，(角度接眼)1°附属品，角度接眼，投影装置，ネジ輪画ゲージ其の他一式	ゲージ類の検定，および一般検査の際の精密測定用	津上製作所製
オルトテスト	目盛範囲±00.5mm，最少目盛1μ，測定範囲200mm	ゲージ類の検定又は軸受等の精密測定用	三井精機製
小型万能投影器	倍率×20，×50，×65，×120，×230，×17微動載台最少目盛 0.01mm	ゲージ類，又は小物製品の輪画および長さ検査用	日本光学製
読取顕微鏡	測定範囲 50 mm，最少目盛 0.01 mm，倍率 ×30	小物製品の長サ検査用	カールツアイス製
電磁微厚計	測定範囲 1/1,000mm～500/1,000mm，精度 1/1,000mm	諸機械部品のメツキ面厚さ検査用	三和電気化学研究所
山本式仕上面検査機	縦倍率 ×200，×500，×1000，×2000 横倍率 ×15，×30，×50，×100	ゲージ類，精密部品の粗さ測定用	小高製作所製

名称	諸元	用途	製作者名
アスカニヤ式手持振動計	倍率 ×5	工作機械，動力機械等の振動測定用	明石製作所製
電位差式測温度計	測定範囲 0°～100°C，精度0.5°C	一般温度測定用	島津製作所製
標準化学天秤	秤量200g，感量1 mg	分銅検査用並に硝子量器検査用，陶磁器吸水率，ゴム，セルロイド等一般重量測定	守谷精衡所
携帯天秤	秤量2 kg，感量10mg	台秤増錘検査用	大原商店
熱線風速計	機械試験所型，測定鍵20m/sec	脱穀機の風速検査用	日本精機製
スペクトロホトメーター	波長調節範囲 400mmμ～700 mmμ，測定濃度範囲 3×10^{-3}規定以下	迅速金属定量分析用	コールマル製
金属顕微鏡	縦型倍率 30～1,320倍	金属材料の組織検査用	オリンパス光学工業製
ミクロビツカース硬度計	荷重 50g～1,000g	滲炭部品，物小部品の硬度測定用	明石製作所製
ロツクウエル硬度計	Bスケール，Cスケール	一般製品の硬度測定用	東京衡機製
ショアー硬度計	D型	一般製品の硬度測定用	島津製作所
木材含水率試験器	木研式，およびKETT式	梱包，木材の含水率検査用，木製品，金属機械，玩具等の水分測定用	三和興業製 中外商産(株)
配線器具試験機	スイツチ類の開閉動作1分間20回で開閉回数5,000 回以上連続使用可能	開閉機構のある器具について行う開閉試験用	伊藤工作工業所
ミシン耐久試験機	回転数800 r.p.m. 1回の試験台数4台	ミシンの耐久力検査用	東京ミシン
自転車前ホーク試験機	振動数 300～3,300 r.p.m. 振巾 0～3mm	自転車の前ホークの耐久試験用	伊藤精機製
双眼鏡振動試験機	振動数 250回，振巾 1 mm	双眼鏡の耐振動性の試験用	日本光学工業協同組合
軸受回転精度測定機	縦型および横型	軸受の偏心，ミゾ横振れ，横振れ測定用	日本精工(株)
巻尺伸張試験機	能力 100kg	巻尺の引張強度試験用	(株)東京衡器製
ミシン針試験機	測定精度 0.01mm	ミシン針の各部寸法検査用	東京ミシン製造(株)
体温計目盛剝脱試験機	1回の試験本数 4本	体温計の目盛の耐久力試験用	田中製作所
恒温槽	容量2 KW，有効内容積250cm×250cm×350cm，温度20°C～150°C	自動車部品等の検査用	竹田理化工業
対物レンズ倍率測定器	10倍ケルネル，標準接眼レンズ0.1mmミクロ付	顕微鏡対物レンズ倍率測定用	日本光学工業(株)
対物方眼ミクロメーター	00.1mm方眼	〃 偏心測定用	〃
対物ミクロメーター	目盛長さ1 mm，0.01mm目盛	〃 倍率等検査用	オリンパス光学工業(株)
アバートメーター	測定範囲1.5N.A.	〃 鏡口率検査用	日本光学工業(株)
ダイナメーター	0.1mm目盛，測定範囲10mm，倍率15倍	双眼鏡倍率測定用	〃
視度望遠鏡	0.5デオプター目盛 ±4デオプター 精度 ±0.1デオプター	〃 視度調整その他用	〃
視界測定器	1分読み360°，精度1分以下	〃 視界測定用	(株)測機舎
光軸平行検査器	精度20″以下	〃 光軸平行度測定用	日本光学工業(株)
分解チヤート	大きさ2.4m平方	写真機解像力検査用	(株)工芸社
レンズシヤツター用試験器	1秒～1/500秒 精度±10%	〃 シヤツタースピード検査用	日本光学工業(株)
フオーカルプレンシヤツター用試験器	1秒～1/2000秒，精度10%	〃	キヤノンカメラ(株)
試験片打抜器	亜鈴型打抜	ゴム試験片打抜用	

名称	諸元	用途	製作者名
オートクレーブ	20AP 300 Pounds	陶磁器耐久度試験用	
電気乾燥器	100 V, 5 A, 500W, MAX150°C 恒温乾燥20°c～200°c	陶磁器，セルロイド吸水率測定用	
ひつかき硬度器		漆器，金属玩具，洋傘骨等の塗膜試験器	(株)科学研究所 旧理研
標準ゴム硬度計		ゴム硬度測定	
耐圧度試験機	ダイヤルゲーヂのバネの強さ 100gm～1kg	セルロイド強度試験用	
アクメ式褐色試験機	100V 5A	人造真珠，ロザリー，ゴム引布褐色試験用	島津製作所
レンズメーター	0°～±50°	フオーカス測定用	
衝撃試験機	高さ710mm, 幅410mm, 長さ710mm, 30kgcmの叉型ハンマー付,23kgcm丸型ハンマー付	陶磁器，ガラス，木製品，琺瑯其他一般強度測定	谷田精機製
メツキ磨耗試験器	標準1分間カーボランダム落下量450 gm, ±10gm	金属洋食器，ポケツトナイフ，万年筆用ペン先等のメツキ耐久度試験用	
アルマイト皮膜測定機	電気発信に依る（弱電）	アルマイトの皮膜測定用	
スプーンフオーク強度試験機	分銅を用い，自然動力利用	スプーンフオーク柄付強度試験機	
ナイフ強度試験機	オイルプレツシヤーポンプ付	蠟付検査	
万年筆磨耗試験器	ペン先の運動は30g±3g の荷重の下で振幅1 cm 週期 0.4秒の運動する。モーター日立製作所100W cycles 50/60A 3.0/2.5V 100/110 r.p.m. 1400/ : 700	万年筆ペン先磨耗試験用	
指向試験器		磁石指向試験用	
偏芯測定器	ダイヤルゲーヂ 0～90付	鉛筆芯偏芯度測定用	平野理化学工業所
軸曲り試験器		鉛筆，筆，万年筆等の軸曲り測定	〃
鋼球		琺瑯釉薬密着試験用	
エレコメーター		鉄板厚さ測定	
平面鏡検査機		鏡像検査用	
UF式防水試験機	水圧加圧面積直径10cm，手動式水圧ポンプを利用し，水の透過圧力を置針計により検する。圧力針容積5kg/cm²g	ゴム引布漏水試験	上島製作所
フクシン試験機		陶磁器焼成度試験機	名古屋支所 谷田精機製
ピンポンテニスボール反跳度試験機	160m迄測定出来る	ピンポン，テニスボールバウンド試験用	
遠心沈澱器	15cc 4,000回転		
引火点測定器	ペンスキーマルテンス氏	油脂試験用	
白金蒸発皿			
白金坩堝			
白金電極		電解分析用	
攪拌装置			
真空ポンプ			
ポーラログラム	島津式		
偏光計	日立式		
坩堝炉			
濁度計	島津製作所デユボスク氏	比色分析用	
燃焼炉		元素分析用	

名称	諸元	用途	
熱量計	燃研式	熱量測定用	
粘度計	ウツペローデ氏	油脂試験用	
ph濃度測定装置	電位差計式，硝子電極式		
屈折計			
グリセリン恒温槽		肥料水分測定用	島津製作所
顕微鏡	鉱物顕微鏡		
光電比色計	協和科学式	比色分析用	
高周波滴定装置	東亜電波式		
恒温恒湿槽			
電気滴定装置	島津式マジツクアイ		
電気炉			島津製作所
電解分析装置	協和科学式		
精密化学天秤			守谷製
熱天秤	東工試式		
蒸溜水製造装置	一時間15立		藤製作所
振盪器		主として過燐酸石灰肥料分析用	
弱電流記録計			
超光々電光度計	日立式		
水銀晴雨計			
マグネテツクスターラー	島津式		
パイロメーター			

其の他　ノギス，マイクロメーター，ダイヤルゲージ，シリンダーゲージ，ベベルプロトラクター等一般用測定機各種

検査統計

本年度における検査の実績は次のとおりである。

検査別実績表（昭和28年度）

検査区分＼月別	28年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月	2月	3月	計
臨検々査	1,540 (283)	1,809 (300)	1,668 (313)	1,454 (317)	1,375 (294)	1,329 (272)	1,609 (250)	1,617 (381)	1,654 (368)	1,357 (290)	1,711 (325)	1,968 (349)	19,091 (3,742)
登録検査機関臨検々査	22 (1)	26 (1)	28 (1)	16 (0)	15 (1)	25 (3)	32 (0)	42 (0)	19 (1)	25 (0)	32 (0)	32 (0)	314 (8)
小計	1,562 (284)	1,835 (301)	1,696 (314)	1,470 (317)	1,390 (295)	1,354 (275)	1,641 (250)	1,659 (381)	1,673 (369)	1,382 (290)	1,743 (325)	2,000 (349)	19,405 (3,750)
表示依頼検査	19	6	3	10	14	46	11	14	14	6	7	12	162
依頼検査	138	188	118	154	192	174	334	187	229	158	270	215	2,357
検定検査	34	42	44	34	50	30	33	47	31	33	43	35	456
計	1,753	2,071	1,861	1,668	1,646	1,604	2,019	1,907	1,947	1,579	2,063	2,262	22,380

（注）1. 数字は検査件数，（ ）内の数字は事故件数を示す。

2. 依頼検査は一般試薬並びに化学工業品の国内依頼検査及び当所の検査（証明書）を必要とする場合に規程に基く一定の額を徴収して行つた依頼検査及び生産原局，駐留軍その他の関係方面より特に依頼されて行つた委託検査とをまとめたものである。

地区別	部門別	28年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月	2月	3月	計
東京本所	機械金属	169 6	131 8	123 6	75 3	76 7	97 9	102 7	110 3	121 26	103 10	144 16	115 15	1,366 116
	雑貨	306 54	303 55	316 56	315 62	304 55	285 55	319 56	305 53	280 55	226 32	334 52	325 44	3,618 629
	化学製品	85 0	434 0	226 15	80 2	114 0	31 0	310 0	135 3	241 1	107 0	173 1	332 0	2,268 22
	計	560 60	868 63	665 77	470 67	494 62	413 64	731 63	550 59	642 82	436 42	651 69	772 59	7,252 767
大阪支所	機械金属	140 17	140 21	154 24	108 19	104 24	148 14	178 26	190 24	105 18	202 36	203 27	196 33	1,868 283
	雑貨	185 55	176 65	179 76	206 75	182 77	202 75	207 103	185 87	210 96	225 103	208 102	241 103	2,406 1,017
	化学製品	39 0	13 0	7 0	10 0	46 0	8 0	19 0	12 0	23 0	0 0	10 0	102 0	289 0
	計	364 72	329 86	340 100	324 94	332 101	358 89	404 129	387 111	338 114	427 139	421 129	539 136	4,563 1,300
名古屋支所	機械金属	79 4	56 4	113 1	105 6	64 1	80 0	78 0	76 0	128 14	68 1	75 2	66 1	988 34
	雑貨	127 43	139 49	128 30	110 39	112 38	116 30	76 17	187 106	85 52	92 22	82 33	131 61	1,385 520
	化学製品	1 0	3 0	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	2 0	9 0	0 0	0 0	0 0	16 0
	計	207 47	198 53	241 31	215 45	176 39	197 30	154 17	265 106	222 66	160 23	157 35	197 62	2,389 554
福岡支所	機械金属	43 14	39 3	42 14	31 5	16 0	21 7	14 0	33 4	29 5	39 4	77 5	63 11	447 72
	雑貨	61 18	33 4	28 3	37 7	56 8	52 7	18 1	41 3	58 8	37 6	56 10	26 2	503 77
	化学製品	2 0	4 0	11 0	0 0	0 0	0 0	7 0	2 0	5 0	0 0	4 0	0 0	35 0
	計	106 32	76 7	81 17	68 12	72 8	73 14	39 1	76 7	92 13	76 10	137 15	89 13	985 149
横浜出張所	機械金属	6 6	6 6	3 3	8 8	7 7	5 5	8 8	3 3	1 1	6 6	6 6	9 9	68 68
	雑貨	98 24	103 21	120 25	134 21	106 16	82 12	106 12	105 18	75 9	65 11	95 13	122 7	1,211 189
	計	104 30	109 27	123 28	142 29	113 23	87 17	114 20	108 21	76 10	71 17	101 19	131 16	1,279 257
新潟出張所	雑貨	72 12	65 11	71 15	59 14	53 22	52 19	42 11	132 50	139 61	104 43	126 39	146 42	1,061 339
富山出張所	化学製品	1 0	6 0	11 0	0 0	0 0	0 0	0 0	5 0	7 0	0 0	13 0	9 0	52 0

地区別	部門別	28年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29年1月	2月	3月	計
神戸出張所	機械金属	5 3	1 1	1 1	16 5	31 8	18 2	25 2	26 5	40 2	35 3	43 0	24 4	256 36
	雑貨	112 26	120 49	121 42	132 51	87 31	105 40	89 7	66 22	78 20	52 13	51 15	62 14	1076 330
	計	117 29	121 50	122 43	148 56	118 39	124 42	114 9	92 27	118 22	87 16	85 15	86 18	1,332 366
広島出張所	機械金属	4 0	13 0	3 0	7 0	7 0	9 0	3 0	3 0	15 0	5 0	8 0	2 0	79 0
	雑貨	25 2	46 4	35 3	34 0	22 1	40 0	37 0	40 0	20 1	16 0	43 4	27 3	385 18
	計	29 2	59 4	38 3	41 0	29 1	49 0	40 0	43 0	35 1	21 0	51 4	29 3	464 18
丸亀出張所	雑貨	1 0	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	1 0	0 0	2 0	0 0	1 0	2 0	8 0
	化学製品	1 0	4 0	4 0	2 0	3 0	1 0	2 0	1 0	2 0	0 0	0 0	0 0	20 0
	計	2 0	4 0	4 0	3 0	3 0	1 0	3 0	1 0	4 0	0 0	1 0	2 0	28 0
部門別計	機械金属	446 50	386 43	439 49	350 46	305 47	378 37	408 43	441 39	439 66	458 60	547 56	475 73	5,072 609
	雑貨	987 234	985 258	998 250	1,028 269	922 248	935 238	895 207	1,061 339	947 302	817 230	996 268	1,082 276	11,653 3,119
	化学製品	129 0	464 0	259 15	92 2	163 0	41 0	338 0	157 3	287 1	107 0	200 1	443 0	2,680 22
総計		1,562 284	1,835 301	1,696 314	1,470 317	1,390 295	1,354 275	1,641 250	1,659 381	1,673 369	1,382 290	1,743 325	2,000 349	19,405 3,750

備考　各枠内の上段の数字は検査件数，下段の数字は事故件数を示す。

なお，この外の各検査実情の詳細については各部門ごとに掲載されている。

第二編　業　　務

機械金属関係

機械金属関係総概況

昭和28年度における機械類の輸出は，総額約1.9億$に上り，先年度の60％強の増加を示し，我国全輸出品中最大の増加率を示した。しかしながら，これは，機械類全般にわたつての平均した増加ではなく，一部門の一時的激増によるもので，必ずしも将来の楽観を意味するものではない。輸出品取締法の指定品目関係では，光学機械の増加が目立つ程度で，他は大きな動きはなく，むしろ全般的には低調と言えよう。

一方，鉄鋼関係は，先年度極めて大きい実績を示したが，本年度はようやく世界の鉄鋼需要が緩和し，欧洲諸国また輸出に努力を注いだ結果，我国の鉄鋼の輸出は，本年度に入り激減するに至つた。即ち，28年度は前年度の約50％，1.4億$の輸出を見たに過ぎない。品種別としては，亜鉛メツキ鋼板が比較的よかつた外は，何れも目立つて減少している。

上述の如く，全般的な輸出不振の結果として，一般的に輸出業者，生産業者とも輸出品の価格の引下げに専念し，その結果品質，性能の低下を来したものも多い。これらの品目は，当所の臨検査の結果，その成績が極めて悪い。また，品質性能の低下のみならず，業者の悪質化する傾向も強く，そのため，海外における声価を失墜したものもある。

即ち，亜鉛メツキ鋼板について，昨年度末より本年5月に至る間，一部不正業者による粗悪品の輸出によつて，在外公館等より，公文をもつて度々警告を発せられた。かくの如く，そのまま放置し得ない状態となつて来たため，原局，輸出課，検査課，当所，および業界が協議の結果，引受書を用いて市中品輸出の把握を図ることとし，一方，業界自身としても，海外における信用を回復するために，第三者検査機関として，日本検査(株)の検査をうけるよう申し合せ，両々相まつて，品質の水準も向上し，本年9月には殆どクレームの発生を見ることがなくなつた。

しかしながら，上記亜鉛メツキ鋼板の不正輸出に端を発し，ビルマ政府は，ビルマ向全輸出品について公認のサーベイリポートの添付を必要とし，9月25日ユニオンバンクから，10月26日以後のL/C発行のものについて適用する旨を明らかにされた。公認のサーベアーの意味について種々の解釈がなされ，先方にも再三問合せが行われ，一時は国営検査所のみしか認められないとゆう段階もあつたが，結局，日本政府の包括的保証の下に，民間検査機関も認められることになつた。その後，29年1月30日に到り，3月31日迄は添付の必要がないことになり，結局は4月1日以降も不要となり，ビルマ向サーベイリポートの一件も終止符をうつたが，亜鉛メツキ鋼板のなげた波紋は意外に大きく，今後の戒めとして銘記すべきであらう。

昭和28年度における当所機械金属関係の大きい業務は，輸出品取締法の改正に基く，新登録検査機関の指導監督であつた。

昭和28年3月12日，輸出品取締法の一部を改正する法律（昭和28年法律第9号）が公布され，4月1日から施行された。これに伴い，法第7条の2輸出品に対して表示を行う登録検査機関の登録の条件が改められ，従来のように生産業者がそのまま登録機関となることを認める制度を廃止して，公正な表示業務を行い得る第三者のみを登録する制度が採用された。しかし，実際問題として，直ちに新しい制度に切替えることは困難であるので，旧法による登録検査機関は，一応，有効期間中は改正法による登録機関とみなし，この間に，漸次新旧の切替を行うこととなつた。

軸受関係では，日本軸受輸出検査株式会社が5月28日をもつて登録され，6月1日その業務規定の認可を得て，即日，表示の業務を開始し，これに伴い，旧法による登録検査機関は，6月10日をも

第1表　検査実績表

分類番号	月別 / 機種内訳 / 名	第一四半期 4月 検査件数	4月 事故件数	5月 検査件数	5月 事故件数	6月 検査件数	6月 事故件数	小計 検査件数	小計 事故件数	第二四半期 7月 検査件数	7月 事故件数	8月 検査件数	8月 事故件数	9月 検査件数	9月 事故件数	小計 検査件数	小計 事故件数
01	内燃機関	9		6		11		26		5	1	7		9	1	21	2
02	軸受			1		6		7									
07	一般工具											1				1	
08	超硬工具	1		5	1			6	1			2		2		4	
10	食料加工機械																
12	繊維機械用品	14	1	28	4	26		68	5	22	3	28	3	20	1	70	7
13	ミシン及び同部品	12		16		10	2	38	2	10		9	1	18		37	1
14	製材木工機械用品	4		6				10		3		2		2		7	
19	農機具	1		4	1	6		11	1	5	1	5		4		14	1
25	自動車部品	23		12		33		68		4		7		10		21	
26	自転車リヤカー同部品	20	3	24		35		79	3	30		26		1		57	
27	強電機械	53		18	1	50	1	121	2	52		35	2	34	1	121	3
28	軽電機器	50	6	30	2	28	1	108	9	27	4	20	3	63	2	110	9
30	無線通信機器	3				2		5		3				2		5	
33	計量器	20	2	15	1	34	3	69	6	18		27		18		63	
34	光学機械	11		7	1	4	2	22	3	8	1	7	1	7		22	2
37	作業工具	3		4	1	5		12	1	6	2	24	11	14	2	44	15
41	時計	6		5	1	7		18	1	16		6		5		27	
42	蓄音機及び同部品	2		1		2		5		4		2				6	
44	製図機械			1				1									
44	手引のこ	1						1		1		1				2	
45	鉄管継手	9		2		13		24		6				6		12	
60	伸銅品	14		30		16	1	60	1	13		7	1	15		35	1
61	軽金属	3	1	18		9		30	1	12		6		2		20	
62	鉛亜鉛	5		6		10		22				2	1			2	1
80	非鉄金属金網	5	1	19	1	18	4	42	6	8	1	8		3		19	1
81	鉄鋼二次製品	149	3	104	13	90	13	343	29	81	9	58	5	118	6	257	20
	小計	418	17	362	27	415	27	1,195	71	334	22	290	28	353	13	977	63
	登録機関臨検	22	0	26	0	28	0	76	0	16	0	15	1	25	3	56	4
	合計	440	17	388	27	443	27	1,271	71	350	22	305	29	378	16	1,033	67

実績表

第三四半期 10月 検査件数	10月 事故件数	11月 検査件数	11月 事故件数	12月 検査件数	12月 事故件数	小計 検査件数	小計 事故件数	第四四半期 1月 検査件数	1月 事故件数	2月 検査件数	2月 事故件数	3月 検査件数	3月 事故件数	小計 検査件数	小計 事故件数	合計 検査件数	合計 事故件数
7		16	1	5	4	28	5	46	3	14	2	6	3	66	8	141	15
		1				1										8	
																1	
		1				1				1				1		12	1
												1		1		1	
15	1	18		8	1	41	2	16	1	30		11	1	57	2	236	16
16		14		38		68		17		25	3	22		64	3	207	6
2				1	1	3	1			3				3		23	1
2		5		7		7		1	1	1		5	1	7	2	39	4
21		10		7		38		4	1	22	4	21	2	47	7	174	7
2		1		2		5		4						4		145	3
40		37		42	1	119	1	27	1	52	4	38	1	117	6	478	12
30		28	1	15		73	1	58	12	36	4	41	8	135	24	426	43
										3		1		4		14	
17	3	17		22	2	56	5	12		12	2	21		45	2	233	13
11	1	9		9	1	29	2	6	1	19	1	10	1	35	3	108	10
14	3	9	1	1		24	4	25	6	3	2	14	9	42	17	122	37
3		17		69		89		11		7		5		23		157	1
2	1	1	1			3	2	4		2		1		7		21	2
																1	
3		2				5											
5	1	7		12	2	24	3	6		4	2	6		16	2	8	
27	3	22	2	35	2	84	7	29		70	3	38	1	137	4	76	5
5		8		7		20		16		40	1	13		69	1	316	13
4		1		1		6		1		4				5		139	2
3																34	1
125	13	174	13	136	9	435	35	138	5	153	12	157	9	448	26	1,483	110
354	26	398	19	410	23	1,162	68	426	31	503	40	415	36	1,344	107	4,678	309
30	0	41	0	19	0	90	0	25	0	32	0	32	0	89	0	311	4
384	26	439	19	429	23	1,252	68	451	31	535	40	447	36	1,433	107	4,989	313

つて，その業務を廃止した。双眼鏡については，旧法による登録検査機関のうち，日本光学工業協同組合及び旭光学工業株式会社が，10月31日をもつて業務を廃止し，日本望遠鏡検査協会が引続き改正法による登録検査機関として申請を行い，11月7日をもつて登録され，その業務規程は11月9日認可された。ミシン関係では，財団法人日本ミシン検査協会が，10月31日をもつて登録され，11月4日その業務規程が認可され，即日，業務を開始し，これに伴い旧法による登録検査機関は，大部分は11月7日をもつて，その他のものも11月20日にはすべてその業務を廃止した。以上の外に，自転車関係が新たに第7条の2輸出品として指定され，9月1日から施行されたが，財団法人日本自転車検査協会が8月1日をもつて登録され，8月25日その業務規程の認可を得て，9月1日から業務を開始した。

なお，この間当所としては登録基準の審議，業務規定中検査方法の内容の検討を行い，検査機関の登録及び業務規程の認可に関して大きい役割を演ずると共に，新登録検査機関の指導，監督上当所のとるべき方法，登録検査機関に対する臨検々査のあり方等について検討を重ねた。

また，新旧の切替の際には，旧登録検査機関の表示した輸出品が，新登録検査機関発足後に輸出されることは当然考えられるので，これに対し経過措置を講ずるとともに，旧登録検査機関の表示済の輸出品の所在の場所，輸出の時期の把握に努め，切替時に当つて，不正行為の行われないよう，その対策に万全を期した。このため，特別の不祥事も起らず，大体円滑に切替が完了したことは喜ばしい。

当部の検査としては，法第3条および第4条輸出品に対する臨検々査，登録検査機関に対する臨検々査，法第7条の2輸出品に対する表示依頼検査の外に，本省その他の依頼により委託検査を実施している。

本年度における臨検々査の実績を第1表に示した。総検査件数，4,678件に対して事故が309件あり，これは検査件数の約7％に相当し，特に成績不良とゆう程でもないが，これを機種別に見ると，極めて事故率の高いものも少くない。検査件数の比較的多い機種で，事故率10％前後のものを拾つて見ると，軽電機器，光学機械，作業工具，鉄鋼二次製品等が挙げられる。その中でも作業工具の事故率は30％，また軽電機器中，配線器具の事故率は22％の高率を示し，このままに棄ておいては我国輸出品の声価を失墜することは火を見るより明らかであり，当所としても，これが対策に万全を講じている。

登録検査機関臨検々査は311件実施し，その中事故4件となつているが，この事故は，すべて旧登録検査機関に対するものである。新登録検査機関に対しては，当所の臨検々査も立会検査の形で行い，登録検査機関の表示が公正に実施し得るよう，その指導に万全を期した。

表示依頼検査，委託検査の実績を第2表に示した。委託検査としては287件に達したが，この中には，先述したビルマ向のものが含まれている。

昭和28年度は前述した通り，新登録検査機関発足に伴う業務で終つた形であつたが，これら新機関も，ようやくその活動が円滑となり，その効果が挙がつて来たことは喜ばしい。第7条の2品目として，来年度には写真機が指定される予定で，28年度末から，その準備が行われている。

第 2 表　検 査 区 分 別 検 査 実 績 表

地区別	検査区分	第一，四半期				第二，四半期				第三，四半期				第四，四半期				合計			
		4月	5月	6月	小計	7月	8月	9月	小計	10月	11月	12月	小計	1月	2月	3月	小計				
東京	臨検件数	169	130	119	418	81	73	95	249	100	93	112	305	96	134	117	347	1,319			
	登録機関臨検件数	6	7	7	20	2	10	7	19	6	18	1	25	6	4	4	14	78			
	表示依頼検査件数	12	4	1	17	5	4	0	9	6	3	5	14	2	4	4	10	50			
	委託検査件数	6	8	3	17	0	4	3	7	9	7	20	36	8	24	11	43	103			
	検査件数小計	193	149	130	472	88	91	105	284	121	121	138	380	112	166	136	414	1,550			
大阪	臨検件数	134	138	144	416	127	138	164	429	179	218	155	552	233	227	188	648	2,045			
	登録機関臨検件数	15	16	14	45	4	4	11	19	7	1	5	13	9	18	11	38	115			
	表示依頼検査件数	3	0	0	3	3	2	0	5	0	2	1	3	1	0	0	1	12			
	委託検査件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	50	53	13	28	40	81	134			
	検査件数小計	152	154	158	464	134	144	175	453	186	224	211	621	256	273	239	768	2,306			
名古屋	臨検件数	78	53	106	237	95	63	73	231	61	61	114	237	58	65	48	171	876			
	登録機関臨検件数	1	3	7	11	10	1	7	18	17	15	13	45	10	10	17	37	111			
	表示依頼検査件数	4	2	2	8	0	0	0	0	4	8	5	17	0	0	3	3	28			
	委託検査件数	1	0	0	1	0	2	2	4	0	2	3	5	1	0	0	1	9			
	検査件数小計	84	58	115	257	105	66	82	253	82	86	135	304	69	75	68	212	1,024			
福岡	臨検件数	37	41	46	124	31	16	21	68	14	26	29	69	39	77	62	178	439			
	登録機関臨検件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	0	0	0	0	7			
	表示依頼検査件数	0	0	0	0	2	7	7	16	4	1	3	8	3	3	5	11	71			
	委託検査件数	0	0	0	0	0	9	3	12	4	7	3	14	0	2	3	5	41			
	検査件数小計	37	41	46	124	33	32	32	97	22	41	35	98	42	82	70	194	558			
合計	臨検件数	418	362	415	1,195	334	290	353	977	354	398	410	1,162	426	503	415	1,344	4,678			
	登録機関臨検件数	22	26	28	76	16	15	25	56	30	41	19	90	25	32	32	89	311			
	表示依頼検査件数	19	6	3	28	10	13	13	46	11	14	14	39	6	7	12	25	161			
	委託検査件数	7	8	3	18	0	15	6	21	23	19	76	118	22	54	54	130	287			
	検査件数小計	466	402	449	1,317	360	333	430	1,123	418	492	519	1,409	479	596	513	1,588	5,437			

機械金屬関係品目別概況

光学機械

Ⅰ 双眼鏡

輸出の状況および検査の概況

今年度の輸出は，その期間中多少の増減はあつても，全般的には年を逐うて増加している。そしてこれらの50%以上を中小メーカーでしめているのも近来にみる特異性であると云える。これは現在の輸出産業に見られる安値輸出を嫌う優良メーカーが，比較的国内需要の多い写真機の方に重点を移して来たゝめである。従つて中小メーカーの繁忙は想像に余りあるものがあつた。加えて契約数量が漸次小口なものになり，検査の面から見る時は非常に繁忙化して来た。当所が行つた民間登録検査機関の臨検々査に於ても，別表で見られる様な珍らしく多数の事故が見られた。従来の民間登録検査機関は3本建であり，このうち1社が自社製品の表示しか行わなかつたのに対し，他2団体は表示依頼を受付けて居たもので，メーカーは何れか都合の良い方の検査機関に表示を依頼していた。そのために一方の検査で不合格となつた製品を，何等の断りなしに他方の検査を受けて輸出することも可能で，この間手直しが完全に行われているかどうかと云うことになると非常にあいまいである。

これは，検査方法も片方では全数検査であり，他方は抜取検査を実施している事，又両機関共非常に検査件数が多く連絡もつき難いこと，加うるにその期間が短かいうちに処理されること等の難点が多いためである。又その検査員がメーカー(主として大メーカー)の社検を兼務する臨時検査員であつたり，組合専属検査員であつても比較的統制力に於いて欠くる処があつて，厳正な第3者検査機関とは云い難かつた。しかしながら2者存立することによつて，検査技術の向上，ならびに検査運営上のサービスの方面はお互いに牽制し合つて来たので，向上した面もある。

本年3月，輸出品取締法が改正され，より強力な登録検査機関が要求せられるに至つた。そして従来の凡ての行きがかりを棄て，3本建から1本建にすることになつた。

即ち本年11月7日から新民間登録検査機関が発足したのである。新民間登録検査機関は，法人組織であり，検査員も検査実務平均10年以上の熟練者で，期待する所は大である。

当所が11月以降新検査機関に対して行つた臨検々査は，新検査機関の指導育成の目的から立会検査の形をとつて実施した。新検査機関と当所とが行つた第1回検査連絡協議会では，大略下記の事を打合はせ，その運営上完全を期することとした。

(1) 検査機械器具について

イ，登録機械器具ならびに設備に於ては必らずしも完全なものとは云い難いので，至急これが整備をはかること。又それらが正しい精度を持つているかどうかの検定表を附して置くこと。

ロ，出張検査場所（各工場，事業者）の機械器具も登録機械器具に準じたものでなければならないので，これらのものが整備されていない場所では，絶対に検査を行なわないこと。

(2) 検査時間について

イ，検査員の能力を勘案し，不当な荷重がかからぬ様心掛けること。又先方の提検が後れ，初めから検査が夜間に亘るの見極めがついたら拒否するようにすること。

ロ，夜間検査は現在の設備では不可能であるので絶対に行なわないこと。

(3) 検査の実施について

イ，検査員は熟練しているので目視の判定が多く，更角機械の使用をおろそかにし勝ちであるので，必らず規定の機械器具を使用すること。

ロ，必らず最後の手入が済んだものについて実施すること。

ハ，検査成績表の記入方法を統一した。

(4) 検査員の判定統一について

イ，欠点の取り方，特殊判定項目で不合格となつた時の処置について統一した。

ロ，検査方法の程度について多少の差異があつたので統一した。随つて検査原則の一部に修正を見た。

ハ，検査補助員だけで検査は絶対に行なわない。

以上の事であつたが，これらが完全に守られることによつてその成果は期待してよいと思われる。当所としてもこれらの事項が守られることを強力に推進したい。

双眼鏡登録検査機関臨検々査実績（旧登録機関）

月別	検査件数				事故件数				その他				備考
	輸出品	機械器具設備	帳簿	計	輸出品	機械器具設備	帳簿	計	輸出品	機械器具設備	帳簿	計	
28. 4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
〃 5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
〃 6月	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
〃 7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
〃 8月	7	0	0	7	1	0	0	1	0	0	0	0	
〃 9月	6	0	0	6	5	0	0	5	0	0	0	0	
〃 10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

双眼鏡登録検査機関臨検々査実績（新登録機関）

月別	検査件数				事故件数				その他				備考
	輸出品	機械器具設備	帳簿	計	輸出品	機械器具設備	帳簿	計	輸出品	機械器具設備	帳簿	計	
28. 11月	16	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	
〃 12月	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
29. 1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
〃 2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
〃 3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

双眼鏡検査機関表示検査実績，機種別，4半期別一覧表

種別＼期別		1/4期 28.4～28.6	2/4期 28.7～28.9	3/4期 28.10～28.12	4/4期 29.1～29.3	合計
プリズム式	6×	15,819 (254)	24,669 (349)	23,777 (338)	16,731 (271)	80,996(1212)
〃	7×	39,034 (627)	50,699 (636)	46,337 (667)	34,488 (616)	170,558(2546)
〃	8×	14,942 (313)	19,166 (340)	17,627 (363)	15,699 (411)	67,434(1427)
〃	9×以上	3,858 (163)	6310 (220)	7,579 (259)	4,363 (234)	22,110 (876)
ガリレイ式(オペラグラスその他)		28,712 (131)	36,569 (115)	38,093 (134)	18,099 (144)	121,473 (524)
合計		102,365(1488)	137,413(1660)	133,413(1761)	89,380(1676)	462,571(6585)

註　上表の数字は，表示数量を示し，（ ）内は，表示件数を示す。

Ⅱ 写真機

輸出の状況および検査の状況

本年度写真機業界は，非常に多事多難であつたと思われる。即ち生産は急激に増加して来たのにかかわらず，国内のデフレ傾向とともに需要はむしろ減退し始めた。即ち輸出においても国内駐留軍向けの一括購入をするC.P.O.の買付減退(一時独逸製品の大量買付けによる原因）並びに純輸出の減退により極めて不振となつた。このため弱小メーカーの中には，相当に倒産したり，倒産に近い状態に追い込まれたものも多く見うけられる。又，有力メーカーでも生産を抑制し，不況打開につとめているものが相当に多い。小売販売価格も大巾に引下げたものもあるが，輸出価格には未だその傾向は見うけられない。これは国内需要が活況の時，競つて小売販売価格を引上げたけれども，輸出価格は国際事情から引上げられないので，すえおかれたためである。それでも尚国際市場における日本商品は割高であるのである。又輸出不振の主な理由は，最近における独逸の急激な復興によるものだともいわれている。このため輸出品の品質を高め，声価の向上を期することは，必緊の要事でもあるわけである。

加うるに国内市場で閉め出しにあつたメーカーが，その供給先を国外市場に活路を見出そうとすることは明らかで，所謂その場限りの輸出業者があらわれて来る危険が多い。当所が行なつた臨検々査でも，シヤツターのスピード不良，口径比不良，解像力不良等，精度的なものから，シヤツターの作動，捲取ノツブの不良等の機能的なもの，およびシヤツター，絞り羽根並びにスプリングのさび，皮張りのうき，レンズのごみ，くもり等の外観に至るまで，種々の不良箇所が見受けられた。

携帯用写真機臨検々査実績表

月別	検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
			等級の誤	最低標準に達しない	包装条件に達しない		
28. 4	0	0	0	0	0	0	0
〃 5	0	0	0	0	0	0	0
〃 6	2	1	0	1	0	0	0
〃 7	0	0	0	0	0	0	0
〃 8	1	1	0	1	0	1	0
〃 9	5	0	0	0	0	0	0
〃 10	6 (1)	1	0	1	0	0	0
〃 11	2	0	0	0	0	0	0
〃 12	2 (1)	1	0	1	0	0	0
29. 1	2	0	0	0	0	0	0
〃 2	4	0	0	0	0	1	0
〃 3	4 (1)	1	0	1	0	1	0

これら低級安価な写真機によつて，我国写真機の一般が判断され国産写真機の声価を害する危険があり，この点識者の憂慮するところであつたが，通商産業省合理化審議会においても，この問題をとり上げ，これが対策として強力な検査機関の設置の必要性を発表した。これにもとづいて通商産業省ならびに写真機業界との間に，強力な民間登録検査機関を早急に設置するよう要望せられ，29年に入つて以来その準備に取りかかつている。

Ⅲ 顕微鏡・測量機械その他

輸出の状況および検査の状況

大，中型顕微鏡の輸出は余り振るわなかつたが，国内事情は比較的安定して来た。これは生産制限の効果が出て来た結果にもよる。従来中共が好市場と目されていたが，禁止品目であつたので直接の輸出は出来なかつた。即ち業界の代表が中共に赴き顕微鏡等大量輸出に調印したのであるが，禁止品目であつたので実現は不可能であつた。その後解除され自由となつたが，実際には輸出されず，中共輸出の夢もさめた観がある。然し一時的にはこれら中共輸出を期待し見込生産を行つた傾向も見られ混乱を来たした事もあつた。品質も一般的に安定しているとも云える。又低級なものの輸出は余り見受けられない。

小型顕微鏡は一時から見ると輸出もさほど活潑ではないが相当に輸出されている。この機種も他機種に見受けられるような安値受註の傾向が強く，品質の面でも折角向上し，小型としては完全に近い処まで成りかけたものが，又逆もどりして来る傾向が見受けられ憂慮される。即ち材質の変更，加工の粗略等である。精度，機能，外観的に極く目だたないように粗雑になつて来ている。

望遠鏡のうち小型の手持望遠鏡も大体上記小型顕微鏡に類似している。本年度の特異として中型の地上望遠鏡，ならびに小型の天体望遠鏡が多く輸出されるようになつた。これらは従来メーカーの数も数社に過ぎず不当な競争もせず，宣伝も殆んどしていなかつたのであるが，その優秀性を認められるようになつて来たのではないかと思われる。当所が行なつた臨検々査に於ては輸出規準に，うといため起つた事故によるものが発見された。

トランシツト・レベル等の測量機械の輸出に於ては国内需要の活潑さに比較して，さびしいものであつた。その他の測量機械もサンプル程度の輸出が見られた。

スライド映写機の輸出も漸次増大しているようであるが，高級なものは完全な防熱フイルターが出来ない現状では結局輸出も伸びないのではないか。

砂糖屈折計・蛋白屈折計・比色計等の分野でも輸出が見られるようになつて来た。砂糖屈折計を除いてはサンプル程度のもので輸出量としては極く少量である。

35m/m映写機・16m/m映写機の輸出は数量的

顕微鏡，測量機，その他臨検々査実績表

月別		検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
				等級の誤	最低標準に達しない	包装条件に達しない		
28.	4	10	0	0	0	0	1	0
〃	5	7	1	0	1	0	0	0
〃	6	2	1	0	1	0	0	0
〃	7	7	1	0	1	0	0	0
〃	8	6	0	0	0	0	0	0
〃	9	1	0	0	0	0	1	0
〃	10	6	0	0	0	0	0	0
〃	11	7	0	0	0	0	0	0
〃	12	6	0	0	0	0	0	0
29.	1	5 (1)	1	0	1	0	0	0
〃	2	13 (1)	1	0	1	0	2	0
〃	3	2	0	0	0	0	2	0

には極く僅かで，比較的日本から近巨離（沖縄・朝鮮・台湾等）へのものが多い。これはすえ付の技術と，部品等のサービス面で制約されるためと思われる。

レンズメータ・投影検査器・水晶分光写真機に於ては輸出は殆んど見うけられなかつた。

軸　　受

1. 輸出の状況

今年度における軸受の生産数量は，在来よりかなり増大している。これは，各種産業分野における諸機械の生産増加，例えば車輛，自動車の生産増加，防衛産業，電源開発事業の需要等考え合すと当然予想される所である。一方輸出数量も歩調をあわす如く軸受，鋼球共に若干ふえている。(第1表参照)

即ち，鋼球は，昨年度に比較し約4倍弱になつている。主要な仕向地は，香港，台湾，印度であり，この三ケ国に輸出される数量は，圧倒的に多く，全輸出数量の過半数を超えているその他の仕向地としては，タイ，パキスタン，ビルマ，マレー，フイリピン，アルゼンチン，メキシコと続いている。主として東南アジア地区の後進国に対して，有力な供給源となつている。只今後は，現段階以上に，諸外国製品との競争が激しくなると予想され，又そのきざしもあるので，更に生産設備の改善，能率化，加工技術の向上等に努力し，良品を廉価に提供しなければ，輸出市場の確保，拡大は楽観を許さぬ状況であらう。

2. 検査の状況

軸受関係は法第7条の2に指定されているので，当所の検査としては，登録機関に対する臨検々査と表示依頼検査がある。

第1表　輸出実績表

月別	品種 / 分類	軸受 数量(個)	軸受 金額(千円)	鋼球 数量(個)	鋼球 金額(千円)
4	月	156,303	40,593	1,653,000	760
5	月	97,697	32,183	331,000	187
6	月	123,737	43,442	797,904	439
7	月	90,214	33,060	980,000	856
8	月	67,611	24,391	1,168,000	1,030
9	月	68,992	29,570	5,500,000	3,414
10	月	55,054	27,059	3,603,000	2,341
11	月	77,012	28,988	2,506,000	1,676
12	月	96,187	39,394	3,810,000	2,525
1	月	116,013	33,212	14,714,000	8,060
2	月	231,538	61,849	2,790,000	1,782
3	月	255,665	83,256	203,000	118
合	計	1,436,023	476,997	38,055,904	23,288
昭和27年度輸出実績		1,516,395	407,773	10,578,205	6,591

第2表は，旧登録機関に対する臨検々査の実績を示す。この欄中，その他とは，大阪，および名古屋地区に於て臨検不能がそれぞれ1件あつた事を示すものである。

第3表は，表示依頼検査の実績を示している。福岡地区において58件の実績を示しているが，これは当地区に登録検査機関がないため，すべて当所へ持込まれたためである。

法律の改正によつて，6月1日から新登録検査機関として日本軸受輸出検査(株)が発足したが，

第2表　登録検査機関臨検々査実績表（旧登録機関）

種別	地区 / 成績	東京地区 検査件数	東京地区 合格件数	東京地区 軽微事故	東京地区 事故	大阪地区 検査件数	大阪地区 合格件数	大阪地区 軽微事故	大阪地区 事故	名古屋地区 検査件数	名古屋地区 合格件数	名古屋地区 軽微事故	名古屋地区 事故
輸出品		6	6	0	0	5	5	0	0	1	1	0	0
機械器具		1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
帳簿		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他（臨検不能）		0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0

第3表　表示依頼検査実績表

地区別	型式種別	表示を依頼された件数および総数 件数	表示を依頼された件数および総数 総数	表示をした総数	表示の種類別数量 種類	表示の種類別数量 総数	手数料(円)	備考
東京	ラジアル玉軸受 Hoffman No 2 6203	2	12	2	A	2	12	未表示件数 2 〃 数量 10ヶ
名古屋		3	80	80		80	401	
福岡	ラジアル玉軸受	16	250	235	A	235	665	未表示件数 1 〃 数量 15ヶ
	スラスト軸受	9	242	242	Export Standard	242	441	
	円筒コロ軸受	10	287	272	A	272	1,029	未表示件数 1 〃 数量 15ヶ
	円錐コロ軸受	19	225	195	A	195	1,267	未表示件数 2 〃 数量 30ヶ
	針状コロ軸受	4	60	60	A	60	250	
総計		63	1,156	1,086		1,086	4,065	

これに対する臨検々査の状況は，東京地区3件(7月，11月，2月，それぞれ1件づつ)，大阪地区15件（29年1月4件，2月，7件，3月4件）となつている。この地区で1月以降回数が急増した理由は，カーボン軸受の輸出がふえて，この状況調査の為と思われる。名古屋地区では，3件（8月1件，11月1件，1月1件）となつている。

此等各地区の状況を綜合すると，各登録機関の検査実施状況や測定機器の整備状況は良好に行われていると考えられる。

新登録機関が発足して約1年近く経過したので現行の抜取検査方法に対する批判，要望が生れつつあるので近い将来，改正案をねらねばならないと思われる。

外国規格(吋寸法)の軸受，および自動車用軸受の如き特殊軸受に対する取扱いが明確ではないので，此等に対して早急に検査規格をつくり検査実施に困乱を生じないようしなければならないと思われる。

計　量　器

1. 輸出の状況

計量関係の輸出は前年度に比較して低調を示している。別表(第1表)に見られる輸出品取締法に指定せられた各計量業種の中で年間約75万本を輸出した体温計業種が断然他の業種を引き離して，数量的にも金額的にも例年同様王座の貫録を発揮しているが，これとて，昭和25年のインドブーム（インド向のみで約80万本の輸出量）昭和26年のブラジル向多量輸出（ブラジル向のみで約45万本の輸出量）昭和27年の香港ブーム（香港向のみで約70万本の輸出量）等に対しては，今年度仕向地別総合計の75万本では問題にならない小数量である。

価格は1～2年前1本70～80円程度が，第3/4半期にはすでに40～50円台を割り，最近の契約情報では，3本100円又は4本100円と云つた，考えられない価格で，取引の交渉が進められている由である。体温計同様第2位の巻尺以下ガラス量器，はかり等も極めて不振の傾向にあり，同業者間において早急なる輸出増進の対策を望む声が起りつつある。

2. 検査の状況

昭和28年度における全国の臨検検査件数は215

第1表　計量器関係の品種別，期別，地区別，輸出実績表

		体温計	巻尺	ガラス量器	はかり
第一・四半期	東京地区	166,781(本)	2,119(個)	8,311(個)	377(台)
	大阪〃	30,000	310	300	177
	名古屋〃	720	7,188		
	福岡〃	600			
	計	198,101	9,617	8,611	554
第二・四半期	東京地区	143,093	2,256	1,040	42
	大阪〃	102,220	18	4,776	76
	名古屋〃		10,915		4
	福岡〃	28,270	330		
	計	273,583	13,519	5,816	122
第三・四半期	東京地区	108,180	1,622	5,333	161
	大阪〃	2,364	10,315	7,368	25
	名古屋〃		20,197		
	福岡〃	26,660			
	計	137,204	32,134	12,701	186
第四・四半期	東京地区	136,125	510	2,321	11
	大阪〃	5,400	270	4,728	129
	名古屋〃		9,711		
	福岡〃	7,200			
	計	148,725	10,491	7,049	140
年度合計	東京地区	554,179	6,507	17,005	591
	大阪〃	139,984	10,913	17,172	407
	名古屋〃	720	48,011		4
	福岡〃	62,730	330		
	合計	757,613	65,761	34,177	1,002
	金額	45,456,780円	19,728,300円	1,708,850円	6,000,012円

件を数え，昨年度の230件と略々同数の実績を示している。昨年は体温計の香港ブームで輸出契約状況は生産をオーバーすると云つた活況を呈した時でもあるため，臨検検査は主にこれに主力を置いて実施せられて来た。今年は特筆すべき輸出のケースもないにかゝわらず，昨年なみの検査件数を上げている。

特に輸出状況の悪化にともない，第4/4半期には下記の要領により悪質業者の厳重な取締を励行した。

第4/4半期における臨検強化対策

1. 体温計用「ラベル」の改正をする。
2. 輸出検査連絡書の改正をし「ラベル」の使用枚数を適確に把握する。
3. 輸出許可申請書の状況を調査する。
4. 連絡なくして輸出するものは税関において抜打検査する。
5. 臨検検査率を引上げる。

以上の強化対策は，第4/4半期の2～3月にかけて徹底したゝめ，悪質業者の輸出に対する概念を根底から改めさせ，輸出の重大性を認識させる効果があつた。

別表(第2表)は，昭和28年度の不合格件数を示す。

昨年の不合格件数23件に対し，今年は13件と約50%減となつたが，最近一部の業者が輸出連絡を行わず，粗悪品を輸出せんとする傾向が見られるので，必ずしも品質的に向上したものとは言い難い。

本年度において不合格になつた主な欠陥と原因は次の通りである。

(1) 体温計

a. 器差項目

体温計においては本項目が最も多い。原因の一つは数年前検定した標準温度計を長く使用して其の間器差の変化しているのに気付かずいたもの，次に温槽機の攪はん状態の不完全なものによるものである。

b. 外観項目

弗化水素によるガラスの腐蝕作業に際し取扱の不注意によるものが最も多く中間検査を行う様注意している。

c. 塗料項目

最近は塗料の成分も上質のものを用いる様になつて，極度にハゲ落ちるものは少くなつたが，焼付の不完全により，一部分ハゲ落ちるものが目立つた。

(2) 巻尺

家内工業的生産方式によつて生産している巻尺は，不合格事故が比較的多い。手による作業が多いため，工場内の不整頓による汚レ，キズ等の欠陥が不合格事故を起している。

耳切レは材料の選定の不注意によるもの。

(3) 其の他

ガラス量器，はかりは多量の輸出が少く，輸出品も一応国内検定の合格品を輸出する場合が多いため不合格事故は少い。従つて主なる欠陥項目として特筆すべき程のものはなかつた。

終戦以来満7ケ年を経過して来た今日までの計量業界は他産業より比較的好条件のセーラース・マーケツトにより需要供給の状態を維持して来たものであるが，今年度に到り内外需要の減少特に輸出数量の減少と価格の低落は著じるしくなり，これと逆比例して生産業者の濫立が注文の争奪戦を展開する様になつて来た。これにともない当然各製造業者が考えなければならない問題は，企業の合理化を計り，品質の向上，コストの切下げを目標として不況時代に対処して行くべきではなからうか。本企業体の実情は，完全な不合格品を合格品と混合梱包して歩止りの向上を非合理的に考える様になり，低価格を以つて輸出の競合にのぞまんとしているものである。

かかる考えが一時的にバイヤーの注文に応じられるものの恒久的通商の永続と発展を望まんとす

臨検々査実績表

東京地区

月別	検査件数	事故件数	事故の内容				無表示	その他
			等級の誤り	最低標準に達しない	包装件に達しない	条数に達しない		
28.4	10	2	1	1			0	0
5	8	0	0	0			0	0
6	22	0	0	0			0	0
7	11	0	0	0			0	1
8	17	0	0	0			1	0
9	6	0	0	0			0	0
10	9	0	0	0			1	0
11	10	0	0	0			0	0
12	10	1	0	1			0	0
29.1	6	0	0	0			0	0
2	5	2	0	2			1	0
3	13	0	0	0			0	0
計	127	5	1	4			3	1

名古屋地区

月別	検査件数	事故件数	事故の内容				無表示	その他
			等級の誤り	最低標準に達しない	包装件に達しない	条数に達しない		
28.4	1	0	0	0			0	0
5	2	1	0	1			0	0
6	1	1	0	1			0	0
7	0	0	0	0			0	0
8	1	0	0	0			0	0
9	3	0	0	0			0	0
10	2	0	0	0			0	0
11	0	0	0	0			0	0
12	6	1	0	1			0	0
29.1	0	0	0	0			0	0
2	0	0	0	0			0	0
3	0	0	0	0			0	0
計	16	3	0	3			0	0

大阪地区

月別	検査件数	事故件数	事故の内容				無表示	その他
			等級の誤り	最低標準に達しない	包装件に達しない	条数に達しない		
28.4	6	0	0	0			0	0
5	5	0	0	0			0	0
6	8	2	0	2			0	0
7	4	0	0	0			0	0
8	7	0	0	0			0	0
9	7	0	0	0			0	0
10	5	3	0	3			0	0
11	7	0	0	0			0	0
12	4	0	0	0			0	0
29.1	5	0	0	0			0	0
2	7	0	0	0			0	0
3	8	0	0	0			0	0
計	73	5	0	5			0	1

福岡地区

月別	検査件数	事故件数	事故の内容				無表示	その他
			等級の誤り	最低標準に達しない	包装件に達しない	条数に達しない		
28.4	3	0	0	0			0	3
5	0	0	0	0			0	0
6	3	0	0	0			0	0
7	3	0	0	0			0	1
8	1	0	0	0			0	0
9	2	0	0	0			0	0
10	1	0	0	0			0	0
11	0	0	0	0			0	1
12	3	0	0	0			0	0
29.1	1	0	0	0			0	1
2	0	0	0	0			0	0
3	0	0	0	0			0	0
計	17	0	0	0			0	5

第2表　不合格事故件数と不良内容

品目 / 地区	体温計			巻尺			ガラス量器			はかり		
	件数	原因	内容	件数	原因	内容	件数	原因	内容	件数	原因	内容
東京	4	外観検査 器差検査	スミ落チ 腐蝕キズ 外径銀キレ 器差不良	1	外観検査	巾不良 耳切レ 汚レ	0	—	—	0	—	—
大阪	0	—	—	2	生地検査	横糸不足	2	歪検査		1	性能検査	
名古屋	1	外観検査	腐蝕，ワキレ ズ，地キレ ズ，汚レ	2	外観検査	汚レ 耳切レ キズ	0	—	—	0	—	—
福岡	0	—	—	0	—	—	0	—	—	0	—	—

る時，何時かは破綻を来すべきこと当然のことである。

特にこの傾向は小企業者に多く，最もこの状勢が顕著に現れて来たのは，第2/4半期末期より，第3/4，第4/4半期にかけて大多数の小メーカーの常套手段となつて来た。

かかる事情に鑑み有力メーカー筋では事の重大性を憂慮して，輸出品取締法による不良品の輸出取締を厳重にせられる様陳情して来たのである。

前記項目『検査の状況』に記した通り，当所は徹底的臨検の強化を計つて来ているが，効果は逐次向上の後を示している。昭和29年度には更にこの方針を推進して行くべきであると思われる。

家庭用ミシンおよび同部品

1. 輸出の状況等

(1) 家庭用本縫ミシン

本年度における輸出実績は818,971台（7,325,765千円）で，昨年度の838,102台より減少している。（大蔵省税関部調）

我が国の輸出不振の主な原因はコストが高いためであるが，ミシンはその逆である。朝鮮事変ぼつ発後急激に増大した需要も一応頭打ちの状態となつたにもかかわらず，生産量が増大したため，しかも予期に反して国内が行悩みの状態にあるので，業者は挙つて輸出に活路を見出そうとしたため，いきおい安売の競走となり，出血輸出の傾向がある。従つて輸出数量は大差ないが，金額においては著しく減少している。このため必然的に品質の低下は免れないので，これの防止策として輸出品取締法の改正を実施して，従来のメーカー即登録検査機関制度を廃止，本年11月改めて全国一元の財団法人日本ミシン検査協会が設立したのである。

仕向地は依然北米が首位，次いで南米，ヨーロッパ，東南アジア，その他の順となつている。家庭用ミシンの規格は，昭和25年に制定したものであるから，近くこれが改正されることになつている。

(2) ジグザグミシン

ジグザグミシンの輸出状況は昨年同様低調である。このミシンの購買層は概ね限定されており，本縫ミシン程期待はかけられないが，現在の低調をとりもどすためには機構，デザインの点に於て外国製品の模倣をやめて，独創的なものを生産する必要があると思われる。

その製造業者は全国で約11社（当所の把握数）で，その地区別内訳は，東京5社，名古屋4社，大阪2社であるが，主として輸出しているのは，2社程度で，その他は輸出量も少く，性能についてもたいして期待できない。

(3) ミシンテーブル

昨年度に於ける対象工場数は，東京地区33社，名古屋地区10社，大阪地区20社，計63社であつたが，本年度は，東京地区38社，大阪地区32社，名古屋地区22社，計92社と激増した。これは国内需要が伸びないため，業者は挙つて輸出向けに重点をおいてきた結果と思われる。

このため業者は安売りに走り，この結果本年末期頃より品質が漸次低下し，耐候性試験の結果は良しくない。殊にひどいメーカーは，数回検査しなければ合格しないものも相当でてきた。このため接着方法，工作方法，塗装方法等について指導を行つている。また本年の特長としては単独輸出が目立つてきたことである。昨年度は殆んどなかつた。

(4) ミシン針

本年度における輸出実績は12,354千本（3,900万円）で，昨年度の32,124千本に比べて著しく減少している。（大蔵省税関部調）

別表 (1)　登録検査機関臨検検査実績表（旧登録機関に対するもの）

地区別	期別	検査概況												備考
		検査件数				事故件数				その他				
		輸出品	機械器具設備	帳簿	計	輸出品	機械器具設備	帳簿	計	輸出品	機械器具設備	帳簿	計	
東京	第一、四半期	8	1	7	16	0	0	0	0	0	0	0	0	
大阪		24	3	3	30	0	0	0	0	1	2	0	3	
名古屋		7	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		39	4	11	54	0	0	0	0	1	2	0	3	
東京	第二、四半期	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
大阪		11	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	
名古屋		16	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		32	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	

別表 (2)　表示依頼検査実績表

地区別	期別	型式種別	表示を依頼された件数及び総数		表示した総数	表示の種類別数量		手数料
			件数	総数(単位)	(単位)	種数	総数(単位)	
東京	第一・四半期	完成品	3	132台	132台	完成品	132台	13,200円
		頭部	1	1,004	1,004	頭部	1,004	50,200
計			4	1,324	1,324		1,324	63,400
大阪		頭部	1	1,000	1,000	頭部	1,000	50,000
名古屋			0	0	0	0	0	0
小計			5	2,324	2,324		2,324	113,400
東京	第二・四半期	頭部	4	2,000	2,000	頭部	2,000	10,000
		完成品	1	70	70	完成品	70	6,400
計		その他の完成品	5	2,070	2,070	その他の完成品	2,070	16,400
大阪		頭部	4	2,000	2,000	頭部	2,000	100,000
〃		完成品	2	270	150	完成品	150	27,000
計			6	2,270	2,150		2,150	127,000
小計			11	4,340	4,220		4,220	143,400
東京	第三・四半期	頭部ベースカバー	1	336	336	頭部ベースカバー	336	13,447
		完成品	3	204	204	完成品	204	14,280
		電気ミシン	2	2	2	電気ミシン	2	100
計			6	542	542		542	27,828
大阪		頭部	1	50	50	頭部	50	2,000
		完成品その他	2	70	70	完成品その他	70	3,900
計			3	120	120		120	5,900
名古屋		完成品	10	1,226	1,226	完成品	1,226	85,820
		その他の完成品	1	2	2		2	100
		頭部	4	57	57	頭部	57	2,850
計			15	1,285	1,285		1,285	88,770
小計			24	1,937	1,937		1,937	123,498

地区別	期別	型式種別	表示を依頼された件数及び総数 件数	総数(単位)	表示した総数 (単位)	表示の種類別数量 種数	総数(単位)	手数料
東京	第四・四半期	頭部	3	450	450	頭部	450	18,000
		小型ミシン頭部	1	1	1	小型ミシン頭部	1	40
		同上ハンドル付	1	2	2	同上ハンドル付	2	90
		完成品	2	105	105	完成品	105	7,350
計			7	558	558		558	25,480
大阪		完成品	1	2	2	完成品	2	140
小計			8	560	560		560	25,620
総計			48	9,161台	9,161台		9,161台	405,918

別表 (3) 臨検検査実績

地区別	期別	検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他	備考
東京	第一・四半期	6	2	0	2	0	0	0	
大阪		1	0	0	0	0	0	0	
名古屋		3	0	0	0	0	0	0	
計		10	2	0	2	0	0	0	
東京	第二・四半期	3	0	0	0	0	0	0	
大阪		4	0	0	0	0	0	0	
名古屋		4	0	0	0	0	0	0	
計		11	0	0	0	0	0	0	
東京	第三・四半期	13	1	0	1	0	0	0	
大阪		19	3	0	2	1	0	8	
名古屋		5	0	0	0	0	0	0	
計		37	4	0	3	1	0	0	
東京	第四・四半期	32	9	0	0	9	0	0	
大阪		16	2	0	2	0	0	0	
名古屋		3	0	0	0	0	0	0	
計		51	11	0	2	9	0	0	
総計		109	17	0	7	10	0	8	

これは西独乙より安くて品質の良い製品が出ていて，その競争に勝てないためであると思われる。

仕向地は一定していないが，主として台湾，南米である。

昭和26年に規格が制定されてより3年経過しているので，近く規格が改正される予定である。

2. 検査の状況

本年度の検査概況は次のとおりである。

(イ) 登録検査機関臨検々査実績表（旧登録検査機関に対するもの） 別表 (1)

(ロ) 表示依頼検査実績表 別表 (2)

(ハ) 臨検々査実績表 別表 (3)

なお，本年10月より新たに包装条件を指定された。

ミシン製造業者に於て，社内に梱包部をもっているものは数社で，その多くは梱包業者に委せている。社内に梱包部をもつているものは良心的で社内検査も充分行つているようであるが，梱包業者の場合には社内検査を実施しないところが殆んどと思われる。事故の主なるものは，木箱の含水率検査である。

昭和28年11月より新たに日本ミシン検査協会が発足したので，旧登録検査機関は自然消滅したので，旧登録機関に対する臨検は行わなかつた。

繊維機械用品

1. 輸出の状況

前年度に引続き輸出は不振で，国内の紡績業の不況の影響をうけて国内需要も少く，繊維機械用品業界は一般に縮小生産を余儀なくされ沈滞気味であつた。しかし第3，第4.4半期の輸出量は，各品目とも第1，第2.4半期に較べ非常に増加して来たので，輸出は順次順調になつて来るのではないかと思われる。

主な仕向地はパキスタン，香港，インド，南米，朝鮮，台湾，ビルマ等であるが，パキスタンへの輸出が最も多い。インドへの輸出は，自国生産のためか一時よりずつと減少して来た。仕向地別，4半期別輸出実績は第1表から第7表のとおりである。

2. 検査の状況

(1) 木管

検査件数および検査成績は第8表のとおりである。

事故は名古屋地区に4件，大阪地区に2件，計6件あつた。名古屋地区の事故は「割レ」によるもの1件(コーン木管)，「割レ」「スピンドルとのハメアイ位置不良」によるもの1件（STG兼用木管)，「加工不良」「キズ」「汚染」「スピンドルとのハメアイ位置不良」「金具取付不良」「吸水試験不良」「外径不良」等，殆んどの項目によるもの1件（リング木管)，「加工不良」「キズ」「汚染」によるもの1件（巻取木管）で，大阪地区の2件は何れも「材質不良」「寸法不良」によるもの(整径木管，スプール木管）である。このうち名古屋地区のリング木管の吸水試験不良は漆塗装不良で，リング木管の致命欠欠で，とくに注意を要する。

検査項目中不良の多く出たのは，虫穴，割レ等の「材質不良」，取扱いの不注意から生ずる「キズ」「汚染」および「加工不良」などであるが，とくに材質不良が多かつた。「寸法不良」も少数あつたが，検査ゲージの完備して来るに従い順次少くな

第1表 木管 (単位 本)

仕向地	第1.4半期	第2.4半期	第3.4半期	第4.4半期	計
パキスタン	1,202,144	558,904	1,122,795	976,616	3,860,459
香港	125,224	389,560	389,364	327,760	1,231,908
インド	182,354	196,464	127,762	107,149	613,729
南米	2,400	9,680	206,100	262,424	480,604
朝鮮	636	239,040	10,915	5,200	255,791
台湾	5,572	63,285	32,514	34,400	135,771
ビルマ	13,200	81,250	24,500	15,000	133,950
タイ	3,000	40,460	3,948	8,000	55,408
インドネシヤ	0	120	35,000	0	35,120
イラン	0	0	10	25,920	25,930
シンガポール	0	0	0	14,400	14,400
イラク	10,000	0	3,948	0	13,940
ベルリーア	0	5,000	0	0	5,000
エジプト	1,500	1,696	1,035	0	4,231
南阿	0	0	82	1,955	2,037
フィリピン	0	0	0	986	986
中米	200	650	0	18	868
北米	580	0	138	0	718
メキシコ	0	688	0	0	688
その他	300	0	300	0	600
計	12,694	0	2,150	0	14,844
	1,559,804	1,586,797	1,960,561	1,779,828	6,886,990

第2表　金　オ　サ　（単位　枚）

仕向地	第1.4半期	第2.4半期	第3.4半期	第4.4半期	計
パキスタン	7,236	4,875	29,437	6,896	48,444
台湾	4,736	10,702	2,700	1,192	19,330
ビルマ	1,900	6,723	6,473	300	15,396
インド	6,624	785	2,317	3,004	12,730
朝鮮	3,190	410	88	720	4,408
香港	330	622	900	628	2,480
南米	0	0	924	553	1,477
タイ	0	355	23	100	478
コロンボ	0	336	0	0	336
メキシコ	0	250	0	0	250
インドネシヤ	0	0	250	0	250
イラク	130	0	20	0	150
フイリピン	12	60	0	0	72
その他	126	20	4	30	180
計	24,284	25,138	43,136	13,423	105,981

第3表　ワイヤヘルド　（単位　本）

仕向地	第1.4半期	第2.4半期	第3.4半期	第4.4半期	計
パキスタン	7,840,000	1,285,000	31,572,000	7,110,000	47,807,000
朝鮮	3,139,800	626,000	13,890,000	14,305,000	31,960,800
ビルマ	4,000,000	14,600,000	12,387,500	0	30,987,500
台湾	6,783,000	12,739,000	2,201,000	2,040,000	23,763,000
エジプト	0	1,005,000	2,150,000	3,850,000	7,005,000
南米	180,000	170,000	2,432,000	3,228,000	6,010,000
スペイン	0	5,400,000	0	0	5,400,000
トルコ	0	0	530,000	4,500,000	5,030,000
シリヤ	1,515,000	556,000	1,994,000	700,000	4,765,000
インド	4,146,000	11,000	2,000	0	4,159,000
香港	692,000	630,000	50,000	2,310,000	3,682,000
メキシコ	700,000	1,266,000	316,000	1,000,000	3,282,000
イラン	50,000	0	562,000	198,000	810,000
イラク	300,000	0	100,000	200,000	600,000
インドネシヤ	7,500	0	500,000	0	507,500
ベルー	100,000	140,000	0	0	240,000
シドニー	0	0	110,000	0	110,000
ベルギー	0	0	0	50,000	50,000
フイリピン	0	14,000	0	0	14,000
ボリビヤ	0	0	10,000	0	10,000
マレーイ	10,000	0	0	0	10,000
タ	0	2,000	0	0	2,000
計	29,463,300	38,444,000	68,806,500	39,491,000	176,204,800

つて来た。

(2) 金オサ

検査件数および検査成績は第9表のとおりである。

事故は1件もなく，検査成績は一般に良好であつた。検査項目中最も不良の多く出たのは，リードワイヤのサビおよびキズで，材料購入の時の受入検査および保管に今一層注意するとともに，サ

第4表　シヤツトル　（単位　丁）

仕向地	第1.4半期	第2.4半期	第3.4半期	第4.4半期	計
パキスタン	26,206	20,697	57,767	15,180	118,850
南米	24	4,000	41,905	46,538	92,467
台湾	6,505	24,122	45,240	15,036	90,903
インド	18,624	24,960	12,640	10,580	66,804
朝鮮	12,460	6,698	14,879	30,914	64,951
香港	6,900	16,280	13,070	10,300	46,550
エジプト	2,000	3,970	0	300	6,270
ビルマ	1,440	494	2,400	1,440	5,774
タイ	800	71	3,200	100	4,171
イラン	0	0	1,100	500	2,000
ベルギー	600	0	0	1,100	1,700
仏印	0	0	0	700	700
イラク	645	0	40	0	685
メキシコ	100	300	100	0	500
インドネシヤ	0	20	350	0	370
フイリピン	200	150	0	0	350
その他	0	545	720	0	1,265
計	76,504	102,307	192,811	132,688	504,310

第5表　ドロツパ　（単位　枚）

仕向地	第1.4半期	第2.4半期	第3.4半期	第4.4半期	計
パキスタン	2,630,000	0	0	4,000,000	6,630,000
南米	0	0	1,871,000	2,233,000	4,104,000
台湾	800,000	1,400,000	0	430,000	2,630,000
朝鮮	60,000	7,000	800,000	670,000	1,537,000
香港	80,000	960,000	200,000	60,000	1,300,000
エジプト	0	0	0	500,000	500,000
インド	100,000	186,000	125,000	0	411,000
米国	0	100,000	0	0	100,000
計	3,670,000	2,653,000	2,996,000	7,893,000	17,212,000

第6表　リング　（単位　個）

仕向地	第1.4半期	第2.4半期	第3.4半期	第4.4半期	計
パキスタン	6,400	22,810	61,628	93,484	184,322
朝鮮	0	37,000	17,040	0	54,040
台湾	3,200	14,930	6,210	17,200	41,540
イラン	0	0	1,056	16,092	17,148
香港	0	11,050	2,000	2,600	15,650
中米	15,600	0	0	0	15,600
メキシコ	0	0	0	2,000	2,000
インド	0	2,000	0	0	2,000
南米	0	0	0	1,128	1,128
ビルマ	837	0	0	0	837
計	26,037	87,790	87,934	132,504	334,265

第7表　メ　リ　ヤ　ス　針　　（単位　本）

仕向地	第1.4半期	第2.4半期	第3.4半期	第4.4半期	計
南米	2,000	23,000	263,000	401,000	689,000
インド	208,500	184,000	155,500	52,000	601,000
朝鮮	252,175	230,000	42,100	9,000	533,275
パキスタン	0	127,000	358,000	0	485,000
ビルマ	108,000	145,073	180,000	0	433,073
インドネシヤ	0	0	225,000	102,000	327,000
トルコ	18,000	6,000	113,000	23,000	160,000
タイ	0	0	0	154,500	154,500
タイラン	100,000	0	0	45,000	145,000
台湾	23,998	12,000	23,750	84,000	143,748
イタリー	8,000	10,000	10,000	80,000	108,000
香港	18,000	0	51,000	22,000	91,000
シリヤン	23,000	3,000	7,500	63,600	97,100
フイリピン	20,000	51,000	0	0	71,000
イラク	0	0	0	50,000	50,000
メキシコン	0	29,400	0	0	29,400
セイロンボ	5,000	14,550	9,000	600	29,150
コロンボ	0	0	0	21,300	21,300
米国	0	3,000	0	16,000	19,000
エジプト	0	0	0	10,000	10,000
南阿	6,000	0	0	0	6,000
中共	5,000	0	0	0	5,000
ベルー	0	4,000	0	0	4,000
その他	0	20,900	2,719	15,000	38,619
計	797,673	862,923	1,441,569	1,149,000	4,251,165

第8表　木　　管

期別	地区別	検査件数	事故件数	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	10	1	1	0	1
	大阪	4	1	1	0	0
	計	14	2	2	0	1
第2.4半期	東京	0	0	0	1	0
	名古屋	20	2	2	0	0
	大阪	4	0	0	0	0
	計	24	2	2	1	0
第3.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	7(1)	1	1	0	0
	大阪	3	1	1	0	0
	計	10(1)	2	2	0	0
第4.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	1	0	0	0	0
	大阪	6	0	0	1	0
	計	7	0	0	1	0
計	東京	0	0	0	1	0
	名古屋	38(1)	4	4	0	1
	大阪	17	2	2	1	0
	計	55(1)	6	6	2	1

第9表　金　オ　サ

期別	地区別	検査件数	事故件数	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	8	0	0	0	0
	大阪	2	0	0	0	0
	計	10	0	0	0	0
第2.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	8	0	0	0	0
	大阪	0	0	0	0	0
	計	8	0	0	0	0
第3.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	0	0	0	0	0
	大阪	15	0	0	0	0
	計	15	0	0	0	0
第4.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	2	0	0	0	0
	大阪	0	0	0	0	0
	計	2	0	0	0	0
計	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	18	0	0	0	0
	大阪	17	0	0	0	0
	計	35	0	0	0	0

ビ止を完全にすることが必要であると思う。その外，「長サ」「リードワイヤーの表面」「内天地」「外天地」の不良が少数あつた。

(3)　ワイヤヘルド

検査件数および検査成績は第10表のとおりである。

第10表　ワイヤヘルド

期別	地区別	検査件数	事故件数	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	3	0	0	0	0
	大阪	2	0	0	0	0
	福岡	0	0	0	0	0
	計	5	0	0	0	0
第2.4半期	東京	1	1	1	0	0
	名古屋	1	0	0	0	0
	大阪	2	0	0	0	0
	福岡	0	0	0	0	0
	計	4	1	1	0	0
第3.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	1	0	0	0	0
	大阪	1	0	0	0	0
	福岡	0	0	0	0	0
	計	2	0	0	0	0
第4.4半期	東京	1	0	0	0	0
	名古屋	1	0	0	0	0
	大阪	2	0	0	0	0
	福岡	2	0	0	0	0
	計	6	0	0	0	0
計	東京	2	0	0	0	0
	名古屋	6	0	0	0	0
	大阪	7	0	0	0	0
	福岡	2	0	0	0	0
	計	17	0	0	0	0

事故は東京地区に1件あり，角度不良によるものである。

検査成績は一般に良好であつた。検査項目中不良の多く出たものは目，耳の半田付および合線メツキであつた。

福岡地区に最近韓国漁船による韓国のバイヤー直接の持ち帰りが多くなつたが，これらは市販品に表示して持帰るので，品質が懸念されたが，検査の検果は良好であつた。しかしこれらの製品は今後とも注意を要する。

(4)　シヤツトル

検査件数および検査成績は第11表のとおりである。

事故は大阪地区に5件あつた。すなわちチツプ・トングのサビによるもの2件，チツプのサビ，トングの取付不確実によるもの1件，チツプのミガキ不良によるもの1件（工員の不注意で，サビの発生したまま塗装したもの），節，シミ等の材質不良，塗装タレによるもの1件である。これらのうち，最初のチツプ，トングのサビによる2件は倉庫において検査を行つたもので，防錆処置が施してなかつたので，長期間の倉庫保管に耐えず，サビを発生したものと思われるが，輸出業者

第11表　シヤツトル

期別	地別別	検査件数	事故件数	等級の誤り	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	0	—	0	0
	名古屋	3	0	0	—	0	0
	大阪	9	3	3	—	0	0
	計	12	3	3	—	0	0
第2.4半期	東京	0	0	—	0	0	0
	名古屋	1	0	—	0	0	0
	大阪	2	0	—	0	0	0
	計	3	0	—	0	0	0
第3.4半期	東京	0	0	—	0	0	0
	名古屋	1	0	—	0	0	0
	大阪	4	0	—	0	0	0
	計	5	0	—	0	0	0
第4.4半期	東京	0	0	—	0	0	0
	名古屋	1	0	—	0	0	0
	大阪	7(2)	2	—	2	0	0
	計	8(2)	2	—	2	0	0
計	東京	0	0	0	0	0	0
	名古屋	6	0	0	0	0	0
	大阪	22(2)	0	3	2	0	0
	計	28(2)	5	3	2	0	0

のうち，最初のチツプ，トングのサビによる2件は倉庫において検査を行つたもので，防錆処置が施してなかつたので，長期間の倉庫保管に耐えず，サビを発生したものと思われるが，輸出業者

第12表　ドロツパ

期別	地区別	検査件数	事故件数	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	—	0	0
	名古屋	2	0	—	0	0
	大阪	3	0	—	0	0
	計	5	0	—	0	0
第2.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	2	0	0	0	0
	大阪	2	0	0	0	0
	計	4	0	0	0	0
第3.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	1	0	0	0	0
	大阪	1	0	0	0	0
	計	2	0	0	0	0
第4.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	1	0	0	0	0
	大阪	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	0	0
計	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	6	0	0	0	0
	大阪	6	0	0	0	0
	計	12	0	0	0	0

の管理不行届の点もあり，長期間倉庫に保管されたものの臨検々査の必要が痛感された。他の3件は何れも工程並びに製品検査の不徹底によるもので，良心的な社内検査が望ましい。検査成績は上述の結果からも解るように余りよくなく，上述の不良以外に割レ，入皮，長サ等の不良もあつた。

(5) ドロツパ

検査件数および検査成績は第12表のとおりである。

事故は1件もなく検査成績は一般に良好であつた。検査項目中，不良の多く出たのは「打抜面不良」「ヒズミ」であるが，「メツキ不良」「厚サ不良」「長サ不良」も少数あつた。

(6) リング

検査件数および検査成績は第13表のとおりである。

第13表 リ ン グ

期別	地区別	検査件数	事故件数	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	1	0	0	0	0
	大阪	3	0	0	0	0
	計	4	0	0	0	0
第2.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	7	0	0	0	0
	大阪	4	0	0	0	0
	計	11	1	1	0	0
第3.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	6	0	0	0	0
	大阪	3	0	0	0	0
	計	9	0	0	0	0
第4.4半期	東京	1	0	0	0	0
	名古屋	2	0	0	0	0
	大阪	1	0	0	0	0
	計	4	0	0	0	0
計	東京	1	0	0	0	0
	名古屋	16	0	0	0	0
	大阪	11	0	0	0	0
	計	28	0	0	0	0

名古屋地区に新規に輸出をはじめた工場で，仕上，ハマリ部外径が悪く注意を要するのが1件あつたが，その他は一般に良好であつた。

検査項目中不良の多く出たのは「ハマリ部外径」「仕上（打痕）」で，「高サ」「内径」の不良も少数あつた。

(7) メリヤス針

検査件数および検査成績は第14表のとおりである。

事故は大阪地区に5件あつた。カタサ不良によるもの2件，サビによるもの1件である。

第14表 メリヤス針

期別	地区別	検査件数	事故件数	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	3	0	—	0	0
	名古屋	1	0	—	0	0
	大阪	12	0	—	0	0
	計	16	6	—	0	0
第2.4半期	東京	4	0	0	0	0
	名古屋	0	0	0	0	0
	大阪	12(2)	3	3	0	0
	計	16(2)	3	3	0	0
第3.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	1	0	0	0	0
	大阪	26	0	0	0	0
	計	27	0	0	0	0
第4.4半期	東京	8	0	0	0	0
	名古屋	2	0	0	0	0
	大阪	31	0	0	0	0
	計	41	0	0	0	0
計	東京	15	0	0	0	0
	名古屋	4	0	0	0	0
	大阪	81(2)	3	3	0	0
	計	100(2)	3	3	0	0

カタサ不良の2件はメリヤス機械メーカーが下請工場で製作させたもので，機械メーカーの受入検査の不充分の結果と思われるが，下請工場は一般に設備の不充分な工場が多いので，今後下請工場の臨検を強化する必要があると思う。

サビによる1件は船積間際に倉庫で行つたもので，保管中にサビを生じたものと思われるが，サビ止メ油の塗布は不充分で，外装箱もよくなかつたが，メリヤス針のごとくサビ止メ油の塗布のみで，サビの発生を防ぐものの出荷の際の包装にはとくに注意することが必要である。

検査項目中不良の多く出るのは「長サ」「フツクの外径」「フツクの径」で不良の大部分を占めている。この外「ヒズミ」「ミガキ不良」も少数あつた。

大阪地区に新規に輸出をはじめた工場が千社あつたが，何れも従来の輸出工場に較べ検査器具が完備しておらず今後の指導が必要であると思う。

時　　計

1. 輸出の状況

時計の輸出は27年度に較べ各種とも少し増加した。（第1表参照）

輸出個数は掛時計が最も多く，ついで目覚時計で，腕時計の輸出は昨年に引き続き少なかつた。

第1表　　単位　個数

品種＼年度	腕時計	目覚時計	置時計	掛時計	計
27年度	16,249	85,688	21,989	111,383	235,309
28年度	17,674	105,423	33,966	119,948	277,011

懐中時計，ストツプウオツチ，旅行時計の輸出は殆んどなかつた。

腕時計はその生産数に較べ国内の需要が多いので，業者も価格の安い輸出に余り力を入れていないようだが，今一層品質の改善，生産の合理化を計り輸出の増進を計るべきだと思う。種類別仕向地別輸出実績は第2表のとおりである。

第2表

仕向地	腕時計	目覚時計	置時計	掛時計	計
台湾	528	29,547	1,823	15,325	47,223
米国	4	1,208	22,465	18,064	41,741
タイ	—	10,749	685	24,444	35,878
沖縄	15,358	13,264	395	5,228	34,245
フイリツピン	—	180	969	1,848	2,997
韓国	—	520	55	891	1,466
コロンビヤ	—	—	1,745	206	1,951
メキシコ	—	78	882	179	1,139
その他	36	733	1,483	591	2,843
小計	15,926	56,279	30,502	66,776	169,483
インド	—	28,876	56	4,698	33,630
シンガポール	—	1,310	123	23,854	25,287
香港	1,590	10,390	964	3,133	16,077
ビルマ	—	7,597	516	3,257	11,370
セイロン	—	—	1	10,723	10,724
東アフリカ	—	12	88	2,070	2,170
インドネシヤ	6	—	122	1,556	1,684
バーレン島	—	—	—	1,430	1,430
その他	152	959	1,594	2,451	5,156
小計	1,748	49,144	3,464	53,172	107,528
計	17,674	105,423	33,966	119,948	277,011
金額（円）	28,060,430.20	57,776,499.50	39,268,454.00	206,241,132.20	331,346,515.90

2. 検査の状況

本年度の検査件数および検査成績は第3表，第4表，第5表のとおりである。（旅行時計およびストツプウオツチの臨検々査は行わなかつた。）

第3表 携帯時計

期別	地区	検査件数	事故件数	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	0	0	0
第2.4半期	東京	1	0	0	0	0
第3.4半期	東京	0	0	0	0	0
第4.4半期	東京	0	0	0	0	0
計	東京	1	0	0	0	0

腕時計……臨検検査を実施したのは1件で成績は良好であつた。

置・目覚時計……外観不良（見返しキズ，胴キズ等）で要再検となつたのが名古屋地区に1件あつたが，その他は一般に成績良好で，外観性能とも向上したように思われる。

掛時計……当所の再三の注意にもかかわらず外観不良（枠のキズ，塗装不良等）が多かつた。これは取扱いの不注意，外注品の受入検査不充分が主な原因と思われるが，その外，掛時計は他の時計に比べ輸出の競争が烈しいので，業者もコストを下げるため枠の費用を切下げているので，外観には今後とも注意を要する。

その他名古屋地区に「打ち違ひ」「打たず」「風

切りの不良」等の械能不良が相当あつた。
性能は一般に良好であつた。

第4表　置・目覚時計

期別	地区別	検査件数	事故件数	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	3	0	0	0	0
	名古屋	4	1	1	0	0
	計	7	1	1	0	0
第2.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	3	0	0	0	0
	計	3	0	0	0	0
第3.4半期	東京	6	0	0	0	0
	名古屋	4	0	0	0	0
	計	10	0	0	0	0
第4.4半期	東京	5	0	0	0	1
	名古屋	0	0	0	0	0
	計	5	0	0	0	1
計	東京	14	0	0	0	1
	名古屋	11	1	1	0	0
	計	25	1	1	0	1

第5表　掛　時　計

期別	地区別	検査件数	事故件数	最低標準に達しないもの	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	10	0	0	0	2
	大阪	0	0	0	0	0
	計	10	0	0	0	2
第2.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	23	0	0	0	4
	大阪	0	0	0	0	0
	計	23	0	0	0	4
第3.4半期	東京	4	0	0	0	0
	名古屋	75	0	0	0	12
	大阪	0	0	0	0	0
	計	79	0	0	0	12
第4.4半期	東京	7	0	0	0	0
	名古屋	17	0	0	0	3
	大阪	1	0	0	0	0
	計	25	0	0	0	3
計	東京	11	0	0	0	0
	名古屋	125	0	0	0	21
	大阪	1	0	0	0	0
	計	137	0	0	0	21

蓄音機

1. 輸出の状況

蓄音機（ポータブル蓄音機）の本年度の輸出は約10,000台で，昭和25年以来年々減少している。主な仕向地は東南アジア，南米，中米，南阿，沖縄等で，ゼンマイ式蓄音機の輸出の増加は将来も余り期待出来ない。

蓄音機針の本年度の輸出は約20,000万本で，主な仕向地は南米，東南アジア，南阿，中米等である。最近レコードは長時間レコードの方に移行しつつあり，それに伴い盤質もセラツク盤よりビニライト盤に変り，蓄針も従来の鉄針では使用不可能となるので，永久針（サフアイア針，クロム合金針）等の研究が目下の急務となつて来た。蓄針は鉄針より永久針に次第に移つて行くのではないかと思われる。又最近海外からも永久針の引合がかなり来ているようである。

2. 検査の状況

蓄音機並びに蓄音機針の検査件数および検査成績はそれぞれ第1表，第2表のとおりである。

第1表　蓄　音　機

期別	地区別	検査件数	事故件数	等級の誤り	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	0	0	—
	名古屋	0	0	0	0	—
	大阪	3	0	0	0	—
	福岡	0	0	0	0	—
	計	3	0	0	0	—
第2.4半期	東京	0	0	0	0	—
	名古屋	1	0	0	0	—
	大阪	2	0	0	2	—
	福岡	0	0	0	0	—
	計	3	0	0	2	—
第3.4半期	東京	0	0	0	0	—
	名古屋	0	0	0	0	—
	大阪	1	0	0	0	—
	福岡	0	0	0	0	—
	計	1	0	0	0	—
第4.4半期	東京	0	0	0	0	—
	名古屋	2	0	0	0	—
	大阪	3	0	0	0	—
	福岡	1	0	0	0	—
	計	6	0	0	0	—
計	東京	0	0	0	0	—
	名古屋	3	0	0	0	—
	大阪	9	0	0	2	—
	福岡	1	0	0	0	—
	計	13	0	0	2	—

蓄音機……事故は1件もなく，自動停止装置の不良，ターンテーブルの上下動不良，ストツプレバーによる雑音，トンアームのキズ，ビス，ロツクのサビ等の不良が少数あつたのみで成績は一般に良好であつた。

蓄音機針……事故は東京地区に先端の曲率半径不良によるものが1件あつた。

検査項目中不良の多く出たのは「長サ」および「先端の曲率半径」で，研磨キズ，切口不良，曲り等の不良も少数あつたが成績は一般に良好であつた。

第2表　蓄　音　機　針

期別	地区別	検査件数	事故件数	等級の誤り	無表示	その他
第1.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	0	0	0	0	0
	大阪	1	0	0	0	0
	計	1	0	0	0	0
第2.4半期	東京	1	0	0	0	0
	名古屋	0	0	0	0	0
	大阪	1	0	0	1	0
	計	2	0	0	1	0
第3.4半期	東京	2	1	1	0	0
	名古屋	0	0	0	0	0
	大阪	0	0	0	0	0
	計	2	1	1	0	0
第4.4半期	東京	0	0	0	0	0
	名古屋	0	0	0	0	0
	大阪	1	0	0	0	0
	計	1	0	0	0	0
計	東京	3	1	1	0	0
	名古屋	0	0	0	0	0
	大阪	3	0	0	1	0
	計	6	1	1	1	0

作業工具

1. 輸出の状況

輸出数量は第1回に示す如く年年躍進の一途を辿りつつある。これは国内需要の不振から輸出により活路を見出さんとしているものと考えられる。

今これを国内生産量と比較した輸出比率を見ると，ネジ回シ18%，ペンチ類25%，レンチ類13%であつて，この殆んどは大阪地区より出されている。

最近はバイヤーの買叩き，メーカーの受註競争による輸出価格の漸落に国内不況も加つて，経営は益々困難の状態である。

その他の地区としては，名古屋地区よりペンチの一部のほか三条市方面より輸出が伸び始めたので期待をかけているが，未だ全体の輸出量の4%程度である。

第一回において，第4/4半期丸ペンチ，ラジオペンチ類の急減しているのは，これら業者の倒産したことが影響されている。逆にパイプレンチが急増しているのは，中共向に多量に出荷されたことによるものである。

2. 検査の状況

検査の状況は第2表のとおりで，特に注目すべきはモンキレンチの事故が甚しく多かつたことである。

これはさきに述べた経済事情のひつ迫，輸出価格の低下によりメーカーが採算上品質を落したことが原因である。競争による価格低下を品質低下により補わんとするのは間違つた考えであるが，本年度のモンキレンチの場合はそれの表はれと見なされる。

数字的には27年度の事故率15%に対し，本年度の事故率60%で前年度に比し甚しく悪く，60%の大なる事故率は重大関心事である。

これらの内にはＪＩＳ指定工場関係のものもあつたので，さきに重工業局，技術院に対しても協力方を申入れ，当所としては第7条の2指定の促進，臨検強化等を図つている。なお作業工具の総把握件数は2,400件に達し，その内臨検の必要を認めるものが大半であるが，能力不足の為めに僅かに4%位しか出来ないことは，今後の輸出促進の為めに重大な問題である。

事故の主なるものをあげると第1表のとおりである。

第1表　主たる不良内容

ネジ回シ	サビ
モンキレンチ	外観不良（巣サビ），機能不良（ガタ，口ノ開キ），荷重不良（主としてオオルマリアブル製）
パイプレンチ	保管不良によるサビ，機能不良
ニッパ	結合部のガタ，切味不良

第2表　作業工具の臨検々査実績表

品名	期別	検査件数	事故件数	事故の内容				その他
				等級の誤	最低標準に達しない	包装条件に達しない	無表示	
ネジ回シ	1/4	6	1	0	1	—	0	
	2/4	2	0	0	0	—	1	
	3/4	7(1)	1	0	1	—	0	
	4/4	13	0	0	0	—	8	
	計	28(1)	2	0	2	—	9	

品名	期別	検査件数	事故件数	事故の内容				その他
				等級の誤	最低標準に達しない	包装条件に達しない	無表示	
モンキレンチ	1/4	4	0	—	0	—	0	
	2/4	7	7	—	7	—	0	
	3/4	8 (2)	3	—	3	—	0	
	4/4	33(17)	23	—	23	—	1	
	計	52(19)	33	—	33	—	1	
パイプレンチ	1/4	0	0	—	0	—	0	
	2/4	6	4	—	4	—	0	
	3/4	1	0	—	0	—	0	
	4/4	1	1	—	1	—	0	
	計	8	5	—	5	—	0	
ペンチ	1/4	2	0	0	0	—	0	
	2/4	1	0	0	0	—	0	
	3/4	0	0	0	0	—	0	
	4/4	2	2	1	1	—	0	
	計	5	2	1	1	—	0	
丸ペンチ	1/4	0	0	0	0	—	0	
	2/4	1	0	0	0	—	1	
	3/4	0	0	0	0	—	0	
	4/4	0	0	0	0	—	0	
	計	1	0	0	0	—	1	
ラジオペンチ	1/4	1	0	—	0	—	0	
	2/4	2	1	—	1	—	1	
	3/4	0	0	—	0	—	0	
	4/4	0	0	—	0	—	0	
	計	3	1	—	1	—	1	
	1/4	1	0	0	0	—	0	
	2/4	7	3	3	0	—	2	
	3/4	0	0	0	0	—	0	
	4/4	2 (1)	1	0	1	—	0	
	計	10(1)	4	3	1	—	2	
総計		107(21)	47	4	42	—	14	

註　上記の大部分は大阪地区でその他は東京地区の1割（検査件数で11件）程度である。

一般工具

輸出の状況および検査の状況

ストレートシャンクドリルの輸出は甚だ低調で，当所で把握したものは年度間581,865本であつた。この大部分は名古屋の1メーカーより国向に出された家庭用低級品である。その他は台湾，沖縄等にも少量出ているに過ぎない。海外の要求品は殆んど低級品のみで，当所で期待した機械用のものは殆んど輸出なく，輸出の大部分にLow Gradeの証票を貼らねばならぬ状態であるので指定廃止の気運が生じている。

検査の状況も名古屋地区で1件ラベル貼布状況について行われたのみである。

超硬工具

1. 輸出の状況

当機種の輸出は相変らず低調で見るべきものがない。仕向地は台湾が大部分で，その他朝鮮，沖縄方面と近辺のみである。比較的新しい工業であつたので戦前に輸出のなかつた事が原因であるが，従来国内需要の好調に恵まれ輸出に積極性のなかつたことも確かである。

漸く国内需要も満たしたので輸出市場開拓の気運が生じ，他機種に比し採算的にも有利なので，輸出の伸長を望まれるが速急の伸長は困難の模様である。本年度の輸出量は第1表の通りである。

第1表　28年度輸出量（　）内は27年度

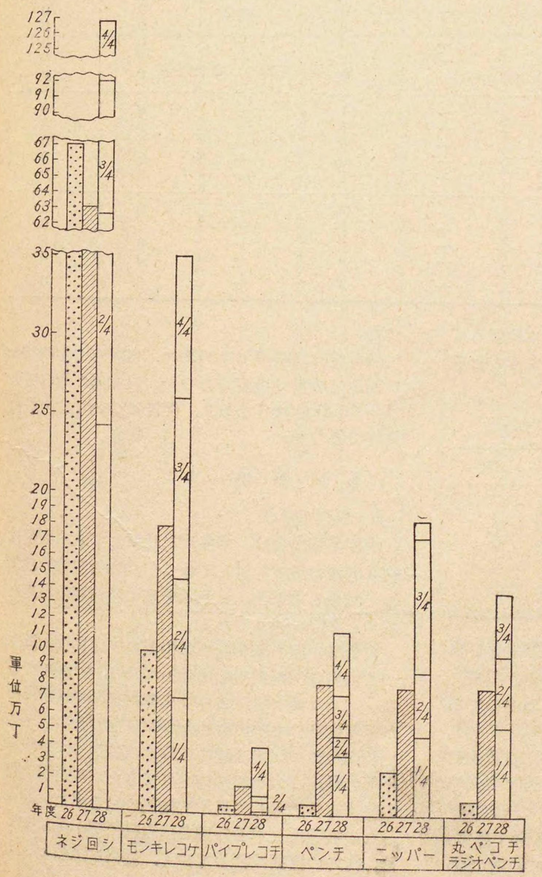
チップ	バイト	線引ダイス
1,529 (11,912)	286 (247)	3,237 (1,871)

2. 検査の状況

事故の1件はダイス加工業者のJISの不認識によるものと思われ，今後ともこれら小企業者の取締指導が重要であろう。それ以外の超硬メーカーの取扱つているものには，とり上げる程の問題はなかつた。

地区別	期別	検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
				等級の誤	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの		
東京地区	1/4	5	0	—	0	—	0	
	2/4	2	0	—	0	—	0	
	3/4	1	0	—	0	—	0	
	4/4	0	0	—	0	—	0	
	計	8	0	—	0	—	0	
大阪地区	1/4	1	1	—	1	—	0	
	2/4	2	0	—	0	—	0	
	3/4	0	0	—	0	—	0	
	4/4	1	0	—	0	—	0	
	計	4	1	—	1	—	0	
総計		12	1	—	1	—	0	

第1図　作業工具の年度別輸出数量



農機具

I 噴霧器

1. 輸出の状況

本年度の輸出量は前年度の1,648台に比較して5,802台で，約5倍強を示し活況を呈してきた。なお本年度の輸出量を示すと1表の通りである。

1表　人力噴霧器の仕向地別輸出実績表

仕向地	輸出量
沖縄	251
台湾	843
朝鮮	3,028
比島	210
香港	80
タイ	50
マレー	214
パキスタン	500
南米	626
計	5,802

（註）　大阪地区の3/4～4/4期分の輸出量は含まない。輸出量は前年度に比較して激増してきた。最近は特に量的に纏まつた契約が多くなり，又仕向地も逐次広範囲に拡がつてきたので，今後も引続き引合も相当量にある模様であり，益々輸出増加が期待される。本年度は特に朝鮮，パキスタン向に多量に輸出されたのが目立つた。形式については前年度と同様に人力用噴霧器全般に亘つて輸出され，その内外国製規格の自動形が最も多く，次で普通形がそれぞれ朝，洋向に輸出された。

2. 検査の状況

本年度の臨検々査実績表を示すと2表の通りである。

2表　噴霧器の臨検々査実績表

期別	地区別	検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤り	事故の内容 最低標準に達しないもの	事故の内容 包装条件に達しないもの	無表示	その他
1/4	東京	3(1)	1	—	1	—	0	0
	大阪	1	0	—	0	—	0	0
	名古屋	0	0	—	0	—	0	0
	福岡	0	0	—	0	—	0	0
	計	4(1)	1	—	1	—	0	0
2/4	東京	4(1)	1	—	1	—	0	0
	大阪	1	0	—	0	—	0	0
	名古屋	0	0	—	0	—	0	0
	福岡	0	0	—	0	—	0	0
	計	5(1)	1	—	1	—	0	0
3/4	東京	2	0	—	0	—	0	0
	大阪	0	0	—	0	—	0	0
	名古屋	0	0	—	0	—	0	0
	福岡	0	0	—	0	—	0	0
	計	2	0	—	0	—	0	0
4/4	東京	2(1)	1	—	1	—	0	0
	大阪	2(1)	1	—	1	—	0	0
	名古屋	0	0	—	0	—	0	0
	福岡	0	0	—	0	—	0	0
	計	4(2)	2	—	1	—	0	0
計	東京	11(3)	3	—	3	—	0	0
	大阪	4(1)	1	—	1	—	0	0
	名古屋	0	0	—	0	—	0	0
	福岡	0	0	—	0	—	0	0
	合計	15(4)	4	—	4	—	0	0

検査結果より見ると，品質は前年度に比較して不良であつたと言える。不良品のあつたものを項目別に示すと3表の通りである。

3表　噴霧器の項目別不良率（%）

項目別	不良率
耐圧不良	4.0
噴霧状態不良	3.0
外観不良	1.0
メツキ不良	2.0
ネジ不良	6.0

耐圧不良のあつたものの形式は普通形および自動形で，その主な原因は空気室，タンク，胴板，およびコツク取付口の半田付不良によるものであつた。

最近メツキは向上してきたが，ネジ不良は未だに多く6%を示しており，これは明らかに工具管理の不充分によるものと思われる。次に圧力降下程度(使用圧力で5分間保持した場合の降下圧力)を示すと0.1～0.4kg/cm²で平均0.1kg/cm²であつた。

残液量は肩掛形で平均30cc，自動形で平均10ccで極めて少量で良好であつた。自動形の最終圧力は平均1.8kg/cm²であり，性能については全般に良好であつた。

Ⅱ 脱穀機

1. 輸出の状況

本年度輸出量は，前年度に比較して人力脱穀は約2倍強で活況を呈してきたが，動力脱穀機は極めて減少してきた。なお本年度の機種別輸出量を示すと4表の通りである。

人力脱穀機の本年度の輸出量はタイ国向に纏まつて輸出されたため輸出量が増加したものである。又カルカツタ，ビルマ向等に僅少ではあつたが本年度初めて輸出されたのが目立つた。

仕向地については逐次広範囲に拡がつており，今後の輸出は大いに期待されてきた。動力脱穀機の輸出は依然として見本的輸出の域を出ない。

この機種は日本と外国では脱穀慣習が異なるため，海外の需要は極めて少く，輸出は依然として微々たる現状であり，業界でも積極的に現地農業事情を調査し，現地に適した輸出品の改良，研究に邁進しており，今後一層の努力が望まれている。

4表　機種別および仕向地別輸出実績表(台)

仕向地＼機種別	人力脱穀機	動力脱穀機
沖縄	365	0
朝鮮	1	1
印度	40	0
カルカツタ	12	5
リビア	11	0
ビルマ	3	0
タイ	1,052	0
イタリー	2	0
南米	12	0
計	1,498	6

註　大阪地区の3/4～4/4期分の輸出量は含まない。

2. 検査の状況

本年度の臨検々査実績表を示すと5表の通りである。

本年度の検査件数は前年度に比較して増加したが僅か11件であつた。

検査の結果は，人力脱穀機動力脱穀機ともそれぞれ規格に従つて製作されており，不良のあつたものはコキ胴のふれ不良が3%あつたのみで，品質としては概して良好であつた。

5表　人力および動力脱穀機の臨検々査実績表

期別	地区別	検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤り	事故の内容 最低標準に達しないもの	事故の内容 包装条件に達しないもの	無表示	その他
1/4	東京	0	0	0	0	—	0	0
	大阪	0	0	0	0	—	0	0
	名古屋	0	0	0	0	—	0	0
	福岡	2	0	0	0	—	0	1
	計	2	0	0	0	—	0	1
2/4	東京	2	0	0	0	—	0	0
	大阪	1	0	0	0	—	0	0
	名古屋	1	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	4	0	0	0	—	0	0
3/4	東京	0	0	0	0	—	0	0
	大阪	1	0	0	0	—	0	0
	名古屋	3	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	4	0	0	0	—	0	0
4/4	東京	1	0	0	0	—	1	0
	大阪	0	0	0	0	—	0	0
	名古屋	0	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	1	0	0	0	—	1	0
計	東京	3	0	0	0	—	1	0
	大阪	2	0	0	0	—	0	0
	名古屋	4	0	0	0	—	0	0
	福岡	2	0	0	0	—	0	1
	合計	11	0	0	0	—	1	1

木材の水分含有量は木研式水分検定器で測定したところ16～18%で，規格規定の範囲内一杯であり，乾燥度はあまり良好ではなかつた。

動力脱穀機は今迄規格の適用範囲は下コキカキ出し形のみに限定されていたが，28年6月より規格の改正により凡ての形式が適用されることになつた。

Ⅲ その他の農機具

1. 輸出の状況

本年度の機種別輸出量を示すと6表の通りである。

鍬の輸出量は前年度とはほとんど同様で変化がなかつた。従前からの主仕向地であつた比島向は前年に引続き減少した。沖縄向は断然多く，時期により多少の変動はあるが大体一定した輸出が期待できる。沖縄，台湾向には価格の安いB級，低級品が向けられたが，前年度より稍々減少してい

6表　機種別および仕向地別輸出実績表（丁）

仕向地＼機種別	鎌	農用ホーク	水田中耕除草器
沖縄	68,960	2,768	150
台湾	15,860	5,304	0
朝鮮	720	180	0
比島	79,294	6	0
ガム島	1,994	0	0
ハワイ	8,389	0	0
イタリー	0	0	2
南米	3,024	0	0
米国	28,840	0	0
計	207,081	8,258	152

註　大阪地区の3/4～44期分の輸出量は含まない。

るとは云え，海外市場の獲得と声価を高める上にも，これらの粗悪心の輸出を根絶して品質の向上を高めたいものである。

形式については全部付刃金製鎌であり，全鋼製およびノコギリ鎌の輸出はなかつた。

農用ホークの輸出量は前年度に比較して同様であり，依然として低調であつた。主な仕向地は沖縄，台湾であり従前と変化がなかつた。この機種の海外市場は依然として狭く，最近業界の一部では輸出振興を図るため，新らしい製造方法を取入れて生産工程の短縮と設備の充実をはかり，又品質の向上に努力している。

水田中耕除草器の輸出量は前年度と同様で，極めて少量であつたがやや増加してきた。従来の仕向地であつた台湾は皆無であつた。この機種の輸出は依然として見本的の域を出ていない。今後の見透しとしては，当分の間は量的に纏つた輸出は期待出来ないものと思われる。

2.　検査の状況

本年度の臨検々査実績表を示すと7表の通りである。

鎌の検査結果について不良のあつた項目の不良率を述べると，寸法不揃，金部の鍛造および仕上不良がそれぞれ2.2％であり，その他では柄の加工，輪金のサビ不良がそれぞれ1.1％であつた。硬度は標準鎚でショアー度80～90であり，熱処理は充分であつた。品質については前年度に比較してみて柄の材料不良，鍛造のキズ，剝離，歪取り不充分等の欠陥がなく極めて良好であつた。

農用ホークの検査結果から見ると，ツメの先端出入，外観，柄の材料不良等がそれぞれ4％であつた。又ツメの弾性は従前に比較して良好であつた。これは熱処理が鎌と同様に完全に行われていたものと思われる。

柄および握り手の木材の水分含有量は，木研式水分検定器で測定したところそれぞれ14～17％以内で，乾燥度は充分であり，全般に見て品質は向上してきている。

水田中耕除草器の検査は行わなかつた。

食糧加工機

精米機

1.　輸出の状況

本年度の輸出量は前年度に比較して稍々増加した。本年度の輸出量を示すと次の通りである。

主仕向地である沖縄向には前年度と同様に多く輸出された。仏印，コロンビヤ，ビルマ向には本年度初めて見本的に輸出された。また輸出機の形式は，前年度と同様大部分円筒摩擦形であつた。

この機種の輸出量は逐次増加している傾向であるが，未だに海外市場が狭く，見本的輸出の域を出ない。

1表　精米機の仕向地別輸出実績表（台）

仕向地	輸出量
沖縄	34
台湾	1
ビルマ	1
仏印	1
セイロン島	2
コロンビヤ	1
計	40

註　大阪地区の3/4～4/4期分の輸出量は含まない。

2.　検査の状況

本年度の臨検検査実績表を示すと2表の通りである。

本年度の把握件数は21件あつたが，その内臨検々査を行つたものは3件で，前年度と同様であつた。検査結果は一般に良好であり，いづれも合格であつた。

東京地区の1件は初めて輸出した工場であり，製品については組立精度に多少研究の余地が認められた。

7表　その他の農機具の臨検々査実績表

期別	地区別＼項目	検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
				等級の誤り	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの		
1/4	東京	3	0	0	0	—	0	0
	大阪	2	0	0	0	—	0	0
	名古屋	2	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	7	0	0	0	—	0	0
2/4	東京	0	0	0	0	—	0	0
	大阪	2	0	0	0	—	1	0
	名古屋	1	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	3	0	0	0	—	1	0
3/4	東京	0	0	0	0	—	0	0
	大阪	0	0	0	0	—	0	0
	名古屋	1	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	1	0	0	0	—	0	0
4/4	東京	0	0	0	0	—	0	0
	大阪	0	0	0	0	—	0	0
	名古屋	1	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	1	0	0	0	—	0	0
計	東京	3	0	0	0	—	0	0
	大阪	4	0	0	0	—	1	0
	名古屋	5	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	合計	12	0	0	0	—	1	0

2表　本年度の精米機臨検検査実績表

期別	地区別＼項目	検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
				等級の誤り	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの		
1/4	東京	0	0	0	0	—	0	0
	大阪	0	0	0	0	—	0	0
	名古屋	0	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	0	0	0	0	—	0	0
2/4	東京	0	0	0	0	—	0	0
	大阪	0	0	0	0	—	0	0
	名古屋	0	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	0	0	0	0	—	0	0
3/4	東京	0	0	0	0	—	0	0
	大阪	1	0	0	0	—	0	0
	名古屋	0	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	1	0	0	0	—	0	0
4/4	東京	1	0	0	0	—	0	0
	大阪	0	0	0	0	—	0	0
	名古屋	1	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	計	2	0	0	0	—	0	0
計	東京	1	0	0	0	—	0	0
	大阪	1	0	0	0	—	0	0
	名古屋	1	0	0	0	—	0	0
	福岡	0	0	0	0	—	0	0
	合計	3	0	0	0	—	0	0

重要項目であるロールの硬度は平均81°，円筒は平均78°で，従来より硬度が高くなつてきた。又ロール先端のふれは平均0.2mmで，前年度に比較して非常に良好であつた。外観検査では塗装メツキ分部も前年度に比較して色合，光沢もよく又メツキも良好であつた。

手引のこぎり

1. 輸出の状況

本年度の輸出量を示すと1表の通りである。

1表　手引のこぎりの仕向地別輸出実績表(丁)

仕向地	輸出量
沖縄	10,456
台湾	57,350
朝鮮	30,010
比島	600
香港	80,600
仏印	6,000
インドネシヤ	9,600
南米	1,140
米国	49,942
計	245,698

註　大阪地区の3/4～4/4期分の輸出量は含まない。

輸出量の大部分は前年度と同様大阪地区から輸出された。東京地区は業者数も非常に少く，年間の輸出量は微々たるものである。他の地区は前年度と同様皆無であつた。なお輸出量は前年度に比較してやや減少してきた。

仕向地については，前年度と同様であまり変化はなかつた。台湾，香港，沖縄向は一般に減少したが前年度に引続き多量の輸出が見られた。

等級別に見ると，B級品が急激に増加し，特に朝鮮向には価格の安い低級品が比較的多く輸出された。米国向に向けられているものは主として洋型ハンドソーであり，等級はほとんどA級品で輸出されている。

今後の見透しとしては台湾，沖縄，朝鮮向の輸出量は大体正常であり，今後も大いに期待できる。又南米，北米向にも，最近は洋型が量的にまとまつて輸出されており，将来この方面への輸出も大いに伸びることと期待されている。

今迄は比較的多くの粗悪品も輸出されていたが，この機種は29年8月より第4条商品として取扱うことになつたので，今後は海外の声価と品質の向上を高める為に業界ならびに業者の一層の努力が望まれる。

2. 検査の状況

本年度の臨検検査実績表を示すと2表の通りである。

2表　本年度の手引きのこぎり臨検々査実績表

期別	地区別＼項目		検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
					等級の誤り	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの		
1/4	東京		1	0	0	—	—	1	0
	大阪		0	0	0	—	—	0	0
	名古屋		0	0	0	—	—	0	0
	福岡		0	0	0	—	—	0	0
	計		1	0	0	—	—	0	0
2/4	東京		1	0	0	—	—	0	0
	大阪		0	0	0	—	—	0	0
	名古屋		0	0	0	—	—	0	0
	福岡		0	0	0	—	—	0	0
	計		1	0	0	—	—	0	0
3/4	東京		0	0	0	—	—	0	0
	大阪		0	0	0	—	—	0	0
	名古屋		0	0	0	—	—	0	0
	福岡		0	0	0	—	—	0	0
	計		0	0	0	—	—	0	0
4/4	東京		0	0	0	—	—	0	0
	大阪		0	0	0	—	—	0	0
	名古屋		0	0	0	—	—	0	0
	福岡		0	0	0	—	—	0	0
	計		0	0	0	—	—	0	0
計	東京		2	0	0	—	—	1	0
	大阪		0	0	0	—	—	0	0
	名古屋		0	0	0	—	—	0	0
	福岡		0	0	0	—	—	0	0
	合計		2	0	0	—	—	1	0

本年度は東京地区で枝引鋸を1件検査したのみで，他の地区は皆無であつた。当工場は初めて輸出工場であつたが，検査の結果は表示等級A級に適合であつた。

木工用ノコ

1. 輸出の状況

本年度の輸出は，割合好調を盛り返し前年度に比し上昇した。丸ノコでは上半期に好調を辿り約9,000枚弱と前年度の約4倍，帯ノコは約35万呎と，前年度の約3割増の成績である。

これを国内の生産量丸ノコ787t，帯ノコ792tと比較すると，大体の輸出比率は15%で2，3のメーカーのみに限らずなお一段の輸出が望ましい。

仕向地は台湾，香港，朝鮮，中共，沖縄等，殆んど旧日本勢力圏のみで他に印度，ビルマ，タイ，比島と少量輸出された。

2. 検査の状況

検査成績は割合良好で事故は輸出不馴れのメーカーが一時に多量製作したために生じたもので厚さ不良であつた。

第1表　28年度検査実績表

種別	期別	検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
				等級の誤	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの		
丸ノコ	1/4	6	0	—	0	—	0	
	2/4	5	0	—	0	—	1	
	3/4	0	0	—	0	—	0	
	4/4	1(1)	1	—	1	—	0	
	計	12(1)	1	—	1	—	1	
帯ノコ	1/4	4	0	—	0	—	0	
	2/4	2	0	—	0	—	0	
	3/4	0	0	—	0	—	0	
	4/4	3	0	—	0	—	0	
	計	9	0	—	0	—	0	
総計		21(1)	1	—	1	—	1	

註　東京地区のみで他地区はなし。

鉄管継手

1. 輸出の状況

本年度の輸出数量は4,074tで従来最高の25年度4,052tを一寸上廻つた。此の内には特需400t程を含むので，当所で把握したものは，3,611t（東京5.4t，名古屋1,590t，大阪2,015.7t）であつた。

ただしこれはパイプに附いて輸出されたものや鋳鉄製のものは含まれていない。また鋼管製のものは継手としての輸出は見られなかつた。即ちすべて可鍛鋳鉄製のものである。これに対し国内生産量は協会傘下メーカーで15,813tであるので，輸出比率は37%に達し大体好調と云えよう。（鉄管継手全体の生産量は24,972t）

仕向地は南北アメリカを主とし，その他東南亜方面各地も広範に輸出され，輸出量は漸次伸びているが，国内デフレにつけこむバイヤーの買たたき，受注競争による輸出価格の低下はこの業種にも憂慮されている。

2. 検査の状況

検査の状況は第1表のとおりで，大阪地区に事故が多かつた。特に粗悪なものは継手協会加盟の業者で，税関で発見したものであつた。検査の全項目に亘り不良が甚しかつた。協会加盟業者の内でも2社程事故を起している。コストや納期の関係のようであるが，残念である。主としてネジ外観不良（山カケ）が多かつた。

昨年第2/4半期の事故続出で原局にも協力して注意を喚起したので全体として本年度の製品はレベルアツプしているが，未だ少数業者のために不良品が発見されているのである。

第1表　鉄管継手の臨検検査実績表

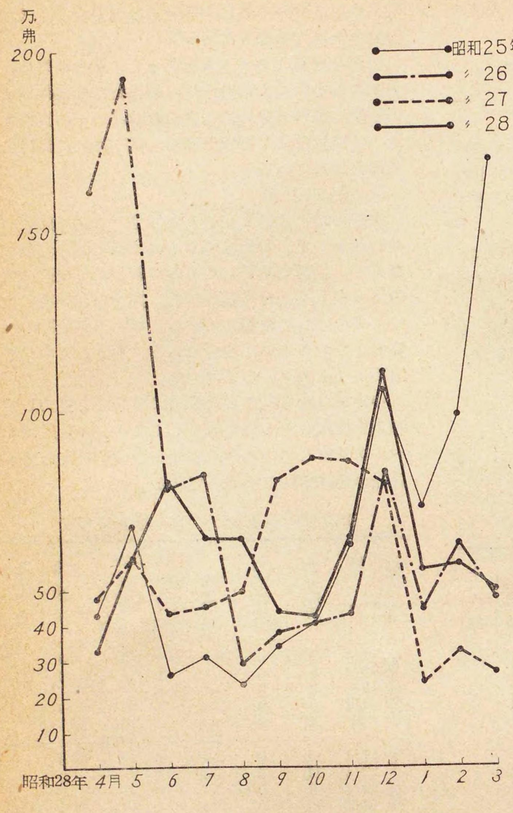
地区別	期別	検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
				等級の誤	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの		
東京地区	1/4	2	0	—	0	—	0	
	2/4	0	0	—	0	—	0	
	3/4	2	0	—	0	—	1	
	4/4	0	0	—	0	—	0	
	計	4	0	—	0	—	1	
名古屋地区	1/4	11	0	—	0	—	0	
	2/4	11	0	—	0	—	0	
	3/4	6	0	—	0	—	0	
	4/4	11	0	—	0	—	0	
	計	39	0	—	0	—	0	
大阪地区	1/4	11	0	—	0	—	0	
	2/4	1	0	—	0	—	0	
	3/4	8	3	—	3	—	1	
	4/4	3(1)	2	—	2	—	0	
	計	23(1)	5	—	5	—	1	
総計		66(1)	5	—	5	—	2	

自転車及び同部品

1. 輸出の状況

本年度自転車ならびに同部品および附属品の輸出実績は727万弗で，前年度の657万弗に対して9.7%の増加を示し，25年の774万弗とほぼ同額であつた。これが国内生産額に占める割合は10%前後でこれも例年と大差ない。参考として最近4ケ

第１図　自転車，リヤカー及び同部品，附属品
最近４ケ年に於ける輸出実績表



年間の輸出実績を第１図にグラフとして掲げた。

仕向地について見ると本年度は第１表に見られるとおり特異な現象を呈した。東南アジア地域では前年度より25％程増加している。がこれには５万弗から一躍万 310 弗と跳上つたインドネシヤの増加分を含めたときの数字であつて，この一つを除くと同地域は34％程の減少を示すことになり変則的な輸出状況であることが分る。アメリカ地域(北・中・南米)としては約 170 ％の増加で，このうち南米の 273 ％の増加の大きいことも見逃せない。これはアメリカ地域における買付が増加して各国共輸出がのびたためである。アフリカ地域について見れば約５％の減少で進出を拒まれた点は種々あつた。欧洲地域は50％の減少で地理的の関係が大きな要因であろう。

各国別，品目別輸出額については第１表のとおりで前年度と対比してその比率を書き入れた。品目については前年度と大差ないのでそのままとした。そして第１位より第５位までの仕向地の月別の推移を第２図に示す。これを第１表と対照して見ると特異の状況として従来シンガポール，香港は三角貿易の仲継地として相当の輸出があつたが之が減少し，インドネシヤ直接輸入を行うようになつた。

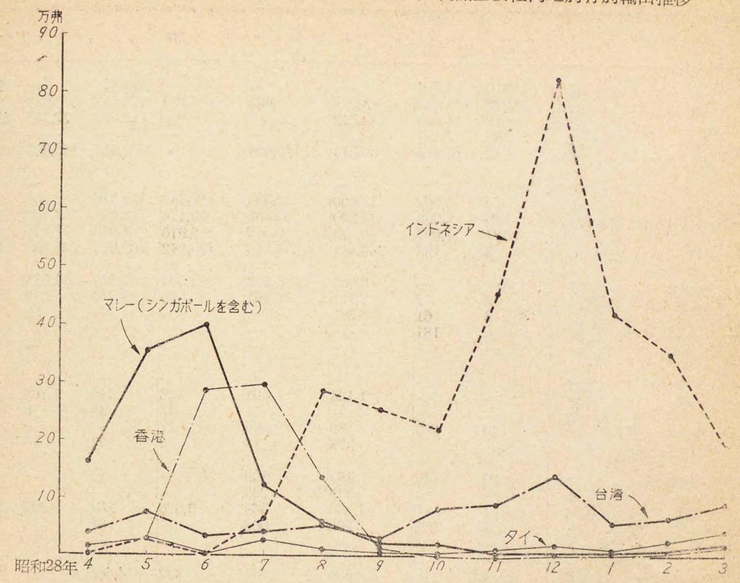
品目別の輸出状況については第１表のとおり，品目と額がほとんど同じで前年度と大差ない。完成車と部品の比率については，従来輸出額の約10％位が完成車であつたが，これが10％以下になつて来ている。これについては第３図に見られるとおりである。

2.　検査の状況

本年度の検査としては当所が行つた９月以前の4条輸出品に対する臨検々査と，9月以降の登録検査機関に関する検査，および9月以降一品目が4条品目として残つたので，これに対する臨検々査との三つに分けられる。

第２表のとおり第1.4半期の臨検々査は 93 件で前年同期の検査件数82件に対して10件多かつたが事故はかえつて少く事故３件であつた。これが前年度の事故6件，および軽微な事故1件に較べれば格段の相違であつたと言わねばならない。第2.4半期は９月より登録機関が表示の業務を開始したので，4条品目としての臨検々査は7,8月のみで51件を行つたのに対して前年同期には75件行つているので月割にすれば略々同様の検査を行つたことになるがこの間の事故について見ると 前年度の6件に対して本年度は事故１件のみであつた。次に９月以降は 登録検査機関が発足し，これの業務の指導の為に行う立合検査を 105 件行つた。発足の当所は登録検査機関が規則づけられた業務に手違いも起りかねない状況にあつたが次第に軌道に乗り正しく表示が行われる様になつた。

第２図　　昭和28年度自転車及び同部品，附属品主要仕向地別月別輸出推移



第２表　　昭和28年度自転車および同部品および附属品検査実績表

4半期別＼項目	検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他	登録機関に対する臨検	備考
			等級の誤り	最低標準に達しない	包装条件に達しない				
第1・4半期	93	3	0	3	—	0	5(条) 3(不)	—	※ 9月より
第2・4半期	51	1	0	0	—	0	1(条)	※4	
第3・4半期	3	0	0	—	—	1	0	55	
第4・4半期	6	0	0	—	—	0	0	46	
計	153	4	0	3	—	1	6(条) 3(不)	105	

(条)：条件付，(不)：検査不能

９月以降4条品目として残つた「にぎり」に対しては臨検々査を９件行つたが全部合格であつた。前記の様に本年度事故が少かつた事は直接間接とを問わず業界ならびに関係各位の自覚或いは熱意のあらわれに外ならないと見るのが至当で同慶の至りである。なお登録検査機関が表示の業務を行う様になつてから今日までの業務の状況は第３表のとおりで，本年度の表示受付件数は 7,871 件の多きに達し，これに対して表示を行つたものが 7,837件，0.43％の不合格があつた事になる。表示の業務開始以来不合格のものは手直しの上再び表示の請求をして基準に合致すれば表示され輸出される。表中(＋)として示されたものがこれらのも

第３表　登録検査機関の検査概況

	表示受付件数	表示件数	不合格
第2・4半期	5	5	0
第3・4半期	4,084	4,050(＋1)	35
第4・4半期	3,782	3,782(＋15)	15
計	7,871	7,837	

第 1 表　昭和 28 年度自転車および同部品

附属品仕向地別輸出実績　（単位弗）

	完成車 台数	完成車 金額	フレーム	ハンドル	ドロ除	ギヤークランク	ペダル	ハブ	ブレーキ	リム	チエン	スポーク	サドル	ケース	荷台スタンド	その他	計	前年度計	前年度との比率(%)
韓国	510	14,314	—	—	—	20,743	—	10,540	2,861	6,696	21,593	9,014	—	2,556	—	33,663	122,083(7)	178,488(6)	−32
琉球	2,872	171,835	3,077	882	370	217	939	691	1,063	1,063	402	1,058	1,041	1,014	1,378	5,611	189,091(6)	276,280(4)	−31.5
台北香港支	512	14,348	114,042	—	—	110,697	77,745	296,321	2,992	2,130	—	35,691	200	389	—	85,884	805,074(3)	980,516(3)	−17.8
	338	7,795	—	—	—	—	—	3	3	3	—	3	3	—	—	13,717	21,527(15)	432	+5,200
	742	16,414	66,214	119,509	—	29,858	166,533	37,076	12,045	190,024	10,618	4,266	19,374	4,040	43,495	141,947	760,477(4)	1,637,347(2)	−54
マカオ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	294	294	—	—
タヌマレー(シンガポールを含む)	325	5,893	18,300	10,650	17,488	10,078	58	6,587	48,566	4,549	1,358	9,315	22,525	8,186	22,781	53,342	227,464(5)	186,879(5)	+22
フィリッピン	280	5,095	116,309	59,865	59,476	112,232	36,787	27,839	9,964	198,727	36,336	7,720	124,706	17,962	21,844	196,526	1,190,618(2)	1,941,174(1)	−388
インドネシヤ	171	4,397	9,172	5,248	5,916	1,048	6,010	8,352	69	14,224	4,339	2,124	6,754	1,052	4,247	28,097	101,673(8)	48,789(13)	+108
	3	158	268,511	629,143	128,942	209,513	46,656	58,888	13,232	264,387	70,103	5,092	196,769	910,086	261,521	567,108	3,102,162(1)	50,877(12)	+6,000
ビルマ	—	—	8,081	5,237	3,630	5,949	1,011	—	2,558	347	3,380	—	20,564	434	27,478	19,590	98,376(9)	86,015(9)	+14.4
インド(セイロンを含む)	2	47	7,127	16,951	25	6,240	217	845	4,904	111	1,343	521	17,698	—	195	21,877	78,097(13)	135,277(8)	−383
領備インドネシヤ	3	61	522	—	—	—	22	—	11	—	—	—	153	—	—	61	806	—	—
バーレン島	8	181	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	22	117	81	401	—	—
アフガニスタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	608	608	—	—
パキスタン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	294	—	—	—	78	1,372	57,743(11)	−97
ビラン	—	—	1,124	491	128	345	1,166	556	92	—	1,919	—	—	153	292	2,370	7,973	10,158(18)	−22
ウジアラビヤ	—	—	—	—	42	36	8	—	28	—	45	14	8	—	101	744	1,114	—	—
ランスヨルダン	10	203	89	39	17	—	9	6	—	—	6	173	61	—	20	342	971	552	+76
レバノン	—	—	375	18	69	92	—	—	114	—	100	—	108	—	—	461	1,397	—	—
イラク	27	572	157	109	—	11	—	—	—	36	8	25	39	22	408	4,866	6,432	1,806	+257
クエイアト	—	—	339	239	—	—	—	—	—	—	247	—	—	206	—	1,517	2,548	—	—
シエリアトト	—	—	1,550	369	3,676	267	1,220	789	306	—	—	—	—	—	739	5,614	14,263(19)	—	—
ジプース	25	372	108	503	—	81	—	—	139	—	458	—	203	—	—	2 706	4,570	1,856	+150
コールドコースト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,558	1,558	—	—
ウガンダ	—	—	8,400	3,651	422	4,465	—	97	3,889	—	476	—	827	486	125	28,954	50,981(14)		
ケニア	—	—	1,316	1,232	83	1,228	—	25	914	—	—	—	—	14	—	5,159	8,180	140,606(7)	
タンガニーカ	—	—	663	178	—	496	—	36	500	—	211	—	—	—	22	724	3,305		
ゼリア	38	803	1,882	1,375	27	14	9	8	750	—	20	3	2,448	—	453	14,117	21,442(16)		
南阿	—	—	11,925	2,919	83	14,618	1,003	630	983	—	5,587	—	2,621	5,259	8,493	32,912	97,233(10)		−5.6
コンゴース	—	—	—	—	—	—	6	11	—	—	—	—	—	—	—	11	31		
コフベオスライス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	528	—	—	—	—	—	528		
ラギンダス	—	—	—	—	—	—	39	—	—	2,400	13,822	—	—	—	—	636	18,641(18)	32,304(15)	−42.3
イレダ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9,418	9,418	22,016(16)	−57
アカアメリカ	11	283	—	—	—	—	83	—	—	—	6,417	—	—	—	—	—	6,417	14,675(17)	−54
ナダカ	2,310	42,896	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	197	197	89	+121
メリシコバ	3,644	50,781	3,830	14,333	—	6,594	172	256	—	—	791	—	—	—	—	1,667	2,824	1,483	+90
キューバ	—	—	44	3	—	—	—	—	—	—	58,605	—	—	—	—	699	20,329(17)	59,506(10)	−67
									3,192	—	2,282	1,013	11	3	717	10,119	95,931(11)	37,659(14)	+155
コスタリカ	78	1,676	—	—	—	—	—	—	—	—	668	3	11	—	—	1,031	1,760	—	—
ニカラガ	50	1,111	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	1,684	443	+310
プラジルラ	62	1,745	9,754	5,428	192	2,756	5,492	7,657	—	—	—	—	—	—	—	—	1,111	—	—
ペネズエラ	25	464	—	—	—	—	—	—	800	1,025	13,220	3,472	422	70	—	37,483	84,098(12)	13,734	+513
コロンビヤ	25	386	1,959	423	—	—	61	—	—	594	243	—	141	—	834	2,679	5,919	2,288	+165
ボリビヤ	31	659	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	659	2,998	−81
ベルーム	37	600	172	150	—	44	78	277	—	—	272	—	56	—	695	1,545	5,626	5,254	+7
スリナム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	28	—	—	—	72	69	169	1,134	−88
太平洋諸島（パラオ，ヤップ，カロリン，マーシャル，グアム）	250	6,035	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	8	—	—	184	6,143	—	—
ハワイ	1	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	38	−58
計	15,434	(9) 341,652	(3) 651,416	(1) 945,142	(11) 245,197	(4) 606,795	(12) 213,825	(5) 457,457	(13) 119,887	(2) 689,057	(10) 310,418	(14) 88,814	(7) 416,829	(6) 453,964	(8) 391,352	1,337,508	7,273,325		
前年度	26,767	(4) 501,396	(2) 576,734	(1) 902,993	(11) 178,615	(6) 434,004	(12) 148,333	(9) 268,398	(13) 120,919	(5) 486,753	(17) 370,244	(14) 87,238	(10) 227,009	(3) 559,868	(8) 334,524	1,101,513	6,574,009		

のである。なお不合格となつたものの部品について主なものを挙げれば次の様なものであつた。

ハンドル	10件	ギヤークランク	各2件
サドル	7件	前ホーク	
ペダル	各3件	ハンガーセット	
リム		ドロ除け	
		ブレーキ	
ハブ	各1件		
コースタハブ			
ブレーキ部分品			
サドル部分品			
ハンガー軸			
レバー受			

なお本年度における特記すべき事項を述べると次の通りである。

(イ) 登録機関の発足

輸出品取締法の改正（昭和28年3月）後自転車ならびに同部品および附属品が7条の2に指定され，日本自転車検査協会が登録検査機関として8月1日をもつて登録され，続いて8月25日にその業務規程が認可となり，9月1日から表示の業務を開始するはこびに至つた。

業務の開始に先だつて業界に対し8月には輸出品取締法について，9月には抜取検査法についてそれぞれ説明会が検査協会により催された。また12月3日，自転車検査協会全国支所出張所会議の折検査実施上の細部について打合せを行つた。取締法の改正により新しい表示制度が今後海外の本邦自転車関係製品の好評を博する成果となつてあらわれて来ることを期待している。

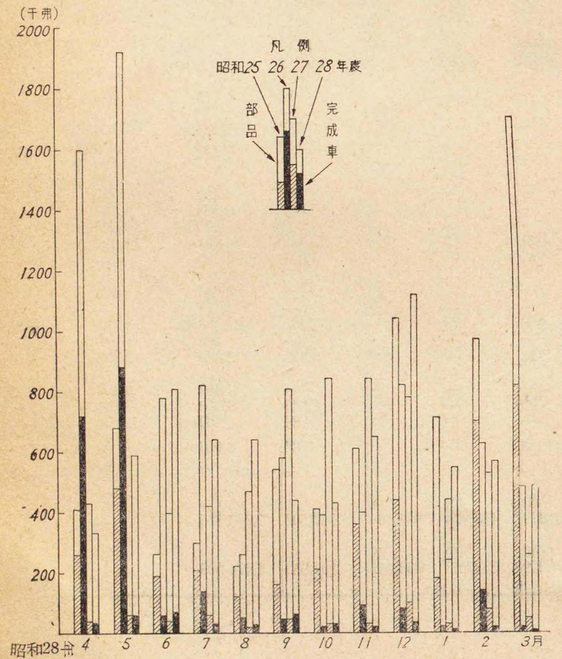
(ロ) 指定品目の追加

従来指定となつていた自転車(二輪車，三輪車)リヤカーならびにこれらの自転車部品（19品目18規格）および附属品（6品目，5規格）に加えて，前フオーク，ヘツドセツト，ハンガーセツト，シートポスト，ランプ掛の5品目が4条および7条の2として追加となり，4条品目としては9月25日から，7条の2品目として10月25日よりそれぞれ施行となり，ついで12月21日前記指定の各部品類でそれぞれ部品を構成する部分品85品目が追加指定され，2月1日より4条品目，4月1日より7条の2品目としてそれぞれ施行されることとなつた。これによつて自転車関係ではその殆んど総てが指定品目となるが，これは組立てられたもののみ指定となるときは，他が指定外品目として輸出されることとなり，これらが国外で組立てられるという，自転車部品の特殊性によるものである。

(ハ) 業界の状況

輸出量の若干増加により業界が活気ずいた様に思われれるが国際的な不況，国内需要の不振等の影響は他機種より強くうけている傾向が見られる。また新しく輸出したメーカーは少く輸出品をつくるメーカーが大体固定した様である。何れにしても29年度は苦しい立場に直面するであらうことが想像される。

第3図　昭和25,26,27,28年度自転車及同部品附属品輸出実績及比率



自動車部品

1. 輸出の状況

本年度の自動車部品の総輸出額は約24億円に達した。国産車および外国車用部品の輸出比率は，国産車約30%，外国車約70%となつており，このうち指定品目は約35%であり，その主なるものは，点火プラグ，ピストン，ピストンピン，ピストンリング，吸排気弁，ハブボルトナツト，ブレーキライニング，シヤシバネ，尾灯，停止灯，電流計等である。

仕向地は依然台湾，沖縄を筆頭に仏印，タイ，印度などに輸出されているが第3.4半期より，ブラジル向に点火プラグなどが急激に増加し，今後が期待される。また，新市場としてフインランドが加わり相当数のハブボルトナツトが輸出されている。

台湾，沖縄には品目も各種にわたり，数量的にも極めて多く，仏印には軍需要として，ジープ，GMCの補修部品が輸出され，印度，ビルマなどにはフオード，シボレー，ジープ等の外国車用部品，特にライニング，シヤシバネ尾および停止灯が可成り活況を呈した。

10月以降ビルマ向輸出品に対しては，証明書の添付を要したのでこの依託検査に応じ，品質証明書を7件発給した。

なお自動三輪車および二輪車の部品が少数ながら輸出されている。特に台湾向のスクーターは，完成車の輸入制限のため，現地組立の形式で分解の上部品として輸出された。

つぎに国内の状況を見ると，ここ2ヶ年位各メーカーは生産に拍車をかけ，また欧洲車の如き中小型車の輸入が大量に行われたため，その種類も極めて多種多様にわたり，また駐留軍関係の残した外国車などを加え，正に各国自動車展の観を呈するにいたつた。かかる状況下に部品メーカーは国産車用部品に，或は外国車用補修部品の生産に追われ各工場とも相当はん忙を極めた。

しかし第4.4半期初め頃より，カーメーカーが生産を縮少し，国内販売より輸出へ転向をはじめたが，その完成車の輸出も思わしくなく，結局生産はいよいよ縮少の一途をたどり，部品メーカーにも漸く不況の嵐が吹きはじめ，今まで一部の弱少メーカーによつて輸出されていたものが，業界全般が輸出を最大目標とし，競争が激しくなつた。

しかし既に従来の市場は西ドイツの支配下におかれており，ただ台湾，沖縄，朝鮮のみを固守している現状であるので今後輸出を期待し得るのは中共であろう。

2. 検査の状況

(1) 検査実施率

期別	1/4	2/4	3/4	4/4	計
連絡件数	733	814	634	616	2,797
検査件数	67	20	34	46	167
実施率%	9.2	2.5	5.3	7.5	6.0

各期別の連絡件数検査件数は上表のとおりである。

(2) 臨検々査実績

期別	地区別	検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
				等級の誤り	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの		
4/1	東京	25	0	—	—	—	—	—
	大阪	5	0	—	—	—	—	—
	名古屋	27	0	—	—	—	—	5(条件件合格)
	福岡	10	0	—	—	—	—	—
	計	67	0	—	—	—	—	5
2/4	東京	3	0	—	—	—	—	—
	大阪	4	0	—	—	—	—	—
	名古屋	9	0	—	—	—	—	—
	福岡	4	0	—	—	—	—	—
	計	20	0	—	—	—	—	—
3/4	東京	20	0	—	—	—	—	—
	大阪	3	0	—	—	—	—	—
	名古屋	11	0	—	—	—	—	—
	福岡	0	0	—	—	—	—	—
	計	34	0	—	—	—	—	—
4/4	東京	23	0	—	—	—	—	1(条件付合格)
	大阪	16	7	—	7	—	—	—
	名古屋	2	0	—	—	—	—	—
	福岡	5	0	—	—	—	—	—
	計	46	7	—	7	—	—	1
合計		167	7	—	7	—	—	6

(3) 事故の内容

(イ) 吸排気弁

製品保管の不備による事故で錆の発生によるものである。

(ロ) シヤシバネ

小缶業者では試験器具を欠き，また経営者のＪＩＳに対する認識が薄いため，屢々事故の発生をみている。事故は寸法不良，荷重試験不良である。

(ハ) ハブボルトナツト

これは工員の不注意により，増寸用のネジ切りタツプを使用したものであり，社内検査の徹底を指示した。また全般的にみてこの品種の業界は中小企業が大半で，ネジゲージを完備せるメーカーが少く，社内検査につき疑問の点があるので今後の取締りが必要となつている。

(ニ) シリンダーライナー

事故は何れも内外径の寸法不良に基くものであり，当該メーカーの工作機械，冶具，工作法等につき現状のままでは精度の点において規格内に入ることは難しいようである。

(ホ) 配電器

これは運搬上においてキヤツプが割損したもので梱包について細心の注意が痛感される。

(4) 検査結果に対する特記事項

検査器具および設備などに関し，主な品目について総体的にのべると次の通りである。

(イ) 電装品

点火プラグ以外のものは，輸出量も少いのであるが各工場とも検査設備は完備されており，成績も良好である。

(ロ) 機関部品

以前特需の註文をとつたところは，検査器具および設備は完備されており，積極的に製造工程の改善などを行い，材質の吟味，寸法精度など極めて良好である。それ以外のものでは，町工場的のものもあり，検査器具，設備は貧弱で持込検査を行つたものもあつた。

(ハ) 附属部品

ランプ，メーター関係のものについても上記と同様で，とくにランプについてはメツキ不良のものが目立ち，前照灯の配光検査設備がないため，夜間検査のやむなきものもあつた。また電流計では耐電圧検査，耐電流検査を完全に実施できるところは少なかつた。

(ニ) 車体関係部品

シヤシバネについては，大体において良好であつたが目玉部の仕上はやや不良である。なお目玉軸線の傾きの検査設備の不完全なものもあつた。

ハブボルトナツトは小規模メーカーの輸出が多く，ネジの寸法，硬度不足による不良品があり，ネジゲージ，硬度計を持たない工場もかなりあつた。

(5) 規格について

外国車用部品に対しては，その寸法，公差など正確なものは全くなく，同一車種のものでも製造業者によつて異ることもある。現状では輸出業者がサンプルを1～2個相手方より送付せしめ，そのものの図面をとり，公差は国内規格または経験により，入れて社内規格となし，これにより製作したものを相手方にサンプルを輸出し，了解を受けた後に大量の契約となつているのである。従つてその製作方法は，その車種の本当の数値とは異つていることが有りうるにもかかわらず，このような社内規格値に基いて検査していることに無理があり，今後かくの如き寸法を主とする部品の検査について検討しなければならない。

小型陸用内燃機関

1. 輸出の状況

本年度の輸出の状況は，昨年度に引続き極めて不振に終り，ただバイクモーターの輸出が年度はじめかなり活況を呈するかにみえたが，これも後半だれ気味となり，全般的には依然として低調を極めた。

なお輸出実績は第1表に示すように定速気化器付機関2,500台（前年度4,200台），定速デイーゼル機関3,830台（前年度3,870台）およびバイクモーター（車輛用機関を含む）2470台（前年度1,150台）となつており，輸出台数については大体前年度と同様であるが，定速気化器付機関が40%減少しているため，金額では相当低下している。

第1表　機種別輸出台数および地区別輸出状況

機種別 / 輸出台数 / 地区別	定速気化器付機関	定速デイーゼル機関	バイクモータ	計
	2,520台	3,830台	2,473台	8,823台
東京	22%	16%	22%	
大阪	77	84	7	
名古屋	1	0	71	
福岡	0	0	0	
計	100%	100%	100%	

またこれを地区的にみると，東京地区は定速気化器付機関が全地域の22%，定速デイーゼル機関16%，バイクモーター22%と大体平均している。大阪地区は定速気化器付機関77%，定速デイゼル機関84%，バイクモーター7%となつている。名古屋地区はその殆んどがバイクモーターで70%輸出され，他機種は極めて小数である。福岡地区は何れの機種も皆無であつた。

仕向地別輸出状況は第2表に示すように何れの機種もブラジルが飛躍的に増加していることが注目される。なお10月以降ビルマ向輸出品に対しては，証明書の添付を要したのでこの依託検査に応じ品質証明書を件発給した。

第2表　機種別仕向地別輸出状況　単位台

機種別 / 仕向地	定速気化器付機関	定速デイーゼル機関	バイクモータ（車輛用を含む）	計
沖縄	23 (1%)	122 (3.2%)	144 (6%)	289
台湾	231 (9%)	411 (11%)	1,724 (70%)	2,366
韓国	479 (19%)	658 (17%)	3	1,140
タイ	791 (32%)	519 (12%)	206 (8%)	1,516
仏印	0	31	0	31
比島	29 (1%)	133 (3.5%)	22 (1%)	184
ビルマ	25 (1%)	269 (6.8%)	2	296
インド	150 (6%)	9	1	160
インドネシヤ	2	114 (3%)	1	117
ブラジル	766 (30%)	1,241 (33%)	297 (12%)	2,304
コロンビヤ	3	262 (6.6%)	0	265
その他	21 (1%)	61	73 (3%)	155
計	2,520	3,830	2,473	8,823

2. 検査の状況

(1) 検査実績

本年度の検査対象工場数および検査実績は第3表および第4表のとおりである。

検査件数に対する合格率は88%で，昭和25年度73%，26年度89%，27年度92%と年度毎に上昇しているにもかかわらず本年度はやや低下している。

第3表　検査対象工場数

地区	定速気化器付機関	定速ディーゼル機関	バイクモータ（車輛用機関含）	計
東京	7	4	5	16
大阪	5	11	2	18
名古屋	3	1	8	12
福岡	0	0	0	0
計	15	16	16	46

る。

(2) 事故の状況

分解検査の結果は各地区共殆んど共通でライナー（鋳巣，条痕），ピストン（当り不良，鋳巣，条痕）ピストンリング（片当り），ピストンピン（当り強し，仕上不良，疵，焼割）バルブ関係（摺合せ不良，当り不良，仕上不良，カム当り不良，異常摩耗）コンロツド（焼付気味）主軸受（仕上不良，鋳巣，当り不良，条痕，焼付）クランク軸（打痕，仕上不良）歯車（仕上不良，当り不良）等が最も多くみられた。

運転状況では，油洩れ，水洩れが最も多く排気色不良のものも相当あつた。以上は分解，運転検査を通じて多く現われた共通事故であるが，要再検を付したもの事故状況を第5表に示す。

第4表　臨検々査実績表

期別	地区別	項目	検査件数	事故件数	事故の内容			無表示	その他
					等級の誤り	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの		
1/4	東京		12	1	—	1	—	—	—
	大阪		8	0	—	0	—	—	—
	名古屋		9	0	—	0	—	—	—
	福岡		0	0	—	0	—	—	—
	計		29	1	—	1	—	—	—
2/4	東京		6	3	—	3	—	—	—
	大阪		4	0	—	0	—	—	—
	名古屋		10	1	—	1	—	—	—
	福岡		0	0	—	0	—	—	—
	計		20	4	—	4	—	—	—

期別	地区別 ＼ 項目	検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤り	事故の内容 最低標準に達しないもの	事故の内容 包装条件に達しないもの	無表示	その他
3/4	東京	13	4	—	4	—	1	
	大阪	17	1	—	1	—	—	1（軽ビ）
	名古屋	9	0	—	0	—	—	
	福岡	0	0	—	0	—	—	
	計	39	5	—	5	—	1	1
4/4	東京	19	2	—	2	—	—	1（軽ビ）
	大阪	33	5	—	5	—	—	
	名古屋	16(1)	1	—	1	—	—	
	福岡	0	0	—	0	—	—	
	計	68(1)	8	—	8	—	—	1
合計		156 (1)	18	—	18	—	1	2

第5表　事　故　状　況

品名	検査月日	仕向地	事故内容
バイクモータ	28年4月	台湾	クランクピンニードルおさえ板の硬度高過ぎによる破損のため運転不能．なお破片の硬度はＨＲＣ63（設計値ＨＲＣ35～45）であつた。
定速ディーゼル機関	7月	タイ	始動不能。
定速気化器付機関	〃	〃	点火プラグの焼損により長期運転に適せず。
バイクモータ	8月	台湾	ピストン焼付による運転不能。
定速ディーゼル機関	9月	仏印	燃料消費率過大，運転状況不良，コンロッドとクランク軸との垂直度不良により主軸受焼付およびガバナー錘脱落。
〃	11月	コロンビヤ	運転，分解検査共に極めて不良。
定速気化器付機関	12月	ブラジル	シリンダーライナー鋳巣および調速機不足によりハンチング甚だし。
〃	〃	〃	シリンダーライナー鋳巣およびピストン砂落不良。
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃
定速ディーゼル機関	29年1月	コロンビヤ	排気色不良。連続運転に堪えず。
〃	〃	〃	排気色不良，燃料消費率過大
〃	〃	〃	シリンダーヘッド弁座工作不良。
〃	2月	ブラジル	油，滑油ポンプ不良によりクランクピンメタル焼流のため運転不能。
〃	〃	〃	油，滑油ポンプ不良によりピストンピン焼付のため運転不能。
〃	3月	〃	油洩れ甚だし。
〃	〃	台湾	ガバナー作動不良。
バイクモータ	〃	〃	油洩れ甚だし，カムに鋳鉄鋳物をそのまま使用のため硬度不足。

(3)　検査結果中特記すべき事項

小型陸用内燃機関の性能はここ数年間異状な発達が認められ，通商産業省主催による比較審査も第4回を数え，その成績の優秀なことは外国製品との比較検討の結果充分認められたが輸出にあたつては前述の如く，要再検18件もあり，そのうち13件が下半期に発生している。これは最近とみに輸出が不振となり，一部の輸出業者が新規製造業者の安価な製品を求めるため，これに伴う粗悪品の濫造ではないかと思われる特に新規メーカーなどは，検査設備の不完全なものが6社あり，中には動力計も持たず臨検々査の際他社のものを借用した工場もあつた。また一応の検査設備は持つていたが，その設備がどれ位正しいか確認したこともなく，ただ漫然と測定し，その数値を検討せず勿論規格をも持たないものがあつた。部品購入に際し，永年購入しているので間違いないと思い込み，受入検査を行わずたまたま検査したところ全く不合格品であつたという例もあり，また下請部品に対しては厳重な受入検査を行うが自社製品に対しては重要な点を放置していたところも見受けられた。

なお取扱不注意による事故がなかなか後を絶たず，切粉や鋳砂の混入によると思われる条痕，また組立時の不注意による打痕等があり，一層の注意を促した。

調速機は総体的に非常によくなつているが一部には指定品目となつたころと，全く同様進歩の跡がみうれず相変らず規格値すれすれのもの，ハンチングの甚だしいもの等調速機に対して無関心な工場があつた。

軽　電　機　器

Ⅰ　配線器具

1.　輸出の状況

本年度における配線器具の輸出は前年度に比して若干好調で仕向地は従来通り東南アジア，台湾，沖縄，南米方面であり，その数量は約7,000,000ケにのぼつている。これを市場の傾向から見ると自国産業助長政策をとつているインド，台湾は特定のものを除き輸入を減少させる向きを示し，又タイおよびインドネシヤ向けは各国共輸出業者がいたづらに競合う結果価格が追いつめられた感があり，又無理な受注による品質の低下が伺われる。

一方中南米市場では今迄通り価格も比較的保持されており，量はまとまらないが連続的に出荷されていることは喜ばしい。いづれにせよ全般的に見ると配線器具の輸出は目下のところ特に有望な見通しはないといえる。

2.　検査の状況

本年度における配線器具の検査実績は別表のようであるが，これにつき検査状況を述べると次のようなことがいえよう。すなわち本年度に入つて各地区共概ね大きな事故はなく，且つ品質もさ程悪くないように見受けられていた。これは単に品質が最低標準を上まわつているということではなく，メーカー自身が外国品に対応して負けないという自信を最近もち初めた為生産設備並びに検査設備を改善又は新設し，しかも輸出振興に一層の努力を払う傾向が見えて来た結果といえる。然し乍ら本年度末すなわち29年に入つて大阪地区において事故が相次いで発生した。検査の結果は品質も悪く従つて事故率も高くなる且つ中間業者として悪質なものも若干指摘され，これがため二，三のメーカーに対しては輸出取締法に基き報告義務を課したところもある。これはメーカー又は中間業者が取締法並びに規格を無視し，規格に規定してあるものと異つた材料，例えば導電金具に鉄やアルミニユーム等を使用して製作するようなものが多く，これを検査した際に事故となつたものである。又一部メーカーは検査を敬遠し連絡なしに輸出しようとする向きもあり，そのような場合にこそ事故が多いので，これらのメーカーに対しては重点的に検査を行つている。29年度に入つても未だこの傾向が伺われるので今後の対策として当所では不良品防止の為各税関並びに各関係官庁に協力方を依頼すると同時に輸出業者およびメーカーに対してもよびかけ，不良品の輸出防止に努力しているので今後は逐次改善されると思われる。

配線器具臨検検査実績表

期別	地区別 ＼ 項目	検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤り	事故の内容 最低標準に達しないもの	事故の内容 包装条件に達しないもの	無表示	その他
1/4	東京	5	0	—	0	—	—	—
	大阪	29	8	—	8	—	—	—
	名古屋	32	1	—	1	—	—	—
	計	66	9	—	9	—	—	—
2/4	東京	17	3	—	3	—	—	—
	大阪	26	5	—	5	—	—	—
	名古屋	36	1	—	1	—	—	—
	計	79	9	—	9	—	—	—
3/4	東京	14	0	—	0	—	—	—
	大阪	17	1	—	1	—	—	—
	名古屋	22	0	—	0	—	—	—
	計	53	1	—	1	—	—	—
4/4	東京	2	1	—	1	—	—	—
	大阪	45	23	—	23	—	—	—
	名古屋	28	0	—	0	—	—	—
	計	75	24	—	24	—	—	—

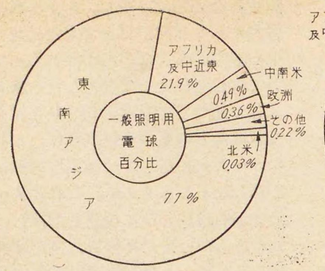
Ⅱ　電　　球

1.　輸出の状況

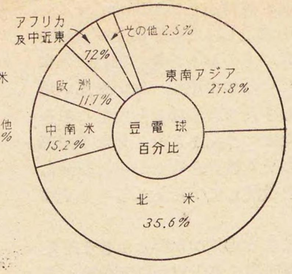
(1)　輸出数量

昭和28年度の電球輸出量は67,000,000余個に達し，金額に於ては27年度380,814,000円に対し28年度は504,966,000円となつており，昭和23年を上廻

第1表　28年度全国地区品種別，仕向地別輸出実績

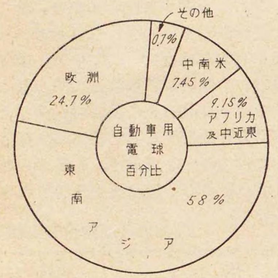


総数量　676,000ヶ

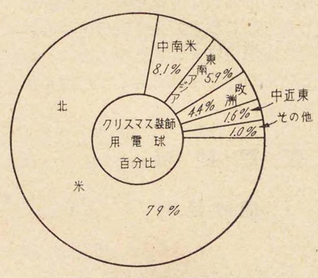


総数量　15,660,000ヶ

（註）　豆電球にはラジオペネル用および自転車発電ランプ用電球も含む。



総数量　1,521,000ヶ



総数量　49,517,000ヶ

（註）　クリスマス装飾用にはツリー用電球も含む。

（註）　本表の数字は日本電球協会調査（日東電研試験数量）による。

第2表　クリスマス装飾用電球年度別，品種別輸出実績表　　単位（1,000個）

品種 / 年度	C－6	C7 1/4	C9 1/4	スモールトーチ	スモールフアンシー	メデイアムフアンシー	ラージフアンシー	ツリー電球	合計
昭和27年	10,759	6,758	626	51	2,871	3,881	232	451	25,629
昭和28年	20,459	16,482	1,548	337	3,884	5,763	330	714	49,517

る戦後最高の実績というべく，これを前年度と比較すると約25%の増加となつている。

次に勘定地域別の個数比率をみるとドル地域78.5%，スターリング地域15%，オーブン，アカウント地域6.5%となつており，この点については大きな変化はない。ただし米国向が前年度の2倍以上に増加していることは次に述べる品種別の変化と関連して注目すべき現象である。さて品種別の数字であるが第1表に示す通り28年度はクリスマス装飾用電球（クリスマスツリー用も含む）の輸出が群を抜いて多く，前年の2倍に近い数量を占めている。さらに之を細かい品種に分類すれば第2表の通りである。

これによつてみる如く中にもC-6，C7½，C9¼の如き標準型のものが前年の2倍もしくは3倍以上も輸出されていることがとくに目立つている。

このようなクリスマス球の急激なる輸出増加と比較して，昨年における一般照明用電球，自動車用電球，豆電球等は悉く数量を減じており，中には前年の半数にも満たないものもある。要するに昨年における電球輸出の状況が例年と非常に様相を異にしていることとクリスマス球においては，いわゆる閑散期と称する時期においても生産に追われている現状であり，従つて今後における輸出の見通しは益々盛んと言わざるを得ない。

(2)　輸出価格

クリスマス球以外のものの輸出価格は，昨年に比し大差あると思われないが，クリスマス球においてC-6球にあつては，当初の価格11～12弗（1,000個当りＦＯＢ価格）が現在は13.50～14弗，C7½にあつてはC-6ほど大巾の変化はないが，現在やや上昇して27～28弗，また変形ものにあつてはメデアムフアンシー35～37弗，スモールフアンシーにあつては30～32弗程度と言われている。従つてバイヤーによつては品物を確保するため当初の註文をキヤンセルして，やや高値の再註文に切換える向きもあつたと言われている。豆球類にあつては需要減の実状もあり，かくの如き現象はみられず当初以来9.50弗程度を唱えているようである。一般的に言つて本年は比較的に低価格の品種の需要が増えているとゆうことである。

2.　検査の状況

昨年度に比し，一般照明電球および小型電球については不合格は見られず，不良内容も致命的欠陥としての不良が減少するとともに合格率も上昇の一途をたどつている。

なお検査実績および不良内容百分比を示せば第3表（A），（B），（C），（D）第4表（A），（B），（C），（D）のとおりである。

第3表　28年度臨検検査実績表

（A）　一般照明用電球

		検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他
1/4	東京	8	0	0	0	0	0	2
	大阪	1	0	0	0	0	0	0
	計	9	0	0	0	0	0	2
2/4	東京	3	0	0	0	0	0	0
	大阪	5	0	0	0	0	0	0
	計	8	0	0	0	0	0	0
3/4	東京	3	0	0	0	0	0	0
	大阪	9	0	0	0	0	0	0
	計	12	0	0	0	0	0	0
4/4	東京	10	0	0	0	0	0	0
	大阪岡	6	0	0	0	0	0	1
	福	1	0	0	0	0	1	0
	計	17	0	0	0	0	1	1
年間	総計	46	0	0	0	0	0	3

（B）　豆電球その他

		検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他
1/4	東京	7	0	0	0	0	0	0
	大阪	1	0	0	0	0	0	0
	計	8	0	0	0	0	0	0
2/4	東京	1(1)	0	0	0	0	0	1(1)
	大阪	5	0	0	0	0	1	0
	計	6(1)	0	0	0	0	1	1(1)
3/4	東京	1	0	0	0	0	0	0
	大阪	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	0	0	0	0
4/4	東京	5(8)	0	0	0	0	0	0
	大阪岡	4	0	0	0	0	0	0
	福	3	0	0	0	0	0	0
	計	12(8)	0	0	0	0	0	0
年間	総計	27(9)	0	0	0	0	1	1(1)

（註）　豆電球にはラジオパネル用および自転車発電ランプ用電球を含む。（　）は自動車用電球を示す。

（C）　クリスマス装飾用電球

		検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他
1/4	東京	7	0	0	0	0	0	0
2/4	東京	14	0	0	0	0	1	0
	大阪	1	0	0	0	0	1	0
	計	15	0	0	0	0	2	0
3/4	—	—	—	—	—	—	—	—
4/4	東京	11	0	0	0	0	0	0
年間	総計	33	0	0	0	0	2	0

（D）　クリスマスツリー用電灯セツト

		検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他
1/4	東京	3	0	0	0	0	0	0
2/4	地区	6	0	0	0	0	0	0
3/4	のみ	3	0	0	0	0	0	0
年間	総計	12	0	0	0	0	0	0

第4表　品種別不良内容百分比

(A)　一般照明用電球

不良内容	バルブ		口金			ゲッター過多	半田付外レ	断線	ルーズベース	クラック	封ジ曲り	初特性	其の他	計
	フロスト	異物	キレツ	マーク	サビ									
百分比	26.1	14.5	8.7	8.7	4.4	7.3	2.9	4.4	2.9	2.9	7.3	4.4	5.5	100%

(B)　豆電球その他

不良内容	バルブ		口金		半田付外レ	寸法(光中心巨リ法)	断線	その他	計
	泡ス ジ	異物	サビ	マーク					
百分比	11.2	5.0	15.0	21.2	10.0	31.2	3.8	2.6	100%

(註)　豆電球にラジオパネル用および自転車発電ランプ用電球を含む。

(C)　自動車用電球

不良内容	バルブ内異物	口金曲リ	寸法(全長大)	初特性(効率大)	計
百分比	15.8	15.8	52.6	15.8	100%

(D)　クリスマス装飾用電球

不良内容	バルブ変汚形レ	口金			半田付外レ	片曲リ	ルーズベース	クラック	彩色		断線	計
		変キレ形ツ	サビ	マークなし					キズ・ハゲ	ピンホール		
百分比	9.7	9.47	21.7	16.3	5.72	4.15	3.46	0.62	11.6	10.35	6.93	100%

(註)　クリスマス用セットの電球を含む。

Ⅲ　携帯用電灯

1.　輸出の状況

携帯電灯の輸出は26年度以降不活潑であり，28年度に至つては昨年度よりも低調である。これは従来の仕向地が香港製品の進出によつて失われたためであり，今後も大した希望はもてない。

2.　検査の状況

第1表に示す如く28年度は事故はなく，昨年より品質の向上が見られたことは喜ばしい。

第1表　臨検々査実績表

		検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤	事故の内容 最低標準に達しないもの	無表示	その他
1/4	東京	2	0	0	0	0	0
	大阪	2	0	0	0	0	0
	計	4	0	0	0	0	0
2/4	大阪	2	0	0	0	1	0
3/4	大阪	2	0	0	0	0	0
年間	総計	8	0	0	0	1	0

無線通信機器

筒形紙コンデンサー

1.　輸出の状況

昨年度までは旧領土である台湾，沖縄向ヘラジオセット業者が少数をキットとして輸出する程度で数量的には望めない実状であつたところ，27年9月頃予てから話題になつていたブラジル向けラジオ部品の輸出が決定し，此のうち筒形紙コンデンサーは今年4/4期に入り254,000個（304,000円）に達した。今後におけるコンデンサー業界の希望は明るい。なおブラジル向の品種別輸出実績を示すと第1表のとおりである。

第1表　品種別輸出実績　　単位　個

0.5 μF	0.25 μF	0.1 μF	0.05 μF	0.02 μF	0.01 μF	0.005 μF	0.002 μF	計
3,000	2,000	59,000	70,000	51,000	29,000	30,000	10,000	254,000

2.　検査の状況

第2表に示す如く無事故で品質に於ては向上の一途にある。

なおブラジル向の製造メーカーは全国で4社あり，此の内新規輸出工場として1社が加わつた。此のメーカーは遠隔地であり，都合によつて当所の臨検々査は行わなかつたが，ブラジル向のラジオ部品を全面的に検査を行つた日本検査株式会社の検査報告によると，合格はしたが少数の耐圧不良（全般に紙筒の表面の密着度が不充分）が指摘された。全般的には従来の輸出工場のものより品質が少々落ちるのではないかと思われる。

第2表　臨検々査実績表

		検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤	事故の内容 最低標準に達しないもの	無表示	その他
1/4	東京	3	0	0	0	0	1
2/4	東京	3	0	0	0	0	0
	大阪	1	0	0	0	0	0
	計	4	0	0	0	0	0
4/4	東京	2	0	0	0	0	0
	大阪	1	0	0	0	0	0
	計	3	0	0	0	0	0
年間	総計	10	0	0	0	0	1

強電機器

1.　輸出の状況

本年度の強電機器の輸出は依然として低調を極めた。

電動機，変圧器とも同様の傾向にあつたが，変圧器のみは第2/4半期から第3/4半期にかけて1メーカーで沖縄向けとして約800台という変圧器としてはかなりまとまつた数量の輸出が見られた。これは現地の配電会社の増設に伴う需要で品種としては単相50ＫＶＡ以下の柱上変圧器であつた。ただし市場としては限られたものだけに今後は多くは期待出来ない。

扇風機は大部分が12吋又は16吋の卓上扇風機であるがこれはかなり活潑で仕向地は従来通り殆ど東南アジア地区であり強電機器中では最も期待できる品種であるが価格の廉いものに受註の集中する傾向が見られるので今後注意して見守る必要があろう。

一方電熱器の輸出は例年のことながら全く振わず今後の見透しも悲観的である。

現行ＪＩＳ規格は海外諸規格に較べかなり勝れているが我国製品の価格が高い（欧米品に比して平均70～80%高い）ことが輸出不振の最大要因であるので最近電機業界ではその代表的機種である電動機の輸出行悩みについて諸種の施策を講じているが，なかでも規格改正をめぐる動きは漸次活潑化している。即ち外国社の場合は「規格」でなく「保証値」が多いので現行ＪＩＳ規格と関連して電動機の寸法の小型，軽量化及びコスト引下げの問題が考慮されつつあるが，国内電力会社が外国製品なみの規格切下げを了承するかどうかの問題もあり輸出活潑化への道は未だ遠いようである。

2.　検査の状況

本年度強電機器の検査実績は別表のとおりで臨検検査件数470件，そのうち最低標準に達しないものとして「要再検」の処置をしたものが12件で合格率97.5%となつている。

一般用電動機及び紡織用電動機は何れも従来社内試験の重点が特性に置かれていたため，外観，構造上の不良が相当あり，問題も多かつたが，本年初頭規格改正以来その点についてメーカーに於ても関心が高まり努力のあとが伺われ漸次不良が減少しつつある。輸出電動機は殆んど標準電動機でないため見込生産が出来ず，しかも納期に追われる関係上一部を下請工場へ発註する傾向にありそのため口出線素線切れなどの口出部の不良が散見された。

変圧器は納期と数量の関係で大メーカーよりも中小メーカーの発註が多い，従来から特性上では問題ないが，外箱蓋のパツキン不良，蓋の締付ボルトの不足などのため気密度が悪くなり倒立試験においてしばしば油洩れを生じた。又中小メーカーで輸出に不慣れのためか銘板の標示不良が見受けられ輸出規格の認識不足があるように思われる。

扇風機は卓上，天井共に起動電圧の高過ぎるものが1件づつあり「要再検」となつた。最近扇風機の特性について二重定格標示のもので，仕向地の電力事情悪化のため配電々圧が常に低下している現状に即応するため，その設計電圧を定格電圧以下（実際の配電々圧）にして製作して欲しいと現地から要求があるが，この場合設計電圧で規定風量を確保する関係上，高い方の定格電圧（定格配電々圧）で試験すれば入力が規格値をはずれる場合がある。これに対しては，今後の輸出の進展を図る意味で何らかの策を講じなければならない問題である。

電熱器では，電気アイロン，電気七輪が輸出の殆んどを示めている。何れも消費電力が規格値をはずれることが多い。これは中小メーカーで輸出に不慣れで，消費電力試験におけるメーターの誤読によるもので一応の検査設備を有していながら有能な検査員に欠けるため重大なミスを生じている。又最近アイロンの発熱体の絶縁マイカの質の低下が見られ，耐圧不良による事故が少なからず発生した。特に社内検査において温度試験を行わないためか，臨検々査の際，温度試験後のものの耐圧試験で不合格を生じている。

臨検検査実績表

地区別	月別	検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤	最低標準に達しないもの	包装に達しないもの	条件に達しないもの	無表示	その他
東京	28年4	3	—	—	—	—	—	—	—
	5	1	—	—	—	—	—	—	—
	6	4	—	—	—	—	—	—	—
	7	3	—	—	—	—	—	1	—
	8	4	1	—	1	—	1	—	—
	9	10	—	—	—	—	—	2	—
	10	6	—	—	—	—	—	1	—
	11	4	—	—	—	—	1	—	—
	12	2	1	—	1	—	—	—	—
	29年1	2	—	—	—	—	—	—	—
	2	12(4)	3	—	3	—	—	2	—
	3	6	1	—	1	—	1	1	—
計		57	6	0	6	0	3	7	
大阪	4	3	—	—	—	—	—	—	—
	5	3	1	—	1	—	—	—	—
	6	7	—	—	—	—	—	—	—
	7	1	—	—	—	—	—	—	—
	8	2	1	—	1	—	—	—	—
	9	5	—	—	—	—	—	—	—
	10	1	—	—	—	—	—	—	—
	11	7	—	—	—	—	—	—	—
	12	1	—	—	—	—	—	—	—
	1	2	—	—	—	—	—	—	—
	2	2	—	—	—	—	—	—	—
	3	3	—	—	—	—	—	—	—
計		37	2	0	2	0	0	0	
名古屋	4	23	—	—	—	—	—	—	9
	5	6	—	—	—	—	—	—	0
	6	19	—	—	—	—	—	—	3
	7	23	—	—	—	—	—	—	4
	8	14	—	—	—	—	—	—	6
	9	5	—	—	—	—	—	—	
	10	21	—	—	—	—	—	—	6
	11	13	—	—	—	—	—	—	0
	12	24	—	—	—	—	—	—	4
	1	19(1)	1	—	1	—	—	—	4
	2	31(1)	1	—	1	—	—	—	3
	3	15	—	—	—	—	—	—	
計		213	2	0	2	0	0	0	
福岡	4	23	—	—	—	—	—	—	2
	5	6	—	—	—	—	—	—	4
	6	17	1	—	1	—	—	—	
	7	23	—	—	—	—	—	—	6
	8	14	—	—	—	—	—	—	0
	9	14	1	—	1	—	—	—	4
	10	11	—	—	—	—	—	—	4
	11	11	—	—	—	—	—	—	3
	12	15	—	—	—	—	—	—	
	1	5	—	—	—	—	—	—	2
	2	11	—	—	—	—	—	—	4
	3	13	—	—	—	—	—	—	
計		163	2	0	2	0	0	0	45
合計		470	12	0	12	0	0	0	52

非鉄金属

1. 主なる傾向

(1) 伸銅品

27年度に比して，28年度当初は国内価格は依然として国際物価水準より高いため，相当の引き合いをみても満足に契約出来るものは殆んど無く，西独を中心に，西欧諸国に横取りされている現状である。従つて輸出の振興が盛に言はれている一方，この様な矛盾を解決する方法がとられることを業者間で強く希望されている。そこで政府は，輸出の振興を計る目的をもつて，3/4半期頃から保税加工による輸出を実施した。これによつて伸銅業界は幾分活気づいたと思われたが，本年度末期に至つて，大口需要家である南米ブラジルが買付けを渋りだしたので，ここに市況は再び横ばい状態を呈したのである。一方国内市況は，特需の減退とデフレ政策の影響を予想以上にひどく蒙り，各社は相当大量の在庫をかかえこまねばならぬ状態となり，関西，関東で二，三の中小工場が倒産した。この様に価格は横ばいから下落の方に進み，伸銅業界にとつては〝どん底〟のうちに28年度を送つたのである。

(2) 軽金属

軽金属も伸銅品と同様，日本製品の割高が国際市場に於て全く受け入れないため，前年度より約41,000瓲の急激な減少を示したものである。

最近の東南アジア市場に於ける西欧諸国の製品は，大体230～235磅見当であるのに対し，吾が国の製品は，これと10磅前後の開きがある現状で，この点を何等かの形で解決しない以上，輸出の増加は望めないと云われてる。

(3) 鉛，亜鉛

沖縄，朝鮮向に水道工事用として小量の輸出をみる程度で，外国には価格の点で折り合いがつかぬため殆んど輸出をみない。

亜鉛板については台湾，インド，東南アジア向けに，印刷資材或は一般用として輸出をみてるが数量的にはとるに足りない。

(4) 非鉄金属製金網

非鉄金網は，主に関西方面から防虫用，建築材用として輸出されている。仕向地は香港，比島をはじめ東南アジア方面に殆んど向けられている現状である。

以上の如く，非鉄金属は金ヘン景気の時代から朝鮮休戦を迎へ，その後今日まで多少景気の変動があつたが，デフレ政策以後横ばいから下落の方向に歩いて来たのである。各メーカーでは品質管理，原価引き下げ等，産業合理化に全力を上げて研究してる実状である。

2. 輸出の状況

(1) 伸銅品

輸出実績および仕向地別輸出状況については附表1および2に示す通りであり，依然ブラジルが首位を示し，香港，台湾がこれに次ぐ。品種別にみると，銅板，ヒキモノ用黄銅棒が殆んどである。南米，印度あたりより大量の引合いがあつたが，価格の点で折り合わず，契約をみなかつたものが相当数に上る。大口需要国であるブラジルが買取りを渋り始めたので他の市場を開拓することが今後の緊急の問題の一となつて来た。

(2) 軽金属

輸出実績並びに仕向地別輸出状況については附表1および3に示す通りで，依然ブラジルが伸銅品と同様上位である。バンコツク，香港にも相当輸出されてるのが目出つてる。品種別にみると，平板，波板及び円板が断然多い。これは一般に食器類或は家屋の屋根塀に相当量利用されてるものと思われる。

(3) 鉛，亜鉛

輸出量も少量で別に特記することがないので省略する。

(4) 非鉄金属製金網

非鉄金網の仕向地別輸出実績は附表4に示す通りで，東南アジア方面に主として輸出されている。

3. 検査の状況

検査の実施状況については，附表5の検査実績表に示めす通りである。非鉄金属関係では，大阪地区が他の地区に比較して輸出量が極めて多量であるので，臨検検査件数も非常に多く，また事故件数も最も多い。事故回数についてみると，検査実施当初に比して，事故も相当減少しているが，今だ東京，大阪において見受けられる。

事故内容は附表6に示めす通りである。表に示すように寸法不良が若干あつたが，これはいずれも切断工程の際，工員の不注意に起因するもので，この点特に注意を促した。一方，ＪＩＳ規格も改正となり，従来の不合理な諸点も解消されたのは喜ばしい。

外観検査に於てはスリ疵，アタリ疵等の取扱い不注意によるものが多数あつた。又酸洗後の処理不充分に起因する湿気の表面腐蝕がみうけられたが，これは明らかに製品管理の不注意に依るもの

附表1　　昭和28年度軽金属，伸銅品輸出実績（1月～12月）　　単位数量瓩，金額千円

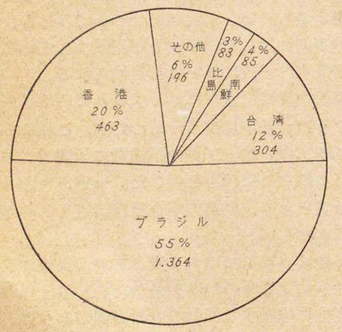
形状別＼大分類材料別	軽金属			伸銅品				
	アルミニウム	金額		銅	金額		黄銅及び青銅	金額
板（波板を含む）	1,630	約	32,000	487	約	190,437	200	約 76,632
円板	1,263	約	25.000	—		—	—	—
条	22	約	440	—		—	—	—
管	3	約	60	343	約	158,034	88	約 36,610
棒	1	約	20	779	約	248,627	448	約 156,895
型	1	約	20	—		—	—	—
線	4	約	80	—		—	150	約 57,451
箔	62	約	1,240	—		—	—	—
計	2,986	約	58,860	1,609	約	597,098	886 893	約 327,588

（註）アルミニウムは軽金属ロール会，伸銅品は日本伸銅協会の資料による。
金額についてはだいたいの数字である。

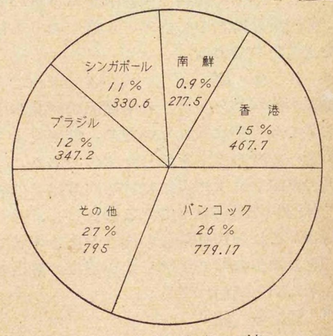
で，吾が国の様に湿度の高いところでは特に注意すべきことであり，各メーカー側に充分注意するよう指導した。

横浜出張所にて，無票示による事故が6件もあつたが，これ等は新しい沖縄の工事業者によるものか或は機械部分品の修理材料の一部としての小量輸出であつたが，この件については取扱者に対して法の主旨並に当所の検査の性格を説明し，今後かかることのない様に充分なる指導を行つて来ている。

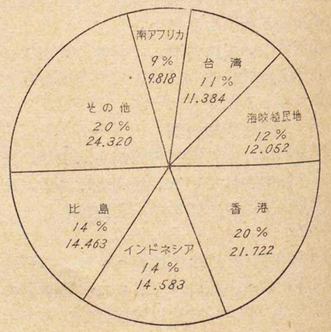
附表2　　伸銅品輸出実績
（昭和28年1月～12月）単位　瓩



附表3　アルミニユウム輸出実績
（昭和28年1月～12月）単位　瓩



附表4　非鉄金網輸出実績
（昭和28年1月～12月）単位　kg



附表5　　昭和28年度伸銅品，鉛，亜鉛，非鉄金網，軽金属地区別臨検検査実績表

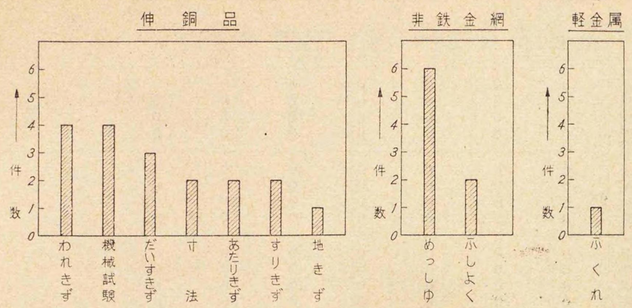
月別	種別＼地区別	東京 検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤り	最低臨界に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他	大阪 検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤り	低臨界に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他
4	伸銅品	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	4	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	伸銅品	6	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	13	0	0	0	0	0	0	6	1	0	1	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0
6	伸銅品	5	0	0	0	0	0	0	11	1	1	0	0	0	1
	鉛亜鉛	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	1	0	0	0	0	0	0	17	4	0	4	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0
7	伸銅品	3	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	3	0	0	0	0	0	0	5	1	0	1	0	0	0
	軽金属	1	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0
8	伸銅品	2	0	0	0	0	0	0	5	1	1	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0
	非鉄金網	1	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0
9	伸銅品	4	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
10	伸銅品	20	0	0	0	0	0	4	7	3	3	0	0	0	0
	鉛亜鉛	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0
11	伸銅品	8	0	0	0	0	0	0	5	2	0	2	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
12	伸銅品	18	2	2	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	5
	鉛亜鉛	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	伸銅品	3	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	伸銅品	18	3	3	0	0	0	1	17	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金	6	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0
3	伸銅品	20	1	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	軽金属	3	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0
小計	伸銅品	118	6	5	1	0	0	5	90	7	5	2	0	0	6
	鉛亜鉛	14	0	0	0	0	0	0	8	1	0	1	0	0	0
	非鉄金網	30	0	0	0	0	0	0	44	7	0	7	0	0	0
	軽金属	16	0	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0	0	0
合計		178	6	5	1	0	0	5	209	15	5	10	0	0	6

附表5　昭和28年度伸銅品，鉛，亜鉛，非鉄金網，軽金属地区別臨検検査実績表

月別	種別＼地区別	名古屋 検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他	福岡 検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他
4	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	伸銅品	3	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	伸銅品	5	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
1	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	2	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0
2	伸銅品	7	0	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	2	0	0	0	0	0	0	21	1	0	1	0	0	0
3	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
小計	伸銅品	15	0	0	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	軽金属	9	1	0	1	0	0	0	41	1	0	1	0	0	0
合計		24	1	0	1	0	0	0	140	1	0	1	0	0	0

附表5　昭和28年度伸銅品，鉛，亜鉛，非鉄金網，軽金属地区別臨検検査実績表

月別	種別＼地区別	横浜 検査件数	事故件数	事故の内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	包装条件に達しないもの	無表示	その他	備考
4	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	
5	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	
6	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	
7	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鈴	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	1	0	0	0	0	1	0	
8	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	
9	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	
10	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	
11	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	
12	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	
1	伸銅品	1	0	0	0	0	1	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	1	0	0	0	0	1	0	
	軽金属	1	0	0	0	0	1	0	
2	伸銅品	2	0	0	0	0	2	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	軽金属	0	0	0	0	0	0	0	
3	伸銅品	0	0	0	0	0	0	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	0	0	0	0	0	0	0	
	輸金属	0	0	0	0	0	0	0	
小計	伸銅品	3	0	0	0	0	3	0	
	鉛亜鉛	0	0	0	0	0	0	0	
	非鉄金網	1	0	0	0	0	1	0	
	輸金属	2	0	0	0	0	2	0	
合計		6	0	0	0	0	6	0	



鉄鋼二次製品

Ⅰ　亜鉛メツキ鋼板

1.　輸出の状況

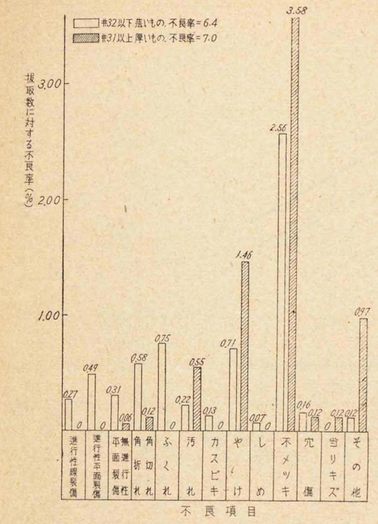
昭和28年1月より輸出品取締法第4条による指定品目となつた「亜鉛メツキ鋼板」について本年度は品質的に画期的な飛躍の年であり，多くの期待が懸けられていたにも拘らず，6月頃より発生した悪質クレームについて世の鋭い批判を浴びるに至つたことは耳目に新しいところである。しかもこれらは倒産寸前の悪質により行われた数量不足，級外品による粗悪品質の輸出によるもので，既に詳細については発表ししてしてあるのでここでは割合するが，これらのクレームは本品目の指定前並びに指定発表後実施に至る間の間隙を覗つて最後の足がきを見せた一部悪質業者の醜悪な一面を遺憾なく発揮したものとみてよい。

この為に，当所を初めとして輸出課，日本亜鉛鉄板輸出組合を打つて一丸とする不良防止対策の樹立により，組合メーカーより正規に出荷したものはその証として引受書を発行せしめ，それ以外の所謂市中品を予知してこれを取締ると共に，不良品輸出業者に対しては法第7条の9による報告義務命令を課し，厳重にこれを監視していたところ，不良品の輸出は殆んどその影を絶ち，9月よりは公式に取上げられたクレームは絶無となつている。しかも12月末から一般機械関係の検査を行うことをもつて発足した日本検査(株)が組合との協定により組合員より出荷する「亜鉛メツキ鋼板」の全件検査を実施することとなり，当所の臨検はメーカーへの従来の趣旨による臨検と，日検(株)への指導と両面を担うに至つた。この間，日検(株)は少数の人員でしかも組合メーカーよりの派遣員により検査を実施した為，輸出量のピーク時等には検査が完全に実施し得ず，又判定上の不信等があつて日検(株)の検査済のものについて要再検の処置をとつたものもあつたが，逐次人員的にも充実し，判定基準等も了解されるに至つている。特に3月には輸出量28,000 M/T を超過し，戦前戦後を通じて最大量の実績を挙げ，鉄鋼製品中の王座であることを遺憾なく発揮した。翻つて本年度の輸出量を見ると，総量 219,338M/T，金額 49,029,429.65 $ で前年 223,957 M/T，金額 54,434,535 $ に比較して僅か減少している。

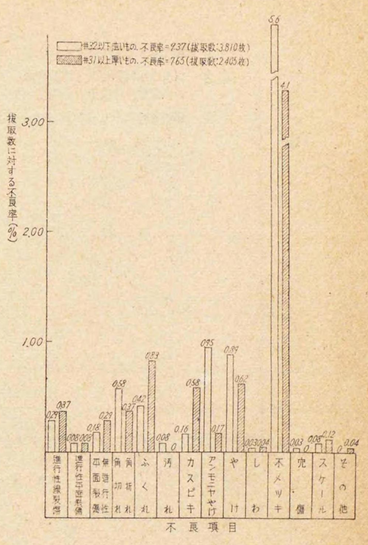
輸出価格については本年度中は特に激変なく，ＵＳＧ#32 でＦＯＢ235$～220$を上下し，年度末には下降している。又業界の小側との折渉により亜鉛リベート屯当り 50,000円より輸出振興に成功したことも見逃せない。

2.　検査の状況

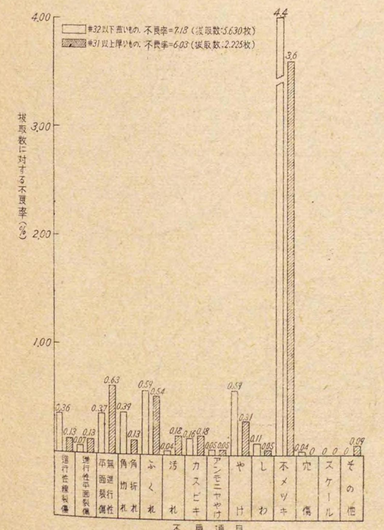
昭和28年1.4半期外観不良率比較図



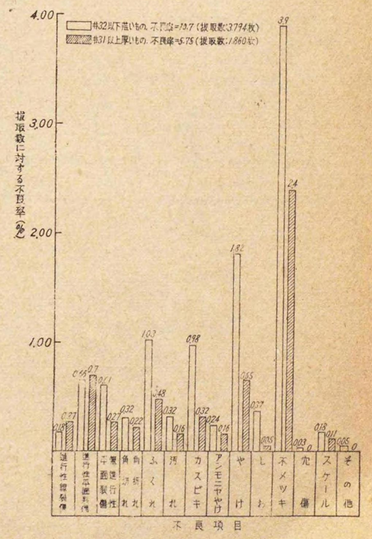
昭和28年2.4半期外観不良率比較図



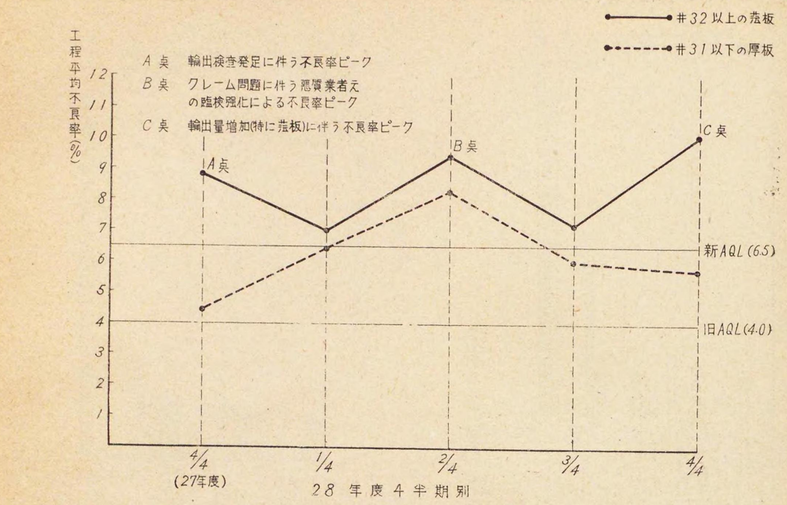
昭和28年3.4半期外観不良率比較図



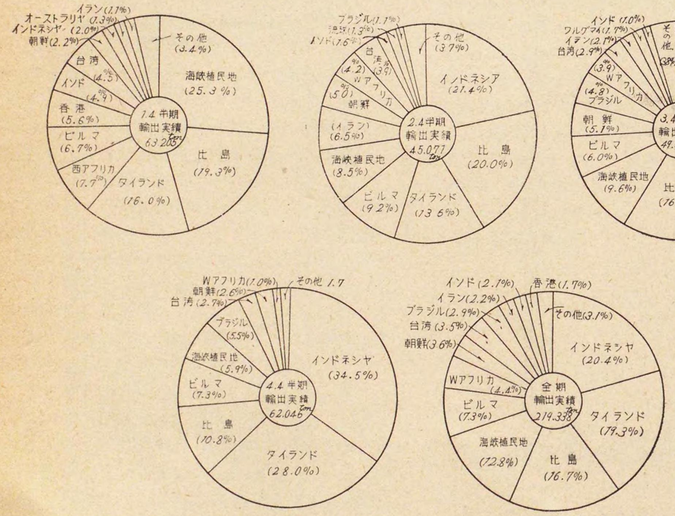
昭和28年4.4半期外観不良率比較図



28年度中に於ける4半期別工程平均不良率推移一覧表



仕向地別輸出船積実績構成図



1.4 半期検査事故明細表

月別	寸法別	種別		数量 (t)	不良内容
4 月	＃ 26×3×8	(平)	1.25	5	不メツキ，やけ
5 月	32×2.5×8	(平)	0.6	23	外傷，不メツキ
	32×2.5×6	(波)	〃	4	不メツキ，外傷
	32×3×6	(平)	〃	20	ふくれ，やけ，不メツキ
	32×3×6	(平)	〃	100	不メツキ，外傷，ふくれ
6 月	31×3×7	(平)	1.25	14	不メツキ，外傷
	32×3×6	(波)	0.6	50	不メツキ，外傷
	32×2.5×8	(波)	〃	20	不メツキ，外傷
	26×3×7	(平)	1.25	8.5	やけ．不メツキ
	32×3×6	(平)	0.6	20	ふくれ，外傷
	31×3×6	(平)	0.8	19	外傷．不メツキ、やけ，ふくれ
	32×2.5×7	(波)	0.6	32	波の深さ，ピツチ
	32×2.5×8	(波)	〃	5.5	〃

2.4 半期検査事故明細表

月別	寸法	種別		数量	不良内容
7 月	＃ 32×3×6	(平)	0.6OZ/ft²	200枚	不メツキ，やけ，カスピキ
	30×2.5×6	(波)	〃	1,016kg	不メツキ
	30×2.5×7	〃	〃	〃	やけ，不メツキ，外傷
	30×2.5×8	〃	〃	〃	やけ．外傷
	31×3×6	〃	〃	10,000	やけ，外傷
	33×2.5×8	〃	〃	35,000	不メツキ，やけ，外傷
	32×2.5×8	〃	〃	5,000	不メツキ，外傷
	28×2.5×6	〃	〃	2,000	重量不足
8 月	28×3×8	(平)	0.8	30,000	不メツキ，やけ，カスピキ，外傷
	32×3×7	〃	0.6	6,500	不メツキ，やけ，アンモニヤやけ，外傷，よごれ
	32×2.5×7	(波)	0.6	5,000	不メツキ，やけ，アンモニヤやけ，外傷
	32×2.5×8	〃	0.6	15,000	不メツキ，外傷，アンモニヤやけ
9 月	31×3×8	(平)	1.25	20,000	不メツキ，アンモニヤやけ，ふくれ

3.4 半期検査事故明細表

月別	寸法	種別		数量 (kg)	不良内容
10 月	＃ 32×3×7	(平)	0.6OZ/ft²	2,000	不メツキ，ふくれ
	32×3×6	〃	0.6	9,144	不メツキ，カスピキ，やけ，外傷
	31×3×8	(波)	1.25	23,000	亜鉛付着量不足
	32×3×6	(平)	0.6	10,000	ふくれ，不メツキ，外傷
	32×2.5×6	〃	〃	20,000	不メツキ，外傷，ふくれ
	32×2.5×7	〃	〃	3,000	不メツキ，外傷
11 月	32×2.5×6	(波)	0.6	4,000	不メツキ，外傷
	31×3×7	〃	1.25	10,000	外傷，不メツキ，ふくれ
	31×3×10	〃	〃	20,000	ふくれ，やけ，不メツキ，亜鉛付着量不足
12 月	32×2.5×6	(平)	0.6	7,500	不メツキ，やけ，ふくれ，カスピキ
	32×2.5×7	〃	〃	25,000	不メツキ，やけ，カスピキ
	26×3×8	〃	1.25	10,000	外傷，不メツキ，汚れ
	33×2.5×8	(波)	0.6	22,000	不メツキ，しわ，やけ，外傷

4.4 半期検査事故明細表

月別	寸法	種別		数量(kg)	不良内容
1月	# 32×3×6	(平)	0.60Z/ft²	27,000	不メツキ，カスピキ，やけ
	〃	〃	〃	10,000	カスピキ，不メツキ，外傷
	〃	〃	〃	11,000	不メツキ，やけ，カスピキ，ふくれ
	# 30×3×8	(波)	〃	2,000	不メツキ，外傷
2月	32×2.5×8	(平)	0.6	10,000	不メツキ，しわ，ふくれ
	28×3×8	〃	0.7	10,000	不メツキ，外傷，カスピキ
	32×3×6	〃	0.6	25,000	やけ，不メツキ，ふくれ
	31×3×8	〃	1.25	4,000	やけ，外傷
	30×3×8	(波)	0.6	2,000	外傷，不メツキ
	28×3×6	〃	0.7	10,000	不メツキ，外傷，やけ
	31×3×6	〃	1.25	3,500	やけ，外傷
	32×3×6	(平)	0.6	20,000	やけ，不メツキ
	〃	〃	〃	98,200	やけ，不メツキ
3月	32×2.5×7	〃	〃	20,000	ふくれ，やけ，不メツキ
	26×3×9	(波)	1.25	15,000	巾および波の深さ
	無表示6件				

3. 検査実績表

28年度1.4半期臨検々査実績表

月別	地区別	臨検	事故	成績 合格	成績 最低標準になしも低い	確認検査
4月	東京	17	—	17	—	—
	大阪	15	1	14	1	—
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	8	—	8	—	—
5月	東京	14	2	12	2	1
	大阪	13	2	11	2	1
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	3	—	3	—	—
6月	東京	17	2	15	2	2
	大阪	14	5	9	5	1
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	3	1	2	1	—
1.4半期合計		104	13	91	13	5

28年度2.4半期臨検々査実績表

月別	地区別	臨検	事故	成績 合格	成績 最低標準になしも低い	確認検査
7月	東京	8	—	8	—	—
	大阪	20	8	12	8	—
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	1	—	1	—	—
8月	東京	2	—	2	—	—
	大阪	25	4	21	4	—
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	1	—	1	—	—
9月	東京	5	—	5	—	—
	大阪	43	1	42	1	—
	名古屋	—	—	—	—	—
	福	1	—	1	—	—
2.4半期合計		106	13	93	13	0

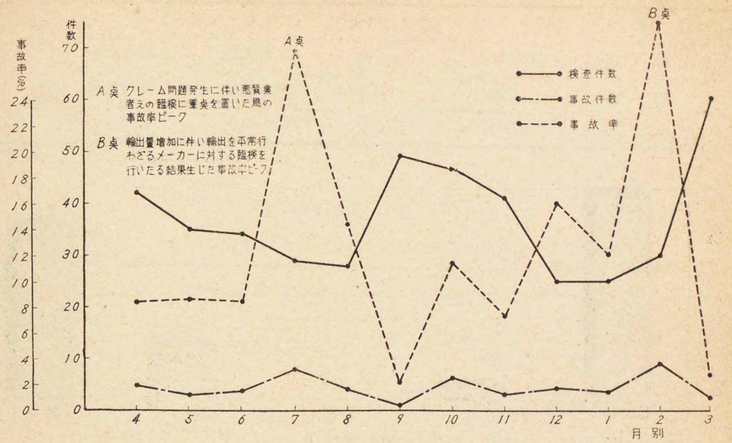
28年度3.4半期臨検々査成績表

月別	地区別	臨検	事故	成績 合格	成績 最低標準になしも低い	確認検査
10月	東京	4	—	4	—	—
	大阪	39	6	33	6	4
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—
11月	東京	3	—	3	—	—
	大阪	37	5	32	5	—
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	1	—	1	—	—
12月	東京	7	1	6	1	—
	大阪	16	3	13	3	2
	名古屋	—	—	—	—	—
	福	2	—	2	—	—
3.4半期合計		109	15	96	13	6

28年度4.4半期臨検々査実績表

月別	地区別	臨検	事故	成績 合格	成績 最低標準になしも低い	確認検査
1月	東京	4	—	4	—	—
	大阪	21	4	17	4	3
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—
2月	東京	15	2	13	2	2
	大阪	20	7	13	7	5
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—
3月	東京	17	1	16	1	1
	大阪	26	—	26	—	—
	名古屋	—	—	—	—	—
	福岡	17	1	16	1	1
4.4半期計		120	15	105	15	12
年度合計		441	54	385	54	18

28年度中に於ける臨検件数と事故率推移一覧表



Ⅱ 線材製品

1. 輸出の状況

普通線材製品（指定品目）28年度中の輸出実績は27年度と殆んど変らず50.257 M/T となつて居り，国内の不況と相俟つて一応操短の結果が明白に現われている。

これら内需の不活潑と現物過剰気味に加えて特需も先行き期待が持てず中小問屋並びに製品メーカーはジリ貧的な苦境に追込まれ結論的には輸出の伸長をおいてこれを救う道は見当らない現況となつている。

この間輸出価格は#8亜鉛メツキ鉄線で契約面125~140$の線を上下し，これを原材料ロツド普通価格約115$と比較すると出血生産であることは明らかである。しかし乍ら国内の方も操短により一応価格は安定したとはいえ，需要なく横這状態にあるため月7,000M/Tを目標として鋭意輸出にロツドメーカー初め製品メーカーが打つて一丸となり努力を続けていることも注目に価する。

特に5月より線材製品輕出組合が発足し，輸出価格の隘路打開の一助として副資材である亜鉛価格の値引交渉を行い6月積よりこれの実施をみたこれも大きな成果であつた。

なお業界としては先行き南米等に大量の輸出が成約された場合現在の指定輸出メーカーの形態を再検討する必要に迫られると思惟されるが，当分の間は市況の挽回が望み薄であるため，操短を続けてゆくことが予想される。

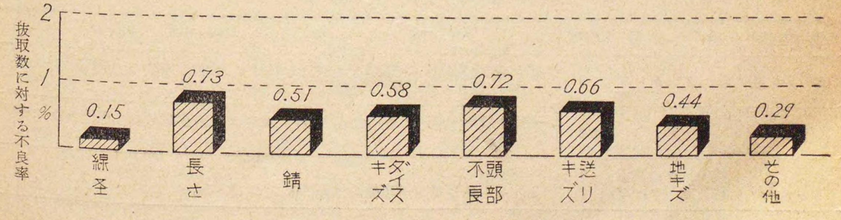
なお本年度中に於ける品質については次の各項に示す通りであるが，その向上の跡顕著なものがあるのを見受けられる。

2. 検査の状況

鉄丸クギ昭和28年度検査項目別不良率一覧図

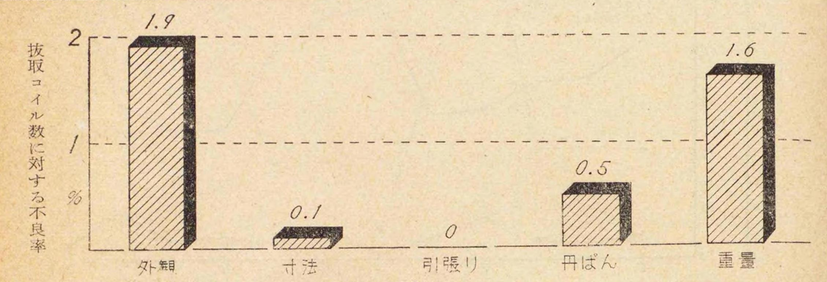
東京地区 109本/3172本 約3.4%，大阪地区 892本/20600本 約4.3%，福岡地区 90/2900 約3.1%，

全国平均不良率 1091本/26672本 約 4.1%



亜鉛メツキ鉄線昭和28年度検査項目別不良率一覧図

地区別＼項目	外観	寸法	引張リ	丹ばん	重量
東京地区	22/1013	0/731	0/265	4/680	16/871
大阪地区	2/250	1/170	0/165	1/240	1/205
計（全国工程平均不良率）	(1.9)	(0.1)	(0)	(0.5)	(1.6)



(註) 不良コイル数/抜取コイル数　名古屋，福岡地区なし

バーブドワイヤー昭和28年度検査成績表一覧

地区別＼項目	件数	外観	寸法(線径)	ピッチ	引張リ	丹ばん	重量
東京	3	0/30	0/15	0/15	0/5	0/30	0/15
大阪	20	11/811	0/791	0/791	—	54/811	0/811
名古屋	—	—	—	—	—	—	—
福岡	—	—	—	—	—	—	—
計（全国工程平均不良率%）	23	(1.3)	(0)	(0)	(0)	(6.4)	(0)

(註) 大阪地区の臨検20件中には臨検不能1件が含まれている。不良コイル数/抜取コイル数

普通鉄線昭和28年度検査成績表一覧

地区別＼項目	件数	外観	寸法	引張リ	重量
大阪	3	0/20	0/15	0/5	0/20
計	3	0	0	0	0

(註) 大阪地区以外は臨検々査なし

釘用鉄線昭和28年度検査成績一覧

地区別＼項目	件数	外観	寸法	引張リ	重量
東京	18	0/180	0/115	1/130	0/140
計（全国平均不良率%）	18	0	(0)	(1)	(0)

(註) 東京地区以外は臨検々査なし臨検18件中には再検査1件（引張リ不良）。

事故内容一覧表

月別	地区別	項目	件数	事故内容
9	大阪	鉄丸クギ	3	長さ不良が事故の主原因となつたもの1件，線径が事故の主原因となつたもの1件，送りキズが事故の主原因となつたもの1件。
10	〃	〃	2	錆が事故の主原因となつたもの1件，ダイスキズが事故の主原因となつたもの1件。
11	〃	亜鉛メツキ鉄線 鉄丸クギ	1 3	丹ばん不良。 3件とも送りキズが事故の主原因となつている。

月別	地区別	項目	件数	事故内容
11	東京	亜鉛メツキ鉄線	1	重量不足。
12	〃	釘用鉄線	1	抗張力不良。
2	大阪	亜鉛メツキ鉄線	3	(#33)外観不良1件。(#31，#32)外観と重量不足によるもの2件。

(註) この他無表示による事故6件。

28年度線材製品仕向地別項目別輸出実績

(単位 ton，ton以下四捨五入，100ton未満の需要地はその他へ含まれる)

項目＼仕向地	Ryukyu	Iran	Canada	U.S.A	Paraguay	Ro Korea	Taiwan	P.I.	Indo China
鉄線	150	305	—	—	—	152	1,719	1,418	—
普通釘	849	—	456	899	—	—	243	389	—
針金	153	—	—	—	675	—	9,333	1,228	—
有刺鉄線	—	—	—	—	1,045	—	—	304	1,512
製線鉄螺	—	—	—	447	—	—	207	145	—
金網	225	—	—	—	—	—	193	213	—
計	1,377	305	456	1,346	1,720	152	11,695	3,697	1,512

項目＼仕向地	Thailand	Indonesia	Brazil	Argentine	Hongkong	Straits Settlement	Burma	India	Pakistan
鉄線	209	—	389	—	—	—	—	143	410
普通釘	5,839	9,597	—	—	795	399	996	—	—
針金	146	421	116	—	—	—	243	2,721	2,215
有刺鉄線	—	—	3,795	203	—	—	—	—	—
製線鉄螺	179	—	—	—	—	—	—	254	—
金網	199	—	—	—	—	115	—	—	—
計	6,572	10,018	4,300	203	795	514	1,239	3,118	2,625

項目＼仕向地	Iraq	その他	Grand Total
鉄線	—	83	4,978
普通釘	—	258	20,720
針金	—	269	17,520
有刺鉄線	—	180	7,039
製線鉄螺	—	376	1,608
金網	166	749	1,860
計	166	1,915	53,725

23年度線材製品検査実績表

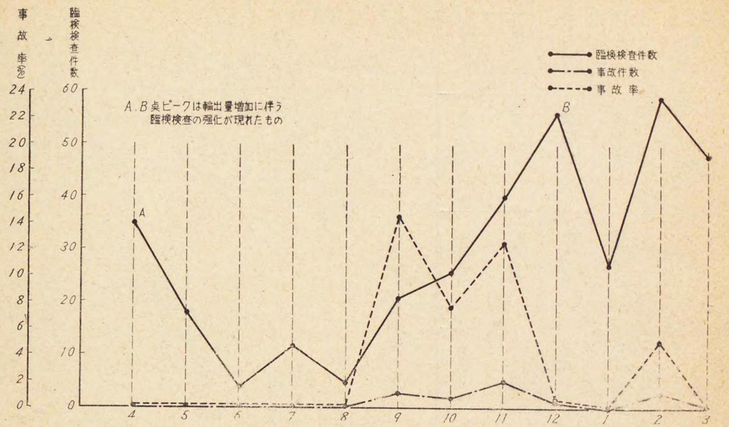
	臨検件数	合格	要再検	不能	条件付	再検査
鉄丸釘	206	198	8	—	—	8
亜鉛メツキ鉄線	117	105	5	5	2	5
普通鉄線	3	2	—	1	—	—
バーブドワイヤ	23	22	—	1	—	—
鉄用鉄線	20	19	1	—	—	1
ナマシ鉄線	3	3	—	—	—	—
計	372	349	14	7	2	14

3. 検査実績表

月別	地区別	臨検々査件数	要再検査件数	臨検々査件数 合格	条件付合格	等級の誤り	最低標準に達しないもの	臨検不能	再検査件数
4	東京	13	—	13	—	—	—	—	—
	大阪	22	—	22	—	—	—	—	—
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
5	東京	11	—	11	—	—	—	—	—
	大阪	7	—	7	—	—	—	—	—
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
6	東京	2	—	2	—	—	—	—	—
	大阪	2	—	2	—	—	—	—	—
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
7	東京	7	—	7	—	—	—	—	—
	大阪	5	—	5	—	—	—	—	—
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
8	東京	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪	5	—	5	—	—	—	—	—
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
9	東京	6	—	6	—	—	—	—	—
	大阪	15	3	12	—	—	3	—	3
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
10	東京	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪	26	2	21	—	—	2	3	2
	名古屋	3	—	3	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
11	東京	12	1	11	—	—	1	—	1
	大阪	38	4	30	2	—	4	2	4
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	8	—	8	—	—	—	—	—
12	東京	12	1	11	—	—	1	—	1
	大阪	39	—	39	—	—	—	—	—
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	5	—	5	—	—	—	—	—
1	東京	3	—	3	—	—	—	—	—
	大阪	24	—	24	—	—	—	—	—
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
2	東京	6	—	6	—	—	—	—	—
	大阪	41	3	37	—	—	3	1	3
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	12	—	12	—	—	—	—	—
3	東京	2	—	1	—	—	—	1	—
	大阪	42	—	42	—	—	—	—	—
	名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	4	—	4	—	—	—	—	—
計		372	14	349	2		14	7	14

（註） 12月中の大阪地区の臨検々数39件中にはビルマ向の依頼検査鉄丸釘の9件が含まれており9件とも適合合格となつている。

28年度中に於ける臨検件数と事故率一覧表



Ⅲ 本 ネ ジ

1. 検査経過の概要

法律の主旨徹底，品質に対する偏重観念の是正等，いはゆる漸進的な準備期間として第一年度を経過した本品種においては，一応初期の目的が達成されたものとして第二年度である本年は本来の臨検態勢に移向し特に重点的な検査方針を樹て年間を経過したものである。

即ち直接生産系の工場に対しては過去の検査結果よりする工程平均別による実態分類，社内検査充実面より品質傾向，生産高対契約高の能力面より品質への影響，外註形態をとる自社製品の構成比率等，これらの品質形成要素を基底として検査指向を配分しつつ，更に間接系の集荷扱ひされるものについては品種別状態，仕向地別取引条件よりする品質に疑点のもたれるもの，純然たる市中品の集荷によるものを考察，これより検査頻度を調整，徹底して重点的粗悪品輸出防止を計つた。かたはら検査を契機として，品質管理，更に工程管理よりする計測管理の浸透を策し，恒常的な品質安定を要請し，特に事故発生については徹底的に原因を究明し，再度誘発のおそれありとされるものについてはその要因の排除に努める等，厳重な検査の実施及び業界の自主的運営を加へて推進して来た。

従つて前年度の総花的経過に反し重点的方向へと向つた本年は工場側，輸出側においても特に慎重な対策をもつて輸出にあたる等，歩一歩前進への成果は検査結果にも現れてその成果先づ見るべきものありと思料されるものがあつた。

特に国内不況の周波が見え初めた本年度において中小企業で構成される本業界においても，直接間接，打撃を蒙る点はすくなくなく，まして経営面も日毎に困難を加へつつあつたとき，輸出振興により起死回生策をとるこの種業界において輸出品質の在り方は特に真剣に考へられていたことは最も注目すべきものがあつた。

2. 輸出の状況（付表1木ネジ輸出状況参照）

本年度においては年間総計416万グロスの実績を挙げ昨年度に比較すれば約8万グロスの増加となり，依然昨年度の輸出線を辿つているが，昨年度は圧倒的に米国向輸出を謳歌していた本製品は今年度に入り逐次消長を見，第3.4半期には半減と言ふ結果となつて，輸出依存度の高い本業界においては漸く焦慮の念濃き感があつた。

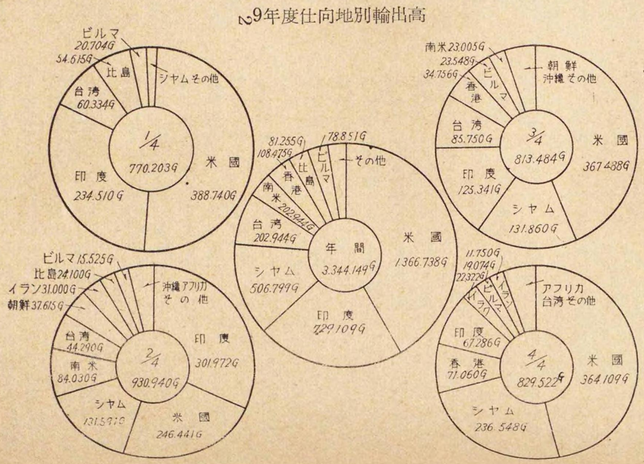
加へて国際市場としては米国大陸と東南アジア地区の先進国と後進国に限有されており，更に米国のそれが単一品種毎に契約量も5,000グロス以上にまとまり総体的に大口需要であるに反し，東南アジア地区のは微量需要のため品種別構成が多岐でしかも稀少需要であり，これが結果的には価格，生産利潤亦相対的関係を示していることで，国内需要の停滞を何んとかして米国向輸出により補はんとする本業界においてはこの米国不振は大きい打撃となつて表面化していたことは否めない。

なかんづく米国に於いて昨年度より話題を提起していた関税率引上げの具体化せんとする兆は業

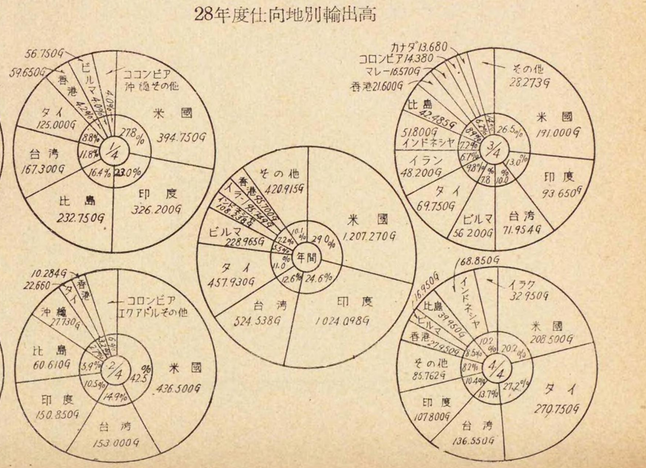
付表1　昭和28年度マッチ輸出状況

年度別		昭和27年度				計	昭和28年度				計
期別		1/4	2/4	3/4	4/4		1/4	2/4	3/4	4/4	
月別		4～6	7～9	10～12	1～3		4～6	7～9	10～12	1～3	
輸出高		770,203	930,940	813,848	829,522	3,344,149	1,419,408	1,028,441	719,542	996,012	4,163,403
地区別	関東	442,141	423,343	496,219	486,590	1,848,293	903,207	565,894	325,078	520,943	2,315,102
	中部	30,044	165,093	68,215	144,561	407,913	223,070	86,668	228,573	260,589	799,184
	西部	298,018	342,504	248,650	198,371	1,086,943	293,130	375,879	165,607	241,500	1,049,117

27年度仕向地別輸出高



28年度仕向地別輸出高



付表2　昭和28年度マッチ検査状況

年別	期別	月別	検査件数 地区別 東京	名古屋	大阪	福岡	計	合格件数 地区別 東京	名古屋	大阪	福岡	計	事故件数 地区別 東京	名古屋	大阪	福岡	計	事故内容 最低標準に達しないもの 地区別 東京	名古屋	大阪	福岡	計	事故内容 事故内容の軽微なもの 地区別 東京	名古屋	大阪	福岡	計	その他 地区別 東京	名古屋	大阪	福岡	計	備考
昭和二十七年度	1/4	4	11	—	4	5	20	9	—	3	5	17	2	—	1	—	3	—	—	1	—	1	2	—	—	—	2	—	—	—	—	—	
		5	18	—	11	—	29	17	—	9	—	26	1	—	2	—	3	1	—	2	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		6	9	—	11	—	20	9	—	7	—	16	—	—	4	—	4	—	—	4	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		計	38	—	26	5	69	35	—	19	5	59	3	—	7	—	10	1	—	7	—	8	2	—	—	—	2	—	—	—	—	—	
	2/4	7	22	—	9	4	35	21	—	6	2	29	1	—	3	2	6	1	—	2	2	5	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	
		8	23	—	11	—	34	21	—	9	—	30	2	—	2	—	4	2	—	2	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		9	18	—	3	5	26	17	—	3	2	22	1	—	—	3	4	1	—	—	3	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		計	63	—	23	9	95	59	—	18	4	81	4	—	5	5	14	4	—	4	5	13	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	
	3/4	10	26	—	3	—	29	25	—	2	—	27	1	—	1	—	2	1	—	1	—	2	—	—	—	—	—	1	—	1	—	2	
		11	22	5	15	—	42	19	5	7	—	31	3	—	8	—	11	3	—	8	—	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		12	12	—	11	—	23	12	—	7	—	19	—	—	4	—	4	—	—	4	—	4	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	
		計	60	5	29	—	94	56	5	16	—	77	4	—	13	—	17	4	—	13	—	17	—	—	—	—	—	1	—	2	—	3	
	4/4	1	27	—	10	—	37	27	—	10	—	37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	
		2	24	—	18	—	42	21	—	13	—	34	3	—	5	—	8	2	—	5	—	7	1	—	—	—	1	2	—	—	—	2	
		3	18	—	3	—	21	16	—	3	—	19	2	—	—	—	2	2	—	—	—	2	—	—	—	—	—	2	—	1	—	3	
		計	69	—	31	—	100	64	—	26	—	90	5	—	5	—	10	4	—	5	—	9	1	—	—	—	1	5	—	1	—	6	
	合計		230	5	109	14	358	214	5	79	9	307	16	—	30	5	51	13	—	29	5	47	3	—	1	—	4	6	—	3	—	9	
昭和二十八年度	1/4	4	34	—	9	—	43	34	—	9	—	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		5	34	—	10	4	48	30	—	9	1	40	7	—	1	3	11	4	—	1	3	8	3	—	—	—	3	—	—	—	—	—	
		6	32	—	7	3	42	32	—	6	—	38	—	—	1	3	4	—	—	1	3	4	—	—	—	—	—	5	—	—	—	5	
		計	100	—	26	7	133	96	—	24	1	121	7	—	2	6	15	4	—	2	6	12	3	—	—	—	3	5	—	—	—	5	
	2/4	7	16	4	8	3	31	16	—	7	3	26	—	—	1	—	1	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	
		8	9	—	—	—	9	9	—	—	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	
		9	19	—	8	—	27	19	—	6	—	25	—	—	2	—	2	—	—	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	
		計	44	4	16	3	67	44	—	13	3	60	—	—	3	—	3	—	—	3	—	3	—	—	—	—	—	2	—	1	—	3	
	3/4	10	20	—	9	—	29	20	—	4	—	24	—	—	7	—	7	—	—	5	—	5	—	—	2	—	2	—	—	—	—	—	
		11	8	—	27	—	35	8	—	22	—	30	—	—	7	—	7	—	—	5	—	5	—	—	2	—	2	—	—	—	—	—	
		12	14	—	10	—	24	13	—	7	—	20	1	—	3	—	4	1	—	3	—	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		計	42	—	46	—	88	41	—	33	—	74	1	—	17	—	18	1	—	13	—	14	—	—	4	—	4	—	—	—	—	—	
	4/4	1	20	—	18	—	38	19	—	17	—	36	2	—	—	—	2	1	—	—	—	1	1	—	—	—	1	—	—	1	—	1	
		2	18	—	3	—	21	18	—	2	—	20	—	—	2	—	2	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		3	6	—	10	—	16	5	—	9	—	14	1	—	2	—	3	1	—	1	—	2	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	
		計	44	—	31	—	75	42	—	28	—	70	3	—	4	—	7	2	—	2	—	4	1	—	2	—	3	—	—	1	—	1	
	合計		230	4	119	10	363	223	—	98	4	325	11	—	26	6	43	7	—	20	6	33	4	—	6	—	10	7	—	2	—	9	

界に与へた打撃も甚大で労賃低率をもつて国際市場価格と競争せんとする加工製品にとつて何らの対策立案の必要があつた訳である。

しかし乍ら後半，印度市場の買付が漸く活気を呈し，又一時全く停止していた台湾市場の買付も始まり，一応米国向の減退をこれにより補つたものの，単位価格面が見た条件は決して適性生産価格に比するものでなく，むしろ出血生産の限界点にあつて，これを契機として原材料価格における二重価格実施の要望が提起され，爾後の輸出状況に全く暗影を投げて本年度を終つたものである。

3. 検査状況について（付表2参照）

別表2の検査状況一覧表にも見られるように検査件数は年間を通じて363件を算へこのうち東京地区230件，大阪地区119件，その他名古屋4件，福岡10件となつている。

検査件数の地区別構成は昨年度と大差なき結果となつているが検査対象別に見るときは，東京地区のそれは全社が直接恒常輸出を行つてゐるものがその全部であるが，大阪地区は70%が集荷業者に残余が生産業者となつてゐるのが注目される。

これは前述第一項の検査経過の概要にも述べられてゐるように，検査対象を重点的に行つた結果であつてすくなく共集荷品を対象としたものについては相当の疑点がもたれていたと見るべきである。

名古屋，福岡地区の両地区のそれは年間各1件の輸出実績に基くものであつて，東京，大阪の両地区に比較すれば時期的契約に基くもので年間を通じて見た場合その検査対象として取り上げるほどのものではない。

事故発生状況については東京地区の11件，大阪地区の26件，福岡4件，計43件が発生し，11.8%の事故率となつてゐる。

これを昨年度と比較すれば2.4%減少率（8件）となつており，これを以て品質認識の徹底と社検の充実の証査と見てよい。

事故件数43件のうち事故区分別に見ると比較的軽微なものは10件で，残余の33件は何れも一見粗悪品と判定されるものであつて，このうち同一製造業者が連続して事故を発生していることはその前例がなく，これに対しては厳重な戒告がよせられていた。

尚このうち集荷業者の扱つた8件は全く不用意に輸出に充当されんとしていたことは否めない事実で事前の臨検結果それが発見されておりこの種のものの在り方に大いに注視がよせられるものである。

4. 事故発生の内容について（付表3参照）

事故発生件数のうち特に粗悪と見られる33件のうち特に顕著な実例を見ると，充づ製造業者の発生したものについては何れも社内検査の不注意によるもので発生原因の主たるものは計測の不徹底による規格外製品の混入及び選別作業中の工数省略による外観欠陥不良品が混入して結果的には品質低下を招いている。

特に前述の大阪地区における連続事故発生のそれは，同一原因による同一欠陥項目によるものであり，何れも再選別再生産の結果，輸出すると言う事態を惹起していたことは特に注目すべきで，しかも恒常輸出実績を有すると言うことに到つては厳重な対策と反省の要切なるものがある。

集荷扱ひのものについては一見して不適格品であることが判定されるもので「さび」「きず」「スリワリの浅いもの」等品質特性を全く具備しない使用に堪えないものであり，何れも簡易に集荷品を輸出に充当せんとしたことは事実でこれが後に業界の輸出に対する「輸出品注文引請書」の自主的施策に迄発展した大きい原因となつている。

以上事故発生の内容と原因について考察されることは直接には社検の不徹底，不注意もあるが間接的にはデフレ強化に伴う国内需要の停滞と加へて取引の不安定から来る国内販売の悪条件を何れも輸出に転嫁せんとする結果であることはおおよそ可くもない。即ち納期切迫と知りつつも契約を締結し，又は生産能力以上に過大受註を行つて生産を強行するの諸要因が大きく影響して品質の極端な，しかも部分的停下を招来していると見られるものがあつた。

5. 品質の状況について

工程平均より見た実態について（付表4参照）

年間の全国平均は外観項目3.76%，寸法形状項目9.75%と昨年度の実態に比較すれば綜合的には外観不良率が約3%の減少となつて，全体的には品質向上の跡が見られるが寸法形状においては若干の増加率を示し，依然この種業界における計測観念の欠如によるものがうかがはれる。

特にこれを各地区別の実情と比較して見ると，付表4においても明らかにその現況が察知されるように東京地区は最も低率であつて外観1.43%，寸法形状2.62%と言う好結果となつている。

これは東京地区在製造業者のほとんどが年間を通じて恒常輸出を行つてゐる関係上常に品質に対しては万全の注意を払つている証査であつて，しかも何れの工場別不良率を見ても約3%範囲の上下限界に位置するといふ非常に品質は安定した状態にある。

これに反し大阪地区のそれは東京と同一ケースと見られる製造業者約7社と比較すると工程平均は約この倍率となつておりなかんづくこのうち常に不安定の様相を示していたと見られるもの3社のバラツキがこの高率の原因となつている。

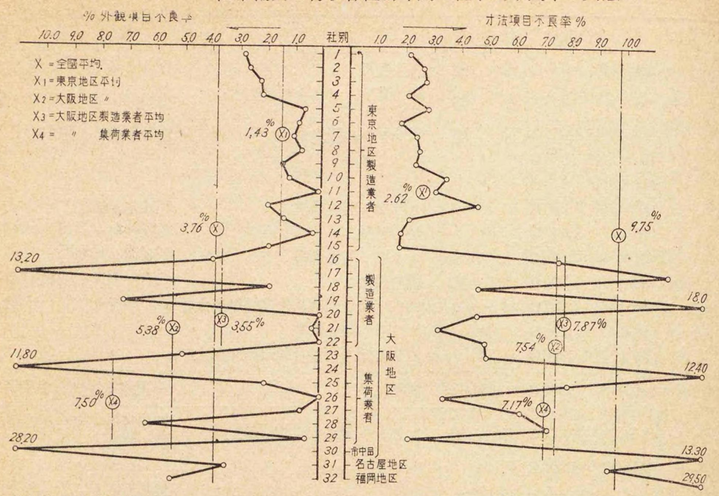
加えてこれに集荷する間接輸出のものを加えた場合も略々これと同一の現象であることは注意を要すべきで，今尚地区別の品種平均は極端なアンバランスとなつており，これが結果的に日本製品の平均品質を低下すると言つた現況には特に注目

付表3　昭和28年度事故発生状況一覧表

検査月日		品種	番手及び数量	仕向地	事故内容	原因
1/4半期	5—2	鉄サラ	#3×¼″ 500G	米国	長さ過長	リペット整形工程時の不整備
	5—11	〃◎	#5×⅝″ 380G	台湾	錆の発生，ダイスキズ及びチヤツクキズ	輸出品に対し軽視最も悪質
	5—18	〃	#9×1½″ 4,000G	沖縄	スリワクの深さ未満	計測管理の不徹底
	〃	〃	#10×1½″ 300G	〃	〃	〃
	〃	〃	#12×2¼″ 300G	〃	〃	〃
	5—22	〃	#5×¾″ 2,880G	ボンベイ	スリワリ深さ未満	測定器具管理不十分
	〃	〃	#6×1″ 1,440G	〃	長さ過長	尖端部切削工程時の不注意
	〃	〃	#4×¾ 2,160G	〃	スリワリ深さ未満	測定器具管理不十分
	6—4	〃◎	#5×⅝″ 800G	台湾	錆の発生	品質に対する認識不足
	6—22	〃	#6×1″ 1,227G	ボンベイ	スリワリ深さ未満及超過軸径過大	管理不十分と工具の取扱い不注意
	〃	〃	#8×1″ 1,653G	〃	スリワリ深さ未満	〃
	〃	〃	#9×1½″ 1,296G	〃	スリワリ深さ未満及超過軸径過大	〃
2/4半期	7—10	〃	#12×2″ 300G	ラングーン	軸径過小	品質無確認のまま表示
3/4半期	10—6	〃	#6×¾″ 7,000 G	米国	スリワリ深さ未満及び超過	機械設備の老朽化と検査の観念が無能
	〃	〃	#5×¾″ 4,900G	〃	〃	〃
	10—8	〃	#4×½″ 8,800G	台湾	〃	他工場製品で受入社内検査の不充分
	〃	〃	#5×⅝″ 4,000G	〃	スリワリ深さ未満	〃
	〃	〃	#8×1″ 2,000G	〃	〃	〃
	10—21	〃	#8×1″ 2,640G	ビルマ	長さ過大	教社の製品集荷により社内受入検査不徹底
	〃	〃	#5×½″ 344G	〃	チヤツクキズ，軸径過小	〃
	11—24	〃	#7×¾″ 900G	〃	スリワリ深さ未満，軸径過大	生産能力以上の受註による
	〃	〃	#7×1″ 600G	〃	頭部成形，スリワリ深さ未満	〃
	〃	〃	#8×1″ 1,000G	〃	スリワリ深さ未満	〃
	〃	〃	#9×1¼″ 150G	〃	ネジ部切削，頭部の成形	〃
	〃	〃	#9×1½″ 600G	〃	〃	〃
	12—12	〃	#6×¾″ 2,500G	台湾	頭部成形	製作上の不注意
	12—15	〃◎	#5×⅝″ 50G	アラビヤ	スリワリのかたより，軸径過小	輸出品取締法の知識皆無
	〃	〃◎	#6×¾″ 100G	〃	ネジ部切削	〃
	〃	〃◎	#7×⅞″ 200G	〃	ネジ部切削，スリワリのかたより	〃
4/4半期	1—20	〃	#1×½″ 300G	南米	スリワリ深さ未満及び超過	細径の為製作困難
	2—8	〃	#7×1″ 1,500G	パスラ	チヤツクキズ，頭部の亀裂	設備の不完全と生産能力以上の受註
	3—15	〃	2.4m/m×13m/m 500G	バンコツク	スリワリ深さ未満	技術的に製作不可能
	3—23	〃	#4×⅝ 1,050G	米国	打痕及チヤツクキズ	不適合の工具使用

備考　◎印は一見して粗悪品と見られるもの。

付表4　恒常輸出を行う各社別年間工程平均不良率の実態



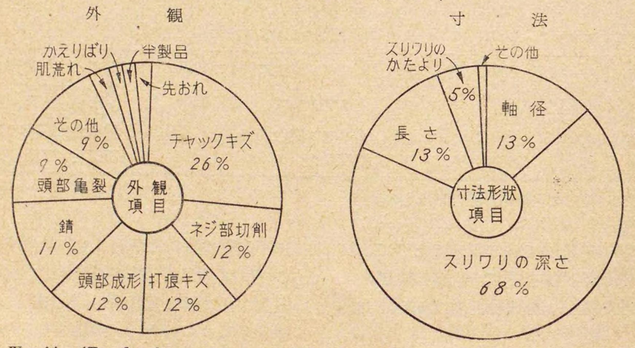
すべきである。

不良内容について

外観項目においては製作上の不注意，不適加工の原因であるチヤツクキズ，ネジ部切削不良，頭部成形不良が60%を示しており残余の欠陥項目は最終選別抽出の見劣りによるものである。特にこのうちネジ部切削不良は品質評価上致命傷ともいふべき欠点項目に属するものであり，すくなく共切削工程においては徹底して注意が払われなければならない。

寸法形状項目においては，そのほとんどが計測上の不注意或は治工具の不適使用によつて発生しており，特にこの種のものは製作工程の管理のやまりにより連続発生する傾向を有するものであつて，細心の注意を払い品質特性の維持に努める可きで，未だ計測管理，品質管理の徹底を要求されるものがある。

年間平均不良構成比率



Ⅳ 鉄鋼金網

1. 輸出の状況

年間輸出高は本表に示されるように1860トン73

3万ドルの実績を挙げ全般的に低調な他製品に比較して昨年度を上廻る好調な輸出活動を営んでいる。特にこのうち熔金網の伸長は真に顕著で昨年

昭和28年度仕向地別輸出高　　単位重量 kg

ドル地域 仕向地	重量 M/T 金額 $	清算勘定地域 仕向地	重量 M/T 金額 $	ポンド地域 仕向地	重量 M/T 金額 $
米国	22.906 27,490.00	朝鮮	21.252 9,482.83	香港	25.723 10.581.00
南米	174.554 82,983.46	台湾	192.577 77,627.47	ニュージランド	18.997 11,192.04
沖縄	225.487 55,943.46	比島	213.492 76,072.55	ビルマ	78.909 28.437.31
カナダ	51.901 24,031.19	インドシナ	7.019 5,513.96	セイロン	19.426 6,144.83
アフリカ	15.913 7,391.26	タイランド	198.906 93,529.47	インド	52.888 17.211.28
イラン	6.100 2,946.96	インネシア	46.875 17.959.29	イラク	165.827 61,958.06
ベルギー	7.098 3,499.60	その他	0.943 394.89	クワイト	25.818 12,387.53
南洋諸島	25.286 5,239.52			アフリカ	96.973 49,491.06
その他	2.376 997.39			マレー	114.523 40,750.20
				その他	14.113 4,762.34
計	531.621 210,492.84	計	681.064 280,580.46	計	613.197 242,915.65

総計　1,860.379 M/T　733,988.95 $

品種別輸出高　　単位本数及平方面積

期別＼品種	亜鉛引繊金網 Roll	青エナメル塗繊金網 Roll	亀甲金網 Roll	熔接金網 Ft²	菱形金網 Ft²	クリンプ金網 Ft²
1/4	5,666	11,625	2,485	209,700	—	—
2/4	7,232	13,431	1,434	76,890	88,700	—
3/4	11,922	19,268	1,625	1,742,172	—	—
4/4	9,479	29,122	1,972	366,710	—	7,500
計	Roll 34,299	Roll 73,446	Roll 7,512	Ft² 2,395,472	Ft² 88,700	Ft² 7,500

度の増率を示す活況を呈し，本製品の海外新規需要は注目すべきものがあり，独特の製品分野の将来が期待されている。

この外，繊金網については何れも一般性の需要製品で特殊規格を要求される構造品種は認められないが仕向地別状況においては何れも亜熱地域がそれぞれの大口輸出需要となつており，防蝕，防腐用途に充当されると見られるものがあつて，日本独特の繊加工技術製品としての海外需要による輸出伸長の前進は明るいものがある。

しかし乍ら原料高に伴い国際価格の上廻る現に況おいてはこれが輸出伸長の阻害となつていることは明瞭で，価格面の問題が調整されるときは更に活況のある輸出活動の営まれるものであつてすくなく共輸出品についての二重価格制の実施は挙げて業界の強い要望となつている。

2. 検査状況

2—1　地区別状況（年間）

期別	地区別＼項目別	臨検件数 件数	臨検件数 数量	合格件数 件数	合格件数 数量	事故件数 件数	事故件数 数量	事故内容 最低標準に達しないもの	事故内容 不能件数
1/4	東京	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪	39	3,711 Roll	35	3,446 Roll	4	265 Roll	4	2
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	39	3,711 Roll	35	3,446 Roll	4	265 Roll	4	2

期別	地区別	臨検件数		合格件数		事故件数		事故内容	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量	最低標準に達しないもの	不能件数
2/4	東京	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪	16	2,190	16	2,190	0	0	0	0
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	16	2,190	16	2,190	0	0	0	0
3/4	東京	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪	11	590 Roll 640 Ft²	9	590 Roll 400 Ft²	0	0	0	2
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	11	590 Roll 640 Ft²	9	590 Roll 400 Ft²	0	0	0	2
4/4	東京	1	4,560 Ft²	1	4,560 Ft²	0	0	0	0
	大阪	20	3,056 Roll	11	1,971 Roll	3	210 Roll	3	6
	その他	1	504 Roll	1	504 Roll	0	0	0	0
	計	22	4,560 Ft² 3,560 Roll	13	4,560 Ft² 2,475 Roll	3	210 Roll	3	6
計	東京	1	4,560 Ft²	1	4,560 Ft²	0	0	0	0
	大阪	86	640 Ft² 10,051 Roll	71	400 Ft² 8,197 Roll	7	475 Roll	7	10
	その他	1	504 Roll	1	504 Roll	0	0	0	0
	計	88	5,200 Ft² 10,555 Roll	73	4,960 Ft² 8,701 Roll	7	475 Roll	7	10

2—2 品種別状況（年間）

品種別	臨検数量	臨検件数	輸出数量	輸出件数
亜鉛引織金網	2,202 Roll	30	34,299 Roll	802
青エナメル塗織金網	7,262 Roll	52	73,466 〃	883
亀甲金網	0	0	7,512 〃	165
熔接金網	5,200 Ft²	4	2,400,032 Ft²	53
菱形金網	83 〃	1	88,700 〃	1
クリップ金網	0	0	7,500 〃	1

本品種においては表2—1，2—2，2—3に見られるように検査地域はその大部が関西地域に限られている。これは金網織加工製造業種が大阪枚岡地区に集結しており，この業界における大企業及び比較して製造工程の複雑な精度を有するものは総てこの地にあるためである。

検査経過としては中小企業に属するものとしては稀に見る品質の安定様相を示しており，結果的に特別にとりあげる程の品種的事故事例は見当らない。最もこの品種そのものが原則的に少量生産されるものでなく，一台，一人と言つた工合であるため，品質点検が確実に行はわれていることによるものであり且つ，Roll によるため最終工程において，長き規正の際更に再終検査の励行が確実に行はわれている結果である。

従つて臨検方針も時間及び時機的に品質検査を行うと言うことになり，輸出数量に比較して極めて低率の実施状況となつている。

事故発生のものは，2—3表に見られる様に粗雑と見られるものはなく何れも寸法規正の誤りであつて短尺物の混入，又は一見粗悪品と判定される織加工の工数省略による作為的事故事例は見当らない。

しかし乍ら国際的に見る一般需要性の金網品種は製造方法，材質的強度，及び吹付，焼代のアフター加工は特に優秀で何れも唯単なる品質仕様規格によつて満足されることなく一段の技術向上が要求されている。

2—3 昭和28年度事故発生状況一覧表

検査月日	製品名及び番手寸法		数量 Roll	仕向地	不良内容	発生原因
28 4—7	亜鉛引織金網	SWG #33 16Mesh 3′×100′	72	ベルー	網目不足	下請工場よりの受入検査不注意
5—22	〃	SWG #33 16Mesh 3′×100′	21	シンガポール	網目不足 長さ未満	受入検査及び社内検査の不充分
5—7	青エナメル塗織金網	SWG #33 16Mesh 3′×100′	130	台湾	長さ未満 巾未満	〃
6—15	〃	SWG #33 16Mesh 3′×100′	42	コロンビア	長さ未満	塗装下請業者が整形の為両端を不注意により切断
29 3—4	亜鉛引織金網	SWG #33 20Mesh 3′×100′	60	テヘラン	網目不足	受入検査及び社内検査の不充分
〃	〃	SWG #33 16Mesh 4′×100′	75	〃	〃	〃
3—17	青エナメル塗織金網	SWG #33 16Mesh 3′×100′	75	ヴエネゼーラ	〃	倉庫管理の不徹底により他製品の混同

雑　貨　関　係

雑貨関係総概況

経済白書はその序文において『昭和28年度，それは国内経済水準の上昇と貿易収支の悪化が最も端的に現れた年である。

鉱工業生産および国民所得の増加率は世界一であつた。しかし西ドイツの復興の目覚しさを「西独経済の奇蹟」とたゝえた世界の目も我国経済の復興は見せかけの繁栄と評する。それは一国経済の世界に向いた顔と云うべき貿易収支があまりにも不均衡を露呈しているからに外ならない』と云い，昭和28年度の我国の輸出貿易の不振と，特需の行き悩みを強く反省している。雑貨の輸出は総体的に若干の伸びを見せたが，世界市場での競争場裡にあつて利潤の薄い貿易にすぎなかつた感が強い。大半の業界が可成りの輸出実積を上げ乍らもなお苦境にしんぎんしている実情である。このような雑貨輸出の不調の原因は種々考えられるが，次のような点をその主要な原因として上げる事ができよう。

(1)　市場における輸入制限又は差別待遇
(2)　外国製品の進出
(3)　諸外国における自国産業の育成政策
(4)　価額の不安定

かつては日本の特産品として市場を獲得していた品種も次第に仕向国における自国産業の発達又は欧米品の進出により日本商品の輸出は次第に困難となりつつある。米国を除き最も有力な南方市場が政策として自国産業の発達を図り，着々とその成果を上げつつある事は事実であり，陶磁器，万年筆，ほうろう鉄器，ゴム製品，硝子製品，洋傘骨，マツチ等はいづれもこの傾向が強い。しかも万年筆，陶磁器（碍子）の如く日本より積極的に工場を進出させる如き品目も見られるに到つた。これらの品種については仕向地においての輸入制限の形となつているものもあり，印度におけるＯＧＬ等はその代表的なものと云へよう。又南方市場では欧洲品，米国品の進出が目立つて来ており，日本商品の進出が困難となつたり又は減少しつつある品目もあるが，万年筆の如く市場開拓と品質の維持に非常な努力を重けた業種にあつては悪条件にも拘らずその輸出は好調を続けている。他面竹製品，デイナーセツト，シヤンデリヤパーツ，機械玩具，木製品の如く米国市場向のものは大いに輸出が延びており，セルロイド製品，アンチモニー製品，喫煙具等は先づ堅調を続けた。又全般的に市場不況のため生産過剰となり，一部の操短や調整組合等の方法により自主的統制を計つた業種にゴム製品，陶磁器，ほうろう鉄器が上げられるがこれ等の品種は何れも可成りの成果を収めたようである。

全般的に世界の市場はもはや低品質の商品はたとえ安価でも受付けない事を意味しており，日本の輸出雑貨商品の今後の在り方について，深く反省しなければならない事が痛感される。

(1)　28年度新たに追加された品目

本年度において新たに竹製品の一部（釣竿）の追加を行つたが，釣竿は我が国の特産であり広く世界にその名声も高かつたが戦後に於けるメーカーの乱立と品質面えの無関心のため，クレームも増加し始めた。輸出が次第に増加しつつある品目である丈に，今後の発展のため，新しく指定品目に追加した。

更に，木製品の一部木製厨房用品，釣針等についても，業界より強い要望があり28年度内に指定追加を行うべく準備を進め，規格の原案も殆んど完了するまでに到つたが実施はいづれも29年度に持越された。

これと反対に品質も充分向上し，輸出検査の要なきに到つた石鹸は指定を解除した。

(2)　規格改正を行つたもの

一部品質の低下の品目もあつたが，全般的には品質は進歩した。これは業界の自覚もさる事乍らマーケツトの要求も大きな原因としてあげる事が出来る。従つて業界より進んで３条商品を４条又は３・４条かの指定に改める気運に向つて来た事は喜ぶべき事であつた。本年度に於いて規格を改正し３条商品を４条又は３・４条としたものは，硝子製品，金属洋食器，ゴム製品，漆器，機械玩具，セルロイド製品，鉛筆，マツチ等であり其の他の３条商品も逐次４条化の気運に向つており，陶磁器，ほうろう，硝子製品もこの線に添つて規格の改正を急いでいる。又海外でも次第にＪＩＳに対する認識が深まり，契約条件にＪＩＳ規格合格品とする向も増加しつつあり，規格内容の充実も重要な問題であり，当所に於いても検査方法の科学化，新しい試験法の考案等，工夫を重ねている。

(3)　原産地証明について

28年２月より豚毛については米国向豚毛に関して日米間の了解により政府の原産地証明を付する事により，輸出出来る様になつたが，これは米国の財務省外国資産管理規則に基く輸入制限の特例として行政的に解決する事の出来た好例であり，輸出振興の観点より，大いに見るべきものがあつたが，引続き８月より割竹が同様の方法により米国向輸出出来る運びとなつた。当所はこの原産地証明のための検査業務を担当し，200件に及ぶ実績をあげた。

(4)　ビルマ向輸出の検査について

９月23日ビルマのユニオンバンクは突然日本よりの輸出品は全部 Official Surveyer の Inspection Certificate を付さなければならない旨発表し10月23日より実施に移した。これは先に日本から同国に輸出した亜鉛鉄板の不正事件に端を発し，日本商品全般に対し取られた措置であつたが Official Surveyer の意味をめぐつて種々交渉が続けられ結局11月10日より一部の検査協会又は会社が認められる様交渉が成立したが，実質的には11月10日迄全部国検（当所）に於て検査し証明書を発行する形となつた。11月10日以後も品種により Official Surveyer として認められた検査協会を持たぬ業種は当所が検査にあたる形となりこの状態が10月より29年２月迄続けられた。一部の不正業者の行為が全品目に亘り全業者にこの様な煩雑な手段が取られる結果となつた事は極めて重要な意味を持つものであつて，検査業務の重要性について改めて反省させられるものがあつた。此の間当所が行つた検査は300件におよんだ。

(5)　検査件数および事故件数

本年度の雑貨製品の検査の成績は検査件数において昨年の95%，事故率について107.2%という結果となつた。すなわち，雑貨の検査件数を年度別にすると，24年度3,509件，25年度6,635件，26年度9,060件と増加の一途を辿り，昨年は実に12,457件となり，本年は若干減少して1,1653件を示した。しかしこれは統計面の現象であつて，今迄の数量的な拡張に対する努力が結実し，一応安定点に達し，すでに拡張の段階から検査機構の充実確立の段階に入つたとも考えられるところである。

次ぎに地域別の検査件数を見ると，東京地域の31.0%，大阪地域20.5%，名古屋地域の11.9%の順になり，横浜，神戸両地域の10.4%，9.3%がこれにつづいているが，依然として検査も殆んど商工業中心地域，および主要輸出港周辺地域に集中されていることは昨年と同様である。

第１表　検査件数（地域別，年別）一覧表

地域別	29年度 検査件数	29年度 100分比(%)	28年度 検査件数	28年度 100分比(%)
東京	4,225	34	3,618	31
大阪	2,309	18	2,406	20.6
名古屋	1,546	12	1,385	11.9
福岡	348	3.4	503	4.3
横浜	1,451	11.2	1,211	10.4
神戸	1,352	11.0	1,076	9.3
新潟	637	5.1	1,061	9.2
丸亀	49	0.4	8	0.1
広島	603	4.9	385	3.2
計	12,465	100.0	11,653	100.0

今，検査件数の多い業種を挙げると，硝子製品（人造真珠を含む）2,036件，ゴム製品1,357件，陶磁器1,331件，木製品1,141件，金属洋食器1,025件，セルロイド製品783件，竹製品538件，機械金属玩具483件等であつて，東京の木製品，ゴム製品，セルロイド製品，アンチモニー製品，万年筆，鉛筆，大阪のゴム製品，ガラス製品，人造真珠，ほうろう製品，名古屋の陶磁器，福岡のゴム製品，広島の手縫針，幅子，新潟の金属洋食器等の如く各地区特産品が件数の面にも良く反映している。

本年度の事故については，事故率が26.8%と可成りの高率にあることは前述のとおりであるが，年別の事故率は

昭和25年度　29%
〃　26年度　29.7%
〃　27年度　25.1%
〃　28年度　26.8%

となつており，従来の足どりに逆行する現象とも考えられるが，輸出品の品質は除々に向上して居おり，これに伴つて規格の水準引上げを行つたものが28年度においても約20品種あることを考慮すれば日本雑貨の品質が向上しつつあることを充分理解できるであろう。

次に，事故の内容を検討すると，第２表のとおりであつて実に86.5%が軽微な事故である。

しかしながらこれら軽微事故の製品は商品価値上の致命的欠点のあるものでなく製造上，運搬時等の僅かな不注意によるものが殆んどであり，適切な指導と注意によつて事故を減少しうることを示している。

第2表　事故内訳一覧表（年別）

事故の内容	27年度 事故件数	27年度 全体に占める事故の割合（%）	28年度 事故件数	28年度 全体に占める事故の割合（%）
等級の誤り	248	7.9	142	4.6
最低標準に達しないもの	168	4.4	138	4.4
軽微事故	2,616	86.5	2,699	86 5
無表示	92	3.0	140	4.5
計	3,124	100.0	3,119	100.0

試みに事故率の高い品目をあげると第3表のとをりで昨年と全く一致していることがわかり，今後の臨検の方向を示唆するものと言えよう。

第3表　主要製品事故率対比表（年別）

	27年度 事故率%	28年度 事故率%
万年筆	43.8	52.2
鉛筆	37.0	42.0
陶磁器	35.8	37.0
ガラス製品	34.6	33.7
洋傘骨	32.8	38.0
金属洋食器	30.8	32.1
ほうろう鉄器	32.1	28.1

28年度における品目別検査実績は次表のとおりである。

28年度検査実績表（雑貨関係）

分類番号	検査品目	検査件数（A）	事故件数（B）	事故の内容 等級の誤り（C）	事故の内容 最低標準に達しないもの（D）	事故の内容 事故内容の軽微なもの（E）	その他無表示（F）
1	ゴム製品	1,357	7	1	6	237	19
2	セルロイド生地	12	0	0	0	2	0
3	セルロイド製品	771	2	1	1	88	10
4	石けん	37	0	0	0	3	0
5	マッチ	20	0	0	0	2	1
6	硝子製品	1,533	34	22	12	518	17
7	人造真珠	473	18	1	17	117	5
8	陶磁器（硝子）	49	0	0	0	5	0
9	〃（衛生陶器）	12	0	0	0	1	0
10	〃（タイル）	40	1	1	0	3	0
11	〃（食器）	914	45	33	12	370	4
12	〃（置物）	316	4	4	0	76	3
13	ほうろう鉄器	416	7	7	0	127	1
14	アルミ板製品	214	4	4	0	22	1
15	金属洋食器	1,025	30	22	8	285	12
16	アンチモニー製品	313	0	0	0	49	3
17	喫煙具	236	3	2	1	24	10
18	洋傘骨	50	0	0	0	19	1
19	手縫針	70	1	1	0	11	0
20	ポケツトナイフ	73	0	0	0	9	6
21	機械および金属玩具	433	33	21	15	69	4
22	刷子	418	2	1	1	41	13
23	帽体	26	0	0	0	2	0
24	鉛筆	337	8	3	5	134	6
25	万年筆	474	27	0	27	220	1
26	漆塗製品	275	2	1	1	22	19
27	木製品（サラダボール）	1,141	33	10	23	105	3
28	竹製品	538	16	7	9	138	7
	計	11,653	280	142	138	2,699	140

註 1.　（B）=（C）+（E）+（D）+（F）　註 2.　（F）は等級無表示件数等

註 3.　出荷済み等の臨検不能の場合は本統計には記載しない。

雑貨関係品目別概況

陶磁器

Ⅰ 食器類

(1)　輸出の状況

28年度は北米向食器に関しては朝鮮動乱の終えんと相俟待つて購買力は一時低下し，市況は憂慮すべきものがあつたが後半に到り米国よりの引合は漸次増加しデイナーセツトを中心として活況を呈する迄に至つた。

これに附随して価額も次第に強気を示し，1～2割の上昇を示す結果となりこの状況は年末迄継続され中でもデイネーセツトは向う五ケ月の注文を持つ迄に到つた。之は一面デイナーセツトのブライスチエツク制が漸く効果を現して来た事にも起因しており，安定した価額と品質の確保が米国市場における日本デイナーセツトの信用を高めた事を裏書するものである。

他面デイナーのライセンス制度とブライスチエツクにからむGRADE問題は，28年5月1日から改正実施に移された。仕向地別最底標準の設定により北米向のデイナーは Export Standrad for U.S.A. & CANADA 一本となつたので，グレードにからむトラブルは一気に解決する事が出来た。しかしながら法的盲点をねらつてデイナーセツトをバラ売することによつてたくみに輸出貿易管理令，並に輸出品取締法のデイナーとしての対象より逃れんとする悪質業者に乗ぜられるに到り，デイナーセツトのカテゴリーをめぐり業界（輸出組合，デイナーセツト協会）に波紋を投じ乍ら年を送る結果となつた。

これはデイナーの健全な輸出を阻害するものである事は勿論であるが，米国バイヤー側にその責任が帰せられるものが多くこれが防止策に業界も官側も協議を重ねている所である。

その他の一般食器の輸出は北米向については大した変化はなく，クラシツクの反面モダン物フアンシー物を好む傾向は従来と変りなく，可成り順調な輸出を見た。また米国向への民芸品は次第に注目される所となり年々増加の途をたどつている。（しかし現在はまだ年間5,000＄程度であるが）新しい陶磁器の輸出面として特に小企業たる民芸窯の進出は注目すべきものがあつた。

南方食器においてはインドネシヤの不振と香港の買付不振を除けば大した変化はなかつたが，スーブプレートの如く生産過剰に悩み生産統制をするに到つた品種もあつた。またアフリカ方面の市場が開けたため輸出が意外に延びた面もあり，7月には濠洲が輸入制限を解除したことなどによつてインドネシヤ，香港向への不振をカバーし得た好条件も見逃せない。

一方欧洲方面よりも高級磁器の注文が多くなつたが此の内スイスに於ては Schweizerches Lebensmittel Buch により上絵付の鉛毒問題が取り上げられクレームも起つた。この鉛毒問題は正式に外務省を通じ交渉した結果当所の分析表又は名古屋工業試験所の分析表を添付することにより輸出し得る様交渉を進め了解を取る事が出来たので今後のスイス向の輸出が期待される所である。

全般的には国際情勢の変化により左右される事の多い年であつた。即ちガツトの仮加入，濠洲の輸入禁止の解除，日英支払協定中に陶磁器カテゴリーの編入等が何れも業界に有利に展開された年で今後の通商協定又は外交交渉が強く業界の輸出の振興を左右する事が痛感させられた年であつた。

28年度に於ける輸出実績は第1表の如くである。

(2)　検査状況

検査件数は914件，その内主要生産地である名古屋は677件で約75%を占めている。事故件数45件，軽微事故370件，これ等を合せると約45%が事故となつており，事故率は極めて高い。しかし乍らこの90%迄が軽微事故でありその殆んどが社内選品の不完全によるものである事から今後業界の Quality Mind の高揚が重要である事が痛感される。

事故内容は生地欠点として仕上不良（フチズリ，ハマズリ，針跡ズリ切レ，手スキ，手ネジが）多く色ぼつ，釉だまりがこれに次いでいる。絵は面に於ては転写のチヂレ，ハゲ，絵付のヨゴレ，色ムラ，金絵付の焼成不充分等で今一層の製造上の注意が必要である。当所としては常に之等の欠点の改良に対し業界の注意を喚起している所である。然し乍ら年間の当所の検査件数914件は全輸出件数に対しわづかに3.5%程度にすぎず，今後一層チエツク率を上げる必要性が痛感される所である。次に地域別月別検査成績を示すと第2表の如くである。

輸出規定の改正

輸出規定は前述の如くデイナーセツトを一般食器より28年4月独立分離し別途規格を制定した。一般食器の規格はそのまま残る形となつたが改正

第 1 表

品名		単位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
飲食器類（陶器・磁器製）	洋食器（組物）	弗	321,763	321,561	300,231	395,017	406.889	343,233
	皿，丼茶碗類	弗	904,397	1,040,559	950,836	1,230,186	1,148,353	1,125,703
	喫茶用具（組物）	弗	90,517	82,417	83,689	111,233	108,389	76,841
	食卓及台所用品	弗	293,628	309,658	377,994	416,067	408,777	443,278
	計	弗	1,610,305	1,754,195	1,712,750	2,152,503	2,072,408	1,989,055

品名		単位	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
飲食器類（陶器・磁器製）	洋食器（組物）	弗	408,678	281,856	448,528	238,110	389,580	398,980	4,254,426
	皿，丼茶碗類	弗	1,267.733	1,139,997	1,533,369	1,009,760	1,122.860	1,328,290	13.802,043
	喫茶用具（組物）	弗	132,875	119,472	132,611	281,397	358,620	399,800	1,977,861
	食卓及台所用品	弗	450,450	346,533	415,117	—	—	—	3,461,502
	計	弗	2,259,736	1,887,858	2,529,625	1,529,267	1,871,060	2,127,070	23,495,832

第 2 表

地域	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	33	—	—	—	8	—	—
大阪	14	2	2	—	2	—	—
名古屋	677	43	31	12	339	—	—
福岡	26	—	—	—	6	—	—
横浜	61	—	—	—	1	4	—
神戸	101	—	—	—	14	—	—
新潟	0	—	—	—	—	—	—
広島	2	—	—	—	—	—	—
合計	914	45	33	12	370	4	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他
28年 4 月	85	5	1	4	36	—	—
5 月	81	5	2	3	31	—	—
6 月	72	—	—	—	23	2	—
7 月	69	1	—	1	27	—	—
8 月	55	2	1	1	20	—	—
9 月	61	—	—	—	17	1	—
10 月	48	2	2	—	13	—	—
11 月	160	21	20	1	77	—	—
12 月	83	5	4	1	43	1	—
29年 1 月	67	—	—	—	15	—	—
2 月	44	2	1	1	20	—	—
3 月	89	2	2	—	48	—	—
合計	914	45	33	12	370	4	—

を要する点が多く業界と協議し改正案に着手し，一応原案を完了した。

日英意匠会談　戦後日英間に起つた意匠権問題は未解決のまま引延されて来たが国情を一にする英国陶業界の意匠権に対する苦情は意外に強く国際問題迄発展するおそれがあつた。之が打解策として本年10月英国陶業界代表シールズ氏を我国に招へいし意匠権問題に対する日英間の会談が行われた。問題の発端が米国市場である事，意匠法の日英間の差，及びバイヤー側よりの日本注文により製作を余儀なくされる日本の陶業界の在り方等についての日本側の説明により一応了解の域に到着する事が出来たが，兎角商業道義を無視し世界市場より不信の眼を向けられていた日本の業界が，誤解でなく真の情況をそのクレーマンとなる相手国に了解させ得た事は一応の成功であると同時に飜つて意匠権の在り方について業界に強い感銘を与えた事は，今後日本の陶磁器の発展のために極めて有意義な会談であつた。なお戦後英国ミッションを通じ正式に通産省に対し抗議された意匠権の侵害問題は17件に達し，非公式を合せると50件に達していた。

これ等はいづれも国際的にベルヌ協定による工業所有権の権利を主張して来たものである。

Ⅱ ノベリテイ類

(1) 輸出の状況

陶磁器の輸出中食器につぐ輸出額を持つノベリテイは其の仕向国がデイナーセット同様殆んど米国であるため，年度の初期に於ける貿易不振はまぬがれなかつたが，この不振は低級安価な商品を陶汰する結果となり高級高価な商品へ輸出が延びて行く形となつた。年度末には約1,000万弗の輸出額に達し昨年度より2割方の増加となつた。

ノベリテイはその名の如く，商品自身の価値を決定するものがデザインであつて，そのデザインのフアンシーさが市場性を持つものであるので低級安価な商品の輸出がノベリテイ本来の姿でない事は勿論である。今年の高級品の輸出の傾向からは今後のノベリテイ業界の発展が大いに期待されると共に，品質面においてデザイン面においても一層の努力を払わなければならないものと考えられる。

ノベリテイは概して輸出額の変動も食器程に激しいものではなく漸次向上の順調さを見せているが，特に四日市，常滑の半磁器製品は極めて順調な輸出を見せた。しかしながら米国に於ても最近国内でのノベリテイの生産が可成り進んで来ており，特に日本の半磁器ノベリテイは米国市場に於て可成り厳しい競争市場裡に立たなければならなくなるであろう。磁器関係においては欧洲品をしのぐ優秀なる商品が益々進出するものと期待されている。品種分類別の輸出額は次表のとおりである。

品名		単位	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
装飾用置物及玩具（磁器製）	装飾用置物及花瓶	弗	288,375	318,372	292,825	348,606	355,709	360,286
	喫煙用具	弗	61,269	72,692	70,530	79,861	89,928	83,297
	家庭用品及芸術品	弗	68.061	61,228	61,145	94,514	69,594	82,842
	玩具	弗	237,245	274,419	284,250	346,458	362,708	354,767
	計	弗	654,950	726,711	708,750	869,439	877,939	881,192

品名		単位	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
装飾用置物及玩具（磁器製）	装飾用置物及花瓶	弗	398,225	307,103	416,375	266,997	528,360	344,341	4,225,574
	喫煙用具	弗	97,514	69,606	88,978	47,650	62,405	74,372	898,102
	家庭用品及芸術品	弗	100,514	54,205	81,780	10,100	91,152	80,947	906,082
	玩具	弗	349,789	214,931	293,014	210,058	265,186	317,250	3,510,075
	計	弗	946,042	645,845	880,147	584,805	947,103	816,110	9,539,833

(2) 検査状況

本年度における当所の臨検々査は316件，事故4件，軽微事故76件で約25%の事故率を示している。この事故率は食器類の事故率45%を下廻るものであるが，事故中95%が軽微事故である点より見ると輸出に際し今少しの注意が必要ではないか

と考えられる。即ち欠点原因別に見ると，絵付加工の不振即ち汚れ，クツツキが多く生地欠点はキズ，キレ等がこれにつぐが，絵付加工については少しの注意を払う事により可成り事故率は減少するものと思われる。一般に高級品は細部迄よく注意されているが所謂安物は型絵付共疎雑となり勢い欠点も出易い。ノベリテイのデザインと品質との間に直接的関係はないが，注意して作られた製品は自づと何れの要素も満足させている場合が多い。模造安売の競争はこの業界にも見られるがとれこそノベリテイの発展をはばむ最大の原因であるので，当所も検査の都度これらの注意を喚起している。

今年度はおけるノベリテイ類の地区別検査成績及び月別の検査成績は次表のとおりである。

陶磁器（置物）

地域	検査件数	事故件数	事故内容					備考
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他	
東京	16	—	—	—	4	—	—	—
大阪	26	—	—	—	9	—	—	—
名古屋	184	4	4	—	60	—	—	—
福岡	23	—	—	—	3	—	—	—
横浜	42	—	—	—	—	—	—	—
神戸	24	—	—	—	—	3	—	—
新潟	1	—	—	—	—	—	—	—
広島	9	—	—	—	—	—	—	—
合計	316	4	4	—	76	3	—	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容					備考
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他	
28年4月	29	—	—	—	7	—	—	—
5月	29	—	—	—	7	1	—	—
6月	34	—	—	—	8	—	—	—
7月	27	—	—	—	6	1	—	—
8月	39	1	1	—	9	1	—	—
9月	27	—	—	—	10	—	—	—
10月	29	—	—	—	6	—	—	—
11月	23	—	—	—	1	—	—	—
12月	14	1	1	—	3	—	—	—
29年1月	10	—	—	—	3	—	—	—
2月	25	1	1	—	9	—	—	—
3月	230	1	1	—	7	—	—	—
合計	316	4	4	—	76	3	—	—

輸出規格の改正　食器の規格改正と同時に現在3条商品であるノベリテイの規格も改正に着手した。品質規定を明確化する事と同時に3,4条化若しくは4条化を企図した案の原案を完了したが輸出組合其の他との間に於て二，三の点で問題があり28年度内では最終段階迄達するに到らなかつた。

日英会談　食器類に於て述べた如く，工業所有権をめぐつての問題解決のため英国陶業界代表シールス氏を招き日本に於て会談が行われた。問題のあつた日英間の意匠権問題は食器よりノベリテイ関係の方が多かつたが意匠が重大な要素となつている品種丈に当然とも云える。今後新しい意匠の創造と改善に努力が払われなければならぬ事が痛感される。模造，価額低下，品質低下，輸出の不振の悪循環を繰返すの愚は一日も早く打破しなければならない。

此の点に関し業界は今ノベリテイ品質向上委員会を作り特許庁とも密接なる関係を保ち乍ら自主的に意匠登録制度を実施しているが，其の成果は見るべきものがある。

当所は意匠権の取締に当つているわけではないが実質的には貿易管理令に定められた意匠権侵害品の輸出防止取締りに当つており，同時に業界の自主的登録制度に対しても積極的に援助し業界の商業道徳の高揚に努めている所である。なお当所

の臨検316件は全輸出件数のわづか2～3%程度であり，今後国際競争が益々厳しくなる品目丈に臨検率も高め厳重なる検査により海外よりの信用と声価と高揚に努めている所である。

Ⅱ タイル

(1) 輸出状況

タイルの生産は戦後漸次増加して来ているが輸出はその割には延びていない。28年度の輸出は年間を通じ大した変動がなく漸増の傾向を示し他の陶磁関係の商品より最も安定した輸出であつた。戦後タイルは復興建材として広く使用され輸出面よりも内需に追われている現状であり，価額面に於ても業界は可成り強気を示している。生産額に対する輸出はわづか15%程度にすぎない事より見ても内需が主力である事がうかがわれる。輸出国は沖縄，台湾，比島，米国，中南米の各方面に亘つている。中南米方面よりの引合は次第に増加しつつあるが未だ量的には少い。これは主として価額によるものであり，欧洲品，特に独逸製品が中南米方面に可成り進出しており，これ等がいづれも日本製品より幾分下廻る価額であるためであつた。なお中南米はフレートの関係，及び関税の関係よりタイルの厚さが薄い点で特殊事情にあり日本の内需品をそのまま輸出に転向する事が出来ない点に悩みがあるが今後有望な市場として期待されている。又米国向にマジョリカタイルが進出して来た事も注目すべき点であつた。28年度に於ける輸出額は次表に示す通りである。

月別	金額($)	月別	金額($)
28年4月	94,450	10月	132,108
5月	98,114	11月	135,622
6月	122,492	12月	179,078
7月	158,181	29年1月	141,317
8月	139,817	2月	161,852
9月	154,850	3月	142,441
		計	1,660,322

(2) 検査の状況

本年度に於ける検査件数は40件であつたが事故件数は4件で然も軽微事故が大部分であつた。品質的にに見ると壁タイルの品質は充分進んで居り世界水準に達しているがモザイクタイルは中小工場の製品が多くなお警戒を要する。又磁器タイル，炉器タイルの輸出も見られたが概して品質は良好であつた。検査件数中25件が福岡で次で名古屋8件，其の他となつて居るが主要生産地である名古屋の検査はその輸出業者が殆んど大工場の壁タイルであり，品質も可成り安定し臨検率を下げ得た事による。事故1件は貰入によるもので他の軽微事故3件は外観上の欠点であつた。地区別検査件数及月別検査件数は次表の通りである。

タイル

地域	検査件数	事故件数	事故内容					備考
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他	
東京	2	—	—	—	—	—	—	—
大阪	2	—	—	—	—	—	—	—
名古屋	8	1	1	—	3	—	—	—
福岡	25	—	—	—	—	—	—	—
横浜	2	—	—	—	—	—	—	—
神戸	1	—	—	—	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	40	1	1	—	3	—	—	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容					備考
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他	
28年4月	1	—	—	—	—	—	—	—
5月	—	—	—	—	—	—	—	—
6月	3	—	—	—	—	—	—	—
7月	3	—	—	—	1	—	—	—
8月	2	—	—	—	—	—	—	—
9月	7	—	—	—	1	—	—	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他	備考
10月	5	—	—	—	—	—	—	—
11月	4	—	—	—	—	—	—	—
12月	—	—	—	—	—	—	—	—
29年1月	8	1	1	—	1	—	—	—
2月	3	—	—	—	—	—	—	—
3月	4	—	—	—	—	—	—	—
合計	40	1	1	—	3	—	—	—

(3) 国内規格と品質について

前述の如く戦後タイルの品質の向上は目覚しいものがあり輸出規格も28年1月改正され品質規格の引上を行つて来たが，一方大宗をなす国内タイルに対しても需要者側より規格の改正が強く要望され従来のタイル1本の規格を品種別に分け，壁タイル，床タイル，モザイクタイルとし，更に品質別に（磁器質，硬質，半磁質等）夫々規格を作る気運となり一応原案の作製を完了した。現在の輸出規格もタイル一本として規定されているため検査の通用にあたり不備な点が多いので国内規格完成の上は検討の上出来得れば国内規格と輸出規格を一本化する予定となつている。

各社製品の試験　当所では毎年1～2回全国の工場よりその製品を集めＪＩＳ規格により各種試験を行いその結果を匿名で発表し各社の品質向上に資さんとしているが，本年度は各社よりのサンプルに加へて，市販のタイルを購入して試験を行つた。試験の結果は各社より提出のサンプルは勿論市販の商店も殆んど規格に合格して居り，2,3の試料のみがオートクレーブ試験に不合格となつたに過ぎなかつた。なおマジリカタイルは普通の壁タイルの規格で取扱うとオートクレーブ試験に不合格となる恐れがあり，前述の国内規格の改正案に更にマジリカタイルの規格を別途作成すべく手配している。

Ⅳ 衛生陶器

(1) 輸出の状況

衛生陶器はタイルと同様国内市場が主力であり，国内需要の増加は衛生陶器の輸出に対する積極的意義を阻げている模様であつて，今年度の輸出は年間を通じ好況とは云えなかつた。特に沖縄朝鮮向の輸出が（27年度迄に特需扱となつていたが今年度より民間ベースに切替られ輸出面に統計される様になつた）振わなかつた点が目立つた。現在輸出量は全生産量の10%に過ぎないが，この貿易不振の原因が国際価額水準より高い事が原因であつた。すなわち，米国及び英国においては衛生陶工場が大量生産の設備を有し，コストの引下げに成功しているに反し，わが国の商品は品質的には優位にあり乍ら，価額に於て市場競争に負けているからである。しかしながら洗面器の如き一部の品種によつては日本商品の価額の方が安く，米国に輸出されているものもある。業界では内需の増加と輸出面の振興のため企業の合理化に着手しており27年頃より重油焼成への転換が目立つている。衛生陶器が国際的に割高である一方原因として付属金物の高価に過ぎる点が上げられる。しかも金属付属品の品質は必ずしも良質とは云えない状態で，今後附属品の品質改善とコストの引下げが要望されるゆえんである。これ等金具は陶器と一諸にいわゆる完成セットとして輸出される事が大部分であり，金具の問題が今後の輸出の振興に大きな問題となつている。これに対し目下日本衛生工業協会において金具規格原案作成中であり，近く本決定を見る予定である。本年度における輸出の状況は次表の如くである。

月別	輸出額（$）	月別	輸出額（$）
4月	11,667	10月	13,711
5月	15,297	11月	18,183
6月	15,050	12月	14,858
7月	18,954	1月	58,000
8月	15,800	2月	22,420
9月	24,772	3月	10,752
		計	239,464

(2) 検査状況

年間の検査件数12件，この中軽微事故は1件でこの一件は外観上の軽度の欠点であつた。衛生陶器の工場は規模も可成り大きく中には完全なる統計的品質管理を行つている工場もあり，一般的にも陶磁器の他の品種より品質の管理状況は良好であると云える。輸出品を取扱う工場は何れも可成り上位の工場であつたため，当所の臨検率は極めて低率であつた。本年度における検査成績は次表の通りである。

衛生陶器

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他	備考
東京	2	—	—	—	—	—	—	—
大阪	2	—	—	—	1	—	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
福岡	8	—	—	—	—	—	—	—
横浜	—	—	—	—	—	—	—	—
神戸	—	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	12	—	—	—	1	—	—	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他	備考
28年4月	—	—	—	—	—	—	—	—
5月	—	—	—	—	—	—	—	—
6月	1	—	—	—	—	—	—	—
7月	—	—	—	—	—	—	—	—
8月	2	—	—	—	—	—	—	—
9月	3	—	—	—	1	—	—	—
10月	1	—	—	—	—	—	—	—
11月	3	—	—	—	—	—	—	—
12月	—	—	—	—	—	—	—	—
29年1月	1	—	—	—	—	—	—	—
2月	—	—	—	—	—	—	—	—
3月	1	—	—	—	—	—	—	—
合計	12	—	—	—	1	—	—	—

(3) 金具規格の検討

前述の如く衛生陶器の品質は陶器よりむしろ金具に問題がある点より金具の規格を作製中であつたが一応原案の作製を終つた。一方陶器の国内規格は溶化生地質，化粧地質に分けられていたが之を一本化し新しい国内規格に統合し同時に今迄二級の段階としたものを最低線一本とした。この規格は当所の計画では国内輸出を一本建とする方針で審議検討を続けて来たが国内規格の線で4条化する事が現在の輸出情勢より考慮するならば時期尚早であるとの意見により従来通りの規格を今しばらく採用する事となつたが国内規格には水洗式でない便器（下箱）――朝鮮，沖縄方面にのみ輸出されるもので低品質のもの――は適用範囲に含まれておらず，また取締法から見てもこの下箱は適用から除外しても差支えはないと考えられるので，これを除外することによつて附属金属の規格が制定され次第今日の規格を廃止して国内規格を採用することとしたい。

(4) 各社製品の試験

タイル同様当所では毎年1～2回全国の工場よりその製品を集め品質に関する試験を実施し，その結果を匿名で発表し各社の品質向上意欲を高揚しているが本年の試験の結果によれば品質は昨年度よりも更に進歩しており二，三の工場を除き今日の規格の線はすでに低きに過ぎる迄に到つている。

Ⅴ 低圧碍子

(1) 輸出情況

碍子の輸出は他の陶磁器と異り輸出の波は可成り激しいものである。殊に最近は各国に於て計画される電力問題は相当量にまとまると何れも国際入札が行われる情態であり，従つて碍子は陶磁器製品中国際競争の最も激しい品種である。

碍子のうち低圧碍子の生産業者は主として中小企業であつて工場数も多く，内外の需要を上廻る生産高となり深刻な生産過剰に悩んだ結果その対策として，28年6月中小企業安定法による調整組合の成立を見る迄に到つたが，輸出は低調の上内需も著しくなく，有力な工場の中にも閉鎖の止むなきに到つたものもあつた。

調整組合は生産量の制限，価額の協定協販等を企図したが種々の難局に直面し，成立後程なく失敗に終つた。其後は価額の安定も期し得られず無謀な安売競争に終始し，品質面にも直接影響し，輸出品の品質も憂慮すべきものがあつた。

これに反し特高圧碍子は日本碍子ＫＫがアメリカに於ける大量の国際入札に成功し，日本の優秀さを世界に示し得た快事もあつた。

又パキスタン政府の発注による低圧碍子は先方政府より直接国家機関による検査を要求して来たので当所がこの検査に当つたが，何れも我国碍子の堂々たる進出として喜ぶべきものがあつた。本年度に於ける低圧碍子の状況は次表の如くである。

月別	金額($)	月別	金額($)
28年4月	34,811	10月	60,072
5月	74,986	11月	46,770
6月	36,655	12月	98,461
7月	32,836	29年1月	33,130
8月	78,919	2月	19,097
9月	74,856	3月	309,640
		計	900,233

(2) 検査情況

前述の如く低圧碍子は輸出不振であつたと同時に品質も不安定であつたため当所の臨検検査は可成高率に行われた。年間検査件数56件中事故5件となつている。

軽微事故の内容は外観欠点に起因しており何れも性能上は問題がない。低圧碍子は特に型成形のものは価額が低廉のため作業が粗雑となり変形，薬ムラ，色ボツ，キレが多く又包装不良のため破損を起していたものもあつたが之等も不良品は何れも良品に交換を行わせた。

本年度に於ける地区別，月別検査成績は次表のとおりである。

陶磁器（碍子）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	其の他	備考
東京	14	—	—	—	3	—	—	—
大阪	12	—	—	—	—	—	—	—
名古屋	12	—	—	—	2	—	—	—
福岡	9	—	—	—	—	—	—	—
横浜	1	—	—	—	—	—	—	—
神戸	1	—	—	—	—	—	—	—
新潟	7	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	56	—	—	—	5	—	—	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	其の他	備考
28年4月	4	—	—	—	—	—	—	—
5月	2	—	—	—	1	—	—	—
6月	9	—	—	—	1	—	—	—
7月	3	—	—	—	2	—	—	—
8月	2	—	—	—	—	—	—	—
9月	7	—	—	—	—	—	—	—
10月	4	—	—	—	—	—	—	—
11月	7	—	—	—	—	—	—	—
12月	4	—	—	—	—	—	—	—
29年1月	8	—	—	—	—	—	—	—
2月	4	—	—	—	1	—	—	—
3月	2	—	—	—	—	—	—	—
合計	56	—	—	—	5	—	—	—

上記の如く今後益々碍子類は外国製品との競争場裡に立たねばならぬ段階にあり，品質面においても一層の研究努力が払われなければならない所であるが，現在の業界の情況は憂慮すべきものがあり業界に対する絶えざる啓蒙が必要であると同時に当所のこれに対する取締は益々重要となるところであろう。

豚毛及び刷子類

1. 輸出概況

（A）豚毛類

昭和28年度の輸出は675,463 Lbs，金額にして576,715千円（月平均5,6288 Lbs，約84,060千円）であり27年度に比して輸出は206,333 Lbs，金額にして196,650千円の増加となつた。これは前年度は米国が外国資産管理規制によつて豚毛の輸入を禁止していたため既契約や売約済のもののみ米国に輸出された関係で必然的に数量は少なかつたが昭和28年1月末，日米間の覚書に基き中共産，北鮮産以外の豚毛が米国向輸出しうることになり，そのため本年度豚毛の輸出は急増したものである。全般の特徴として米国が最大の仕向地で約85%を占め，米国向は国内産黒染毛が主軸をなしアメリカから輸入原毛の加工がこれに次ぐ。欧洲方面には重慶産白豚毛が主体をなし大阪地区で加工されている。

アメリカから輸入される原毛はイラン，ポートランドおよびカナダ産等のものであり精毛の委託加工貿易が軌道に乗つてきたことも新傾向であり，従つて一時は価格も安定を保持されていたが最近デフレ傾向の影響もあり原料割高の製品安となり価格の競争が行われ安価な取引が一部に行われたので業界の協力が必要とされ，豚毛組合においてもダンピング防止策として金融機関を利用して運転資金の円滑化を図り品質の向上と価格の維持に努めている。

最近の国内産豚毛は価格低下の傾向にある半面国内産毛並びに工賃は依然として高いため精毛業者は次第に苦境に陥りつつある。価格の低下の主なる原因は，朝鮮動乱の締結による世界状勢の変化に伴い，品質がよく比較的低価格である中共産豚毛の取引にバイヤーが期待して無理な商取引をしないようになつたためと，ドイツの機械的精毛技術が発達して輸出されるためであつて，これらが我国の輸出豚毛に或る程度影響を与えてきているように思われる。

日本の技術による国内産豚毛の精毛加工は戦前の水準を抜き，ますます向上しておるが，外国産原毛と毛質を異にするため大阪方面ではこれが化学的処理の研究を行い弾性の強化等の質的向上を目論んでいる。

豚毛類輸出実績表

月別	数量（Lbs）	金額（千円）
28年 4月	67,062	58,415
5月	60,431	63,116
6月	36,168	37,997
7月	58,273	51,573
8月	60,955	52,013
9月	70,618	59,097
10月	48,068	42,488
11月	59,928	46,333
12月	63,598	46,294
29年 1月	36,317	25,069
2月	47,475	39,849
3月	66,570	54,471
計	675,463	576,715

当業界にあつては輸出の良否が業界興廃の原因になるので輸出に対する関心は非常に強い。（豚毛類輸出実績参照）。

（B）刷子類

本年度における刷子類の輸出は27年度に比してわずかに増加し約9千万円となつたが戦後の輸出は依然として閉塞状態を続けている。仕向地は沖縄，台湾を始めとして東南アジア全地区，アフリカ，欧洲，米国，中米等に少量ながら各方面に亘つている。

近年特に毛先を必要としない刷子類（歯刷子，頭髪，服飾刷子，工業用刷子等）は機械的に大量に生産される外国の合成樹脂製品に圧迫され輸出の不振が目立つて来たが，毛先を必要とする塗装用刷子（ニス，ペイント刷子等），化粧刷子，筆類（水彩，油絵筆，毛筆等）は概して順調であつた。全般的に材料工賃高の製品安のため品質は下向にあり企業の合理化を実施して生産能率を図る以外に現在の苦境をきりひらく道はないようである。（刷子類輸出実績参照）

刷子類輸出実績表

月別	数量（打）	金額（千円）
28年 4月	31,741	10,189
5月	36,694	8,387
6月	17,575	4,652
7月	54,515	15,185
8月	27,459	7,559
9月	16,454	7,044
10月	32,459	8,611
11月	18,161	4,536
12月	21,106	7,934
29年 1月	9,620	3,275
2月	16,111	6,805
3月	149,268	5,560
計	431,163	89,737

2. 検査状況

（A）豚毛類

日米間の覚書による米国向輸出豚毛の原産地証明および封印処理のために全輸出に対し検査を実施している。検査総件数は207件でこの中32件が条件付であつた。

品種別には黒染色の国内産が大部分を占め，次いで黒豚毛，白豚毛となつている。

品質については適格品であつたが価格に支配され満足な精毛を実施できないため，サカ毛，クセ

毛の混入毛先のチヂレ，結束の不充分な製品が見受けられた。サカ毛，クセ毛の混入は短叶ものに多い。染色についてはログンドGP，ヘルマチンの使用により染色むら，脱色を防ぎ，天然黒豚毛にちかい製品が出来るようになつた（豚毛刷子類輸出検査実績参照）。

（B） 刷 子 類

刷子類は主として大阪地区で生産され，東京方面が之に次ぎ，その輸出の大部分が工業用刷子であつた。仕向地は主としてハワイ，台湾，沖縄でペイント刷子，ニス刷子，ワイヤー刷子，洗濯用刷子，デツキ刷子，機械掃除用刷子等で品質は概して良好であつたが，一部台木のキレツ，キズおよび植毛，毛刈不充分なるものが見うけられた。頭髪，服飾刷子には普通品程度の安物であつたが，品質は内地産黒毛とフアイバーを混毛したもので植毛具合は完全であり，塗装も良好でキズ，キレツ，汚れ等もなかつた。歯刷子はセルロイド柄のもので毛質は内番産豚毛を使用したものが多く洗浄乾燥等十分であつた。筆類は沖縄，台湾，ハワイおよびニューヨーク向で沖縄向の学童用の「水彩画筆にあつては植毛および口金具の取付不完全なものと鍍金の悪いものがあり相当悪い品が輸出される恐れがあるので産番の大阪支所では厳重な臨検々査を実施した。ニューヨーク向の水彩用および油画筆は品質共に良好で，金具の取付け鍍金および用毛の調整なども良好であつた。沖縄，台湾，ハワイ向の毛筆は概して普通品程度のものであつたが，仕上加工状態はそれほど悪くなかつた。タワンは植毛，毛刈，調整，巻毛の結束など良好であつた。（豚毛刷子類輸出検査実績参照）

豚毛，刷子類輸出検査実績表（28年度地域別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	其の他	備考
東京	9	—	—	—	—	—	—	—
大阪	183	—	—	—	3	—	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
福岡	17	—	—	—	—	—	—	—
横浜	41	1	1	—	1	—	—	—
神戸	45	1	—	1	1	13	—	—
新潟	16	—	—	—	4	—	—	—
丸亀	2	—	—	—	—	—	—	—
広島	24	—	—	—	1	—	—	—
合計	418	2	1	1	41	13	—	—

豚毛，刷子類輸出検査実績表（28年度月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	其の他	備考
28年4月	46	—	—	—	6	1	—	—
5月	42	—	—	—	4	1	—	—
6月	25	—	—	—	2	2	—	—
7月	32	—	—	—	4	—	—	—
8月	33	—	—	—	8	1	—	—
9月	44	1	1	—	4	—	—	—
10月	28	—	—	—	3	1	—	—
11月	35	—	—	—	3	1	—	—
12月	29	1	—	1	1	—	—	—
29年1月	27	—	—	—	1	4	—	—
2月	31	—	—	—	2	2	—	—
3月	46	—	—	—	3	—	—	—
合計	418	2	1	1	41	13	—	—

3. 特記すべき事項

（A） 豚 毛 類

(1)現在の規格は漂白，白豚毛を基準として制定されたもので染色毛，他品種毛の規定と夾雑物の混入の規定は比較的抽象的であり，また原産地により毛の特性が異なるので毛の特性の問題やトツプや不良毛について規定される必要があるので大阪支所で業界と打合せの上，規格改正の原案作成中である。

(2)現在業界は国内産豚毛の欠点を化学処理により補い精毛技術の近代化を図り機械的に大量生産方式をとり，手工業の欠陥を補つて品質の向上，企業の合理化を図るべく協会(大阪)が中心となり質的向上を企業の合理化に努力している。

（B） 刷 子 類

業界の現状は終戦以来輸出不振を続けている。その主なる原因は工賃が高い反面輸出価格が低いためと思われる。一方合成樹脂製品が外国において機械的に大量に生産され市場に現れる傾向にあり，特に南方市場においては外国製品に圧迫されているので企業の合理化による対策を立て業界を指導しない限り前途の希望は困難であると思われる。

バンコツク帽体

1. 生産と輸出の状況

バンコツク帽体の生産は岡山，広島の周辺地域が主で，原糸と少量の帽体が静岡地方でも生産される。昭和28年度の生産は約6億5千万円（47万7千打）輸出が約6億3千万円（47万1千打）に達し昨年に比して輸出は約2億1千万円（15万3千打）増加である。

(1) 工場及び設置台数

岡山県下 工場数 約 300
織 機 約 4,000台
（全国生産高の約1割を生産する）

広島県下 工場数 約 80
織 機 約 1,000台
（全生産高の約1.5割を生産する）

生産能力 年間約 480,000打

帽体の需要地域は主として米国であつて輸出ものの本格的買付が始まるのは7月以降となる。これは5,6月における完成帽体の売行を見定めた上で次年度の準備をするためである。そして12月までには大体必要数量の大部分の買付を終り，1月以降3,4月頃までは補充の追加が発注分として積出される程度である。これがため4,5月頃ともなると内地向けおよび南半球向けの受注があるとはいえ，主力市場の注文が減少するため閑散期に入るのが通例である。

従つて若干の例外はあるが7月～12月には受注量は相当の数となり需要は遙かに供給を上廻り，価格は騰貴し業者の増産に対する努力にも拘らず尚不足となるわけである。しかしながら，1月以降となれば受注量が減少するにも拘らず生産は過剰となり，価格の下落が始まる訳である。下落傾向が甚しいと買方が発注を手控えるため受注量は更に減少し，価格の下落に更に拍車を掛けられる結果となる。そして時としてはストツク生産（大低の場合赤字生産となる）を行わざるを得ない場合も生じて来るのである。

このような状況を週期的に繰返しているのが実状である（28年度輸出実績参照）。

バンコツク帽体輸出実績表

月別	数量（打）	標準品弗価格 FOB神戸（打）	標準品円 産地渡価格（1枚）	金額（千円）
28年4月	34,328	4.30内外	120	53,140
5月	33,297	4.50 〃	120	53,941
6月	30,463	4.60 〃	120	50,447
7月	35,487	4.70 〃	120	60,044
8月	51,278	4.80 〃	125	88,608
9月	50,003	4.00 〃	118	72,004
10月	45,452	3.50 〃	118	57,270
11月	38,296	3.30 〃	118	45,496
12月	43,892	3.00 〃	110	47,403
29年1月	40,905	2.70 〃	90	39,760
2月	29,354	2.60 〃	85	27,475
3月	37,901	2.50 〃	80	34,111
計	470,656			629,699

註 FOB(弗)価格と産地価格(円)が一致していないものは受注時期と積出時期に数箇月のずれのあるためである。

月産量に相当の高低があるのは次の理由による。

（A） 賃金が出来高払制であるため自由勤務の形式となつていること。

（B） 織工は殆んど近隣の農漁定の婦女でするため定業の繁閑に応じて稼働率が変動する。

また工場設備は1工場最高30台程度であり平均10数台の小規模のものである。従つて正規の建築に余り必要でなく簡単なバラツク建か或は10台以下の場合は納屋を改造し更に少数となれば住宅の一部にさえ設置することができる。織機の価格は1台2万円前後であるから織機の増設も簡単にできる。これがため工場織機数も変動が多く，好況ともなれば急激に設備が増加し生産高が激増するのが常である。

帽体についての戦後における輸出実績から推定する外国の需要は逐次堅実な上昇を示しており，

シーズンにおいても相当量の買付が予想される。

戦前においてはバンコツク帽体以外に台湾，沖縄産の手編帽体が年間100万打近くも輸出されていたものである。これ等手編帽体の生産が大幅に減少している現在としては，バンコツク帽体に対する需要は益々増加するのではないかと考えられる。

最近の輸出実績

昭和24年度	146,054打	1億6千万円
〃 25年度	241,450打	2億5千万円
〃 26年度	315,925打	3億2千万円
〃 27年度	318,059打	3億7千万円
〃 28年度	470,656打	6億3千万円

2. 検査状況

昭和28年度におけるバンコツク帽体の臨検検査実績は広島出張所で行つた26件であつてその内2件が軽微な事故であつた。

当業界の輸出状況は上述の如く1ケ月平均4,500打であつて，昭和28年8月は戦前戦後を通じての最高指数を示し，その数量51,278打を見るに至つた。当時の価格も最高値を呼び上掲実績表に見られるように打4$80までに至つたが，価格は常に不安定で8月以降低下をたどり昭和29年2,3月頃に至つては打当り2$50程度に下落したことは業界の団結力に欠けていることを示す良き例である。従つて，バンコツク帽体については価格の暴落状況にある時は特に警戒を要するものであつて，生産地にある日本輸出紙帽体検査協会はこれら輸出に当り，広島出張所ではこれと密接なる連絡のもとに検査に当つている。

バンコツク帽体の種類は極めて多く，したがつて織方等も変つているので，織り方の綿密さ粗雑さ，原紙の太さの適不適，加工技術の熟練の度合などが外観検査の主眼点である。

生産能力を超える受注の場合や，価格の低落時に対しては，特に今後重点を置き取締に当る方針である（輸出検査実績参照）。

帽体輸出検査実績表（28年度地域別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容					備考
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他	
東京	—	—	—	—	—	—	—	—
大阪	—	—	—	—	—	—	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—	—	—
福岡	—	—	—	—	—	—	—	—
横浜	—	—	—	—	—	—	—	—
丸亀	—	—	—	—	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—	—
神戸	—	—	—	—	—	—	—	—
広島	26	—	—	—	2	—	—	—
計	26	—	—	—	2	—	—	—

バンコツク帽体輸出検査実績表(28年度月別)

月別	検査件数	事故件数	事故内容					備考
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他	
28年								
4月	—	—	—	—	—	—	—	—
5	4	—	—	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—	—	—	—
7	2	—	—	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—	—	—	—
9	2	—	—	—	—	—	—	—
10	5	—	—	—	—	—	—	—
11	12	—	—	—	—	—	—	—
12	—	—	—	—	—	—	—	—
29年								
1	—	—	—	—	—	—	—	—
2	1	—	—	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	2	—	—	—
計	26	—	—	—	2	—	—	—

ゴム製品

1. 輸出の状況

（A） 生産状況

本年度のゴム製品の生産額はゴム量87,949屯（ラテックス製品を含む）金額88,890,382千円であつた。これを前年度に比較するとゴム量では35%，約2万4千屯，金額にしては21%，約155億円の増加であり，戦前，戦後を通じて最高を示した。以下月別及び業種別に見ると下表のとおりである。（別表1及び2）

表1 ゴム製品生産実績（28年度月別）

月別	ゴム量（屯）	金額（千円）
28年 4月	6,652	7,242,527
5	6,617	6,886,991
6	6,970	6,996,858
7	7,114	7,050,963
8	6,889	6,931,322
9	7,610	7,791,086
10	8,128	8,090,466
11	7,677	7,519,174
12	7,611	7,684,621
29年 1	6,948	6,912,708
2	7,597	7,628,439
3	8,136	8,155,227
計	87,949	88,890,382

表2 ゴム製品生産実績（28年度業種別）

業種	生ゴム量（屯）	比率（%）
自動車タイヤ・チューブ	25,122	29.1
自転車タイヤ・チューブ	8,902	10.3
その他タイヤ・チューブ	1,740	2.2
練生地	2,278	2.4
地下足袋	3,541	4.1
布靴	5,613	6.5
総ゴム靴	14,950	17.3
製靴用品	2,244	2.6
ベルトス	4,366	5.1
ホース	2,251	2.6
ゴム引布	5,018	5.8
医療用品	1,007	1.2
運動用品	372	0.4
救命ブイ	458	0.5
工業用品	7,373	8.6
玩具	960	1.1
計	86,195	100
ラテツクス製品	1,754	
合計	87,949	

（雑貨統計課資料）

此の間の事情を見ると前年度の前半期における約半年間の操短の奏功と季節的な需要の増加と相俟つて後半期は好調を示し，それが本年度に持続されてきたのであるが，原因としては国内消費の増加，原料ゴムの低廉かつ豊富なことによるものである。いづれにしてもかかる大幅な生産の上昇はゴム業界にとつて画期的意義を有するものであつた。今後は此の上昇の頭打ち，及び反動等を如何に調整するかの問題が残されている。

業種別に見ると，自動車タイヤ，チューブ，履物，ゴム引布，ラテツクス製品にあつては戦後の最高生産を示している。その他自転車タイヤ，チューブ，工業用品が之についで主要品目となつている。生ゴム一屯当りの製品価格は平均100万円を示した。

（B） 輸出状況

本年度の輸出状況はゴム量4,986屯（特需を含む）となり，金額は船積実績額約34億である。前年度に比して金額では25%の増加を見ている。

ゴム工業会の調査資料による船積実績は9,330千ドルで業種別に見ると下の表通りである。

ゴム製品輸出船積実績

業種別	金額（千ドル）	%
自動車タ・チ	4,000	42.9
自転車タ・チ	250	2.7
ベルト	800	8.6
ホース	150	1.6
ゴム引布	400	4.6
履物	1,380	14.8
工業用品	300	3.2
医療用品	160	1.7
玩具	1,800	19.3
その他	90	0.9
計	9,330	100.0

前年度と同様自転車タイヤ，チューブ，玩具，履物，ベルト，ゴム引布が主要品目となつているが前年の不況を漸く脱し好転を示している。他の品目にあつては多少輸出されているが数量は少くその不振の原因としては，コスト面で国際価格を上廻るため引合いがあつてもまとまらないことが多く，又一面，主要仕向地であるべき東南アジア地区では現地にゴム工場ができ，自給態勢にあることや，輸入制限措置をとられていることによると思われる。しかし一方海外メーカーとの提携による新技術の導入，企業の合理化により割安な優良製品を生産し得る段階にきており，先行の希望は持たれている。又中共向禁輸製品の解除が逐次行われて来ているので同市場への進出も一つの課題である。

品目別に検討して見ると，自動車タイヤ，チューブは全船積金額の43%を占め前年度に比し大巾の増加を示し輸出品目中の花形である。今後なお伸びる傾向にあり，仕向地は東南アジア，近東を主力とし，旧日本領土にも相当出されている。品質については各製造業者とも設備の合理化，技術の改善により，優れたものを出している。殆んどが強力人絹コードを使用しており，サイズもその需要に従つて設計され複雑化してきている。

自転車タイヤ，チューブは昨年に引続き不調を脱し切れない。この品目は国際競争が激しく日本製品は品質の面で優れているがコスト面で押されている。業界の動きを見ると，かかる面から現在の輸出自転車タイヤ，チューブの規格（ＪＩＳ）を再検討し品質的に輸出可能な範囲を拡大したい意向のようである。

ベルトはかなり出たが品質はバラツキがあつた。引合価格が安くそれに合う品質のものを造るため粗悪品が出る傾向があつた。此の点を是正するため昨年末価格を改正し，3,4条に指定し最低標準を設け不良品の輸出防止を図つた。主要仕向地はインド，台湾等である。

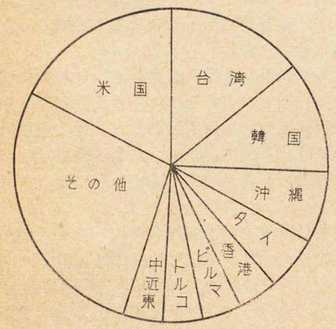
履物は沖縄に殆んど集中され，稀に近東，南洋諸島に出ている。戦前に比較すると数量的に全く減少しており現在の状態では新市場への進出又は旧市場（南阿）の復活は望めない。日本の履物は品質，外観ともにかなり優れたものができており，輸出されてもいい筈であるが，前記に述べたような仕向地の事情，値段等が隘路になつている。沖縄向はその要求にやはりばらつきがあり，安値で規格の最低線のものもかなり出荷されている。

履物の一部に総ゴム草履があるが昨年度と同様ドル地域（ハワイ，米本土，グワム）に出荷されている。製造の中心は広島であるがその特殊な使用価値が海外に認められ，漸増しつつある。ゴム玩具は全生産額の7割が輸出されており輸出工業と言つても差支えない。東京が生産の中心であるが大阪，その他でも極少量製造されている。仕向地としては北米，南米，欧洲等があり，戦前のそれと多少異つて来ている。戦前はゴムマリ，風船が多く輸出されていたが戦後は逆になつた。しかし本年度下半期あたりからゴムマリ，風船も漸次回復を示し始めている。

貼合玩具は現在需要，意匠の両面から見て行詰りの状態でむしろ型物玩具が新考案さによる面白さから需要を確保，増加しており先行も明るい。ただ模造，及びそれに伴う値引競争が一つの問題である。品質は製造規模，過程から見て不良品の混入する恐れがあり，検査に重点をおく必要がある。ゴム引布はメーカーの設備がととのつており，品質も略一定している。仕向地は香港が主でフヂエツト布のものがよく輸出された。

その他工業用品，医療用品が目立つている。以上を通じて見ると将来性があり一応安定しているものとしては自動車タイヤ，チユーブ，ゴム引布，ゴム玩具，ベルトなどであつて，その他の品目についてはあまり期待がもてない。

仕向地について契約実績から見ると下表の通りである。



台湾，沖縄，韓国の旧日本領土が約1/3を占めて居り，次いでアメリカ，東南アジア，中近東の順になつている。従つて現在の輸出の状態は戦前のそれとはかなりちがつた基盤に立つており，問題は今後に残されよう。

2. 検査の状況

本年度のゴム製品に対する当所の臨検検査は輸出件数の約10％について実施し，1,357件となつている。一方業界においては，工場数約250，金額にして6割がゴム製品検査協会により，約11工場，金額にして残部の4割が自家工場において行われている。自家検査工場は自動車タイヤ，チユーブ，履物，ゴム引布などの輸出量の多い業種で，且つ規模の大きいものが占めるので，金額的にその占めるウエイトが大きい。

臨検々査にあたつては両者を対象として行い，その運営が適正に行われるよう，指導，育成に努力を払つてきた。

当所の臨検々査件数1,357件のうち事故はその19％，263件となつており，内容について見ると下記のとおりである。

内容	件数
(a) 等級の誤り	1
(b) 無表示	19
(c) 軽微事故	237
(d) 最低標準に達しないもの	6
計	263

これを月別，地区別に見ると下記のとおりである。(別表3及び4)

表3　ゴム製品輸出検査実績(28年度地区別)

地区別	検査件数	事故件数	事故内容 (a) 無表示	(b) 等級の誤り	(c) 軽微事故	(d) 最低標準に達しない
東京	547	96	0	0	91	5
大阪	234	104	0	0	104	0
名古屋	61	2	0	0	2	0
福岡	196	21	0	0	20	1
横浜	95	19	18	0	1	0
新潟	0	0	0	0	0	0
神戸	73	15	1	1	13	0
広島	151	6	0	0	6	0
合計	1,357	263	19	1	237	6

表4　ゴム製品輸出検査実績(28年度月別)

月別	検査件数	事故件数	事故内容 (a) 無表示	(b) 等級の誤り	(c) 軽微事故	(d) 最低標準に達しない
4月	124	18	4	0	13	1
5	147	36	3	1	32	0
6	126	20	2	0	18	0
7	106	17	2	0	15	0
8	112	24	1	0	20	3
9	114	16	2	0	14	0
10	106	15	1	0	14	0
11	99	13	0	0	13	0
12	97	17	0	0	16	1
1	94	20	1	0	19	0
2	130	38	2	0	35	1
3	102	29	1	0	28	0
計	1,357	263	19	1	237	6

上表(a)及び(d)は輸出品取締法に対する無知から生ずるもので結果的には出荷港において発見される。即ち横浜港18件，神戸港1件となつており，これについてはその都度，注意，指導を与えている。昨年度は33件の発生を見たが，本年度は減少しており，漸次取締法の趣旨は滲透してきていると考えられる。

(c)の軽微事故は検査の際軽微の不良品が混入しており交換，手直し等の条件を付して出荷せしめる場合である。従つて工場，輸出業者倉庫における臨検々査において見られる。

軽微事故の製品別分類(地区別)

地区	製品
東京	ゴム玩具，ゴム引布，ゴム草履，ゴム雑品
大阪	ベルト，自転車タイヤ，チユーブ，布靴，風船，医療用品
名古屋	自転車タイヤ，チユーブ，ベルト
福岡	履物
広島	ゴム草履

これらの欠点としては，殆んど外観上のもので傷肉，気泡，汚れ，キズ，異物混入，仕上不良が主で製造上の不注意に起因する。又長期間ストツクしたもので汚れの甚だしい場合が案外多い。採算上から仕上等に手間をはぶき，社内検査も怠りがちなため不良品が混入するのであるが，技術的な問題と云うよりむしろ製造業者の心構えによる場合が多く，注意すれば改善され得るものである。

(b)の最低標準に達しないものとして本年は6件の発生を見た。その内容は下記のとおりである。

最低標準に達しないもの(地区別及び製品別)

地区	製品別	件数
福岡	ゴム履物	1
東京	ゴム玩具	5
計		6

ゴム玩具は型不良1件，生地不良2件，外観上の欠点，汚れ2件となつている。履物は総ゴム靴の塗装不良1件となつている。

いづれにしろ事故は昨年度に比して半数に減少しておりこの点では検査及びそれに起因する品質の改善については相当の効果があつたように思われる。只昨年と同様，ゴム玩具(主要生産地東京)，履物(主要生産地福岡)の二種類が依然として事故を起している。これは両品目とも大部分が工員のハンドワークによるもので，納期の切迫，工員の未熟等が品質に影響を与えるからであろう。

上述して来たような状況から当所は臨検々査の重点を東京はゴム玩具及びゴム雑品に，名古屋ではベルト，自転車タイヤ，チユーブ，大阪ではベルト，履物等に，福岡は履物に置いて実施して来たが，その効果はかなり挙がつたものと信ずる。

特記すべき事項

a) 本年度ゴム工業の生産は戦前，戦後を通じて最高の数字を示した。

b) Vベルト，糸ゴムについて3条より4条へ，平ベルト，コンベヤーベルチについて3,4条にそれぞれ指定の切換を行い，同時に規格(ＪＩＳ)の制定および旧規格(ＪＥＳ)の廃止を行つた。

c) ビルマ向輸出品についてはサーベイレポートが要求され，ゴム製品においても当所において31件について之を発給した。

地区別及び月別に見ると下表のとおりである。

サーベイレポート発行実績

地区別＼月別	11月	12月	1月	2月	3月	計
東京	1	3	1	1	2	8
大阪	1	3	0	0	0	4
名古屋	4	0	0	0	0	4
福岡	0	3	3	4	2	12
神戸	0	3	0	0	0	3
計	6	12	4	5	4	31

d) 綿糸布のリンク制が施行され綿糸布を使用するゴム製品の輸出価格に好影響を与えた。

セルロイド製品

1. 輸出の状況

セルロイド製品の輸出は28年度総計10億5千万円(検査協会統計による)に達し，好調を示した。これは前年度に比し36.6増である。

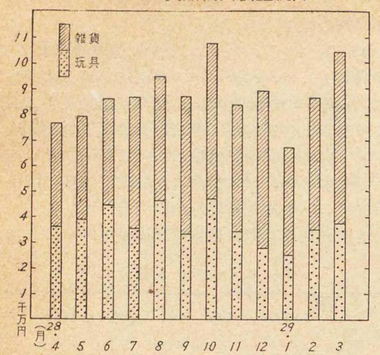
近年頻りにプラスチツク製品の圧迫とか，セルロイドの燃焼性が問題になつて，前途を危ぶまれているが，それにも拘らず相当の底力を見せているのは，価格の安いことと，燃焼性を除けば他に比類を見ない優秀な持味と商品価値を買われているのであろう。

製品のうち，玩具が最も多く4億4,483万円に達し，製品の42.4％を占める。次いで造花，眼鏡枠，置物，テーブル，テニスボール，楠類，サングラス，腕環，洋傘柄等の順になつている。又仕向先国では，米国の3億5,300万円(23.6％)を筆頭に，ヴエネゼラ，香港，台湾，オランダ，ベルー等がこれに次ぐ。

2. 検査状況

当所の臨検々査については輸出件数の約8％，771件であつたが，本年度は比較的事故が少く，要再検は2件を算するのみで，他に無表示10件，軽微な事故で良品と交換又は手直しの上輸出せし

セルロイド製品輸出検査統計



めたものが88件あり，合計100件で，臨検々査件数の13%弱に当り，前年度の事故率14.2%を下廻る好成績であつた。

セルロイド製品輸出実績表（地区別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	軽微事故	無表示	その他
東京	480	61	1	1	59	—	—
大阪	145	19	—	—	19	—	—
名古屋	31	0	—	—	—	—	—
福岡	21	2	—	—	2	—	—
横浜	57	11	—	—	1	10	—
新潟	0	0	—	—	—	—	—
神戸	24	6	—	—	6	—	—
広島	13	1	—	—	1	—	—
合計	771	100	1	1	88	10	—

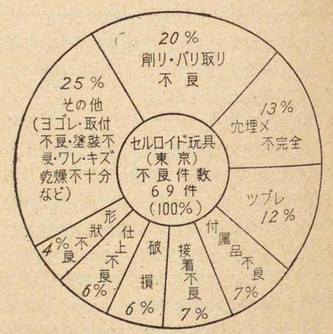
セルロイド製品輸出検査実績表（月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	軽微事故	無表示	その他
28年4月	80	7	—	—	7	—	—
5	64	9	—	—	8	1	—
6	83	12	—	—	10	2	—
7	65	12	—	—	11	1	—
8	64	11	1	—	9	1	—
9	66	5	—	—	5	—	—
10	61	7	—	1	5	1	—
11	46	11	—	—	9	2	—
12	59	9	—	—	8	1	—
29年1	45	5	—	—	4	1	—
2	73	10	—	—	10	—	—
3	65	2	—	—	2	—	—
合計	771	100	1	1	88	10	—

セルロイド検査協会では後述の如く，登録機関の申請を行つたのであるが，それに移行する準備として本年度早々より検査実務の刷新強化を企図し，当所に指導を求めて，相当厳重な検査を行つてきたので，当所の臨検々査以前に，検査協会自体が再検査，再々検査等の措置を執つたものが多かつた。これが当所の事故記録の少かつた理由であつて，必ずしも品質が良くなつたものとのみは言えない。輸出価格はともすれば叩かれつつ下がり気味であつて，これに反し材料たる生地はアルゼンチン等への輸出成約や樟脳の不足等により強気含みの相場である。かかる状況の下にあつては，検査の強化を行わない限り，品質低下は免がれ得なかつたであろう。セルロイド製品の第4条指定品目とすることは準備のため意外に手間取つて漸く10月に実施を見たが，次いで7条の2指定の準備にかかつたため，一般に業者に検査強化の印象を与えたようであつて，辛うじて規格ぎりぎりの線で踏み止まつたものも多かつたようである。

次に事故内容であるが，2件の要再検はいづれも玩具で，1件は動物玩具の形態不良で，これは型が悪かつたことに原因があつたので型を直させ，選品せしめて再検査を行つた。他の1件は石膏詰めの動物玩具で，石膏の詰め方及び乾燥が悪く，手直しする余裕がなく業者自ら廃棄処分にした。軽微なる事故を含めて，全般的にどんな点の不良があつたかということを概観して見ると，

不良構成比率（東京に於ける玩具の一例）



(a) 玩具（主として東京本所における検査）
削り，バリ取り不良，穴埋め不完全，ツブレ，接着不良，附属品不良，破損，仕上不良
が主で，その他形態不良，汚れ，附属品取付不良，塗装不良，ワレ等があつた。

(b) 置物（主として東京本所における検査）
塗装不良，汚れ，キズ，ソリ等

(c) 容器類(主として大阪支所における検査)
形状不良，面取り不良，仕上り生地厚サ不足，磨き仕上不良

(d) テーブルテニスボール（主として大阪支所における検査）
重量不良，接着不良，締キズ，接合部のオートツ等

(e) 眼鏡枠(主として大阪支所における検査)
仕上不良，形体不良，水漏(水中めがね)，ゴム紐取付不良（全上）

(f) その他
くし，洋傘柄，装身具等に若干の欠点があつた。

以上のような不良素因が挙げられるが，結局単価の値下りによつて無理な註文を取る場合に起り勝ちであり，これが生地をギリギリまで薄くし，下請加工賃の低下による粗雑な加工ともなるのであろう，幸いにしてクレーム事故は極めて少いようであるが，クレームとならぬまでも，着荷の際不良率の多いことは値叩きの原因ともなり，これが又品質低下の結果ともなり，原因ともなる悪循環をくり返すことを恐れなければならない。

3. 特記すべき事項

（A） 4条品目指定及び7条の2指定

10月1日よりセルロイド製品は等級を廃して第4条指定品目となり，殆んど全般的に亘る規格の改正を行つてこれを実施した。更に第7条の2指定品目にすべく，29年3月2日告示が行われ，同時に検査機関登録の基準が発表された。次いで3月25日に財団法人セルロイド検査協会（東京，大阪）の登録が行われた。7条の2指定品目は次のとおりである。

(1) セルロイド生地
(2) がん具
(3) 身辺細貨
(4) 容器及び文房具
(5) テーブルテニスボール
(6) 定規類及び分度器
(7) チエーンケース
(8) 雑品類

（B） ビルマ向サーベイレポート

28年11月より29年3月末日に至る間，ビルマ向輸出についてサーベイレポートを発行したものは，合計8件であつた。

セルロイド生地

1. 輸出の状況

本年のセルロイド生地業界は対アルゼンチン（日亜通商協定に基き協定特掲対日輸入額55万弗）ブラジル等の成約により第四四半期に至つても依然活況を呈した。28年度（28年4月～29年3月）の輸出実績は次の通りであるが，この主要仕向地先はアルゼンチン，ブラジル，韓国，印度，台湾，メキシコ，パキスタン等である。

生地の生産は28年度には7,847瓲あり，生地のみの輸出は336瓲，輸出製品の生地換算量を約1,200瓲と推定すれば，生産生地の約2割近くが輸出用に振向けられたものと見られる。但しこれには万年筆その他のセルロイドを一部使用したものは含まれないから，この比率はもつと多くなつている筈である。

最近の世界各国に共通する傾向として，自国産業——特に二次製品加工業——の育成政策を採ることが顕著となつているが，前記アルゼンチン，ブラジル等への生地輸出もこれに起因するものであり，今後は一層生地の輸出量は伸びて行くものと考えられる。

2. 検査状況

前年度年報記載の如くセルロイド生地は大メーカーの輸出が殆んどであり，これ等の工場はJIS指定工場で，極めて完備した試験設備を有し，品質管理を行つているので，当所の臨検々査においては，市販のものを輸出する場合とか，管，棒等の小メーカーの製品に検査の重点をおいてきたが，大体において成績は良好で，2件の軽微事故が記録されるに止まつた。

セルロイド生地輸出実績（28年度）

月別		数量(kg)	金額(千円)
28年	4月	26,329	19,744
	5月	20,713	14,783
	6月	13,882	10,114
	7月	13,526	10,544
	8月	16,554	12,294
	9月	14,456	11,014
	10月	17,794	13,810
	11月	31,196	24,023
	12月	53,994	42,934
29年	1月	31,226	24,480
	2月	44,753	35,265
	3月	52,058	38,433
計		336,481	257,438

3. 特記すべき事項

（A） 7条の2指定

セルロイド生地については，セルロイド製品と共に，輸出品取締法第7条の2指定品とすることに

セルロイド生地輸出検査実績表（地域別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	軽微事故	無表示	その他
東京	7	1	—	—	1	—	—
大阪	2	—	—	—	—	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—	—
福岡	3	1	—	—	1	—	—
横浜	—	—	—	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—
神戸	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	12	2	—	—	2	—	—

セルロイド生地輸出検査実績表（月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	軽微事故	無表示	その他
28年4月	3	1	—	—	1	—	—
5	—	—	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—	—	—
7	1	—	—	—	—	—	—
8	1	—	—	—	—	—	—
9	1	—	—	—	—	—	—
10	1	1	—	—	1	—	—
11	1	—	—	—	—	—	—
12	—	—	—	—	—	—	—
29年1月	2	—	—	—	—	—	—
2	1	—	—	—	—	—	—
3	1	—	—	—	—	—	—
合計	12	2	—	—	2	—	—

なり，昭和29年3月2日に通産省告示第39号をもつてその旨及び検査機関の登録基準が告示され，同3月25日民間検査機関としてセルロイド検査協会が登録され，5月1日より実施する運びとなつた。今後の等級表示は Passed A 又は Passed B で表示される。

（B） 醋酸セン イ素セルロイドについて

醋酸セン イ素を原料とするセルロイドは，アセチロイドとか不燃性セルロイド等と呼ばれているが，輸出セルロイド生地指定の適用範囲外となつている。最近多少輸出もあり，加工製品の方ではこれを材料とするものも包含されているので，早晩，醋酸セン イ素セルロイド生地も指定されなければならないと思う。

石　けん

1. 輸出の状況

石けんの輸出は27年度と同様，極めて少量で，27年度においては全生産量の 0.03%にすぎなかつたが，28年度にあつてはこの比率を更に下廻るものと推定される。原料の牛脂は殆んど米国よりの輸入に依存し，又香料も輸入にまつものが多く，内地生産コストが割高で，品質水準は相当高くなつてきながら，近東，沖縄等への輸出さえ活潑でない。

2. 検査状況

当所としては，輸出量がこのように少く，メーカーも大体信用ある工場のみで，しかも輸出に際してはそれぞれの工場が有する試験室で行つた試験成績表によつて取引が行われている現状から品質の点についてもほぼ心配が無くなつているので，28年12月21日指定品目より削除することとなり，同日告示，29年1月20日実施したので，以下検査実績については，その前日までの記録である。

石けん輸出検査実績表（地域別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	軽微事故	無表示	その他
東京	1	1	—	—	1	—	—
大阪	24	2	—	—	2	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—	—
福岡	5	—	—	—	—	—	—
横浜	3	—	—	—	—	—	—
神戸	4	1	—	—	1	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	37	4	—	—	4	—	—

石けん輸出検査実績表（月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	軽微事故	無表示	その他
28年4月	5	—	—	—	—	—	—
5月	8	2	—	—	2	—	—
6月	5	2	—	—	2	—	—
7月	4	—	—	—	—	—	—
8月	8	—	—	—	—	—	—
9月	2	—	—	—	—	—	—
10月	1	—	—	—	—	—	—
11月	2	—	—	—	—	—	—
12月	2	—	—	—	—	—	—
29年1月	—	—	—	—	—	—	—
2月	—	—	—	—	—	—	—
3月	—	—	—	—	—	—	—
合計	37	4	—	—	4	—	—

検査件数37件のうち，軽微事故4件を数えるのみで好成績であつた。このうち東京の1件は固型洗たく石けんで，アルコール不溶性分がやや超過するものがあつたが，他は良好であつた。大阪の2件は表示包装部面のみの欠点に注意を与えた程度であり，神戸の1件は水分が若干高いものがあり良品と交換せしめた。

3. 特記すべき事項

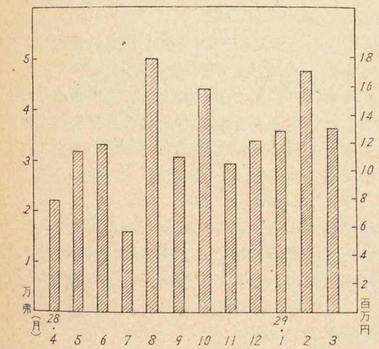
前記の如く29年1月20日より取締法による指定が解除されたが，業界に対しては爾後良心的輸出に努力するよう期待する。

安全マツチ

1. 輸出の状況

安全マツチは28年度13,582マツチトンの輸出（マツチ検査協会報告）があり，ＦＯＢ価額にして415,783ドルであつた。同年間における全生産量361,555マツチトンの 3.8%に過ぎないが，前年度に比すれば80%増である。価額を月別に見ると別図の如くになり，月平均34,649ドル（1,132マツチトン）が出たことになる。

安全マツチ輸出検査統計



主なる仕向先はペナン（36%），沖縄（29%），シンガポール（27%）で，この3地方で91%余を占め，その他には朝鮮，シドニー，ザンジバル，ハワイ等へ少量出ている。未開拓の市場としてはパキスタン，南米，中共，台湾，朝鮮等があるが，生活必需品であつても自国産業保護の政策をとつているものも多く，又現地事情の把握ができないために進展しない所もある。

2. 検査状況

安全マツチの輸出は神戸港が大部分を占め，神戸に財団法人輸出マツチ検査協会があり，東京に同支部があつて検査に従事している。当所の臨検査は別表の如く20件で，東京における件数が多いのは，東京地方の輸出マツチは市販品を購入して広告用として輸出されるもののみで，概して包装其他に不馴れな場合が多いため臨検検査を可成り高率に行つてきたことによるのである。

マツチ輸出実績表（地域別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	軽微事故	無表示	その他
東京	12	1	—	—	1	—	—
大阪	1	—	—	—	—	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—	—
福岡	—	—	—	—	—	—	—
横浜	2	1	—	—	—	1	—
神戸	5	—	—	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	20	2	—	—	1	1	—

マツチ輸出検査実績表（月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達しないもの	軽微事故	無表示	その他
28年4月	4	—	—	—	—	—	—
5月	1	—	—	—	—	—	—
6月	3	—	—	—	—	—	—
7月	5	—	—	—	—	—	—
8月	—	—	—	—	—	—	—
9月	—	—	—	—	—	—	—
10月	—	—	—	—	—	—	—
11月	—	—	—	—	—	—	—
12月	3	1	—	—	1	—	—
29年1月	3	1	—	—	—	1	—
2月	—	—	—	—	—	—	—
3月	1	—	—	—	—	—	—
合計	20	2	—	—	1	1	—

検査事故は横浜において無表示1件，東京において軽微事故1件あつたのみであるが，この件は色装条件を知悉していなかつた輸出業者に対し包装木箱の改装を命じたものである。安全マツチの品質そのものに余り問題はなかつたが，傾向としては殆んど色頭マツチに変りつつあり，吸湿性が多少懸念される。マツチはその特性上諸経費中包装費の占める率が高いので，これは輸出契約の際先分予算に入れておくよう指導している。

3. 特記すべき事項

輸出マツチの包装規格は，マツチ工業会において作成した原案を基礎にして28年3月20日に制定されたが，一方安全マツチの品質規格は輸出，内地を一本として次の如く制定された。

安全マツチ　ＪＩＳ　S4001（1953）
昭和28年4月18日制定
〃 29年1月20日実施

輸出マツチの包装　ＪＩＳ　Z1001（1953）
昭和29年1月20日実施

7726

硝子製品及び人造真珠

1. 各品種の輸出状況と検査の状況

（A） ガラス製品

（a）食料容器および食卓用器

昨年の不況を脱し，出荷状況も漸く活潑さを帯びてきたが，依然価格の引下げを望む声が強く，これら海外からの低価格の引合に応じて近時関西方面に数社の新生産業社ができ，かなりな量の生産を行つているが，製品はやはり粗悪の傾向が目立ち，これ等の製品には，泡，スジ，口切，口焼の不良，口経不揃等の欠点が特に著しく認められる。当所としては，これ等に対する，品質向上及び粗悪品の流出防止のために不断の努力を行い，特に大阪支所においては不良な業者に対しては報告義務を課する等の手段をとつて来ており，なお今後も常時厳重に監視を続けてゆく方針である。現在までのところ良心的な業者には粗悪品出荷の傾向は余り認められていないが，全般的品質悪化の現象が現われる恐れもあるので，この方面に対する注意を怠らないようにしている。

（b）魔法ビン

魔法ビンの生産並に輸出は全部大阪地区で占められているが，暫時不活潑であつた本業界は最近，とみに活況を呈してき始め数量的には，数年前の最盛期の水準に近接する気配を示している。しかしながら原材料及び加工労賃の騰貴の反面，製品が安値のため利益面からみると，遙かに盛時に及ばない模様である。しかして，安価薄利のものは，品質も落される傾向があり，細口製品がこの好例として挙げられ，銀引き，及び中止めの不良等の欠点が顕著である。これ等は魔法ビンの生命である保温効力の損失を大にするので注意している。仕向地は中南米が最も多く，印度，インドネシヤ等が，これに次ぎ，従来多量に出荷されていたアフリカ，香港等が低調なのは注目すべきである。

（c）電灯用照明器ガラス部品

シヤンデリアパーツ，ランプパーツとも東京方面で生産され輸出され，その品質は良好で，海外において依然好評を博しているが，欧洲製品との競争のため，品質形態等についての要求が相当困難な関係もあり，その製造量が注文に追付けぬ状態であるため，稍々ともすると選品上の見落しのため等による不良品の混入を見受けることがある。又間隙を縫つて，比較的粗悪なものが時折専門工場でないところから低廉に出荷されることがあり，これが安定した価格及び品質を引下げる可能性があるので注意している。

（d）灯火用具

アフリカを主要市場として，比較的安定しているハリケーンランプ（生産地名古屋及び大阪）の外は，輸出量はやや減少傾向をみせている。これは香港，インド，パキスタン，インドネシヤ等の従来の市場で既に数工場がこれの製造にあたつていることに起因していると考えられ，今後はこれ等現地業者と，価格品質の上で競争しなければならぬ立場にあり，従来の安易な考えを捨てねばならないのであろう。そのためか最近の品質は一般的に良くなつてきているが，大阪製品に対する大阪支所の検査成績からはホヤ，油ツボの部分に口切，口焼の不良，泡等の欠点が散見される。殊に，ウオールランプのほや部の大きな泡，筋，口切不良等の他，口経不良のため，バーナーに取付不能のものが存するものが目立つていた。

（e）カバーグラス

従来安定した取引が行われてきた本業界（主として大阪）は最近受註が稍々減少してきている。これは米国に於て，機械製のものが完成された結果ではないかと考えられる。この米国製のものとの対抗上，業者も常に研究を行つているため品質的には向上傾向を示している。

（f）アンプル

輸出量は少く，関西方面から稀に出荷される程度であり，品質的には，余り良好とはいえず，油煙の巻込みのあるもの，底部の弱いもの等相当数混入しているのが見受けられた。

（g）鏡　　類

一般鏡類は大阪地区の製品が主体をなしているが，従来から高級品は余り出荷あれず時々東京地区において扱われる程度である。従つて輸出数量に比して金額は低額であり，主として，北米，東西南アジア方面に輸出されるが，6インチ以下の小ものが大部分で，自転車用バツクミラーがこれに次いでいる。品質的には安物に多くの欠点が認められ，最近においては使用される板硝子自体の不良化が目立つが，これは，不良個所の使用を避ける事により当然除かれるものである。この外，銀面の不良，セル枠の接着不良等のもの，汚れ，裏止めの乾燥不充分のもの等僅かの注意によつて，防止可能な欠点が多いので，大阪支所では業者に対して注意を喚起して来た。特に自転車用バツクミラーは従来から安値に伴う金属部分のメツキ等の加工に粗雑さが認められたので重点検査を行つてきた。要するに，これ等は販売競争の結果，安価に受註し利益の少いため，その製造工程粗雑になる事に起因するものと思われるので，この点に，ついても指導を行うようにしている。

（h）ガラスビン（ガラス製花生，喫煙具文房具）

出荷量，品質とも従来と余り変らず，僅かに機械製ジュースビンの出荷が目立つ程度であつた。

（i）拡　大　鏡

良品は主として東京地区から輸出されているが，品質優秀なものは引続き出荷量，金額とも向上の一途をたどつており，又者も常に品質，意匠等に対する努力を続けているので是等の品に関しては最近大きな欠点は殆んど認められないようになつてきた。安価な品も量的には相当量出ているが，これらの品物の中には枠部，レンズ部とも欠点を有するものが可成り混入しており当所としてもこれに対する品質向上については不断の注意を継続しなければならないと考えている。而して現在のところ，良品に対する粗悪品の影響は，価格維持の困難さ，という面において認められている。

（j）サングラス

サングラスの生産は大阪の一地区に限られている。本年前半期においては昨年度に引続き低調で，いきおい安価に受註したため品質低下の現象が著しく，大阪支所としても，これらの防止に大なる努力を払わねばならなかつたが，下半期に到つて，米洲よりの受註が急増し，各業者とも多忙であつたが，検査の励行と価格の維持に免めた結果，品質は割合に良くなつてきた。又反面，従来の市場である東南アジア方面に対するメガネレンズ出荷品中に，青板ガラスを使用したような不良品が時々あり，これに対しては厳重な監視を行い，不良品の出荷防止につとめた。

本業界における大阪地区の民間自治検査機関は二つのものが併立し，従来ややもすると意志の疎通を欠いているように見受けられたが，これが合同して単一機関を結成する準備を進めつつあるのは望ましい傾向である。

（k）光り玉類

光り玉の大部分は大阪地区で生産され，一部が新潟で生産される。本業界は前年の不況を脱し価格も漸次上昇してき始めたが，減少した製造業者のところへ注文が過大に行われたため，大阪地区の業者の中には製造工程を省略し，粗製濫造の弊に陥る等の事をした者があり，このため不良率の大なる品物が出荷される可能性があつたので，大阪支所では業界に対し品質低下防止の警告を発するとともに，生産地ならびに輸出港における臨検を強化した結果，品質保持及び，向上の面に相当程度の効果を収め得たが，なお一層厳重な監督を持続する方針である。主なる欠点としては，原玉不良，塗装及び銀引き不良，附属物の品質低下等が挙げられる。

（l）　ローザリー

東京地区から出荷され，宗教用品であるため，出荷量比較的安定しているが，やはり市況の影響をうけ，欧洲品との激しい販売競争下にあり，意匠等に関して種々細かい希望を受け，その要求に応ぜねばならぬため，実質的には漸次価格の低下をきたしている。品質的には玉の形状，色沢も良好で結接も手慣れて良く仕上つており，競争相手国製品に比し殆んど遜色を認めないが，ただし金属部の彫刻に精緻を欠いて居るのが遺憾な点である。

（B） 人造真珠および泉玉系細貨類

本品種は大阪府下信太山附近で大部分が生産される。本業種も他と同様，販売競争のため値下りの傾向にあり，輸出量増加にかかわらず金額的には殆んど変つていない状況で，品質的にも悪化の傾向が認められ始めたので，大阪支所では臨検を強化するとともに，自治検査機関を督励し品質低下の防止に務め，かろうじて最低規格水準を維持するようにしたが，未だ安価な水準すれすれのものが大量に出荷されているので厳重に注意している。最近の傾向として，中程度の品質のものの出荷が減少を示しているが，これは意匠等の点において欧洲品に圧されているためと思われ，今後この点に関し努力すべきであると思われる。

ガラス製品を全般的にみると，価格の低下につれて利潤も減少してきている模様であり，これに起因する工程，原料等の手抜き粗悪化等が散見され，前年度特に不況であつたマホービン及び眼鏡類が活況を呈したのが目につく程度であつた。

而して品質の悪化傾向に対しては一層の注意をもつて監視してゆく必要が痛感される。

2. 特記すべき事項

今年度は，規格関係においてはマーブル玉類，ガラスボタン類，ガラス光り玉類，理化医療用ガラス器は現行規格がそのまま確認され，同時にガラスウヅワは廃止と決り，その他魔法ビン，食料容器および食卓用器，けん尿鏡ガラスは今まで3条であつたものが3,4条に変更された。

硝子製品全品目の検査実績は下表のとおりである。

硝子製品輸出検査実績表

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達しせぬ	軽微事故	無表示	其の他
東京	267	—	—	—	30	—	—
大阪	668	20	11	9	343	1	—
名古屋	56	2	1	1	9	—	—
福岡	12	—	—	—	2	—	—
横浜	133	—	—	—	1	—	—
神戸	284	8	6	2	109	16	—
新潟	131	4	4	—	24	—	—
広島	5	—	—	—	—	—	—
合計	1,556	34	22	12	518	17	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	其の他
28年4月	146	2	1	1	38	2	—
5月	127	3	1	2	42	3	—
6月	154	9	5	4	43	2	—
7月	162	1	1	—	49	2	—
8月	130	4	3	1	47	1	—
9月	132	1	1	—	58	2	—
10月	131	4	4	—	35	1	—
11月	103	2	—	2	38	3	—
12月	80	2	2	—	24	1	—
29年1月	134	3	2	1	54	—	—
2月	141	1	—	1	52	—	—
3月	116	2	2	—	38	—	—
合計	1,556	34	22	12	518	17	—

人造真珠輸出検査実績表

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	其の他
東京	48	—	—	—	5	—	—
大阪	205	5	—	5	68	—	—
名古屋	3	—	—	—	—	1	—
福岡	0	—	—	—	—	—	—
横浜	34	—	—	—	1	4	—
神戸	152	13	1	12	42	—	—
新潟	2	—	—	—	—	—	—
丸亀	1	—	—	—	—	—	—
広島	28	—	—	—	1	—	—
合計	473	18	1	17	117	5	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	其の他
28年4月	38	2	—	2	8	1	—
5月	54	3	—	3	12	1	—
6月	51	2	1	1	13	—	—
7月	49	1	—	1	13	—	—
8月	34	1	—	1	9	—	—
9月	35	—	—	—	7	1	—
10月	28	—	—	—	5	—	—
11月	41	4	—	4	9	2	—
12月	44	3	—	3	8	—	—
29年1月	26	—	—	—	13	—	—
2月	31	1	—	1	12	—	—
3月	42	1	—	1	8	—	—
合計	473	18	1	17	117	5	—

硝子製品輸出検査実績表（昭和28年4月～昭和29年12月）

品目	4月 t	4月 千円	5月 t	5月 千円	6月 t	6月 千円	7月 t	7月 千円	8月 t	8月 千円	9月 t	9月 千円
飲食料容器	1,175	30,631	283	9,331	255	8,482	117	6,011	201	7,455	191	7,993
化粧用及び理化用容器	30	5,333	41	5,236	65	6,814	53	3,110	35	2,420	28	2,156
食器及び厨房用品	182	20,762	302	28,268	280	29,568	790	69.217	0.2	41,254	7	1,203
魔法瓶	18	3,062	20	3,818	22	5,293	17	6,825	442	11	599	47,539
照明用器具	60	13,180	65	16,666	31	4,093	32	4,521	61	9,092	58	9,339
硝子管	1	55	1	100	2	79	5	1,256	1	364	2	200
眼鏡用硝子	13	1,504	9	2,105	10	1,949	6	745	8	870	14	4,010
マーブル	165	5,383	116	3,861	180	5,593	17	627	57	1,798	46	1,495
工芸装飾用品	174	16,630	145	15,412	175	15,234	137	12,317	137	12,733	119	9,633
その他	11	1,250	62	5,753	474	25,258	19	2,790	42	5,093	31	4,195
計	1,830	97,770	1,045	90,550	1,494	102,363	1,193	107,419	984.2	81,090	1,095	87,768

10月 t	10月 千円	11月 t	11月 千円	12月 t	12月 千円	1月 t	1月 千円	2月 t	2月 千円	3月	年間の集計 千円	
145	4,812	28	1,305	88.4	3,286	95	2,907	271	9,927	調	2,849.4	92,145
37	3,866	25	1,583	70	5,782	56	3,394	41	3,928		481	43,622
8	2,067	1	200	5	125	216	27,725	317	36,748		4,313	409,504
286	30,827	436	39,398	463	38,198	33	4,572	39	5,872	査	170.2	32,998
32	7,370	40	9,746	45	8,496	23	4,159	64	13,345		512	100,007
3	258	2	187	1	124	3	310	2	213		23	3,146
13	1,358	16	4,378	11	1,872	13	2,370	14	1,900	不	127	23,061
213	3,513	114	2,129	117	2,307	117	4,991	298	6,449		1,441	38,146
130	10,503	144	13,582	258	12,822	148	14,195	203	20,548		1,770	153,639
20	2,217	36	3,867	0.4	3,480	16	2,342	19	3,010	能	730.4	59,255
887	66,591	842	76,375	658.8	76,482	720	66,965	1,268	101,940		12,417	955,523

金属洋食器

1. 最近の輸出状況と業界の動向

先ず昭和25年度からの輸出実績を挙げて見ると次のとおりである。

昭和25年度	1452,099打
〃 26年度	2066,999打
〃 27年度	3313,144打(491,356千円)
本年度	3323,225打(588,798千円)

上記の数字で判明するように金属洋食器の輸出量は逐年上昇し本年度においても前年度を僅かに凌駕している。金額においては前年度より約1億円弱の増加を示し，製品の打当りの単価は152円より177円にはね上つた。

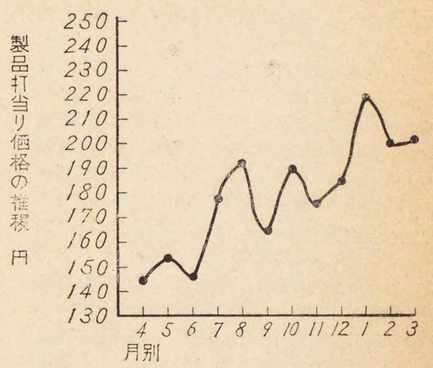
総括的について可成りの活況を呈し，次表の月別輸出実績に見られるように4,8両月の3,500万円台を除いた他の月は4,000万円～5,000万円台を常時出荷し，昭和29年3月度においては実に7,000万円台の戦後最高の出荷記録となつた。

金属洋食器輸出実績表（昭和28年度）

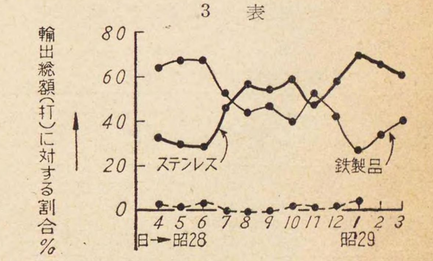
		数量（打）	金額（千円）
28年	4月	246,596	35,526
	5月	364,507	56,034
	6月	307,732	44,633
	7月	304,333	52,292
	8月	187,568	35,950
	9月	215,222	41,226
	10月	255,186	48,524
	11月	265,738	46,462
	12月	315,086	57,592
29年	1月	187,834	41,186
	2月	289,839	57,652
	3月	386,584	71,721
計		3,323,225	588,798

次に品種の傾向をみると材質に本年度においては大きな変動があつた。次の図表は月ごとの鉄製品とステンレス製品の出荷総数(打)に対する割合の変動を示すものであるが，これも考察すると前年度輸出の主力をなしていた鉄クロームメツキ製品（全輸出量の約70%を占めた）が本年度に入つて急激に下降し8月に至つてステンレス製と遂にその位置を換え3.4半期，4.4半期に入つて益々その傾向が強く，昭和29年1月においては鉄製品は全体の27%，ステンレス製品は69%に上昇した。このことは3表の製品打当り価格の推移表にも顕著に現われ，本年度当初の144円/打が29年1月には220円/打となつている。仕向地の変動も顕著で従来の香港，南米，東南アジアの主供給地が米国，カナダ，比島，アフリカ等に置き変つた。中南米は比較的変動がなく，又下半期に入つてから欧洲方面にも相当の進出が見られた。

2 表



3 表



2. 検査状況

年間総臨検件数1,025件中83%は新潟出張所が実施したものである。前年度778件に比べると30%臨検件数が増加している。これは昭和28年11月以後燕洋食器工業協同組合の自治検査が強化したため新潟出張所において検査強化をなしたためである。同所では11月以後幾多の困難を押切つて大部分の検査を行い最終梱包の状態における臨検に努力した。

検査事故も殆んど新潟に集中され，殊に検査強化を実施した11月には等級の誤り等10件の事故および44件の軽微事故を呈している。検査強化期間（11月～3月）迄に年間事故数の7.3%の22件および年間軽微事故数の75%の216件が新潟出張所において摘出された。

品質傾向としては前述したように材質が鉄クローム製品からステンレス製品えの大きな転換により価格も後半に至り可成上昇を見せ，品質も全般的には向上している。しかしステンレス製品には依然としてバリ，研磨不足，素地の腐蝕等の欠

点がもつとも多く，その他型状不均整，ピツト，シワ等の欠点がこれに次いでいる。メツキ製品は可成り技術的にも向上した跡が見られるが，未だにメツキ不良，生地研磨不良等の欠点は跡をたたない。

其の他本年度検査面で特記すべき事項としては4～9月迄のH社について12月～2月迄K社について夫々報告義務を課し，それぞれ頭初の目的を概ね果して品質も立直つている。規格については前年度より引続き審議を重ね，昭和28年11月には最終議決を終り，昭和29年1月20日より，銀メツキ製品については3,4条，その他の製品については4条指定品目として検査を実施することになつた。なお規格改正に伴う検査基準の認識および検査の適格化を図るため2月上旬新潟出張所において金属洋食器検査研修会を開催し，各支所，出張所の担当官が出席して討議検討をなした。又検査要領および検査抜取方式も昭和29年3月31日決定を見た。

金属洋食器輸出検査実績表

地域	検査件数	事故件数	事故内容					
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	其の他
東京	64	—	—	—	6	—	—
大阪	21	1	1	—	4	—	—
名古屋	7	1	1	—	5	—	—
福岡	6	—	—	—	—	—	—
横浜	55	1	—	—	0	11	—
神戸	22	0	—	0	9	1	—
新潟	850	27	21	6	261	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	1,025	30	23	7	285	12	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	其の他
28年4月	76	1	1	—	11	1	—
5月	53	2	2	—	9	—	—
6月	60	1	1	—	10	—	—
7月	45	2	2	—	7	3	—
8月	46	2	2	—	12	1	—
9月	46	—	—	—	15	—	—
10月	40	—	—	—	5	1	—
11月	147	10	10	—	44	1	—
12月	146	4	4	—	55	1	—
29年1月	102	3	1	2	38	2	—
2月	125	2	—	2	39	1	—
3月	139	3	—	3	40	1	—
合計	1,025	30	23	7	285	12	—

アルミニユーム板製品器物

1. 生産状況

昭和25年来の生産実績は次のとおりである。

昭和25年（1月～12月）	7,875屯
〃 26〃（ 〃 ）	9,091屯
〃 27〃（ 〃 ）	8,695屯
〃 28〃（ 〃 ）	10,835屯

上表のように25年以来逐年上昇をたどり，本年度においても原料高の製品安に悩まされながらも総じて生産，出荷共に活潑であつた。

月別生産実績および製品屯当り単価の動きは1表のとおりである。

28年度アルミニユーム板製品
生産および輸出実績，生産実績

		数量（磅）	万円/屯
28年	4月	887	62.0
	5月	894	63.5
	6月	858	65.0
	7月	807	63.5
	8月	860	64.5
	9月	924	63.0
	10月	982	63.5
	11月	1,050	63.0
	12月	1,074	65.0
29年	1月	863	65.0
	2月	1,008	66.0
	3月	994	65.0
合計			

2. 輸出の状況

本年度アルミニユーム板製品器物は1～3.4半期迄は極めて不振をたどり12月に入つてやつと30屯台になり，4.4半期はかなり活潑となり次表に見られるようにやつと年間330屯，21千万円台となり前年の322屯，17千万円を僅かに凌駕した。しかしこの輸出も国内生産の僅かに3％に過ぎず最盛期の昭和24年度から比べると約1/3に減じている。これは伸展材についても前年度の半分しか本年度は輸出されてをらず，地金の国際価格の不均衡が起因するものと見られる。

製品の屯当の価額は本年度は642千円と前年度の553千円より僅かに上昇している。これは品種として水筒，湯沸，紡績器具等の比較的単価の高いものが出荷されたためといえよう。前年度多かつたデイナーキヤリヤー，ラバーカツプが激減してミキシングボール，タンブラー，サラダボールが6月頃より引続き米国向に出荷された。仕向地別に見ると本年度は米国向がぐんと延びて昨年度の6倍となり2位となつた。沖縄は前年同様相

月別輸出実績表

		数量（kg）	金額（千円）
28年	4月	19,944	13,400
	5月	34,255	21,126
	6月	22,784	13,890
	7月	25,668	15,299
	8月	8,961	6,889
	9月	12,889	8,266
	10月	12,949	8,589
	11月	17,048	11,118
	12月	33,741	23,798
29年	1月	31,483	20,400
	2月	39,717	27,312
	3月	71,104	42,196
計		330,543	212,243

当の出荷を見せ1位である。その他，セイロン，朝鮮向が目立ち，東南アジアは前年度より減少した。仕向地別出荷割合は次表のとおりである。

主仕向地別出荷割合

沖縄	69,018瓩	30.8％
米国	60,463	26.9
インドネシア	24,532	10.9
朝鮮	11,066	4.9
南米	9,832	4.4
セイロン	8,464	3.8
ビルマ	7,284	3.2
比島	7,101	3.2
香港	6,856	3.1

3. 検査状況

総臨検々査件数は214件で昨年の325件に比べ約35％減じている。自法検査団体の検査は827件で当所の臨検率は平均25％となつている。品質の等級別地域別の割合は次のとおりである。

	Fine	Medium	Lew
東京	140	97	14
名古屋	27	11	1
大阪	205	240	139
計	372	348	154
％	45％	42％	13％

沖縄，朝鮮方面は価格の点で低級品が多く，東南アジア方面もこの傾向が強くなつている。米国は上級品が主として出ている。この現象は地金の割高によるもので，勢いストツクの安物を充当する傾向が強く，品質上の欠点として取扱上のヘコ，キヅが可成り多い。其の他しわとり不良，研磨不足，アルマイト被膜の不均一等の欠点が多い。又板キヅとしては相変らず皮キヅ，フクレ等も時々発見される。福岡支所で摘出された事故4件は重量および厚み不足のため普通級品と表示されていたものを低級品と認定したものである。

アルミ板製品輸出検査実績表

地域	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	其の他
東京	104	—	—	—	8	—	—
大阪	52	—	—	—	9	—	—
名古屋	38	—	—	—	5	—	—
福岡	12	4	4	—	—	—	—
横浜	4	—	—	—	—	1	—
神戸	4	—	—	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	214	4	4	—	22	1	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	其の他
28年4月	21	—	—	—	4	—	—
5月	18	—	—	—	1	—	—
6月	24	—	—	—	3	1	—
7月	15	2	2	—	3	—	—
8月	26	2	2	—	3	—	—
9月	18	—	—	—	4	—	—
10月	9	—	—	—	—	—	—
11月	17	—	—	—	—	—	—
12月	22	—	—	—	2	—	—
29年1月	12	—	—	—	1	—	—
2月	12	—	—	—	—	—	—
3月	20	—	—	—	1	—	—
合計	214	4	4	—	22	1	—

琺瑯鉄器

1. 輸出状況

近年の輸出実績は次のとおりである。

昭和25年度	212千万円
昭和26年度	241千万円
昭和27年度	281千万円
本年度	179千万円

上記の数字でわかるように25年度より逐年上昇してきた本業界も28年度に至り前年度に比べ約10億円の減少となり極めて不振であつた。此の主な原因を考察して見ると，前年度主力をなしていたインドネシア向輸出が一年を通じ終始不振であつたことが挙げられる。これは同国の国内の経済事情に起因するもので如何ともできぬことであつた。次には前年度の赤字輸出が経営面に本年度に入つて現われ，自ら操業不能となつた会社のあること。又石油コンロ，洗濯機，風呂等の国内の需

要が延びたのでこれに転向したこと等が挙げられる。

唯この間にあつて英国の磅事情の好転に伴つてアフリカ向輸出の伸長は目覚ましく年間249万弗に達し全体の49.9%を占めた。これに次いで本年度の特色は中南米向の進出が顕著で年間86万弗で全体の17.3%を占め，本業界においては特筆すべき変化であつた。以下マレー（26万弗の5.2%），ビルマ(25万弗の5.0%)，タイ(23万弗の4.7%)等に輸出された。

次に操業工場数について見ると27年度末は操業工場57社が本年度末には49社に減少し殊に関東地区にあつては輸出についてはストツク品を出荷した程度で，常時出荷をなしたものは皆無であつた。

月別生産並びに輸出実績表

		生産実績（屯）	輸出実績（屯）
28年	4月	2,911	1,125
	5月	2,677	1,136
	6月	2,385	1,135
	7月	2,051	651
	8月	2,465	620
	9月	2,631	907
	10月	3,019	933
	11月	2,813	825
	12月	2,241	865
29年	1月	2,301	951
	2月	2,940	913
	3月	2,949	1,187
合計			

2. 検査状況

本年度琺瑯鉄器の総臨検々査件数は416件で前年度の611件に比し約30%減少した。これは前述の輸出不振に起因する。416件中74%の308件が大阪地区で実施され，13%の54件が福岡地区，11%の46件が名古屋地区で実施されたものが主なるものである。

ほうろう鉄器検査実績表（地区別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	2	—	—	—	1	—	—
大阪	308	6	6	—	118	—	—
名古屋	46	—	—	—	5	—	—
福岡	54	—	—	—	2	—	—
横浜	2	—	—	—	1	1	—
神戸	4	1	1	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	416	7	7	—	127	1	—

検査実績表（月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他
28年4月	37	—	—	—	10	—	—
5月	39	—	—	—	12	—	—
6月	40	1	1	—	19	1	—
7月	45	2	2	—	13	—	—
8月	38	3	3	—	7	—	—
9月	40	—	—	—	7	—	—
10月	23	—	—	—	12	—	—
11月	32	—	—	—	8	—	—
12月	23	1	1	—	8	—	—
29年1月	30	—	—	—	7	—	—
2月	32	—	—	—	8	—	—
3月	37	—	—	—	16	—	—
合計	416	7	7	—	127	1	—

品質の傾向としては本年度は絵付製品が顕著に延びて，従来無地のもの対絵付の比率が6対4であつたものが本年度末の現況では反対に3.5対6.5となり絵付の方が65%を占めるに至つた。

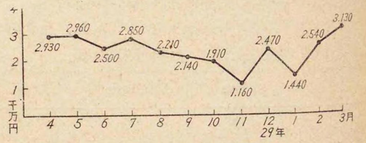
検査事故および軽微事故の内容も絵付製品が多かつた関係上，絵付の汚れ，形ズレ，色沢の不鮮明等の欠点が非常に多く全欠点の50%以上におよんでいる。その他生地については依然としてシワ取不良，ヘコミ等の欠点は跡をたたない。

アンチモニー製品

1. 輸出の状況

年間輸出総額　292,510千円

月別輸出金額



各月の輸出金額は上表のとおり11月と1月を除く外は大体平均した足取りを示している。アンチモニー製品の輸出額も少くとも常時3月の如く3,000万円程度の線に落着いてもらいたいものである。

2. 検査の状況

今これを当所の臨検々査面から見るとアンチモニー製品の生産が殆ど東京地域に限られているため，その輸出も大部分が東京である。即ち当所の年間検査件数313件のうち本所，横浜出張所管内で，94%に当る296件を占めている。内事故は3件となつているが，事故の内容は軽微なるものが殆どである。

輸出実績表（昭和23年4月～昭和29年3月）アンチモニー組合調

仕向地＼月別		南米	北米	中米	カナダ	東アジア	西アジア	欧洲	アフリカ	その他	計	出開荷数	地金消費量	検査件数
28年4月		368 1,792	18,766 523,711	751 9,960	427 7,260	2,679 27,522	956 3,044	4,968 43,665	334 1,499	338 1,285	29,647 619,738	1,600	19,057	181
5 〃		764 8,305	20,258 500,727	2,026 23,422	296 16,648	1,514 7,955	831 4,421	2,900 25,214	47 480	685 5,178	29,411 592,360	1,582	19,467	319
6 〃		738 6,160	19,459 595,018	618 9,352	379 6,960	701 2,897	328 1,271	2,339 23,881	12 120	434 6,069	25,008 651,727	1,360	16,581	171
7 〃		1,620 14,830	19,862 560,193	1,033 3,739	330 5,930	1,094 6,628	344 1,314	3,709 37,928	10 24	412 26,556	28,414 557,142	1,635	18,994	212
8 〃		1,703 18,112	16,164 356,787	248 1,770	171 3,074	512 1,886	153 1,337	1,677 17,223	456 2,050	1,048 6,245	22,131 408,484	1,204	13,729	191
9 〃		1,604 32,036	13,454 338,917	392 2,364	31 84	1,240 5,704	971 2,972	1,805 23,526	331 2,034	1,585 6,660	21,413 404,297	1,151	13,183	182
10 〃		1,490 25,770	11,658 332,279	633 5,685	293 2,762	1,938 8,020	728 2,704	1,339 14,148	114 528	912 3,711	19,105 395,607	1,043	11,159	188
11 〃		1,573 8,007	12,320 392,955	222 2,796	248 8,592	2,205 7,908	1,121 4,815	3,049 21,857	124 2,520	747 2,675	21,609 452,125	1,084	11,777	175
12 〃		918 10,336	15,512 475,325	285 1,220	1,081 24,806	1,947 12,259	246 1,577	3,703 52,103	478 2,471	522 1,904	24,692 582,001	1,336	14,528	212
29年1月		794 2,211	10,079 228,325	48 342	232 5,124	659 4,444	249 829	1,964 26,811	125 420	221 1,084	14,371 269,690	783	8,788	122
2 〃		535 6,078	18,128 534,597	565 3,150	801 24,133	1,889 13,979	57 314	2,944 32,433	412 2,971	80 239	25,420 617,884	1,347	13,984	163
3 〃		1,407 21,743	21,015 486,197	333 3,027	496 13,178	1,818 11,091	591 2,246	4,788 57,734	583 3,202	258 1,320	31,289 579,738	1,526	17,452	211
計		13,514	196,675	7,154	4,785	18,186	6,575	35,275	3,035	7,311	292,510	棚	貫	
		145,380	5,305,031	66,827	118,511	110,303	26,834	376,523	18,319	62,925	6,230,693	15,651	178,699	2,201

本所における臨検々査による諸問題

検査件数276件の中Fine 6件，Eair 269件でFineの占める割合は1.4%である。これを見ても分る様にFairの大部分は依然として安物（スーベニア物）で占めている。業界としては昨年よりメツキ表面に吹付ける「ラッカー」の研究，塗料のムケ，メッキの色沢不良等の防止に，又スーベニア灰皿については，価格のダンピング防止策としてアンチモニー組合において1個の価格が20円を下廻るものは組合規定によつて組合検査を拒否するといつたように，大きな努力を払つてきたにもかかわらず，依然として安かろう悪かろうの城を脱していないようである。もつとも，かかる事の起る原因は，アンチモニー製品の最大の買手であるアメリカ（輸出額の98%）が安物しか購入しない事も大きな理由である。

アンチモニー製品の業界においは下請による徒弟制度が行われ，製造方法，製品の品質等十年一日の如く何等の進歩が見られないと云つても過言ではない。製品の価値を決定するものが意匠であるため，組合も意匠の模造防止のため自主的に行つている。業者間の模造による価格と品質の低下を防止しようとする組合の努力は買うべきものがあるが安実の汚名をなくす努力を払わなければ輸出の発展は期し難い。

アンチモニー製品輸出検査実績表
（昭和23年度地区別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	276	—	—	—	43	—	—
大阪	4	—	—	—	1	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—	—
福岡	—	—	—	—	—	—	—
横浜	20	—	—	—	—	3	—
神戸	13	—	—	—	5	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	313	—	—	—	49	3	—

アンチモニー製品輸出検査実績表（月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他
28年4月	26	—	—	—	4	—	—
5月	40	—	—	—	15	—	—
6月	28	—	—	—	4	—	—
7月	41	—	—	—	12	1	—
8月	18	—	—	—	3	—	—
9月	14	—	—	—	2	—	—
10月	38	—	—	—	5	1	—
11月	14	—	—	—	1	1	—
12月	17	—	—	—	—	—	—
29年1月	11	—	—	—	—	—	—
2月	32	—	—	—	3	—	—
3月	34	—	—	—	3	—	—
合計	313	—	—	—	49	3	—

洋傘骨

1. 輸出状況

洋傘骨の主要製造工場は大阪地区に集中し，戦後の好況時代（昭和22，3年頃）には同地区だけで60位のメーカーがあつた。しかしその後は洋傘骨の主要仕向国たるインドの国内事情の変化に伴い輸出は衰微の一途を辿り，現在輸出を続けている工場は10社に満たない状況である。この他に東京，広島，横浜地区等にそれぞれ1～2社の工場があるが余り活潑ではない。

本年度の輸出実績は大約40万ダース，2億6千万円で戦前の50万打には及ばないが，昨年度の20万ダースに比べれば2倍の増加であり数量的には戦後のレコードであろう。

かくの如く洋傘骨の輸出は一面，活況を呈している如く見えるが，事実は決してそうではなく，これを価格面より見る時は文字通り相変らず原料高の品安の状態を続けておるのであつて，メーカーにとつては殆んどの無利益或いは出血輸出なのである。

戦後輸出が再開された当時（昭和22～3年頃）は1打1,084円（印度向，桜骨）であつたものが年と共に下落し，25～6年頃は450～500円となつた。その後稍々持直して昨27年度は550～600円位の間を上下していたのであるが，本年度は再び下つて450円前後であつた。しかもこの間において原料の鋼線価格は高騰するとも下る事は殆んどなかつたのである。

仕向国の大宗がインド（桜骨）であることは曽と変りなく，本年度もこれが90%以上を占めており，残りがマニラ，台湾，朝鮮等で，これ等は内地と可じ溝骨である。

2. 検査の状況

本年度の検査件数は下表に示すとおり50件，この中事故20件，40%に達し品質は決して良好と言い難い。これを前年度の検査件数58件，中事故19件（33%）に比べると検査成績は多少乍ら悪化しており，価格の下落による品質の低下を示している。

洋傘骨検査実績表

地域	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	1	—	—	—	—	—	—
大阪	45	—	—	—	19	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—	—
福岡	—	—	—	—	—	—	—
横浜	2	—	—	—	—	1	—
神戸	2	—	—	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	50	—	—	—	19	1	—

検査件数の90%が大阪地区であることは先述した通り工場の大部分が同地区に集中している所以である。

月による検査件数の変化は下表の通りである。印度向け桜骨の輸出は例年9，10月頃より翌年3，4月迄がシーズンであつて，これ以外の夏場は輸出量は激減するのが普通であつたが，近年になつてからは丁度この時期にマニラ，台湾向け等の溝骨が輸出される傾向にあるので，検査件数は却つてこの時期に多いという結果になつた。

月別検査実績表

月別	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他
28年4月	3	—	—	—	—	—	—
5月	5	—	—	—	—	—	—
6月	2	—	—	—	1	—	—
7月	4	—	—	—	2	—	—
8月	5	—	—	—	2	—	—
9月	5	—	—	—	2	—	—
10月	6	—	—	—	4	—	—
11月	3	—	—	—	3	—	—
12月	9	—	—	—	2	1	—
29年1月	3	—	—	—	1	—	—
2月	2	—	—	—	1	—	—
3月	3	—	—	—	1	—	—
合計	50	—	—	—	19	1	—

品質不良の主たるものは使用原料たる硬鋼線の不良による（安値に合はせるため）製品の弾力の不充分なもの，途中工賃の節減にそるダボ，ワツバの取付不良，塗装不良品であつた。何分にも輸出価格が原価スレスレの安値（桜骨打450円前後）であるので品質の向上は望み得ない状態にある。

また主要仕向国であつた印度が国内産業保護育成に数年来努めて来た結果，自家生産も相当軌道にのつて来たと想像される一方ドイツ，イタリヤ，イギリス等より品質優秀な製品が割安に輸入されるなど，本業界には悲観材料が多い。

関西の協同組合においては価格の協定，その他輸出促進計画を進めつつあるが，効果は未だ十分現われる所まで来ていない。

手縫針

1. 輸出状況

手縫針の生産輸出は全国の90%以上を広島県が占めており，この他には兵庫県，富山県，大阪府，京都府，東京都府の若干の工場があるがいづれも極めて不況で本年度は休業状態に等しい工場が多かつた。

広島県においても2，3年前迄は40社位あつた工場が，倒産一整理され本年度末には僅かに7社となつた。これも実質的には2社と言つても過言ではない。

この2社が全輸出量の70%以上を占めており残り30%足らずを占める5社といえども前記2社の下請に等しいような状態である。

過ぐる昭和25年7月隣朝鮮国に起つた戦火に伴い印度の急激な需要（買急ぎ）の結果，俄かに活気を呈し，1万本当り1,200円に値上りした（25年度輸出量は33億5千万本）本業界も，朝鮮事変の終結—印度のOGLの期限満了（27年6月）について反動的不況に陥り，27年6～7月には1万本320円に暴落した。その後幾分は持直したものの同年中は毎月の輸出量1億万本以下で値段も450～500円（1万本）という状態であつた。

28年度は之の続きであつて一言にして言へば大した変化はなかつたが，幸い少しづつ乍ら上昇線を辿りつつ持直して来たといえよう。

製造原価（1万本当）平均70）円（一流工場68）円，2流工場750円）する製品を前記の如く400～500円で出荷した結果，大部分の工場が倒産した。残つた数社が28年5月価格協定（1万本520円）を行い，価格維持に懸命の努力を続けた結果次第に持直りを見せ，8月には数量的には第1目標たる1億万本を突破し，価格も亦第1目標とした600円に引上げることに成功した。また12月にBook物がメキシコに多量輸出され，同国は輸出量2億2千55万本を記録し本年中のレコードを作つた。明けて1月には少し低下したが，これは針に限らず例年各品質に見られる現象であり，2月にはまた1億1千万本と回復して，その後は小康を保ちつつ幾らかづつ回復の兆しが見えて来たのは喜ばしい事である。

2. 検査状況

本年度の検査件数は70件，この中で事故となつ

たものは，等級の誤り2件，条件付合格11件，計13件（19%）であつた。これを前年度の検査件数223件，事故66件（29%）に比べると検査件数は1/3に激減している。これは先述した通り前年は広島県の本業界が不足のドン底にあつたため，製品も品質不良品が多く，臨検の必要度が高かつたが，本年度は一応不況を頑張り抜けた小数業者のみとなり，価格協定も実行されるなど業界が持直して品質も昨年よりは向上したためである。

本年度の地域別検査実数は下表の通りである。

地域別検査実績表

地域	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	1	—	—	—	—	—	—
大阪	2	—	—	—	1	—	—
名古屋	—	—	—	—	—	—	—
福岡	—	—	—	—	—	—	—
横浜	1	—	—	—	—	—	—
神戸	10	1	1	—	6	—	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—
広島	56	—	—	—	4	—	—
合計	70	1	1	—	11	—	—

条件付となつたものの欠点は，研磨不良，キズのあるものが大部分であり，この他に寸法の合はないものが少量見受けられた。また本年度は使用線材の不良と思われるものは殆んどなか年たのは幸いである。

一般に加工，仕上，選別共に昨年度そりは幾分なりと向上の跡が見受けられた。要するに今迄もしばしば述べた通り品質は値段に左右される処が大きいのである。

本年度の月別の検査件数は下表の通りである。

月別検査実績表

月別	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他
28年4月	1	—	—	—	—	—	—
5月	3	—	—	—	—	—	—
6月	17	1	1	—	5	—	—
7月	5	—	—	—	2	—	—
8月	7	—	—	—	—	—	—
9月	8	—	—	—	—	—	—
10月	5	—	—	—	—	—	—
11月	0	—	—	—	—	—	—
12月	5	—	—	—	3	—	—
29年1月	4	—	—	—	—	—	—
2月	11	—	—	—	1	—	—
3月	4	—	—	—	—	—	—
合計	70	1	1	—	11	—	—

喫煙具

1. 輸出状況

年間実績123万打の中シガレツトケースが9万打，コンビネーションが1万打で残り113万打がライターである。ライターの中ロンソン型が圧倒的に多く45万打を占め，次にモダン型，平三段，セル巻，箱型の順である。金額にして8億4千万円，香港3億円，米国2億3千万円，カナダ，欧洲の順で以下全世界に輸出されている。

2. 検査状況

検査件数は236件，先づ普通級品が断然多い。際立つた粗悪品もない反面，高級品も散見されるのは，経済的に拘束され乍ら然も全体として品質が年々向上していることを認め得るのであるが，検査を通じて指摘した欠点は次の如き状態であつた。

ライター

平三段型　嵌合不良，小疵，石押ネヂの首下が8㍉以内，芯のホツレ

セル巻　綿量不足，ヤスリ支柱の強度不足，芯のホツレ

カメラ型　クロームメツキとニツケルメツキの混合（荷口の不斉一）

ピストル　キヤツプの線が本体と平行でない

ロンソン　貝貼加工の拙劣，電彫の線の不整列

ケース　ラツカーの乾燥不充分，ダボ不調，色ムラ，生地薄，鉄生地の発錆

等々である。本欠点の素因については夫々適切な指導を与え，今後に誤りのない様努力した次第であるが，起りやすい欠点であるから特に留意する必要がある。

1. 指導経過及び今後の方針

ライターについて重点をおいたのは，燃料の保有力であるが，具体的に主なる点は，(1)火蓋と火口の完全なる嵌合と，(2)パツキングに合成したゴムを使用することである。(1)については自動式にあつては逐次その成果を挙げ，(2)については，現在優秀工場のみ採用しているが次第に普及するとと思われる。ケースについては，ラツカーの乾燥と色ムラ，相タボの状態につき注意を払つて来たが，色ムラ（アルマイト加工品）を除き大体満足すべき状況である。

兎に角折角向上してた来た品質が，価格の下落に伴つて低落するのを防ぐ事が今後の題目である。即ち現在香港出荷が数的に第一位を占めるのであるが，仕向地の如何にかかわらず，少く共品質的には現在以下に低落しないよう常に指導する要がある。

1. 特記事項

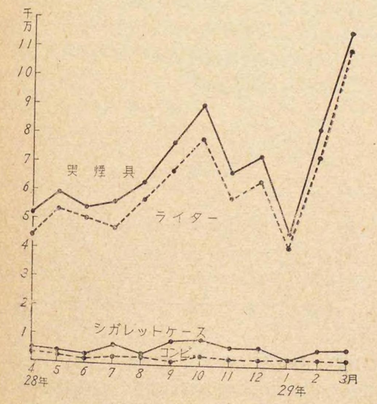
ロンソン型パテントの我国における権利が5月19日期限満了となつて，一時に生産される結果，ライター一般に及ぼす急激な価格の変動を憂い，業界においては生産制限か，輸出制限か，フロアープライスの設定とかその対策について慎重審議する処であつたが，一応情勢待ちの形となつた。

1月に至り第4条指定品目として規格の改正が行われ，旧規格の普通級品を最低標準線とした。

モダーン型ライターにおいては，細部に亘る補助規格を設定し，最低品質の線を具体化した。これは品質と価格の維持は大なる効果を挙げ得ることであつた。

喫煙具輸出実績

（自昭和28年4月　至昭和29年3月）



本年度検査実績は下表のとおりである。

地域	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	170	2	1	1	21	—	—
大阪	3	—	—	—	1	—	—
名古屋	2	—	—	—	—	—	—
福岡	1	—	—	—	—	—	—
横浜	49	1	1	—	—	10	—
神戸	11	—	—	—	—	—	—
新潟	—	—	—	—	2	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	236	3	2	1	24	10	—

月別	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他
28年4月	17	—	—	—	3	—	—
5月	22	—	—	—	4	1	—
6月	19	—	—	—	2	—	—
7月	23	—	—	—	4	3	—
8月	15	1	1	—	2	—	—
9月	24	1	1	—	1	—	—
10月	22	—	—	—	1	2	—
11月	15	—	—	—	2	—	—
12月	17	—	—	—	—	—	—
29年1月	14	—	—	—	2	—	—
2月	26	1	—	1	1	4	—
3月	22	—	—	—	2	—	—
合計	236	3	2	1	24	10	—

ポケツトナイフ

1. 輸出状況

近年のポケツトナイフの輸出実績は

昭和25年度　143,000千円
〃 26 〃　126,000 〃
〃 27 〃　85,000 〃

以上のように年々減少を続け本年度は次のように更に激減した。

昭和28年度 1.4半期　10,230千円
2.4半期　9,249千円
3.4半期　16,230千円

4.4半期の数字が不明であるが15,000千円程度出荷されたとしても年間54万円内外と推定され極めて不振であつた。この主なる原因と見られるものは前年度における安物の売込競争による赤字生産が尾を引き信用を落したものといえよう。

仕向地別に見ると前年度多かつた沖縄，香港は減少し，アメリカに可成り伸び常時50%その他カナダ，コロンビア，シリア等に10～20%が出荷されている。

2. 検査状況

前年度の検査件数75件に比べ本年度73件でほぼ同数の臨検を行つている。

品種の傾向としては相変らず小付ナイフが尤も多く30～40%占め，次いで2～13徳ナイフが多い。軽微事故9件の主な欠点は開閉不良と刃付不良である。その他の欠点としてカシメ不良，焼入不良発錆等が見られる。

等級別の比率は Fine Quality 30%，Fair Quality 70%前後の割合である。

ポケツトナイフ検査実績表（地区別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	22	—	—	—	1	—	—
大阪	2	—	—	—	—	—	—
名古屋	5	—	—	—	3	—	—
福岡	7	—	—	—	—	1	—
横浜	19	—	—	—	—	—	—
神戸	10	—	—	—	—	5	—
新潟	0	—	—	—	5	—	—
広島	8	—	—	—	—	—	—
合計	73	—	—	—	9	6	—

ポケツトナイフ検査実績表（月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他
28年4月	6	—	—	—	1	—	—
5月	10	—	—	—	2	1	—
6月	4	—	—	—	1	—	—
7月	6	—	—	—	2	—	—
8月	4	—	—	—	—	1	—
9月	8	—	—	—	—	2	—
10月	9	—	—	—	—	—	—
11月	8	—	—	—	—	1	—
12月	4	—	—	—	—	1	—
29年1月	1	—	—	—	—	—	—
2月	5	—	—	—	2	—	—
3月	8	—	—	—	1	—	—
合計	73	—	—	—	9	6	—

金属及び機械玩具

1. 輸出の状況

金属がん具，機械がん具の生産実績輸出実績は次表のとおりであつて昨年度の約2倍に上昇した。このことは金属がん具，機械がん具の品質がチープ・トーイの域を脱したことを有力に物語るものであつて事実米国市場における日本製金属がん具は従来マーケツトで扱われる安物級のみでその価も1ドル以下であつたが，フリクショントーイの好評から28年春以来高価な製品も輸出をみせ始め，最近では米国一流デパートにおいて5～7ドル売の高級品も出るようになつた。即ち，打当り平均単価をみても27年度の520円に比較し，28年度は550円と上昇している。

別の輸出実績表に示す如く従来のようなグラフの谷間が少なく一ケ年を通じて毎月平均して輸出され，健全なる輸出の態勢をたどつている。

次に種類別にみると一番多く輸出されたものは疾走がん具（65%）が断然多く，以下歩行がん具（20%），鉄砲類（7%），楽器物（5%），その他（3%），がこれに続いているが，就中鉄砲類の進出ぶりが非常に顕著である。

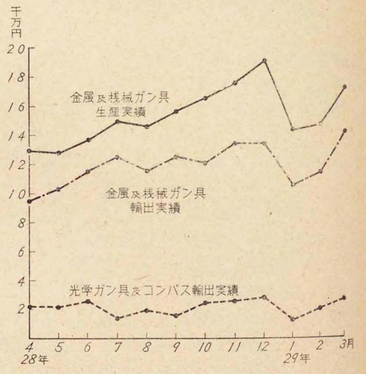
好況を続ける金属，機械がん具に比較して光学がん具（望遠鏡，写真機，顕微鏡）及び携帯用磁気コンパスの輸出は依然横這い状態を続けているが，これは昨年暮からの業者間の値下競争が大きく影響して反面製品の改良を図らず旧態依然とした品質の製品を輸出したことも一因と考えられ，輸出依存度の極めて高い品種であるだけに楽観をゆるさない状態にある。

仕向地別にみるとその95%が米国に輸出されており，米国一辺倒の貿易となつており，他のポンド地域及びオープンアカント地域との貿易に対しても新市場として開拓の要があるものと考えられる。

金属及び機械がん具生産，輸出実績表

月別	生産実績 数量(千個)	生産実績 金額(千円)	輸出実績 数量(千個)	輸出実績 金額(千円)
28年4月	5,270	128,829	2,889	94,060
5月	5,664	127,148	3,646	102,314
6月	5,041	137,677	2,890	111,478
7月	6,423	149,004	4,473	122,975
8月	6,628	145,324	4,593	116,521
9月	5,021	156,656	2,775	124,505
10月	6,097	165,433	3,272	120,350
11月	6,581	176,790	3,477	133,594
12月	6,876	190,470	3,701	133,541
29年1月	5,071	143,899	2,474	105,476
2月	6,819	147,913	3,623	114,070
3月	7,219	173,603	4,129	142,281
計	72,710	1,842,746	41,942	1,421,165

（通産省雑貨統計課資料）



光学がん具及びコンパス輸出実績表

単位千円

月別	望遠鏡	写真機	顕微鏡	携帯用磁気コンパス
28年4月	19,211	598	712	1,299
5月	17,355	1,187	571	1,519
6月	21,545	1,603	950	1,116
7月	11,375	1,779	445	344
8月	15,679	2,641	854	455
9月	13,059	1,993	272	669
10月	18,730	3,962	375	1,455
11月	22,396	799	451	1,408
12月	23,750	1,954	134	1,025
29年1月	11,413	13	399	834
2月	18,795	4	200	1,030
3月	20,907	3,672	986	886
計	214,215	20,205	6,349	12,070

2. 検査の状況

本年度の検査実績は次表のとおりであつて臨検検査のチエツク率は約10～15%程度である。検査件数483件の内事故は36件（7.4%），軽微事故は69件（14.2%）である。事故内容については大体次のとおりとなつている。

金属及び機械がん具輸出検査実績表
（昭和28年度地区別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示
東京	389	35	21	14	64	—
大阪	5	—	—	—	1	—
名古屋	5	—	—	—	1	—
福岡	—	—	—	—	—	—
横浜	61	1	—	1	—	4
神戸	23	—	—	—	3	—
新潟	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—
合計	483	36	21	15	69	4

28年月別輸出検査実績表

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せず	軽微事故	無表示
28年1月	32	3	3	—	2	—
5月	31	6	6	—	1	—
6月	36	3	3	—	3	—
7月	37	6	6	—	5	—
8月	26	1	1	—	2	1
9月	35	2	2	—	7	—
10月	60	5	—	5	9	—
11月	71	7	—	7	9	3
12月	42	2	—	2	16	—
29年1月	31	—	—	—	4	—
2月	39	—	—	—	6	—
3月	43	1	—	—	5	—
合計	483	36	21	15	69	4

（a）金属がん具，機械がん具

作動部分は大体良好であるが依然として結合爪の起き，マクレ，バリなどがあつて非常に危険なものが多く，又印刷，塗装不良によりハゲ及びサビの生じているものも見受けられた。

（b）光学がん具

レンズは大体良好であるが取扱い不注意によりヨゴレの甚だしいものが多く，又胴体の組立技術が悪く鏡胴がねじれ易いため光軸の平行が狂つたものも多かつた。望遠鏡ではメツキ不良のため，フエロキシル試験に不合格のものが目立つていた。

（c）携帯用磁気コンパス

支針，受皿の加工不良によるまさつの多いため指向試験に不合格のものが殆んどであつた。

これらの事故の原因は大部分製造業者の不注意と粗製濫造に起因している。

3. 特記すべき事項

金属がん具及び機械がん具の輸出規格は28年度春以来その改正を検討審議していたが，28年10月1日より改正規格を実施することができた。即ち従来ＪＩＳＺ-7101であつたものをＪＩＳＺ-7109（がん具用望遠鏡），7110（がん具用写真機），7111（がん具用顕微鏡），7112（携帯用磁気コンパス），7113（金属がん具），7114（機械がん具），に細分しこれと同時に従来の第3条商品としての指定を第3，4条指定に切り換え不良品の輸出防止をはかつた。

当所はこの規格改正を契機として金属がん具及び機械がん具に対する臨検検査の強化を実施したが，その目的とする所は組合自主検査代行業務の厳正さを確保し信頼しうる民間機関に育成することにあつた。

従来金属及び機械がん具，光学がん具，コンパスの業界は殆んど大部分が東京都内に集結し，金属及び機械がん具は東京輸出金属玩具工業協同組合連合会が結成され民間自主検査を実施しているが，本年に入り大阪地区の金属がん具の輸出が増加し，これに伴つて新に11月1日より大阪輸出玩具工業協同組合が結成され自主検株を実施している。

万年筆

1. 輸出状況

価格の低落は甚しいが香港を中心とした東南ア

ジア市場の買い気は盛んで年間87万9千ダースの万年筆が輸出された。仕向地は香港，ビルマ，インドネシア等が主体で中東，南阿，中南米がこれに続いているが相手国の輸入ライセンスの問題で常時輸入量は増減している。輸出数量からみるに大阪地区はその80%を占めているが平均価格は2ドル台であり，これは企業の形態が東京地区と全然違い所謂アセンブルメーカーと称せられるものが殆んどで同程度の製品を作るにしても企業自体弾力性に富んでいるので価格の競争には非常に強いのである。しかしながら現在の輸出価格では企業の健全な発達は到底望めないので，何等かの強力な対策を立て苦境を打開しなければならない。

チエツクプライスの問題も関係各部で検討中であるが，先に金の統制時定めた1ダース当り3ドル50の線が書類上では厳守されていながらリベート或はバイヤーとの馴れ合いにより裏面的にくづれた例があり，これはあくまでも業者自体の良心にまたなくてはならず，且つ底をついた現在の価格では線の引き方が難しいのではないかと思われる。

輸出は順調とは言え生産過剰と国内需要の頭打ちは更に業界を苦境に追い込む気配が濃厚であるので，より強力な輸出策が立てられなければならないが，東京，大阪両地区の業態の相違からくるあつれきはこの対策樹立の大きな隘路となつているので，先づ東西両地区業者の歩調を揃えさせる事が先決問題であろう。

2. 検査の状況

検査件数は東京67件，大阪330件，其の他77件，合計474件であつて，比較的安価な商品の生産地を所管する大阪支所では万年筆に対し，重点的臨検検査の強化を計つた。総体として約20%程度のチエツク率を示している。品質から見ると中級品が圧倒的に多く，輸出全量の88%を示しており，工業規格（ＪＩＳＺ6602）から検討するに当所で臨検を行つたものの大部分は中級品の線ぎりぎりのものであつた。しかしながらメーカーはいかにして生産の合理化をはかり実質本位に作るかを研究しており，製品自体にもその結果があらわれてきている。

事故は軽微事故を含めて248件の多きに達しているが，検査実績表にみられるように事故件数27件中大阪，神戸両所の事故件数が22件を占めていることは，大阪地区の生産事情をよく物語ると同時に，大阪，神戸両所のこれに対する取締りの心労の深さを物語つている。欠点別の内訳を示すと(1)摩耗度不良（22.4%），(2)ペン先の地金不良（25%），(3)組立不良（31.4%）が目立つている。組立不良は価格の低下が工賃を犠牲にしている結果のあらわれと見てよいであろう。ペン先も輸出ものは東京製品が多かつたが価格の点で比較的安価な広島製品が使用され始めた模様で，品質の低下はまぬがれない。ペンポイントの研究も十年一日の感があり，イリドスミンの統制時代は人造品を大いに研究したが一応自由に入手できるようになると天然のイリドスミンに帰つて人造品は全然かえりみない状態で，これはペン先メーカーの責任であるとも言えよう。

別表 1. 検査実績表

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	67	1	—	1	31	—	—
大阪	330	12	—	12	184	—	—
福岡	3	1	—	1	—	—	—
横浜	16	3	—	3	—	—	—
神戸	49	10	—	10	5	1	—
広島	9	—	—	—	—	—	—
合計	474	27	—	27	220	1	—

別表2. 検査事故の内容

事故の内容	件数	不良箇所	不良箇所の件数	比率%
最低標準に達せぬ	27	組立不良	14	51.8
		ペン先のペンポイント不良	7	25.9
		ペン先の地金不良	6	22.2
		ゴムチューブ不良	5	18.5
		軸の肉厚不足	5	18.5
軽微事故	220	組立不良	214	97.2
		ペン先の形状不良	35	15.9
		クリツプの弾力不足	12	5.4

3. 特記すべき事項

外国製品の模造即ちシエフアー，パーカーなどイミテーションは指導官庁と業界の協力により輸出に関しては一応影をひそめた状況である。しかし最近アメリカの三流品であるエスターブロツクのイミテーション問題が起つているが，いかに三流品とは言え，同様商業道徳上製作は中止すべきである。不良品と模造品は関連性の深いものであるので，当所としても検査に際し関係当局と充分連絡し，日本万年筆業者の商業道徳高揚に協力している。

鉛　筆

1. 輸出と検査状況

（A） 木軸鉛筆

前年度同様輸出状況は極めて悪く年間の輸出量は約81万万哥，金額にして約2億円の低調さである。（別表1参照）そのため生産過剰になり中堅メーカーの倒産廃業が続出し業界は悲境に呻ぎんしている。戦後の好況と朝鮮動乱ブームによる輸出量の激増はメーカーを乱立させ，業界自体抜本的な経営策を立てず目先の好景気のみに捉はれていたので，海外市場が買手より売手に急変した現在全く手も足も出ない状態に追込まれた。品質の向上，価格の維持は等閑に附され，唯バイヤーとの掛引に終始する現況では輸出の振興は到底望めない。しかしかかる状態ではあるが，当所としては本所，支所，出張所一丸となつて品質の向上こそ業界の活路である事をメーカー及びサプライヤーに自覚させるため検査面から強力な指導をしてきた。即ち臨検の率を常時40～50%に保持すると共に，一方東京鉛筆組合及び大阪鉛筆検査協会に対し輸出検査の厳正な実施を指示してきた。

輸出されるものを格付別にみると，普通級品が約95%を占め，上級品は僅か5%に過ぎない。

日本製鉛筆特に輸出される普通級品はその価格と比例して外観即ち塗装，仕上のみに力を入れ，生命である芯，軸木に努力を払わない憾みが多々ある。競争相手である独逸製品に比して，実用の点において一歩劣つており，主要市場を独逸製品に奪われるに至つた最大の因原はこの点にあると言える。事故は軽微事故を含めて142件で検査件数の36%を占め事故内容は本質的な不良（芯，軸木の欠点）が約40%，外観的不良（塗装不良，木口不良，ゴム金具付不良等）が約60%である。

（B） シヤープペンシル

木軸鉛筆同様輸出は低調で数量は212,577ダース，金額にして71,896千円に過ぎない。近来シヤープペンシルは輸出，国内共に万年筆との組合せに使用される事が多く，機構鉛筆と称せられ乍らも常に万年筆の付属的な存在に甘んじていた。メーカーも少く且つ弱小なものが多いので，業界自体団結する意欲も無く，徒らに旧態に沈淪しているに過ぎなかつた。しかし輸出の歴史は古く，世界的に日本製シヤープペンシルとして優秀な品質と堅実な販路を証われているメーカーもあるので業界が時代の流れに目覚め，一致協力当業界の存在を強力に打ち出せば自ら発展の道も開けよう。

臨検々査から見た品質は全般に向上はしているが機構部のムシ，ラセンの不良からくるガタ，芯の保持不良が目立つている。なお鉛筆である以上芯が生命であるので重点的に検査してきたが特に色芯は悪く，現在の製芯技術ではなかなか世界水準に達し得なかつたのではないかと思われる。

別表１　検査実績表

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示
東京	218	2	—	2	101	—
大阪	35	2	2	—	22	—
福岡	16	—	—	—	2	—
横浜	14	1	—	1	—	—
神戸	22	3	1	2	8	—
広島	32	—	—	—	1	—
合計	337	8	3	5	134	—

別表２　年間木軸鉛筆輸出実績表

年	数量（罐）	金額（円）
昭和24年	253,183	100,572,041
昭和25年	2,626,002	845,905,778
昭和26年	1,451,969	504,731,613
昭和27年	1,118,864	278,700,110
昭和28年	819,123	229,855,602

3. 特記事項

懸案であつた木軸鉛筆規格の改正が軌道に乗り，漸く10月1日船積のものより適用される事となつた。新規格は芯の強度，摩擦係数，軸の曲り，偏心等品質として重要な点を数字で表したもので，科学的品質判断を容易にすることができるようになつたと同時に品質向上の一大指針であるととと信ずる。幸い鉛筆組合は試験設備を完備したので充分これを活用し，品質の向上に努力すべきである。

独逸製品のイミテーション即ちリラーパイゲ，アリゲーター等がバイヤーの要求により輸出された事もあるが，独逸大使館を通じ独逸の業界より厳重な抗議があつたので，当所としても関連ある事なので検査の面からこのような事態の防止に協力し，商業道徳の向揚に努力している。

サラダボール

1. 輸出の状況

本年度も相変らず米本国からの引合いが活潑で輸出も伸張したが，他の雑貨同様価格の低落に悩まされている。木製品の特質からみて輸出品としては極めて有望であるので，品質の向上と共に創意工夫により一層多大な輸出が望まれるべきであ

る。木製サラダボール，スプーンフオークは原材料代が輸出価格の50%以上を占めている関係上原木の品質及び価格がその輸出面に及ぼす影響は極めて大きく，良質なサクラ材，ブナ材等が適正な価格でメーカーに供給される事が極めて必要な条件である。かかる点より国有材料の安価な払下げが強く業界から要望されており，これの解決が当業界の輸出振興の一つの原動力となる事は決して嘘言ではない。勿論指導関係官庁の助力と共に業界自体の品質向上に対する熱意と価格面における強固な団結がより必要であり，該品生産者が組織的な力をもつて生産の合理化，集荷販売，協同融資等の面に活潑な動きをすることが望ましい。かかる観点からして小田原地区，会津地区の協同組合の活躍は目ざましいものである。

2. 検査の状況

輸出品取締法3,4条の品目として指定され検査の対象となつて二年目に入つたわけである。その間業者の自覚と当所の強力な検査指導により品質は相当の向上をみているが別紙に示すとおり依然事故が多い。その事故の内従来比較的多かつた乾燥不充分によるものが順次減少していることは生産者が乾燥に対する注意を払うようになつたことを示している。しかしながら海外からの2級品の買漁りが原因して，コクソ，虫穴等の欠点の多いものを混入して輸出しようとする傾向が多くなつた。これは従来不良品として除かれていたものが相当多量にメーカーにストツクされているので，これ等を少しでも金に代えて採算面の補いをしようとするあらわれであつて今後も引続き厳重な警戒を要する。

本年度における臨検々査のチエツクは相当に多く東京386件，横浜388件，名古屋210件，神戸103件，其の他54件で合計1,141件の多きに達しており，事故はその間138件で，其の内軽微事故が105件となつている。

検査実施当初問題となつた乾燥不充分なものは各地区のメーカーの努力，即ち乾燥設備の完備により天然乾燥を入工乾燥に切り換えた事により激減したが，これは当業界にとり絶大な進歩であると信ずる。更に塗装についても塗料及び塗装方法を常時研究し着々と成果が製品にあらわれて塗装面の事故は殆んどなく，而も海外からも塗装に対する信頼度は益々高まりつつあるようで非常に喜ばしい傾向になつてきた。

以上を綜合するにサラダボールの事故の原因はメーカー側の故意又は過失に依るものよりはむしろ買手方の契約条件に左右される場合が比較的多い傾向になつてきているのでこの点については貿易業者の反省が望ましい。

輸出検査実績表（地域別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	386	9	—	9	6	—	—
名古屋	210	6	3	3	26	1	—
横浜	388	9	2	7	31	1	—
神戸	103	5	2	3	23	—	—
新潟	51	3	3	—	19	—	—
広島	3	1	—	1	—	1	—
計	1,141	33	10	23	105	3	—

漆　器

1. 生産と輸出状況

国民生活の安定に伴い，漆器の内需は相当に活潑となつたので，全国各地の生産状況も活潑になつて来た。殊に漆器需要期の下半期では各産地共相当の増産をなし国内の総生産額は約30億円に達した。輸出は総生産額の約3%に当る9千万円弱にもすぎない状態で，前年度に比して更に低調であつたことは否めない。殊に常例のクリスマス用商品の船積期である第3.4半期の輸出額が激減していることは注目すべき現象である。年度内の特長は〝アルバム〟の装幀に漆器が用いられて相当数量が輸出されたことと，ポンポン入れ，またはキヤンデーボツクスの名において山中塗の小型菓子器が著しく進出したことである。（生産統計及び輸出実績参照）

漆器生産統計表

月別	数量（個）	金額（千円）
28年4月	1,648,361	210,729
5	1,615,166	217,352
6	1,523,654	198,588
7	1,471,761	200,004
8	1,411,608	198,841
9	1,556,227	222,791
10	1,743,432	254,035
11	1,879,131	276,281
12	2,076,365	311,562
29年1	1,808,590	244,060
2	1,380,532	373,018
3	1,697,633	251,156
計	19,812,460	2,958,417

漆器輸出実績表

月別	数量（屯）	金額（千円）
28年4月	14,958	8,965
5	11,195	4,270
6	26,559	15,410
7	19,659	9,734
8	14,543	9,087
9	21,027	15,240
10	6,846	5,581
11	6,812	5,682
12	4,467	4,260
29年1	1,857	1,188
2	5,110	3,262
3	7,353	4,900
計	140,386	87,579

2. 検査状況

漆器類の生産地は全国にわたつており，従つて当所においては多くは船積港の倉庫または生産工場において臨検々査を実施している。

飲食器，膳，盆，鉢，皿，室内装備品類においては歪曲が少く，全国的に乾燥状態は良好であつたが，会津のボール，名古屋の特殊紙器，静岡の箱物，海南ものの普通級品には塗面のカスレ，チヂレ，ツブ，ズレ，などが見受けられたので当所の各機関では，それぞれ違品を指示した。塗膜の密着および硬度は比較的よく煮沸によるワレ，ハガレなどもなく色彩の変化を認めなかつた。

静岡ものの容器，室内装備品類の普通級には附属品金具類の性能不完全なものが多い。今後金具類の改良に努力が必要である。またその取付けにもかなり不良品の点が多く，悪い箇所を指摘して手直をさせたが，なお今後も注意を要する点である。

宗教用具類，仏檀においては，構造，組立等良好であつたが塗面および箔置等に欠点があつた。

名古屋地方の特殊紙器は低価格のため一般に粗製品が多かつたが，名古屋支所の指導によつて検査を実施以来稍々向上してきた。

横浜出張所における無表示事故が19件に達したのは28年4月10日に規格が改正されたため，その切換え時期に生じたもので，当所としては関係者に対し充分注意を促してをいた。

本年はアルバム，オルゴール入宝石箱等の如きスーベニヤ向の製品がハワイ，沖縄，ホノルル，ロスアンゼルス等に多量に輸出されたがこれらは品質的には一般に普通級の最低の線にあるものが多かつた。コストの関係もあるが品質の向上への努力が必要である。（輸出検査実績参照）

漆器輸出検査実績表（28年度地域別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	無表示	その他
東京	66	1	—	1	—	—	—
大阪	51	—	—	—	15	—	—
名古屋	34	—	—	—	2	—	—
福岡	12	—	—	—	0	—	—
丸亀	—	—	—	—	—	—	—
横浜	78	1	1	—	1	19	—
神戸	16	—	—	—	3	—	—
新潟	4	—	—	—	1	—	—
広島	14	—	—	—	—	—	—
計	275	2	1	1	22	19	—

漆器輸出検査実績表（28年度月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容				
			等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	無表示	その他
28年4月	30	—	—	—	1	6	—
5	29	—	—	—	2	3	—
6	17	—	—	—	3	1	—
7	40	1	—	1	8	1	—
8	20	—	—	—	3	1	—
9	16	—	—	—	1	—	—
10	15	—	—	—	2	1	—
11	32	—	—	—	1	3	—
12	16	—	—	—	—	2	—
29年1	11	—	—	—	—	—	—
2	23	—	—	—	—	1	—
3	26	1	1	—	1	—	—
計	275	2	1	1	22	19	—

3. 特記すべき事項

漆塗製品ＪＥＳ157が輸出漆器ＪＩＳＺ 5005に改正され昭和28年4月10日から実施された。改正の要旨は漆器類の品質水準の向上，適用範囲の明確化にあつたが，フエノール樹脂ワニス（ＪＩＳＫ1561）フエノール樹脂エナメル（ＪＩＳＫ5571）カシユー，ナツト，シエル，オイル系塗料等）と特殊紙器が追加された。これにより名古屋地区を主として生産されている特殊紙器が検査の対象品目になつた。

竹　製　品

1. 輸出の状況

わが国竹製品の輸出高は，

昭和26年度　約10億円
同　27年度　約12億円
同　28年度　約13億円

と僅かながらも確実な上昇線をたどつている。

近年海外での——特に竹製品の主な仕向地である米国での——東洋趣味に富んだ生活様式の流行は，輸出竹製品の将来を一層明るいものにしている。

竹製品中，すだれは輸出額の50%程度を占め，釣竿，かご類がそれぞれ約10%程度であつて，その他の竹製品が残りの30%前後を占めている。釣竿の受註が最近著しく増加していることは注目すべき事柄であろう。

竹製品は木製品と異り乾燥による狂いの憂が少いが，カビ易くまた虫喰いも起り易い欠点を持つている。このような欠点から，従来しばしばクレーム問題が生じたことは衆知のとおりであつて，竹製品の輸出の発展を期するためには，防虫防ばい処置問題を一層しんけんに検討し実施する要があると考えられる。

参考のため昭和27年度の輸出実績（税関統計による）を示せば次のとおりであるが，釣竿の欧洲方面への進出が目立つている。

27年度輸出竹製品仕向地別実績　単位弗

仕向地	釣竿	その他
アメリカ	190,548	3,070,896
カナダ	18,491	48,149
オーストラリヤ	—	120
イタリヤ	11,953	1,878
フランス	14,821	358
ドイツ	6,016	1,606
ベルギー	20,522	706
オランダ	40,258	—
フインランド	748	204
ノールウエー	478	230
英国	—	639
沖繩	—	16,217
計	303,835	3,141,003

2. 検査の状況

竹製品の生産地は全国しかも農村避地にまたがつているが，取締法に指定されている竹製品の主産地と当所との関係は次のとおりである。

品目名	主産地	取締に当る当所機関名
すだれ類	大阪，京都	大阪支所，神戸出張所
ランチョンマット	静岡，東京，千葉	東京本所，横浜出張所
	山口，大分，宮崎鹿児島	福岡支所
	四国	丸亀出張所
竹皮製バッグ	群馬	東京本所，横浜出張所
バンカゴ	兵庫，奈良，和歌山	神戸出張所，大阪支所
	東京	東京本所，横浜出張所
釣竿(六角竿)	東京，埼玉	東京本所，横浜出張所
	長野（素材のみで東京方面へ送られ製品となる）	
釣竿(丸継竿)	兵庫	神戸出張所
	東京，埼玉	東京本所
	大分，宮崎，鹿児島	福岡支所

上表で見られるように，主産地のみを見ても複雑であるが，生産業者は農業か本業とするものが多く，また下請業者としての存在も多い。これに地方的特色も加味されて，品質上甲乙の差がかなり甚だしい。

このような事情から当所は，各機関を通じ竹製品については重点的に臨検検査を強化してきたが，その実績は下表のとおりである。

竹製品検査実績表（地区別）

地域	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準に達せぬ	軽微事故	表示無	その他
東京	333	8	—	8	78	—	—
大阪	30	—	—	—	11	—	—
名古屋	6	—	—	—	—	—	—
福岡	57	7	7	—	24	—	—
横浜	34	—	—	—	—	—	—
神戸	73	1	—	1	25	7	—
新潟	—	—	—	—	—	—	—
丸亀	5	—	—	—	—	—	—
広島	—	—	—	—	—	—	—
合計	538	16	7	9	138	7	—

竹製品検査実績表（月別）

月別	検査件数	事故件数	事故内容 等級の誤り	最低標準不適	軽微事故	表示無	その他
28年4月	51	3	2	1	17	1	—
5月	42	1	—	1	7	3	—
6月	42	1	—	1	12	2	—
7月	52	4	1	3	9	1	—
8月	58	4	2	2	19	—	—
9月	49	1	—	1	15	—	—
10月	44	—	—	—	9	—	—
11月	34	—	—	—	4	—	—
12月	45	—	—	—	9	—	—
29年1月	38	2	2	—	8	—	—
2月	36	—	—	—	15	—	—
3月	47	—	—	—	14	—	—
合計	538	16	7	9	138	7	—

上表で見られるように軽微事故の件数が多いことは，竹製品全体を通じての品質の傾向を物語つているが，幸にして28年度当初から月日を経過するに従い件数が減少していることは，その間の品質の向上を示している。

3. 特記すべき事項

(a) すだれ類

主産地富田林（大阪）を所管する大阪支所ではすだれ類の品質改善，特に防虫防ばい処理については2回にわたり関係業者を集め注意と指導を行つた。しかしながら同地製品（28年6月以前の製品）について，かび，しみ，染色はげ等を理由とした多量クレムが米国輸入業者から提起された。大阪支所においては，富田林のすだれ工業協同組合の検査部の強化を要望したが，同組合は直ちに検査員一名を増員し将来更に2名を増強する計画となつているが，このクレームを契機として業界が自覚したことと相まつて今後改善されてゆくものと期待している。

(b) バンかご

東京地区輸出品は比較的高級品が多く，取締上問題はない。

神戸港から輸出される関西地区製品は安価なものが多く，可成り粗雑なものが見受けられるので，特に神戸出弱所ではその取締りと指導に力を注いだが未だ十分でないので，今後一層この商品についての品質向上に努力する方針である。

(c) 釣竿

六角釣竿の品質は目立つて向上した。特に接着，節の配分，ため，塗装，メツキ共に良好になつており，また糸通し金具中取付けも良くなつている。しかし握り部の取付けがの心をはずれているものがあり，また継目金具が緊密でないものが見受けられる。この欠点は機械的工作をしないものに多く今後注意と指導を要する事項である。

丸継釣竿の大部分は，比較的安価なものが多く，品質的にはなお注意を要する。当所は継目のガタ，枝打ちの切りキズ，タメ不良，竿全体の強さの不均衡については特に注意して来たが，今後もこれらの点については注意する要がある。

化学製品関係

化学製品関係総概況

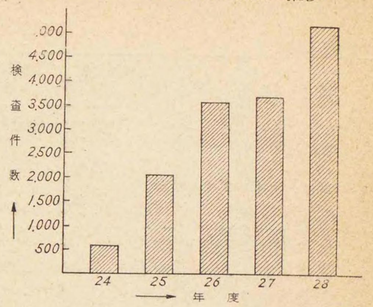
生産指数曲線の急上昇にも拘らず，昭和28年度の化学品の輸出は前年度比200万弗増の約4,700万弗と比較的少なかつたが，一応逐年増加の傾向にある。即ち繊維製品を始め鉄鋼，機械類等の我国主要輸出品が頭打ちの様相を呈している一方化学製品の輸出は平均95%という最高の外貨手取率を示し，政府及び民間の輸出振興策も化学製品の比重を増加する方向にあり，特に従来禁輸状況にあつた中共市場への輸出も次第に緩和され，将来極めて明るい見透しを持ち始めた。即ち28年度下期の中共向輸出金額の32パーセントは化学品であり，爾後益々化学品の占める比率は増大している。(29年度上期にはこの数字が80パーセントに上昇しておる。)しかし化学製品は国際輸出競争も熾烈であり，本邦の原料高を主な要因とする企業採算難は依然解決されず，これは必然的に品質に悪影響を与えており，一方東南亜及び中共市場には既に西欧物の進出が著しいので我国としては秩序ある輸出体制を樹立し特に権威ある検査制度を整備して品質の維持向上を図ることが強く望まれている。これに即応する体勢を具える為当部としては鋭意，検査装置設備の充実を企図していたが圧縮予算により充分な成果を挙げ得なかつたのは残念である。28年度の総検査件数は4691件で前年度の141%化学工業品関係成分件数で示すと5199件に達し著しい上昇を見せた。特に輸出試薬は2,329件と前年度の2.4倍に達したがこれは需要市場各国が漸く内部安定を示したことゝ品質的に当所が発足以来指導的立場に立つて国内業界のレベル向上に努力した跡が漸く結実しつつあること及び斯業も激甚な国際価格競争に耐え得られる様に成長したこと等によるものである。我国輸出化学品中最も重要な化学肥料については出血輸出の止むなきに至つているが戦後西独が先鞭をつけた各種求償貿易方式を採用し更には出血の均等化等をねらつた法による輸出会社の設立準備等輸出体制の整備は着々行われた。輸出数量は538,333屯で前年度の417,987屯を上廻つたが検査件数は346件(325,967屯)で前年度374件(343,905屯)に僅かに劣るのは輸出時期及び場所の偏向よりも寧ろ輸出検査旅費の削減が主因となつている。国際競争の熾烈な折柄垂涎の市場中国向けのものに品質上のクレームを生じ一時は憂慮される等の事態を生じたがこれも解決された。化学肥料の輸出には国際的に第三者検査が励行されている実情で我国としても，更に十分な検査を実施して業界の要望に応え輸出振興物資の第一に挙げられる本品の声価を確保したい処である。

ダイナマイトグリセリンについては前年度予算人員の不足から検査不能であつたが28年度においては牛脂バター問題が提起され生産所管原局の要望もあつて漸く13件の輸出検査を強行したが，次年度以降グリセリンの輸出は著増を見込まれており，検査人員の拡充は焦眉の問題となつている。日本専売法規及び火薬類取締法規に基く検定業務についてはいづれも逐年件数が増加しているが，特に試薬エチルアルコールは240件，封緘本数にして52,260本と前年度の140%と急増した。これは国内の学校，需要機関の整備が漸く軌道に乗つて来た事や電気関係の需要増によるもので今後益々増大するものと思われ，当所としては検査員不足の為28年度は一応官封試薬として知られた一般試薬の依頼検査面の受付を減らして本検定検査を強行した。火薬用のものは保安隊関係の拡充と共に比較的増大を見込まれているが，現情では検査能力も28年実績が精一杯である。

特記すべきは，一般化学工業品関係の依頼希望の急増で，当所として受付分はビルマ向輸出品の分析及び所内委託を合し824成分件数に達したが，これは希望の一割にも達しない数字で一方研究専門機関の依頼受付は必然的要因により減少しているので検査専門機関としてこの当所の能力拡張が如何に民間の要望を満すものであるかが知られる。これは分析データーが輸出に際し不可決な契約条件となつている為で，人員を主とする当所能力の不足で契約の不成立や遅延が頻発している実情であるので，化学製品の輸出が中共市場等の緩和と共に漸く盛大に向つて来ている際にブレーキをかけるようなことになり遺憾の極みで将来高所からの解決を望まれる。

一般試薬の官封合格率は88.8%であり，24年度82.4%，25年度83.4%，26年度86.2%，27年度86.8%，という逐年上昇傾向を裏切らなかつた。検定試薬のうちエチルアルコールの合格率は依然として98%の高位を維持しているが，塩化ナトリウムも前年の76%より著しく上昇して86.3%の合格率を示した。これは当所の行つているこれら専売物資の製造委託業者の資格調査及び指導が徹底してきたことを物語るものである。火薬類試験用試薬についても前年度の73.5%より少しく上昇して78.12%の合格率となつている。これらは総て科学的度量衡となるものであり，その品質向上，恒常化は誠に喜ばしい処であるが，生産者が何れも中小企業に属するため，経営採算上ともすれば手抜きを行う等のことがあるので，今後ともこの程度の品質を維持するように充分指導する必要がある。

年度別　化学製品検査件数の推移



化学製品検査実績表

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
指定品目	輸出試薬 529品目	—	1,063	1,215	965	2,329	
	輸出化学肥料 13品目	—	—	90	374	346	
	輸出ダイナマイトグリセリン	—	—	—	—	13	
依頼検査	一般試薬依頼検査	597	1,035	1,641	1,325	1,229	
	一般化学工業品 〃	—	—	(561) 298	(617) 262	(641) 217	
強制検査	試薬エチルアルコール	—	—	66	164	240	
	試薬塩化ナトリウム	—	—	—	132	154	
	火薬類試験用試薬	—	—	23	62	64	
所内委託	委託検査	—	—	—	(51) 25	(167) 83	
	ビルマ向輸出検査	—	—	—	—	16	
	総計	597	2,098	(3,596) 3,333	(3,690) 3,309	(5,199) 4,691	

昭和28年度　化学製品印紙収入各所別実績表

区分＼種類	試薬検査手数料		工業検査手数料		封緘手数料		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
		円		円		円		円
東京本所	286	206,890	121	72,500	245	124,017	652	403,407
大阪支所	769	519,780	88	47,200	685	284,874	1,542	851,854
名古屋支所	8	5,880	5	2,400	8	4,080	21	12,360
福岡支所	68	41,710	1	2,100	59	27,627	128	71,437
富山出張所	80	93,880	—	—	80	35 940	160	129,820
丸亀出張所	20	13,260	2	1,800	18	1,251	40	16,311
合計	1,231	881,400	217	126,000	1,095	477,789	2,543	1,485,189

昭和28年度　化学製品地区別検査件数表

検査項目		本所	大阪支所	名古屋支所	福岡支所	丸亀出張所	富山出張所	全国合計	備考
輸出検査	輸出試薬　529品目	456品目 2,177	101品目 152	0	0	0	0	2,329	458品目
		T (174,152)	T (36,435)	T (27,200)	T (31,338)	T (32,650)	T (24,192)	T (325,967)	
	輸出化学肥料　13品目	113	127	20	27	20	39	346	
		(80T)	(134T)		(50T)			(264T)	
	ダイナマイトグリセリン	2	10	0	1	0	0	13	
	計	2,292	289	20	28	20	39	2,688	
検定検査	火薬類試験用試薬	64	0	0	0	0	0	64	
	試薬エチルアルコール	97	123	0	20	0	0	240	
	試薬塩化ナトリウム	40	73	41	0	0	0	154	
	計	201	196	41	20	0	0	458	
依頼検査	一般試薬（官封試薬）	286	769	10	64	20	80	1,229	
	一般化学工業品	(371) 121	(235) 88	(12) 5	(14) 1	(9) 2	0	(641) 217	
	計	(657) 407	(1004) 857	(22) 15	(78) 65	(29) 22	(80) 80	(1,870) 1,446	（）内は検査成分数で実際の検査件数を示す。
所内委託検査		(17) 12	(88) 37	(62) 34	0	0	0	(167) 83	
ピルマ向輸出検査		10	5	1	—	—	—	16	
総計		(3,177) 2,922	(1,582) 1,384	(146) 111	(126) 113	(49) 42	(119) 119	(5,199) 4,691	

化学製品関係品目別概況

輸出試薬

昭和28年度に於ては，かねて懸案であつた指定品目についても，業界及び輸出品の実情に即して通産省告示第358号（28.12.21）により従来のＪＥＳを全面的に改め，ＪＩＳに切換え27年１月20日以後はこれによつたので，ＪＥＳを採用した期間とＪＩＳを採用した期間に分れ，検査品目も前年度に比し相当上廻つた。

本年度の試薬輸出も一部，南米，比島，インドネシア等もあつたがその大半は韓国，台湾が仕向先であつた。しかし最近の東南アジア及び中共地区の科学水準の向上は無限の市場性をもつものであり，我国の禁輸品目の西欧並の緩和及び期待される政府の積極的な対共産圏貿易と相俟つて，今後試薬の市場も相当変化を見せ活発化することが期待され，そのきざしも芽生えつゝある。

従つて昨年度に比し数量的に約２倍半，金額的には３倍強の伸張を見た試薬の輸出は明年度以降更に飛躍の途をたどると思われるが，中小企業の多い斯業にとつては，本年後期よりの政府のデフレ政策実施，並に業界自体の企業合理化の成果如何が大きな試金石として残されている。

輸出試薬検査実績
（昭 28.4～29.3）

	本所	大阪支所
28.4	83	0
5	430	0
6	215	2
7	67	0
8	111	32
9	31	0
10	305	0
11	124	0
12	226	21
29.1	106	0
2	150	0
3	329	97
計	2,177	152

試薬輸出金額

（単位ＦＯＢドル）　（但し，検査対象品目分のみ）

年月	東京地区	大阪地区
28.4	1,208 74	
5	24,777 08	
6	4,050 09	495 00
7	3,232 36	
8	1,565 55	28 50
9	828 23	
10	594 84	
11	4,358 33	
12	14,978 47	700 50
29.1	3,041 50	
2	7,692 10	
3	10,054 89	1,801 20
計	76,382 18	3,025 20

輸出試薬明細表（本所分）　（456品目）

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
亜ヒ酸カリウム	1	500×1	
亜ヒ酸ナトリウム	1	500×1	
アセトニトリル	1	25×2	
アセトフエノン	1	250×1	
亜硝酸アミル	1	125×1	
アニゾール	1	25×1	
アンスラセン	1	500×1	
アリザリン赤	3	25×12	8 40
アルミニウム	1	500×5	9 00
アルブミン	2	500×3 250×1	12 80
アスパラギン	1	25×1	2 20
アスパラギン酸	1	25×1	2 60
アセトアルデヒド	4	500×160 250×1	227 20
アドニツト	1	10×17	62 57
アズールⅠ	2	10×45 25×2	42 50
アズールⅡエオシン液 ギムザ液	5	500×20 50×100 25×62	73 80
アントラニル酸	3	1kg×1 250×1 25×2	9 50
アズールⅡ	5	25×25	26 00
アセト酢酸エチル	2	500×10 250×1	29 60
アセトアミド	5	500×56 250×1	92 68
アセトン	6	500×215 1wi×4	180 50
アリザリン黄ＧＧ	2	25×13	24 07
アリルアルコール	2	250×1 25×20	12 20
アンモニア水	10	18kg×50 1wi×8 500×534	378 39
p-アミノデメチルアニリン	1	25×10	18 80
p-アミノフエノン	1	25×10	21 90
p-アミノ安息香酸	1	25×10	15 60
アルミニウム末	4	500×3 25×10	36 25
アゾベンゼン	1	25×10	15 60
アンチモン	6	500×59	89 38
アンスラニル酸	2	500×6	52 95
Ｌ-アスパラギン酸	1	25×10	32 50
l-アラビノース	1	25×10	81 30
アニリン	9	1wi×1 500×85 25×15 10×54	104 32
アミルアルコール	6	1wi×1 500×81	158 59
アウリントリカルボン酸アンモニウム	2	500×3 25×1	10 75
アンチモン末	1	125×1	
亜硝酸コバルトナトリウム	1	25×1	1 33
亜硝酸カリウム	6	500×97	116 44
亜硝酸ナトリウム	9	500×150 250×1	78 92
亜硝酸銀	1	125×1	4 00
亜硫酸水素ナトリウム	4	500×63	42 07
亜硫酸ナトリウム（結晶）	3	500×37 100×1	20 22
〃（無水）	9	500×339	152 06
亜鉛	15	500×337 25×1	374 79
亜鉛末	7	500×82 100×1 25×20	93 94
亜ヒ酸	5	500×14	14 56
安息香酸	4	500×21 25×10	70 60
硫黄	6	500×15 250×1	8 10
インジゴカルミン	4	25×28	23 70
イノシツト	3	5×10 1×30	34 15
イヌリン	2	25×22	38 50
イサチン	1	25×10	15 00
一酸化鉛	9	3,000kg 500×140	4,469 94
エチルアルコール（無水）	6	1gal×6 500×95	236 61
エチレングリコール	4	20kg×1 500×17	45 66
エチレンクロルヒドリン	1	500×20	40 00
エチルエーテル	7	10wi×1 1wi×6 500×345	430 24

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
エオシンY	7	500×38 25×19 10×353	363.66
塩化カルシウム	16	500×1,239	692.84
塩化鉛	1	25×1	0.16
塩化ストロンチウム	1	500×20	18.00
塩化第二錫(結晶)	3	500×41	83.40
塩化第一錫	14	500×74 25×43	261.58
塩化パラジウム	1	1×30	93.90
塩化白金酸	6	5×20 2×1 1×85	411.45
塩化スルフリル	1	250×1	
塩化ベンゾイル	1	500×2	
塩化カリウム	10	500×242 25×1	94.40
塩化ナトリウム	11	500×115 50×1	54.17
塩化チオニル	2	500×60	96.90
塩化亜鉛	11	500×167 25×23	126.06
塩化カドミウム	5	500×32	138.00
塩化クローム	3	500×20 125×1	26.80
塩化コバルト	8	500×56 125×1 25×15	162.45
塩化第一銅	6	500×27 25×1	42.12
〃第二銅	4	500×12 125×1	19.45
塩化第一鉄	5	500×43	22.65
〃第二鉄	10	500×140 125×215	140.72
塩化金酸	4	1×71	105.65
塩化リチウム	5	500×11 125×1 25×1	57.40
塩化マンガン	5	500×42 250×1	37.37
塩化マグネシウム	11	500×103 25×2	51.20
塩化ニツケル	3	500×6 125×1	14.30
塩化第一水銀	3	500×6 25×1	44.15
〃第二水銀	10	500×116 25×27	486.48
塩化アセチル	6	500×88	191.10
塩化アンモニウム	15	500×427	179.56
塩化アルミニウム(無水)	4	500×21 25×1	25.12
塩化ベンジル	2	500×10 250×1	19.10

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
塩化バリウム	15	500×103 250×1 125×16	65.01
塩酸フエニルヒドラジン	2	25×2	1.07
塩酸セミカルバジド	3	500×2 250×1 25×30	54.30
塩酸シンコニン	2	25×20	40.00
塩酸ヒドラジン	2	500×4 25×10	43.80
塩酸ヒドロキシルアミン	10	500×53 25×5	240.58
塩酸-m-フエニレンジアミン	2	25×31	59.75
塩酸ジメチルパラフエニレンジアミン	1	25×10	25.00
塩酸	15	10wi×1 1wi×14 23kg×108 22.5kg×41 500×405	988.44
塩素酸カリウム	8	500×43 25×1	26.02
塩素酸ナトリウム	2	500×2	1.20
塩基性炭酸鉛	3	500×51	39.88
塩基性硝酸蒼鉛	2	25×13	7.50
オルトクレゾール	2	500×4 125×1	13.00
黄燐	2	500×6	9.00
オレンジG	1	25×30	16.50
オウラミン	1	25×2	1.10
オキシ塩化リン	2	500×8	9.75
カゼイン	1	25×5	0.65
カルミン	1	25×2	9.60
カプリン酸	1	500×3	18.75
カプロン酸	1	500×3	15.39
カナダバルサム	6	500×11 125×1 25×21	45.58
カドミウム	2	500×10 250×1	79.
ガラクトーズ	2	500×6 25×20	119.42
カルバミン酸エチルエステル	2	500×5	30.75
カリウムアラム	7	500×129	45.35
カリウム	1	100×6	57.60
過硫酸アンモニウム	6	500×57 25×1	55.45
過硫酸カリウム	4	500×30 125×20 250×1	47.00
過酸化ナトリウム	2	500×40	42.50
過酸化バリウム	5	500×96 25×15	128.46
過酸化鉛	1	250×1	1.10
過塩素酸	11	25kg×94 500×105	3,836.39

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
過塩素酸カリウム	1	500×1	3.47
毒砂	2	500×7	2.98
寒天	3	500×2 250×1 25×1	5.68
活性炭素	4	1kg×100 500×21 25×10	105.93
過ヨウ素酸カリウム	4	500×24 125×1 25×1	400.69
過マンガン酸カリウム	13	500×139 50×1 20kg×10	151.97
過酸化水素水(30%)	9	500×182 250×1 125×20	267.88
蟻酸	9	5lb×2 500×390	258.88
キンヒドロン	5	25×63	79.63
ギ酸ナトリウム	5	500×25 250×1 25×1	25.67
キシレン	9	500×316	143.66
キナルジン酸	1	500×1	840.80
キノリン	2	125×1 25×5	6.15
キサントゲン酸カリウム	1	500×1	11.70
d-キシロース	1	10×5	7.50
グリコーゲン	1	25×2	2.62
クロラミン	1	125×1	
クロモトロプ酸(ナトリウム塩)	3	100×20 1×11	351.75
グリココール	1	25×10	15.00
クロロホルム	9	1wi×1 500×709	685.18
クリソイジン	4	25×32	13.69
クロルフエノール赤	4	25×2 1×15	51.70
クレゾール赤	4	25×10 10×1 1×6	46.10
クリスタル紫	6	25×61 10×506	173.19
クペロン	4	500×14 25×31	320.60
クロムアラム	7	500×43	23.78
グリセリン	4	1wi×1 500×125	163.80
クエン酸	5	500×21 250×2	30.60
クエン酸ナトリウム	2	500×10 25×30	22.40
クエン酸カリウム	2	500×20	38.00
クエン酸アンモニウム(第二)	1	500×5	11.25
クエン酸第二鉄	4	500×15 25×5	73.14

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
クエン酸鉄アンモン	3	500×23	77.51
クロム酸ナトリウム	3	500×11 250×1	15.50
クロム酸カリウム	10	500×27 25×10	29.54
珪藻土	1	500×2	
ケイ皮酸	1	25×20	18.30
ゲンチアナ紫	8	500×6 25×101 10×7	101.85
ケイ酸ナトリウム	2	500×11	3.40
ケイフツ化ナトリウム	1	500×22	14.30
ケイタングステン酸	1	500×1	40.50
コハク酸	3	500×22 25×2	65.90
コンゴー赤	7	500×3 25×26 10×100 1×20	41.24
五酸化リン	7	500×395	326.90
コバルチ亜硝酸ナトリウム	5	500×12 250×1 25×1	94.46
酢酸エチル	1	500×2	
酢酸アミル	2	500×20 250×1	19.30
酢酸	14	1wi×5 500×502	268.37
酢酸カドミウム	1	500×5	25.00
酢酸コバルト	2	500×15	39.00
酢酸銅	8	500×68 125×1 25×5	81.73
酢酸亜鉛	10	500×64 250×1	63.19
酢酸ナトリウム(結晶)	10	500×314	185.73
〃(無水)	4	500×47	39.95
酢酸ウラニル	3	500×1 25×3	37.30
酢酸鉛	9	500×95	87.69
酢酸メチル	2	500×20 125×1	19.10
酢酸マグネシウム	3	500×32	39.74
酢酸マンガン	1	500×10	15.30
酢酸第一水銀	1	500×2	14.00
酢酸第二水銀	3	500×5	33.62
シユウ酸	13	500×275	153.22
シユウ酸アンモニウム	19	500×312	326.28
シユウ酸ナトリウム	13	500×146	156.04
シユウ酸カリウム	4	500×19	23.59
酢酸アンモニウム	10	500×371 125×30	251.24
酢酸カリウム	4	500×101	94.00

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
硝酸	17	1wi×14 25kg×98 500×500	1,310 49
硝酸トリウム	1	5×1	
硝酸バリウム	7	500×57 250×1	31 77
硝酸コバルト	9	500×53 25×10	151 35
硝酸銅	5	500×24	25 66
硝酸銀	15	500×37 25×66	449 72
硝酸ナトリウム	8	500×199 250×1 125×24	104 78
硝酸ストロンチウム	7	500×126 250×1	95 46
硝酸アンモニウム	11	500×491	253 29
硝酸アルミニウム	1	500×1	
硝酸カリウム	8	500×87	43 05
硝酸ウラニル	3	500×8 25×4	225 76
硝酸鉛	7	500×119 25×3	104 50
硝酸第二鉄	5	500×71 125×10	65 95
硝酸リチウム	1	500×5	31 25
硝酸第一水銀	3	500×5	30 90
硝酸第二水銀	3	500×7	40 55
硝酸ニツケル	1	25×1	0 33
酸化マグネシウム	6	500×66 250×1	57 56
酸化第二水銀(赤色)	3	500×3 250×1	33 48
〃 (黄色)	3	500×4 25×4	35 42
酸化アルミニウム	3	500×1 250×1 125×1	3 30
酸化第二クロム	2	500×11	11 25
酸化チタン	2	500×1 25×2	1 25
酸化第一銅	1	500×4	6 80
酸化第二銅	8	500×33 250×1 25×17	61 60
酸化亜鉛	3	500×22	19 30
酸化カルシウム	6	500×74	28 20
重クロム酸カリウム	8	500×60 25×4	53 00
重クロム酸ナトリウム	2	500×4	3 35
重クロム酸アンモニウム	4	500×79	53 65
水酸化カリウム	13	500×247	129 42
水酸化ナトリウム	15	500×17 25×30	170 26
水酸化カルシウム	6	500×158	67 70

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
水酸化バリウム	7	200kg×4 190kg×1 500×26 25×11	1,351 16
酒石酸	10	500×164 25×1	206 37
酒石酸水素カリウム	3	500×15 125×1	16 80
酒石酸カリウムナトリウム	12	500×113 25×30	142 73
酒石酸ナトリウム	3	500×16	37 71
酒石酸アンチモニルカリウム	1	500×4	5 60
臭素	6	500×43	74 10
臭化水素酸	3	1wi×1 500×12	25 54
臭化ナトリウム	4	500×50 125×1 25×1	55 74
臭化第二水銀	1	500×2	15 71
臭化カリウム	6	500×31	32 25
臭素酸カリウム	2	500×6	11 00
三塩化アンチモン	1	250×1	
三塩化ヨウ素	1	500×3	32 43
三塩化チタン	2	500×8 250×1	16 52
四三酸化鉛	2	500×3	2 40
三酸化アンチモン	8	500×68 250×1	167 10
四塩化炭素	4	1wi×1 500×160	100 40
水銀	4	500×88	440 80
赤燐	3	500×22	26 90
石油ベンジン	3	500×16	11 45
石油エーテル	4	1gal×1 ½gal×1 500×35	28 55
石綿	3	500×2 250×1	4 12
蒼鉛酸カリウム	1	50×1	1 33
次亜塩素酸ナトリウム	1	25×1	0 16
樟脳	2	500×26	37 78
サリチル酸	5	500×52 25×1	89 55
サリチルアルデヒド	2	25×25	43 00
サフラニン	5	500×1 25×36	51 32
サリチル酸メチル	3	500×66 125×1	116 10
ジメチルエロー	1	25×10	12 10
ジメチルグリオキシム	8	500×9 25×88	107 07
ジメチルアニリン	8	500×112	130 68
p-ジメチルアミノベンズアルデヒド	3	25×26	40 15
ジメチル-p-フエニレンジアミン	1	25×40	75 20

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
2.4-ジニトロクロルベンゼン	1	25×10	6 30
2.4-ジニトロフエニルヒドラジン	3	25×23	7 1
シアン化ナトリウム	2	500×6	27 40
シアン化カリウム	9	500×49 250×1	101 14
ジオキサン	1	500×10	36 30
ジチゾン	2	500×2 25×10	132 90
ジフエニルカルバゾン	1	25×10	43 10
ジフエニルアミン	6	500×24 125×1 25×31	138 16
ジフエニルチオカルバゾン	2	25×3	9 16
p-ジメチルアミノアゾベンゼン	1	25×1	0 95
スルフアミン酸	1	25×1	1 33
スルフアニール酸	9	500×22 25×72	86 09
スズ	9	500×24 250×1 25×22	172 94
スルホサリチル酸	5	500×7 25×21	33 20
スダンⅢ	1	25×5	5
スルホサリチル酸ナトリウム	1	25×3	1 02
ソーダ石灰	12	500×887	526 64
大理石	2	500×7	1 14
炭酸ストロンチウム	1	250×1	
炭酸ナトリウム(結晶)	3	500×65	25 54
〃 (無水)	12	15kg×2 500×186 50×2	169 49
炭酸カルシウム	6	500×62 25×2	26 57
炭酸リチウム	5	500×7 125×1 25×6	50 15
炭酸マグネシウム	6	500×122 250×1	74 75
炭酸カリウム	8	500×73	47 19
炭酸アンモニウム	8	500×127	55 82
炭酸バリウム	3	500×12	9 9
炭酸カリウムナトリウム	1	500×1	0 9
炭酸水素ナトリウム	7	18kg×40 500×27	212 55
炭酸水素カリウム	5	500×37	36 8
タンニン酸	4	500×31 125×1	88 02
タングステン酸ナトリウム	5	500×23	104 61
チオ硫酸ナトリウム(結晶)	7	500×103	37 88
〃 (無水)	5	500×18 100×1	8 84
チオグリコール酸	1	25×10	18 8
チオ尿素	6	500×112	133 20

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
チモール青	3	1×36	13 22
チモールフタレイン	2	1×31	11 7
ツエーデル油	5	500×7 25×51	37 08
鉄粉	1	100×30	8 64
鉄粉	4	500×33	20 05
デバルダ合金	1	500×10	53 10
デキストリン	4	500×51 125×50 25×1	44 61
デン粉	3	500×6 25×5	3 99
デン粉(溶性)	8	500×32 25×36	24 98
トリクロール酢酸	6	500×19 25×1	103 12
トルエン	5	1wi×1 500×220	139 26
銅粉	2	500×11	19 65
トリクロルエチレン	2	500×1 250×1	
ナフタリン	2	500×2 125×1	
ナトリウム	3	500×33	39 66
α-ナフトール	4	500×11 25×11	16 71
β-ナフトール	5	500×27	41 7
α-ナフチルアミン	10	500×10 250×1 25×45	69 8
鉛	6	1,200kg 500×277	3,288 08
乳酸	4	500×26 125×1	52 83
二硫化炭素	6	1wi×1 500×60	36 15
乳糖	4	500×21 125×1	16 75
二酸化鉛	3	500×16 125×1	33 05
二酸化マンガン	9	500×377 50×1	100 62
ニトロベンゼン	2	500×40	27 20
ニツケル	1	500×85	653 65
O-ニトロフエノール	1	25×10	1 38
p-ニトロフエノール	1	25×10	1 88
α-ニトロソβ-ナフトール	3	500×3 25×2	52 96
尿素	10	500×169 25×10	88 09
ニトロプルシツドナトリウム	9	500×5 25×68 10×8	68 26
発煙硫酸	6	1wi×1 500×117	116 16
発煙硝酸	5	500×126	123 44

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
ハイドロキノン	3	500×1 250×21	4685
パラフィン	1	500×10	59
パラホルムアルデヒド	2	500×32	1362
パラアミノフエノール	1	25×5	875
パラクレゾール	1	125×1	
漂白粉	1	500×1	032
ピリジン	2	1wi×1 500×30	1864
ピロカテキン	2	25×22	110
ピロ硫酸カリウム	1	500×3	282
ピクロロン酸	1	500×1	4808
ピクリン酸	7	500×24 125×1 25×30	3554
ピロ燐酸ナトリウム	2	500×1 25×30	63
ピロガロール	8	500×27 100×1 25×1	23399
8-ヒドロオキシキノリン	8	500×6 125×1 25×33	8111
フタル酸水素カリウム	6	500×28 250×2 60×40 25×1	8927
フエロシアン化カリウム	11	500×110 25×24	11535
フエリシアン化カリウム	7	500×71 25×1	11031
フツ化カリウム	4	500×53 250×1	6855
フツ化ナトリウム	6	5lb×2 500×30 125×1 25×1	2697
酸性弗化ナトリウム	1	500×48	5856
フツ化水素酸	6	500×86	29226
フルオレスセイン	4	25×51	4395
フクシン	9	500×6 25×89 10×5	11014
フルフラール	2	500×60 125×1	1055
フエノール	4	500×114	1355
フエノール赤	3	25×20 1×6	1165
フエノールフタレイン	13	500×26 250×10 25×85 10×1	19626
フエニルヒドラジン	3	500×7 250×1	7094
フロログルシン	4	25×31	1549
p-フエニレンジアミン	7	20kg×2 500×356 25×2	1,5488

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
ブドウ糖	2	500×2 25×20	82
ブチルアルコール(正)	4	1wi×1 500×24 25×5	3495
ブロムクレゾール緑	1	1×10	263
ブロムクレゾールパープル	1	1×10	5
ブロムフエノール青	7	25×4 1×125	5011
ブロムチモール青	8	25×7 1×75	6942
ブルシン	4	25×101 5×2	2967
フツ化カルシウム	2	500×9	4
プロピルアルコール(正)	1	500×1	
ベンゾフエノン	1	125×1	
ヘマトキシリン	3	25×21	10924
ヘキサメチレンテトラリン	1	500×50	565
ペプトン	5	500×14 25×20	29
ベンゼン	6	1wi×6 500×103	6833
ベンジジン	10	500×16 250×1 25×118	26049
ベンズアルデヒド	4	500×43	75
α-ベンゾインオキシム	2	25×21	495
硼砂	2	500×4	
ホウ酸	9	5lb×4 500×98	4267
ホルマリン	8	20kg×1 500×360	1434
抱水トリケトヒドリンデン	1	1×100	84
ホウ酸ナトリウム	6	500×310 250×1 25×1	797
マグネシウム	4	25×52	739
マグネシウム末	5	500×13 250×2	4585
マンニット	4	500×20 125×1 25×55	9665
マラカイト緑(塩酸塩)	1	25×20	112
〃(修酸塩)	6	500×10 25×38 10×65	901
無水酢酸	7	500×164 125×15	11629
無水フタル酸	5	500×81	955
無水クロム酸	4	5lb×3 500×14	2115
無水ケイ酸	3	500×42	4408
メタクレゾール	1	125×1	
メタクレゾールパープル	2	1×2	5
メチル赤	6	25×68	14825

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
メチルオレンヂ	6	500×15 25×63	1155
メチレン青	5	25×31 10×10	2008
メタバナジン酸アンモン	1	25×10	113
メタ燐酸	5	500×32 125×30	5135
メチルアルコール	7	5gal×5 1gal×2 500×299	18146
モノクロル酢酸	6	500×103	1264
モリブデン酸アンモニウム	12	500×74 25×11	31864
沃化カリウム	12	500×49 25×5	20563
沃化アンモニウム	1	500×10	455
沃化ナトリウム	2	500×12 250×1	5033
沃化第二水銀	4	500×12 250×1	7926
沃化水素酸	5	500×19 250×1	108
沃素	7	500×20 50×8 25×2	10343
沃素酸カリウム	2	250×1 25×1	660
硫酸	15	34kg×88 1wi×6 10wi×1 500×403	63736
硫酸カドミウム	4	500×14 125×1	5174
硫酸第二セリウム	1	25×20	176
硫酸銅(結晶)	10	500×66 25×24	4053
〃(無水)	2	500×20 100×1	2158
硫酸第一鉄	10	500×185 25×1	6473
硫酸第二鉄	7	500×142	6539
硫酸ヒドラジン	2	500×5 25×1	1005
硫酸マグネシウム	9	500×149 25×1	5392
硫酸マンガン	10	500×82 250×1 25×2	8042
硫酸ニツケル	6	500×32 25×5	493
硫酸バリウム	2	500×1 250×1	135
硫酸ナトリウム(結晶)	3	500×4	124
〃(無水)	3	500×7	399
硫酸亜鉛	9	500×733 250×1 25×5	24588

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
硫酸カリウム	14	25kg×4 250×1 500×234 125×25 25×2	15977
硫酸カルシウム	4	500×4	094
硫酸アンモニウム	8	5lb×3 500×65 125×256	10791
硫酸第一鉄アンモニウム	10	500×97 25×2	4971
硫酸第二鉄アンモニウム	10	5lb×1 250×1 500×104 125×20	5894
硫酸第二水銀	1	500×2	135
硫酸アルミニウム(結晶)	3	500×4	34
硫酸水素カリウム	8	500×19	1474
硫酸水素ナトリウム(結晶)	3	500×9 250×1	735
硫化ナトリウム	7	500×256	1604
硫化鉄	13	50kg×13 500×334	24716
硫化アンモニウム液(無色)	51	5gal×24 1wi×2 500×16	15669
硫化アンモニウム液(黄色)	1	500×10	44
硫シアン化アンモニウム	13	500×155 125×15	19766
硫シアン化カリウム	19	500×176 125×30 250×1 25×11	29145
リン酸	11	500×205 250×1	12951
リン酸二アンモニウム	11	500×110 250×1	978
リン酸二カルシウム	3	500×13	1332
リン酸一ナトリウム	6	500×34 25×11	2527
リン酸二ナトリウム(結晶)	10	500×58 100×1 25×1	252
〃(無水)	1	500×2	276
リン酸一カリウム	12	500×63 125×100 250×1 25×11	9047
リン酸水素アンモニウムナトリウム	1	500×4	4
燐モリブデン酸	5	500×24 125×1 25×40	23087
燐タングステン酸	1	25×5	975
流動パラフィン	1	500×15	132
リグロイン	1	500×50	25
リトマス	3	500×1 25×31	197

品名	検査件数	検査数量	金額(弗)
リトマス試験紙（赤青）	1	100S×100	45
レゾルシン	3	500×13	132.3
ローダミンB	2	25×35	43.1
ロゾール酸	5	500×2 25×31	32.15
ワセリン	3	500×6	2.64

（大阪市所　輸出試薬明細表）

			（円）
アンモニア水	2	18kg×5 60g×5	11,000
アルミニウム末	1	40g×5	450
亜鉛	1	100g×5	400
isoアミルアルコール	1	500g×50	21,750
アンチモン	1	500×10	4,500
亜硝酸カリウム	1	500×10	5,500
一酸化鉛	1	500×60	12,960
塩酸	3	22.5kg×6 500×200 40g×5	39,645
塩素酸カリウム	1	80g×5	350
硫黄	1	80g×5	350
塩化バリウム	2	500×3 80g×5	1,210
塩化アンモニウム	2	500×30 80g×5	5,060
塩化カルシウム	1	80g×5	350
塩化コバルト	3	500×25	20,900
塩化第二鉄	2	500×40	6,150
塩化第二錫	2	500×45	27,000
塩化ナトリウム	1	500×10	3,240
塩化第二水銀	1	500×3	4,968
塩化カリウム	1	500×3	594
塩化第一錫	3	500×83	42,918
塩化第一鉄	1	500×30	4,200
塩化マグネシウム	1	500×20	2,800
塩化ニツケル	3	500×20 450×198	189,000
黄燐	1	500×10	3,800
活性炭素	1	20g×5	200
寒天	1	500×10	11,000
過マンガン酸カリウム	2	500×5 80g×5	2,520
過酸化ナトリウム	2	500×15	6,050
過酸化水素水	1	250g×10	3,420
クロロホルム	3	500×260	59,800
クロム酸カリウム	1	500×20	7,400
キシレン	2	500×130	19,000
五酸化燐	2	500×80	21,000
三塩化アンチモン	1	500×5	3,250
酢酸（99%）	2	20kg×2 40g×5	6,586
酢酸鉛	2	500×103	14,864
酢酸エチル	1	500×10	2,250
酢酸アンモニウム	2	500×110	19,700
酢酸カリウム	1	500× 100	23,000
酢酸コバルト	1	500×5	14,500
酢酸ナトリウム（結晶）	1	500×10	11,880
硝酸	3	25kg×5 500×100 80g×5	28,085
硝酸カリウム	3	500×53 80g×5	6,444
硝酸コバルト	3	500×40	25,000
硝酸アンモニウム	2	500×60	7,640
硝酸ストロンチウム	1	500×10	2,600
硝酸第二鉄	1	500×10	2,700
重クロム酸カリウム	2	500×3 80g×5	1,214
シュウ酸	1	500×5	1,350
シュウ酸アンモニウム	2	500×35	12,600
ジメチルグリオキシム	1	25×5	900
臭素	1	500×3	1,458
酒石酸カリウムナトリウム	2	500×120	31,250
臭素酸カリウム	1	500×5	2,500
ズ	1	500×5	3,450
水酸化ナトリウム	2	80×5	990
水酸化カリウム	1	100×5	550
赤燐	1	30×5	300
炭酸ナトリウム（結晶）	2	500×5 100×5	1,150
〃（無水）	2	500×105	10,250
炭酸カリウム（無水）	2	500×25	6,700
炭酸水素カリウム	1	500×10	3,300
チオ硫酸ナトリウム	1	500×5	900
ツエーデル油	3	25×600	40,500
トルエン	1	500×50	8,000
銅	1	100×5	1,980
二酸化マンガン	1	80×5	200
二硫化炭素	1	500×40	6,600
α—ニトロソ βナフトール	1	25×5	1,260
ピロ硫酸カリウム	1	500×5	1,440
ビスマス酸ナトリウム	1	500×2	7,920
フツ化水素酸	3	500×33	17,596
ブドウ糖	1	20×5	250
フエリシアン化カリウム	1	20×5	350
フエロシアン化カリウム	2	500×3 40×5	1,538
ベンゼン	1	20×5	250
ベンズアルデヒド	1	500×10	5,800
ホルマリン	1	60×5	300
硼酸ナトリウム	1	100×5	225
マグネシウム末	1	80×5	400
無水酢酸	2	500×125	31,850
メタ燐酸	2	500×45	19,800
マンニツト	2	500×5 25×100	13,000
モリブデン酸アンモニウム	2	500×53	68,130
ヨウ素	1	40×5	600
ヨウ化カリウム	1	500×5	6,480
硫酸	3	34kg×1 500×100 60×5	11,410
硫酸銅	1	80×5	350
硫酸第一鉄	1	500×50	5,040
硫酸第一鉄アンモニウム	1	500×3	540
硫酸マンガン	1	500×3	1,188
硫酸アンモニウム	2	500×53	6,540
硫化鉄	2	500×20 100×5	2,770
硫化ナトリウム	2	500×55	8,010
硫シアン化カリウム	1	500×26	9,100
硫化アンモニウム液（黄色）	1	500×10	1,100
リトマス	1	25×50	4,500
リトマス試験紙	1	10箱	200
リン酸	2	500×15	3,340
リン酸二アンモニウム	1	500×2	576
リン酸一カリウム	1	500×50	14,000

輸出化学肥料

我国の輸出化学品の中核をなす化学肥料については、海外依存量年間 2,000 万屯に及ぶ東南アジア市場及び最近門戸を開いた潜在需要の測り知れな程多い中共市場が国際市場争奪戦の焦点となつており、価格競争は熾烈な一方、各国とも厳重な第三者検査を経た優秀品を輸出しておる状況である。28年度の輸出件数は前年に少しく劣るが、輸出数量は前年の 472,229 瓲に比し 538,333 瓲と上昇しておる。化学肥料の工場は各地に散在するため本年度のように旅費、人員の削減を見た場合は検査件数の低下は止むを得なかつたが、この際重要市場と見られる中共向化学肥料についてクレームの発生を見たことは戒心すべきことであつた。化学肥料については国策としての輸出振興が図られている際ではあり、国際需要も高いが、今後益々品質に意を尽して我国のこの重要輸出品の声価を些かでも落さないように官民共に努めるべきであろう。

（単位：瓲）　昭和 28 年度化学肥料生産実績

品名 / 月別		硫安	尿素	硝安	塩安	石灰窒素	過燐酸石灰	重過燐酸石灰	溶成燐肥	トーマス燐肥	化成肥料	配合肥料
28年	4月	148,149	6,344	450	2,564	49,025	91,381	155	12,728	5,849	52,635	6,382
	5月	166,286	6,770	575	2,864	50,341	92,023	122	17,636	2,652	86,200	8,275
	6月	178,937	6,394	431	2,577	37,647	109,517	111	12,433	2,246	48,102	6,359
	7月	172,044	5,089	948	2,216	36,375	109,504	144	16,646	2,906	57,518	5,929
	8月	167,879	5,006	1,367	1,961	38,645	91,971	214	15,929	2,898	70,685	4,552
	9月	174,463	6,261	1,465	1,726	46,079	98,784	361	18,025	6,041	67,876	5,826
	10月	168,159	6,841	2,152	1,996	45,085	129,277	144	17,288	6,585	69,649	6,911
	11月	163,495	6,514	1,700	2,613	38,225	113,189	491	17,787	3,177	60,766	6,468
	12月	162,901	3,307	1,601	3,801	29,908	120,696	781	16,762	3,207	54,210	6,353
29年	1月	174,111	9,082	2,349	3,769	25,467	117,430	22	17,364	4,011	60,692	9,690
	2月	144,983	7,582	1,916	3,684	32,937	119,207	105	14,182	5,415	65,860	7,524
	3月	182,260	8,871	2,422	4,347	48,819	122,325	225	20,923	5,849	71,054	13,411
合計		2,002,667	78,061	17,376	34,118	478,553	1,315,304	2,832	197,703	50,836	714,741	87,630

昭和28年度化学肥料船積実績

（単位、㌧、実数）

1. 硫　安

月別	韓国	台湾	琉球	ブラジル	合計
28年 4月	61,413				61,413
5〃	66,808				66,808
6〃	64,485				64,485
7〃	6,775				6,775
9〃				500	500
10〃		47,600	2,000		49,600
11〃		26,295			26,295
12〃	34,200	40,500			74,700
29年 1月	10,800	3,605	2,000		18,405
2〃		10,000			10,000
計	244,481	130,000	4,000	500	378,981

2. 石灰窒素

月別	韓国	米国	合計
28年 4月	10,354		10,354
5〃	3,120	45	3,165
12〃		91	91
29年 3〃	40,642		40,642
計	54,116	136	54,252

3. 尿　素

月別	米本土	哇布	台湾	琉球	比島	ブラジル	メキシコ	合計
28年 4月		500						500
5〃	915							915
6〃		100				481		581
7〃	200	1,100		200				1,500
8〃	100	600						700
9〃	100							100
10〃			100					100
11〃	200	100						300
12〃	200	100						300
29年 1〃	100				155			255
2〃							100	100
計	1,815	2,500	100	200	155	481	100	5,351

4. 硝　安

月別	印度
28年 8月	1,118
9〃	203
10〃	508
11〃	508
29年 1〃	406
2〃	305
計	3,048

5. 塩　安

ナシ

6. 配合肥料

月別	琉球
28年 5月	20
7〃	1,000
計	1,020

7. 過燐酸石灰

月別	韓国	台湾	中共	琉球	比島	合計
28年 4月	256					256
5〃			6,515			6,515
6〃		1,300	4,980			6,280
7〃		10,900		500		11,400
8〃		10,600				10,600
9〃		7,200				7,200
10〃	13,000					13,000
11〃	4,315	4,406				8,721
12〃		6,591	10,980			17,571
29年 1〃		4,003	7,520			11,523
2〃			2,400			2,400
3〃					50	50
計	17,571	45,000	32,395	500	50	95,516

8. トーマス燐肥

月別	グアム島
29年 3月	5

9. 熔成燐肥

月別	比島
29年 3月	115

10. 化成肥料

月別	香港
29年 2月	5

総　計　538,334 ㌧

前年度　472,229 〃

昭和 8 年度化学肥料船積金額（FO.B 及び F.A.S：ドル）

1. 硫　安

月別	韓国	台湾	琉球	ブラジル	合計
28年4月	3,217,465	—	—	—	3,217,465
5〃	3,804,384	—	—	—	3,804,384
6〃	3,919,902	—	—	—	3,919,902
7〃	375,159	—	—	—	375,159
9〃	—	—	—	29,750	29,750
10〃	—	2,703,680	113,600	—	2,817,280
11〃	—	1,493,556	—	—	1,493,556
12〃	2,052,639	2,300,400	—	—	4,353,039
29年1月	648,486	318,364	113,600	—	1,080,450
3〃	—	568,000	—	—	568,000
計	14,018,035	7,384,000	227,200	29,750	21,658,985
数量	244,481	130,000	4,000	500	378,981
平均単価	57.34	56.80	56.80	59.50	57.35

2. 石灰窒素

月別	韓国	米国	合計
28年4月	677,302	—	677,302
5〃	204,540	3,025	207,565
12〃	—	5,370	5,370
29年3〃	1,879.590	—	1,879,590
計	2,761,432	8,395	2,769,827
数量	54.116	136	54,252
平均単位	51.03	61.73	51.05

3. 尿　素

月別	米本土	哇布	台湾	琉球	比島	ブラジル	メキシコ	合計
28年4月	—	62,250	—	—	—	—	—	62,250
5〃	122,525	—	—	—	—	—	—	122,525
6〃	—	13,500	—	—	—	64,422	—	77,922
7〃	27,000	147,500	—	26.800	—	—	—	201.300
8〃	13,500	80,750	—	—	—	—	—	94,250
9〃	13,500	—	—	—	—	—	—	13.500
10〃	—	—	13,000	—	—	—	—	13,000
11〃	27,400	13,700	—	—	—	—	—	41.100
12〃	27,400	13,700	—	—	—	—	—	41,100
29年1月	13.700	—	—	—	21,535	—	—	35,235
2〃	—	—	—	—	—	—	12,670	12.670
計	245,025	331,400	13.000	26,800	21,535	64,422	12,670	714,852
数量	1,815	2,500	100	200	155	481	100	5.351
平均単位	135	132.56	130	134	138.94	133.93	126.70	133.59

4. 硝　安

月　別	印　度
28年 8月	133.650
9 〃	24,300
10 〃	60.750
11 〃	50.750
29年 1 〃	48,600
2 〃	36.450
計	364,500
数　量	3,048
平均単位	119.59

5. 塩　安

なし

6. 配合肥料

月　別	琉　球	数　量	1.020
28年5月	1,346	平均単位	50.73
7 〃	50,460		
計	51,806		

7. 過リン酸石灰

月　別	韓　国	台　湾	中　共	琉　球	比　島	合　計
28年 4月	9.784	—	—	—	—	9,734
5 〃	—	—	260.760	—	—	260,760
6 〃	—	40,378	210,773	—	—	251,171
7 〃	—	338,554	—	18,500	—	357,054
8 〃	—	336,376	—	—	—	336,376
9 〃	—	244,242	—	—	—	244,242
10 〃	436,240	—	—	—	—	436,240
11 〃	147.713	150,685	—	—	—	298,398
12 〃	—	225,412	378,008	—	—	603,420
9年 1 〃	—	136,903	259,622	—	—	396,525
2 〃	—	—	82.320	—	—	82,320
3 〃	—	—	—	—	1,750	1.750
計	593,687	1,472,550	1.191,503	18,500	1.750	3,277,990
数　量	17.571	45,000	32,395	500	50	95.516
平均単位	33.79	32.72	36.78	37	35	34.32

8. トーマス燐肥

月　別	グアム島
29年 3月	153
計	153
数　量	5
平均単位	31

9. 熔成燐肥

月　別	比　島
29年 2月	5,425
計	5,425
数　量	155
平均単位	35

10. 化成肥料

月　別	香　港
29年 2月	235
計	235
数　量	5
平均単位	47

総　額

$　28,843,773

¥　10,383,758,280

（FOB又はFAS 過き）

1. 硫　安

会社名	韓国 J.P.A 28/4～7 積 51.60	合計	台湾 G.T.C. 28/10～29/3積 56.80	韓国 G.S.A. 28/12 積 60	韓国 G.S.A. 28/12～29/1積 60.045	実の他（A欄合計） 28/4～29/3積 平均 64.27	(A) 合計 平均 57.15	平均単価	金額	琉球 ブラジル	韓国	国
旭化成	1,300	900		—	—	—	2,200	53.73	118,200	—	—	—
別府化学	7,800	5,900		—	1,000	3,100	17,800	56.21	1,000,545	—	3,100	65.45
三菱化成	—	8,900		—	—	2,434	11,324	58.84	666,310	—	2,424	66.33
日本水素	—	4,200	3,000	—	—	—	7,200	58.13	418,560	—	—	—
日産化学	17,000	3,000	—	—	—	—	20,000	52.38	1,047,600	—	—	—
日東化学	10,800	15,100	7,000	—	—	13,060	45,960	58.17	2,673,460	ブラジル 500 59.50	12,560	64.39
朝日本窒素	6,000	3,000	—	—	—	4,943	13,943	55.65	767,552	琉球 4,000 56.80	943	64.00
昭和電工	14,218	13,000	8,000	2,000	—	9,274	46,492	57.49	2,671,800	—	9,274	64.66
住友化学	22,800	18,000	—	6,000	—	9,916	56,716	56.50	3,204,266	—	9,917	65.06
東亜合成	8,100	3,500	2,000	—	—	—	13,600	54.17	736,760	—	—	—
東北肥料	8,500	—	—	—	—	—	8,500	56.60	438,600	—	—	—
東海琉安	1,000	800	—	—	—	—	1,800	53.91	97,040	—	—	—
東洋高圧	19,073	30,100	—	11,000	—	29,753	89,926	58.40	5,251,684	—	29,753	63.77
宇部興産	2,840	23,600	—	5,000	—	12,080	43,520	58.98	2,566,608	—	12,080	64.52
合計	119,431	130,000	20,000	25,000	4,500	84,550	378,981		21,658,985	4,500	80,050	64.68
備考	契約量 225,000	契約量 250,000	28/11/9 入札 20,000	28/11/10 入札 140,000		詳細 A 欄						

2. 石灰窒素

会社名	米国	韓国 U.N.K.R.A.	韓国 米軍	韓国 其の他	合計	平均単価	金額
	28/5及び28/12	28/4～5 積	29/3 積	28/4～5 積			
	平均 61.73	65.50	平均 46.25	平均 64.01	平均 51.05		
電気化学	—	—	14,225	—	14,225	46.16	656,600
揖斐川電気	—	—	1,097	—	1,097	46.67	51,192
日本カーバイト	—	—	5,893	—	5,893	46.65	274,920
信越化学	136	—	8,128	354	8,618	47.10	405,897
昭和電工	—	13,000	10,994	—	23,994	56.64	1,358,958
東北電気	—	—	—	120	120	67.00	8,040
東海電極	—	—	305	—	305	46.62	14,220
計	136	13,000	40,142	474	54,252	51.05	2,769,827
備考			契約量 60,000 英屯				

3. 尿素

会社名	米本土	唯布	台湾 C.T.C.	琉球 J.P.A.	比島	ブラジル	メキシコ	合計	金額
	28/5～29/1 積	29/5～12積	28/10 積	28/7 積	29/1 積	28/6 積	29/2 積		
	平均 135.00	平均 132.56	130.00	134.00	138.94	133.93	126.70	平均 133.59	
東洋高圧	1,815	2,500	100	200	155	481	100	5,351	714,852

4. 硝安

会社名	印度 G.SA. 28/8～29/2 積	金額
	119.59	
住友化学	3,048	364,500
備考	契約量 3,000英屯	

5. 塩安

なし

6. 配合肥料

会社名	琉球 J.P.A. 28/7 積	琉球 其の他 28/5 積	金額
	50.46	69.00	
神島化学	1,000		50,460
大東商事		20	1,346
計	1,000	20	51,806

8. トーマス燐肥

会社名	グアム島 29/3 積	金額
	30.67	
日本鋼管	5	153.35

9. 熔成燐肥

会社名	比島 29/3 積	金額
	35.00	
日本化学	155	5,425

10. 化成肥料

会社名	香港 29/2 積	金額
	47.00	
日本鋼管	5	235.00

7. 過リン酸石灰

会社名	韓国 G.S.A.	韓国 其の他	台湾 C.T.C.		中共	琉球 J.P.A.	比島	合計	平均単価	金額
	28/10～11 積	28/4～11 積	28/6～9 積	28/11～積 29/1	28/4～積 29/2	28/7積	29/3積			
	31.93 34.28	31.40 37.00	31.06 34.20	34.30	34.30 44.01	37.00	35.00	34.32		
	P_2O_5 % 16.5～18.5	P_2O_5 % 16.0～18.5	P_2O_5 % W.S. 18	P_2O_5 % W.S. 18	P_2O_5 % 18.0～20.5	P_2O_5 % 16	P_2O_5 % A.S. 18			
石原産業	—	—	3.000	—	3,000	—	—	6,000	34.18	205,080
神島化学	10,500	1,256	20,000	10,000	9,095	—	—	50,851	33.82	1,719,595
呉羽化学	1,000	1,000	—	2,000	2,500	—	—	6,500	33 50	217,760
日本鋼管	—	500	2,000	2,000	2,900	—	50	7,450	35.65	265,602
新潟硫酸	—	—	—	1,000	2,400	—	—	3,400	34.27	116,520
日産化学	—	100	—	—	12,500	—	—	12,600	36.81	463,800
住友化学	—	—	5,000	—	—	500	—	5,500	33.92	186,550
多木製肥	2,000	215	—	—	—	—	—	2,215	32.12	71,152
帝国化工	1,000	—	—	—	—	—	—	1,000	31.93	31.930
計	14,500	3,071	30,000	15,000	32,395	500	50	95.516	34.32	3,277,990

昭和28年度輸出化学肥料検査実績

(品目別)　　工業品検査所化学製品部

年月	硫安 件	硫安 トン	過リン酸石灰 件	過リン酸石灰 トン	石灰窒素 件	石灰窒素 トン	尿素 件	尿素 トン	硝安 件	硝安 トン	配合肥料 件	配合肥料 トン	月別計 件	月別計 トン
28. 4	(36)	21,750	(14)	4,600	(4)	7.600		—		—		—	(54)	33.950
5	(33)	49.840	(1)	1,900		—	(1)	200		—		—	(35)	51,940
6	(22)	23,212	(5)	7,265		—		—		—	(1)	1,000	(28)	31,477
7	(1)	2,000	(12)	9,000		—		—		—		—	(13)	11,000
8	(3)	2,500	(17)	13.000		—		—	(1)	1,300		—	(21)	16,800
9		—	(9)	2,300		—		—		—		—	(9)	2,300
10	(21)	30,250	(18)	12.000		—	(1)	100		—		—	(40)	42,350
11	(23)	20,800	(8)	2,915		—		—		—		—	(31)	23,715
12	(24)	31,845	(28)	19,450		—		—		—		—	(52)	51,295
29. 1		—	(4)	3.900		—		—		—		—	(4)	3,900
2	(1)	1,000		—	(36)	28.600		—		—		—	(17)	29,600
3	(14)	22,960		—	(8)	4.680		—		—		—	(22)	27,640
年間計	(178)	206,157	(116)	76,300	(48)	40,880	(2)	300	(1)	1,300	(1)	1,000	(346)	325.967

(地区別)

年月	本所 件数	本所 トン	大阪支所 件数	大阪支所 トン	名古屋支所 件数	名古屋支所 トン	福岡支所 件数	福岡支所 トン	富山出張所 件数	富山出張所 トン	丸亀出張所 件数	丸亀出張所 トン	月別計 件数	月別計 トン
28. 4	(8)	17,700	(39)	7,800	(2)	3,000	(3)	450	(1)	3,000	(1)	2,000	(54)	33,950
5	(11)	31,416	(13)	2,620	(2)	5,100	(3)	4,900	(2)	1,904	(4)	6,000	(35)	51,940
6	(11)	15,196	(5)	1,000		—	(5)	7,538	(3)	1,734	(4)	6,005	(28)	31,477
7	(1)	2,000	(10)	4,000		—		—		—	(2)	5,000	(13)	11,000
8	(3)	2,500	(14)	4,200	(1)	3,000		—		—	(3)	7,100	(21)	16,800
9		—	(8)	800		—		—		—	(1)	1,500	(9)	2,300
10	(11)	18,100	(19)	9,700	(1)	2,000	(7)	10,050		—	(2)	2,500	(40)	42,350
11	(10)	12,500	(12)	3,415	(3)	3,800		—	(5)	3,000	(1)	1,000	(31)	23,715
12	(26)	31,400	(2)	800	(9)	8,300	(6)	6,000	(7)	3,250	(2)	1,545	(52)	51,295
29. 1	(4)	3,900		—		—		—		—		—	(4)	3,900
2	(21)	20,400		—		—	(3)	2,400	(13)	6,800		—	(37)	29,600
3	(7)	19,040	(5)	2,100	(2)	2,000		—	(9)	4,500		—	(22)	27,640
年間計	(113)	174,152	(127)	36,435	(20)	27,200	(27)	31,338	(39)	24,192	(20)	32,650	(346)	325,967

（仕向地別）

1. 硫　安

年　月	韓　国		台　湾		沖　縄		ブラジル		仏　印	
	件	トン	件	トン	件	トン	件	トン	件	トン
28. 4	(36)	21,750		—		—		—		—
5	(33)	49,840		—		—		—		—
6	(22)	23,212		—		—		—		—
7	(1)	2,000		—		—		—		—
8		—	(2)	2,000		—	(1)	500		—
9		—		—		—		—		—
10		—	(18)	30,250		—		—		—
11	(5)	6,000	(8)	14,800		—		—		—
12	(12)	20,000	(10)	9,845	(2)	2,000		—		—
29. 1		—		—		—		—		—
2	(1)	1,000		—		—		—		—
3	(1)	8,000	(9)	9,100	(1)	2,000		—	(3)	3,860
計	(11)	131,802	(47)	65,995	(3)	4,000	(1)	500	(3)	3,860

2. 過リン酸石灰

年　月	韓　国		台　湾		中　共	
	件	トン	件	トン	件	トン
28. 4		—		—	(14)	4,600
5		—		—	(1)	1,900
6		—	(1)	3,000	(4)	4,265
7		—	(12)	9,000		—
8		—	(17)	13'000		—
9	(9)	2,300		—		—
10	(18)	12,000		—		—
11	(4)	1,315	(4)	1,600		—
12		—	(4)	2,000	(24)	17,450
29. 1		—		—	(4)	3,900
2		—		—		—
3		—		—		—
計	(31)	15,615	(38)	28,600	(47)	32,115
合　計					(116)	76,330

3. 石灰窒素

年　月	韓　国	
	件	トン
28. 4	(4)	7,600
29. 1	(36)	28,600
3	(8)	4,680
合　計	(48)	40,880

4. 尿　素

年　月	沖　縄		台　湾	
	件	トン	件	トン
28. 5	(1)	200		
10			(1)	100
合　計	(2)	300		

5. 硝　安

28年8月　印　度　1件　1,300トン

6. 配合肥料

28年6月　奄見大島　1件　1,000トン

ダイナマイト・グリセリン

取締法第四条指定品目としての輸出ダイナマイト・グリセリンの本年度検査件数は 13 件、検査数量は 264 屯金額にして約 8,000 万円であつたが本品については予算人員が認められていないため誠にこれだけの成果を挙げることも容易でなかつた。因にグリセリンの輸出可能量は世界的にみて年間約14,000屯と考えられ、輸出余力のある国は日本、アルゼンチン、インドネシア等に限られ、一方世界的に需要は飛躍増大の傾向にあり、重要輸出化学品に数えられ、次年度予想輸出量 3,000 輸出額は 210 万弗を見込まれている程である。グリセリンは石鹸の廃液から回収しており、石鹸原料の牛脂は殆ど輸入に俟つ状況であるため、グリセリン輸出者に対し牛脂の輸入外貨割当を行う「輸出リンク」制が通商政策上採用されており、これによる価格引下げは約 20 %に達している。

ダイナマイト・グリセリン輸出検査実績

地区別	製造業者	数量	輸出港	検査件数
		Tons		
本所	旭電化	50	横浜港	1
	丸見屋	30	〃	1
	資生堂	6.5	〃	—
	ミヨシ油脂	10	〃	—
	花王油脂	10	〃	—
大阪支所	月本油脂(尼崎)	81	神戸	5
	花王石鹸	22.5	〃	2
	第一工業製薬	20	〃	1
	酸水素油脂工業	3	〃	1
	鐘淵化学	10	〃	—
	共進社油脂工業	7	〃	1
福岡支所	日華油脂(小倉)	50	〃	1
	合　計	300		13

従つて品質的に常に優秀なものを輸出することは国際的にも重要になつている処で、輸出振興、外貨獲得物資としての本品の場合は契約の際品質条件が最も肝要となつている。特にダイナマイト・グリセリンは精製品であるため更に充分な品質検査を実施するように要望されているものである。

検定試薬

検定試薬の検定業務実績は前年に比し著しく向上を見せた。以下各種検定試薬につき記す。

i）火薬類試験用試薬

本年度の検定依頼は64件で前年度の62件に比べ大差はない。不合格は精製滑石粉が1件である。

別表のように単位数枚又は単位量をつめた単位箱数当りの平均合格率又は生産金額と合格品の金額換算値との比較による合格率は78%、76.2%となり前年度の 73.5%、71.2%を上廻つている。

又需要の面ではヨードカリかりでん粉紙は17万2千枚で前年度より約5万枚の増加となつているが之は自衛隊およびセルロイド関係の需要の増加が主なるものである。青色リトマス試験紙滑石粉は前年度に比べ大差がない。

29年度には大巾の需要が見込まれており今石紙質の向上と均一性が益々要望される。

ii）試薬エチルアルコール

検定件数は 240 件で前年度に比較し 30 件程の増加を示して居り合格率は 98 %で略同様である。封緘本数は約5万2千本で前年度の 1.5 倍増加している。

不合格になつた数4件は件でいづれも比重である。

iii）試薬塩化ナトリウム

検定件数は 154 件前年度に比べ 24 件増加し合格率も 86 %と向上している。

不合格は 21 件中水溶状によるものが過半数でありわづかに重金属ガリウム各2件程である。前年度においても略同様であり今後特に水溶状については検討を要すると考えられる。

封緘本数は約2万9千本で前年度より約4万2千本の増加である。

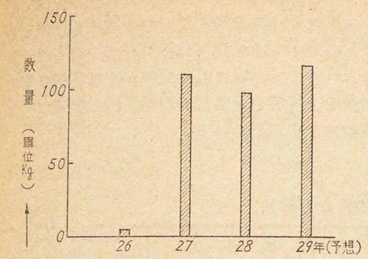
昭和 28 年度検定試薬検査実績表

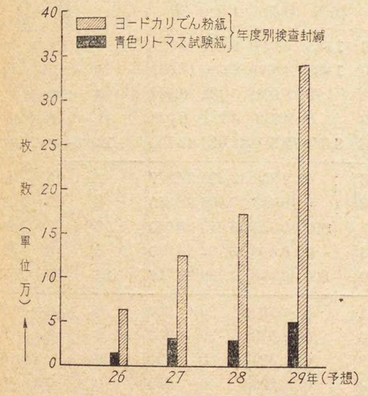
期別	試薬アルコール 検査件数 特	1	計	合格件数 特	1	計	封緘本数	試薬塩化サトリウム 検査件数 標	特	1	計	合格件数 標	特	1	計	封緘本数	火薬類試験用試薬 検査件数	合格件数	封緘本数
東京本所 1/4	12	21	33	10	19	29	7,825	1	2	10	13	1	1	4	6	2,872	12	12	120
2/4	6	17	23	6	17	23	5,926	0	4	4	8	0	4	4	8	2,655	16	16	160
3/4	6	14	20	6	14	20	5,936	0	5	6	11	0	5	6	11	3,868	18	18	180
4/4	7	14	21	7	14	21	5,424	0	2	6	8	0	2	6	8	3,539	18	18	180
計	31	66	97	29	64	93	25,111	1	13	26	40	1	12	20	33	12,934	64	64	640
大阪支所 1/4	8	22	30	8	22	30	5,223	0	6	5	11	0	4	5	9	1,748			
2/4	6	29	35	6	29	35	7,916	0	6	15	21	0	5	12	17	2,335			
3/4	6	22	28	6	22	28	6,117	0	9	18	27	0	9	18	27	2,772			
4/4	5	25	30	5	25	30	6,561	0	8	6	14	0	7	6	13	2,230			
計	25	98	123	25	98	123	25,817	0	29	44	73	5	25	41	66	9,085			
福岡支所 1/4	0	5	5	0	5	5	283												
2/4	1	2	3	1	2	3	236												
3/4	1	6	7	1	6	7	462												
4/4	2	3	5	2	3	5	351												
計	4	16	20	4	16	20	1,332												
丸亀出張所 1/4								0	11	5	16	0	7	5	12	2,878			
2/4								0	4	4	8	0	4	4	8	2,015			
3/4								0	0	2	2	0	0	2	2	32			
4/4								0	0	15	15	0	0	15	15	3,154			
計								0	15	26	41	0	11	26	37	8,079			
化学部総計 1/4	20	48	68	18	46	64	13,331	1	19	20	40	1	12	14	27	7,498	12	12	120
2/4	13	48	61	13	48	61	14,078	0	14	23	37	0	13	20	33	7,005	16	16	160
3/4	13	42	55	13	42	55	12,515	0	14	26	48	0	14	24	38	6,672	18	18	180
4/4	14	42	56	14	42	56	12,336	0	10	27	37	0	9	26	35	7,923	18	18	180
計	60	180	240	58	178	236	52,260	1	57	96	154	1	48	84	133	29,098	64	64	640

昭和 28 年度業者別、検定試薬封緘実績

品名	等級	会社名	合格件数	封緘本数	備考
エチルアルコール 95 %	特	関東化学	4	200	
	〃	大阪有機化学工業	1	30	
	〃	同仁薬化学研究所	1	50	
	1	関東化学	16	11 700	18l
	〃	同仁薬化学研究所	7	319 14	18l
	〃	大阪有機化学工業	4	261	
エチルアルコール 99.5 %	特	〃 〃	17	3,117	
	〃	関東化学	12	950	
	〃	和光純薬工業	9	3,041	
	〃	小宗化学薬品	6	578	
	〃	林純薬工業	5	924	
	〃	同仁薬化学研究所	3	204	
	1	大阪有機化学工業	65	13,608 24	18l
	〃	関東化学	26	8,280 45	18l
	〃	林純薬工業	25	5,946 16	18l
	〃	和光純薬工業	15	8,634 3	18l
	〃	小宗化学薬品	11	4,297	
	〃	同仁薬化学研究所	9	730 15	18l
塩化ナトリウム	標	和光純薬工業	1	1,020	25g
	特	米山化学工業	16	1,542 15	15kg
	〃	松永化学工業	9	1,120	
	〃	大塚製薬工場	8	2,200 66	15kg
	〃	関東化学	5	1,810	
	〃	和光純薬工業	3	869	
	〃	国産化学	3	820	
	〃	富田製薬所	3	800	
	〃	小宗化学薬品	1	540	
	1	松永化学工業	29	3,520	
	〃	大塚製薬工場	22	2,010 1,254	15kg
	〃	米山化学工業	14	2,885 3	15kg
	〃	小宗化学薬品	7	2,294 19	15kg
	〃	関東化学	5	2,232	
	〃	国産化学	4	1,200	
	〃	富田製薬所	4	2,000	
	〃	和光純薬工業	2	960	
ヨードカリでん粉紙	火試	東京都立工業奨励館	36	360	
精製滑石粉	薬験	〃 〃	21	210	
青色リトマス試験紙	類用	〃 〃	6	60	

精製滑石粉の年度別検査封緘





昭和 28 年度火薬類試験用試薬類需要

会社名	ヨードカリでん粉紙	青色リトマス試験紙	精製滑石粉
	枚	枚	kg
旭化成工業KK	23,500	—	16.5
日本油脂KK	27,000	21,500	35.0
日本化薬KK	29,500	4,000	41.5
セルロイド生地クラブ	75,500	500	—
蔵持科学器械製作所	8,500	3,000	3.5
小西六写真工業KK	3,000	—	—
住友化学工業KK	1,000	—	—
伊藤製作所	1,000	—	—
新東科学KK	500	—	—
日本商事KK	500	—	—
大阪火薬銃砲店	500	500	—
昭和エーテルKK	1,000	—	—
泰工道化KK	500	—	—
東洋濾紙KK	—	500	0.5
計	172,000	30,000	97.0

昭和 28 年度火薬類試験用試薬類検定実績

品目	依頼件数（枚数）	合格件数（枚数）	不合格件数（枚数）	
ヨードカリでん粉紙	36 (267,000)	36 (197,600)	0 (69,400)	74.0 % 500 枚単位
青色リトマス試験紙	6 (50,000)	6 (31,000)	0 (19,000)	62.0 % 500 枚単位
精製滑石粉	22 (110kg)	21 (105kg)	1 (5kg)	95.5 % 500g 単位
計	64	63	1	78%平均単位箱数による平均合格数

年間生産金額

品目	生産高	検査通過	合格率	備考
	円	円	%	
ヨードカリでん粉紙	293,700	217,360	74.00	
青色リトマス試験紙	30,000	18,600	62.00	
精製滑石粉	55,000	52,500	95.5	
計	378,700	288,460	76.2	

一般試薬の依頼検査

一般試薬の検査件数は 1,229 件で前年度の1325件に比べ下廻つているが合格率は 88.8%を示し前年の 86.8%を上廻り逐次品質的にも向上の一途を辿りつゝあることの一端がうかゞわれる。

なお標準試薬は依然として検査依頼が少なくスルフアミン酸、重クロム酸カリウム、ヨウ素酸カリウムおよび塩化ナトリウムが合格した程度である。標準試薬は化学的度量衡の原器的な性格をもつたものであり全種類（11種）類の一日も早く製品化されることが望ましく之等が全種類揃ひその使用が普及徹底した暁には科学技術の発達に大きな貢献をなすと思われる。

昭和 28 年度一般試薬依頼検査実績表

	期別	検査件数				合格件数				封緘本数				見本件数	再小分件数	特級件数
		標準	特級	1級	計	標準	特級	1級	計	標準	特級	1級	計			
東京本所	1/4	5	27	42	74	5	21	40	66	1,888	4,308	6,429	12,625	4	4	16
	2/4	5	29	40	74	5	27	38	70	1,605	4,686	6,530	12,821	2	0	13
	3/4	2	34	29	65	1	25	24	50	78	5,001	3,383	8,462	5	2	11
	4/4	1	36	36	73	0	28	31	59	0	4,317	4,711	9,028	1	0	7
	年間	13	126	147	286	11	101	133	245	3,571	18,312	21,053	42,736	12	6	47
大阪支所	1/4	0	89	90	179	0	78	80	158	0	9,942	12,335	22,277	7	16	42
	2/4	特 1	84	102	187	0	73	85	158	0	10,525	12,285	22,810	6	17	43
	3/4	2	95	183	230	2	80	123	205	500	10,745	11,815	23,060	5	17	74
	4/4	0	75	98	173	0	66	92	158	0	8,866	15,704	24,570	6	6	67
	年間	特 1	343	473	769	2	297	330	679	500	40,078	52,139	92,717	24	56	226
名古屋支所	1/4	0	1	0	1	0	1	0	1	0	200	0	200	0	0	1
	2/4	0	2	2	4	0	2	2	4	0	650	30	680	0	0	0
	3/4	0	3	0	3	0	3	0	3	0	430	0	430	0	0	0
	4/4	0	2	0	2	0	2	0	2	0	220	0	220	0	0	0
	年間	0	8	2	10	0	8	2	10	0	1,500	30	1,530	0	0	1
福岡支所	1/4	0	8	7	15	0	8	6	14	0	2,290	522	2,812	0	0	0
	2/4	0	6	8	14	0	6	8	14	0	2,002	599	2,601	0	0	0
	3/4	0	1	2	22	0	0	19	19	0	0	1,829	1,829	5	0	0
	4/4	0	4	11	15	0	4	9	13	0	637	628	1,265	0	2	2
	年間	0	19	4	64	0	18	42	60	0	4,929	3,578	8,507	5	2	2
富山出張所	1/4	0	1	14	15	0	1	14	15	0	60	1,750	1,810	0	0	0
	2/4	0	0	21	21	0	0	21	21	0	0	3,000	3,000	0	0	2
	3/4	0	3	17	20	0	3	17	20	0	170	2,920	3,090	0	0	6
	4/4	0	3	21	24	0	3	21	24	0	200	3,880	4,080	0	0	16
	年間	0	7	73	80	0	7	73	80	0	430	11,550	11,980	0	0	24
丸亀出張所	1/4	0	4	0	4	0	4	0	4	0	110	0	110	0	0	0
	2/4	0	2	0	2	0	2	0	2	0	11	0	11	0	0	0
	3/4	0	4	3	7	0	4	3	7	0	33	225	258	0	0	0
	4/4	0	5	2	7	0	5	2	7	0	20	18	38	2	0	0
	年間	0	15	5	20	0	15	5	20	0	174	243	417	2	0	0
化学製品部総計	1/4	5	130	153	288	5	113	140	258	1,888	16,910	21,036	39,834	11	20	59
	2/4	特 1 5	123	171	300	5	110	152	267	1,605	17,734	22,414	41,753	8	17	56
	3/4	4	140	203	347	3	115	186	304	578	16,379	20,172	37,129	15	19	91
	4/4	1	125	168	294	0	108	155	263	0	14,260	24,941	39,201	9	8	92
	年間	特 1 15	518	695	1,229	13	446	633	1,092	4,071	65,283	88,563	157,917	43	64	298

特級に合格したことのある試薬品目（昭28.4～29.3）

〔数字は合格回数（ ）内は27年度合格回数〕

一般試薬

亜鉛末	1	(0)
亜ヒ酸	1	(0)
アセトン	7	(3)
アンモニア水	4	(8)
エチルエーテル	7	(3)
塩化バリウム	2	(4)
塩化アンモニウム	2	(1)
塩化白金酸	3	(1)
塩酸	5	(44)
過塩素酸（60%）	2	(2)
過マンガン酸カリウム	1	(1)
過硫酸アンモニウム	2	(0)
キシレン	1	(1)
クエン酸	2	(4)
クロロホルム	7	(2)
グリセリン	4	(0)
酢酸	2	(3)
無水酢酸	2	(0)
酢酸鉛	1	(0)
酢酸メチル	1	(0)
酸化亜鉛	2	(0)
酸性フツ化アンモニウム	4	(4)
酢酸-iso-アミル	1	(2)
酢酸メチル	1	(0)
硝酸	30	(32)
硝酸銀	17	(12)
硝酸バリウム	1	(2)
臭素酸カリウム	2	(0)
四塩化炭素	3	(4)
シュウ酸ナトリウム	3	(0)
重クロム酸カリウム	4	(0)
P－ジメチルアミノベンスアルデヒド	2	(0)
スルフアミン酸	6	(10)
水酸化カリウム	123	(108)
炭酸カリウム（無水）	3	(2)
炭酸水素ナトリウム	5	(6)
炭酸ナトリウム（無水）	8	(5)
デバルダ合金	2	(0)
トルエン	1	(0)
トリクロル酢酸	3	(0)
ニトロベンゼン	2	(0)
発煙硝酸	5	(0)
フツ化ナトリウム	4	(0)
フツ化水素酸	40	(32)
フエノールフタレイン	1	(3)
ブロムチモールブルー	1	(1)
フエロシアン化カリウム	1	(0)
ブロムクレゾール・グリーン	1	(2)
N－ブチルアルコール	5	(3)
ベンゼン	12	(2)
ベンジジン	1	(1)
メチルアルコール	5	(4)
モリブデン酸アンモニウム	6	(4)
ヨウ素	1	(0)
ヨウ化カリウム	19	(6)
硫酸	22	(47)
硫酸銅（結晶）	2	(0)
リン酸ナトリウム（結晶）	1	(4)
リン酸	2	(0)

検定試薬

エチルアルコール(99.5容量%)	48	(44)
エチルアルコール(95容量%)	6	(6)
塩化ナトリウム	49	(68)

（昭28.4～昭29.3）

不合格になつたことのある品目および其の項目と回数各等級の検査に不合格となつた項目および回数を品目別に集計した。

品名	不合格回数	不合格になつた項目およびその回数
亜ヒ酸	3	アンモニア水溶状3　強熱残分1　アンチモンおよび他の硫化水素沈デン物質1　含量1
亜硫酸ナトリウム（無水）	1	水溶状1
アンモニア水(0.90)	1	塩化物1
安息香酸	1	強熱残分1　全硫黄1
エチルエーテル	1	過酸化物1　アルデヒドおよびケトン1　硫酸着色物質1
塩化アンモニウム	5	水溶状2　乾燥減量1　硫酸塩1　カルシウム1　硫酸塩2
塩化カドミウム	3	水溶状2　硫酸塩1　硝酸塩1
塩化カルシウム（測定用）	1	形態1　硫酸塩1　含量1
塩化バリウム	1	水溶状1
塩化マグネシウム	3	水溶状3　エチルアルコール溶状2　リン酸塩1　カルシウム1　含量2
塩化亜鉛	1	アンモニウム1
塩酸	11	強熱残分8　ヒ素2　外観3　鉄3　硫酸塩1　遊離塩素1
過塩素酸(60%)	1	比重1　含量1
過酸化水素水(30%)	2	遊離酸1　塩化物1
キシレン	1	不揮発物1　チオフエン1　硫酸着色物質1

品名	不合格数	回	不合格になつた項目およびその回数
クエン酸	8		水溶状8
グリセリン	1		シヨ糖
クロロホルム	1		留分1　遊離酸1　塩素イオン1　アセトン1　遊離塩素1　ホスケン1　アルデヒド1
酸化亜鉛	1		水溶状1　硫酸塩1
酢酸 -iso-アミル	2		硫酸着色物質1　含量1
酢酸ウラニル	1		酢酸不溶分1　硫酸塩1　アンモニアで沈デンしない物質1　ナトリウム1　含量1
重クロム酸カリウム	1		水溶状1　カルシウム1
シユウ酸ナトリウム	1		塩化物1
酒石酸	2		水溶状2　エチルアルコール溶状1　乾燥減量1
酒石酸カリウムナトリウム	2		硫酸塩1　アンモニウム1　リン酸塩1　鉄1
l-シスチン	4		比旋光度4　塩酸溶状2　乾燥減量2　全窒素4　全硫黄4
p-ジメチルアミノベンズアルデヒド	1		性状1　塩酸溶状1　エチルアルコール溶状1
硝酸	11		外観3　強熱残分3　硫酸塩4　鉄3　比重2　含量2
硝酸アンモニウム	4		水溶状1　強熱残分1　リン酸塩2　遊離酸2　硫酸塩2　含量2
硝酸コバルト	1		水溶状1　硫酸塩1
硝酸銀	2		水溶状2
ソーダ石灰	1		炭酸ガス吸収量1
炭酸ナトリウム(無水)	4		水溶状4　強熱残分2　塩化物1　ケイ酸塩1　硫化物亜硫酸塩およびチオ硫酸塩1　重金属1
炭酸水素カリウム	1		水溶状1　塩化物1　ナトリウム1
チオ硫酸ナトリウム(結晶)	1		水溶状1　塩化物1
発煙硫酸	1		含量1
ビスマス酸ナトリウム	2		塩化物2　マンガン2

品名	不合格数	回	不合格になつた項目およびその回数
l-ヒスチジン一塩酸塩	1		比旋光度1　水溶状1　全窒素1
フエロシアン化カリウム	1		塩化物1
フツ化水素酸	1		塩化物1
ベンゼン	2		不揮発物1　全硫黄1
メチルアルコール	1		アセトンおよびアルデヒド1　過マンガン酸還元性物質1
メチレンブルー	1		アルコール不溶分1
メトール	1		水溶状1　塩酸溶状1　水分1　強熱残分1　塩化物1
モリブデン酸アンモニウム	2		リン酸塩2
ヨウ素酸カリウム	2		水溶状1　硫酸塩1　鉄1
ヨウ化アンモニウム	1		強熱残分1　塩化物および臭化物1　含量1
ヨウ化カリウム	2		乾燥減量1　リン酸塩1　含量1　塩化物および臭化物1
硫酸	7		強熱残分3　硝酸塩4　重金属1
硫酸ナトリウム(無水)	3		水溶状3　エチルアルコール溶状1　強熱残分1　塩化物2
硫酸ニツケル	2		水溶状1　鉄1　コバルト1　アルカリ土類およびアルカリ1
硫酸 p-メチルアミノフエノール	2		分解点2　水溶状2　塩酸溶状2　水分1　強熱残分1　塩化物1
硫酸マンガン	1		過マンガン酸還元性物質1　重金属1　鉄1
リン酸カリウム	1		硫酸塩1　カルシウムおよびアンモニア沈デン物質1　全窒素1　含量1
リン酸アンモニウム	1		含量1
硫酸第一鉄	1		含量1
硫黄(結晶)	1		熱水酸化カリウム溶液溶状1　二硫化炭素溶状1　強熱残分1　含量1
エチルアルコール	4		比重4
塩化ナトリウム	21		水溶状15　性状1　重金属2　カリウム5

官封試薬と合格業者　(昭和28年4月～昭和29年3月)

1　無機薬品の部

品名	等級	会社名	合格件数	封緘件数	封緘本数	備考
亜鉛	1	関東化学	1	1	100	
亜鉛末	特	林純薬工業	1	1	100	
	1	石津製薬	1	1	53	
亜砒酸	標準	関東化学	1	1	80	25g
	特	〃　〃	1	1	2	1kg
亜硫酸ナトリウム	1	和光純薬工業	3	3	325	
	1	関東化学	1	1	400	
	1	林純薬工業	1	1	50	
	1	キシダ化学薬品	1	1	100	
アンモニア水	特	富山薬品工業	3	3	370	
	特	米山化学工業	1	1	200	
	1	富山薬品工業	7	6	200 118	18kg
	1	林純薬工業	3	3	420 40	18kg
	1	キシダ化学薬品	1	1	10	18kg
	1	前田化学	1	1	50	
	1	関東化学	4	4	200 100	18kg
	1	米山化学工業	3	3	160	18kg
	1	小山製薬所	2	2	40	18kg
	1	和光純薬工業	1	1	30	
	1	日産化学工業	8	8	570	15kg
塩化亜鉛	1	前田化学	1	1	50	
塩化アンモニウム	特	富山薬品工業	1	1	50	
	特	生駒薬化学	1	1	50	
	1	キシダ化学薬品	4	4	250	
	1	和光純薬工業	3	3	520	
	1	日本純薬	2	2	185	
	1	生駒薬化学	2	2	400	
	1	関東化学	1	1	500	
	1	米山化学工業	1	1	200	
	1	共和産業	1	1	200	
塩化カリウム	1	関東化学	1	1	100	
塩化カルシウム	1	和光純薬工業	2	2	660	
	特殊	関東化学	2	2	500	
塩化金	1	横沢化学工業所	2	2	500	
塩化第一錫	1	林純薬工業	1	1	60	
塩化第一銅	1	和光純薬工業	2	2	145	
	1	林純薬工業	2	2	57	
	1	前田化学	1	1	55	
塩化第二水銀	1	林純薬工業	2	2	125	
	1	和光純薬工業	1	1	70	
	1	純正化学	1	1	100	
	1	前田化学	1	1	5	
塩化第二鉄	1	東京応化工業	5	5	878	
塩化白金	特	横沢化学工業所	3	3	224 6	1g 25g
塩化バリウム	特特	伏見製薬所	2	2	12	50kg
	特	キシダ化学薬品	1	1	200	
	1	和光純薬工業	2	2	222	
	1	関東化学	1	1	100	
	1	生駒薬化学	1	1	500	
	1	林純薬工業	1	1	50	
塩化マグネシウム	1	前田化学	2	2	20	

品名	等級	会社名	合格件数	封緘件数	封緘本数	備考
					1,600	
塩酸	特	三共化学工業所	7	7	30	22.5kg
					40	23kg
					1,200	
	特	米山化学工業	6	6	150	22.5kg
	特	東光商会	6	6	2,300	
	特	日産化学工業	5	5	330	25kg
	特	米山薬品工業	2	2	351	
	特	関東化学	1	1	300	
	特	日本試薬工業	1	1	2	10l
	1	日本カーバイト	28	28	8,030	23kg
	1	石原薬品	15	15	2,401	22.5kg
					530	25kg
	1	日産化学工業	13	13	730	22.5kg
					570	
	1	林純薬工業	5	5	80	22.5kg
					220	
	1	産興化学	4	4	42	22.5kg
					500	
	1	三共化学工業所	3	3	60	22.5kg
					50	23kg
	1	米山化学工業	2	1	200	
	1	関東化学	1	1	100	22.5kg
	1	米山薬品工業	1	1	418	
	1	東光商会	1	1	600	
	1	前田化学	1	1	70	
塩素酸カリウム	1	日本純薬	1	1	79	
過塩素酸	特	関東化学	1	1	200	
	特	前田化学	1	1	70	
					800	
	1	関東化学	5	5	28	25kg
	1	和光純薬工業	1	1	30	
	1	林純薬工業	1	1	60	
	1	正量化学薬品	1	1	264	
過酸化水素水	1	キシダ化学薬品	5	5	926	
	1	第一化学	1	1	150	250g
過マンガン酸カリウム	特	前田化学	1	1	10	
	1	和光純薬工業	3	3	113	
	1	キシダ化学薬品	1	1	10	
ガラス綿	1	前田化学	1	1	5	
	特	日本理化学薬品	2	2	372	
過硫酸アンモニウム	特	小宗化学薬品	1	1	100	
	1	小宗化学薬品	7	7	2,500	
	1	林純薬工業	2	2	510	
	1	関東化学	1	1	200	
	1	キシダ化学薬品	1	1	100	
	1	前田化学	1	1	600	
五酸化リン	1	林純薬工業	1	1	60	
クロム酸カリウム	1	石津製薬	1	1	50	
酸化亜鉛	特	林純薬工業	2	2	320	
	1	キシダ化学薬品	3	3	150	
酸性フツ化アンモニウム	特	森田化学工業	4	4	200	
	1	〃 〃	6	6	437	
	1	和光純薬工業	1	1	100	
	1	キシダ化学薬品	1	1	80	
四塩化炭素	特	大阪有機化学工業	3	3	600	
	1	〃 〃	2	2	600	
					40	
四・三酸化鉛	1	関東化学	2	2	96	5kg

品名	等級	会社名	合格件数	封緘件数	封緘本数	備考
					20	
	1	林純薬工業	2	2	10	5kg
重クロム酸カリウム	標準	和光純薬工業	1	1	100	100g
	特	米山化学工業	2	2	351	
	1	和光純薬工業	1	1	20	
	1	キシダ化学薬品	1	1	30	
臭素	1	林純薬工業	3	3	95	
	1	大淀製薬	2	2	86	
臭素酸カリウム	特	富田製薬所	2			
硝酸	特	東洋化学薬品	14	14	700	25kg
	特	東光商会	7	7	2,000	
	特	三共化学工業所	4	4	1,100	
					700	
	特	米山化学工業	4	4	60	25kg
	特	東洋化学工業	2	2	100	45kg
	特	日産化学工業	2	2	100	25kg
	特	キシダ化学薬品	1	1	200	
	1	日産化学工業	25	25	1,290	25kg
					2,000	
	1	東光商会	19	19	550	25kg
					970	
	1	東洋化学薬品	15	15	700	25kg
					600	
	1	米山化学工業	13	13	240	25kg
					20	
	1	林純薬工業	9	9	236	25kg
	1	三共化学工業所	2	2	90	25kg
	1	柳島製薬	1	1	50	25kg
	1	昭和化学工業	1	1	30	25kg
	1	キシダ化学薬品	1	1	200	
	1	前田化学	1	1	60	
硝酸アンモニウム	1	キシダ化学薬品	3	3	165	
	1	富山薬品工業	2	2	240	
	1	米山化学工業	2	2	400	
	1	和光純薬工業	1	1	15	
硝酸アンモニウム	1	関東化学	1	1	100	
	1	林純薬工業	1	1	80	
	1	前田化学	1	1	30	
					240	
硝酸銀	特	東洋化学工業	10	8	20	25g
	特	日進化成工業	2	2	100	
	1	東洋化学工業	2	2	140	
	1	和光純薬工業	2	2	70	
	1	日進化成工業	1	1	50	
硝酸コバルト	1	東光商会	1	1	4	
硝酸ナトリウム	1	米山化学工業	1	1	100	
硝酸バリウム	特	伏見製薬所	1	1	5	60kg
					421	
水酸化カリウム	特	旭硝子	123	123	2,910	5kg
					5,053	20kg
	特	東京応化工業	2	2	858	
	特	キシダ化学薬品	1	1	200	
	1	林純薬工業	4	4	522	
					300	
	1	東京応化工業	3	3	60	22.5kg
	1	関東化学	2	2	500	
	1	和光純薬工業	1	1	200	
	1	旭硝子	1	1	2,000	
					3,600	
水酸化ナトリウム	1	旭硝子	32	32	1,440	20kg

品名	等級	会社名	合格件数	封緘件数	封緘本数	備考
					2,700	
	1	東京応化工業	12	12	110	21kg
					2,551	
	1	関東化学	6	6	21	21kg
	1	キシダ化学薬品	4	4	530	
	1	同仁薬化学研究所	4	4	207	
	1	林純薬工業	3	3	759	
スルフアミン酸	標準	日東化学工業	7	7	2,778	25g
ソーダ石灰	1	キシダ化学薬品	1	1	20	
炭酸カリウム	特	東京応化工業	3	3	563	
	1	東京応化工業	5	5	110	18kg
	1	和光純薬工業	2	2	90	
	1	関東化学	1	1	200	
炭酸カルシウム	1	キシダ化学薬品	1	1	15	
					1,250	
炭酸水素ナトリウム	特	旭硝子	5	5	12	15kg
	1	和光純薬工業	2	2	350	
炭酸ナトリウム	特	旭硝子	8	8	3,256	
	1	キシダ化学薬品	5	5	580	
	1	前田化学	1	1	15	
チオ硫酸ナトリウム	1	和光純薬工業	3	3	300	
	1	キシダ化学薬品	3	3	500	
	1	前田化学	1	1	100	
					208	
デバルダ合金	特	横沢化学工業所	2	2	151	25g
発煙硝酸	特	東光商会	2	2	200	
	特	米山化学工業	2	2	200	
	1	東光商会	2	2	300	
発煙[硫酸	1	和光純薬工業	3	3	145	
	1	林純薬工業	2	2	170	
	1	関東化学	1	1	200	
ピロ硫酸カリウム	1	〃 〃	1	1	50	
	1	前田化学	1	1	5	
ピロリン酸ナトリウム	特	関東化学	1	1	68	
フエロシアン化カリウム	特	第一化学	1	1	20	
	1	前田化学	1	1	20	
フツ化水素酸	特	森田化学工業	20	20	3,670	
	特	東京芝浦電気	12	12	5,318	
	特	新日東弗素工業	8	8	575	
	特	橋本化成工業	1	1	57	
フツ化ナトリウム	特	森田化学工業	4	4	277 2	5kg
硼酸	1	キシダ化学薬品	1	1	100	
	1	富山薬品工業	1	1	89	
無水リン酸	1	前田化学	1	1	120	
					535	
モリブデン酸アンモニウム	特	横沢化学工業所	3	3	60	25g
	特	キシダ化学薬品	2	2	200	
	特	純正化学	1	1	90	
	1	和光純薬工業	5	5	500	
	1	純正化学	2	2	250	
	1	関東化学	2	2	400	
	1	林純薬工業	2	2	100	
ヨー化カリウム	特	柳[島]製薬	9	9	1,639	
	特	大塚化学薬品	6	6	47	10kg
	特	キシダ化学薬品	4	4	100	
	特	関東化学	1	1	60	
	特	林純薬工業	1	1	140	

品名	等級	会社名	合格件数	封緘件数	封緘本数	備考
	特	前田化学	1	1	300	
					200	
	1	大塚化学薬品	5	5	25	10kg
					18	20kg
	1	柳島製薬	2	2	220	
	1	林純薬工業	2	2	320	
	1	キシダ化学薬品	2	2	180	
	1	(株)藤川商店	1	1	20	
	1	前田化学	1	1	300	
ヨー素	特	日本理化学薬品	1	1	99	
	1	林純薬工業	1	1	10	
ヨー素酸カリウム	1	関東化学	1	1	1	2kg
硫化ナトリウム	1	和光純薬工業	1	1	32	
硫酸	特	米山化学工業	4	3	1,530	
	特	東光商会	4	4	1,448	
	特	住友金属鉱山	4	4	110	34kg
	特	国産化学	3	3	1,300	
					500	
	特	堀利範	3	3	20	34kg
	特	ヨツハタ化学工業	1	1	200	
	特	三共化学工業所	1	1	2	10l
	特	関東化学	1	1	500	
					1,200	
	1	日東化学工業	16	16	712	34kg
					1,400	
	1	米山化学工業	8	8	189	34kg
	1	三菱化成工業	3	—	—	
	1	関東化学	1	1	1,400	
	1	小宗化学薬品	1	1	300	
	1	柳島製薬	1	1	200	
	1	東光商会	1	1	30	34kg
	1	前田化学	1	1	50	
硫酸亜鉛	1	林純薬工業	1	1	12	
硫酸アンモニウム	1	富山薬品工業	1	1	100	
硫酸第一鉄	1	和光純薬工業	2	2	60	
硫酸第一鉄アンモニウム	1	キシダ化学薬品	2	2	7	15kg
	1	和光純薬工業	1	1	130	
硫酸銅	特	キシダ化学薬品	1	1	100	
	特	共和産業	1	1	200	
	1	関東化学	1	1	200	
硫酸ナトリウム	1	キシダ化学薬品	1	1	100	
	1	和光純薬工業	1	1	40	
	1	生駒薬化学	1	1	57	
硫酸ニツケル	1	第一化学	1	1	100	
	1	金星化学	1			
硫酸マンガン	特	ヨツハタ化学工業	1	1	100	
	1	林純薬工業	3	3	145	
	1	関東化学	2	2	200	
	1	和光純薬工業	1	1	20	
	1	キシダ化学薬品	1	1	30	
	1	前田化学	1	1	200	
硫シアン化カリウム	1	林純薬工業	1	1	5	
	1	前田化学	1	1	20	
					892	
リン酸	特	島田幾商店	6	6	9	33kg
					132	
	特	キシダ化学薬品	1	1	5	33kg
					832	
	1	島田幾商店	5	5	7	33kg

品名	等級	会社名	合格件数	封緘件数	封緘本数	備考
					500	
	1	関東化学	2	2	5	30kg
	1	小宗化学薬品	1	1	3	30kg
	1	キシダ化学薬品	1	1	970	
	1	米山化学工業	1	1	600	
	1	前田化業	1	1	250	
リン酸アンモニウム	1	米山化学工業	3	3	400	
	1	キシダ化学薬品	1	1	50	
	1	目黒製薬工業	1	1	68	
リン酸ナトリウム	特	米山化学工業	1	1	300	

2. 有機薬品の部

品名	等級	会社名	合格件数	封緘件数	封緘本数	備考
					608	
アセトン	特	大阪有機化学工業	4	4	11	14kg
	特	上野化学工業	2	2	250	
	特	守随彦太郎商店	1	1	158	
	1	和光純薬工業	2	2	71	
	1	関東化学	1	1	100	
	1	守随彦太郎商店	1	1	98	
	1	大阪有機化学工業	1	1	100	
	1	上野化学工業	1	1	100	
	1	第一化学	1	1	100	
αニトロソβナフトール	特	キシダ化学薬品	1	1	120	25g
安息香酸	1	林純薬工業	1	1	90	25g
イソアミルアルコール	1	大阪有機化学工業	2	2	200	
エチルエーテル	特	上野化学工業	7	7	755	
	特	大阪有機化学工業	3	3	900	
					3,978	
	1	〃 〃	17	17	33	13kg
	1	上野化学工業	7	7	1,300	
	1	丸善薬品工業	1	—	—	
キシレン	特	大阪有機化学工業	2	2	370	
	1	上野化学工業	1	1	200	
クエン酸	特	小松屋化学	2	1	1	25kg
	特	ナニワ薬品化成	1	1	100	
	特	正晃化学薬品	1	1	11	
	1	純正化学	1	1	99	
	1	ナニワ薬品化成	1	1	100	
	1	島田幾商店	1	1	50	
クエン酸アンモニウム	1	関東化学	3	3	203	
クエン酸ナトリウム	1	ナニワ薬品化成	1	1	100	
グリセリン	特	大阪有機化学工業	3	3	1,380	
	特	国産化学	1	1	400	
	特	キシダ化学薬品	1	1	44	
	1	大阪有機化学工業	1	1	200	
	1	前田化学	1	1	50	
	1	正晃化学薬品	1	1	60	
クロロホルム	特	大阪有機化学工業	4	4	800	
	1	和光純薬工業	1	1	40	
					339	
酢酸	特	大阪有機化学工業	5	5	2	10kg
					1	20kg
	1	関東化学	2	2	500	
	1	キシダ化学薬品	2	2	400	
	1	和光純薬工業	1	1	120	
	1	林純薬工業	1	1	260	

品名	等級	会社名	合格件数	封緘件数	封緘本数	備考
					2,200	
酢酸アミル	1	今津薬品工業	10	10	70	15kg
	1	林純薬工業	1	1	15	
酢酸アンモニウム	1	和光純薬工業	2	2	125	
	1	関東化学	1	1	200	
	1	富山薬品工業	1	1	100	
	1	キシダ化学薬品	1	1	50	
	1	前田化学	1	1	100	
酢酸イソアミル	特	大阪有機化学工業	1	1	100	
					300	
	1	〃 〃	3	3	5	15kg
酢酸ナトリウム	1	関東化学	1	1	100	
	1	キシダ化学薬品	1	1	50	
	1	林純薬工業	1	1	20	
酢酸鉛	特	玄々化学工業	1	1	200	
酢酸メチル	特	大阪有機化学工業	2	2	300	
シュー酸	1	関東化学	1	1	200	
	1	キシダ化学薬品	2	2	80	
	1	林純薬工業	1	1	50	
シュ酸アンモニウム	1	林純薬工業	2	2	55	
	1	富山薬品工業	1	1	40	
	1	キシダ化学薬品	1	1	20	
					20	
シュー酸ナトリウム	特	関東化学	2	2	300	25g
	特	東邦化学研究所	1	1	27	700g
	1	林純薬工業	2	2	80	
	1	キシダ化学薬品	1	1	50	
	1	和光純薬工業	1	1	50	
酒石酸	1	〃 〃	3	3	130	
	1	ナニワ薬品化成	3	3	300	
酒石酸カリウムナトリウム	1	〃 〃	2	2	300	
ジチゾン	1	和光純薬工業	1	1	3	25g
					200	
p-ジメチルアミノベンズアルデヒド	特	片山化学工業	2	2	1,000	25g
ジメチルグリオキシム	1	前田化学	1	1	3	25g
スルファニール酸	1	林純薬工業	1	1	3	
	1	前田化学	1	1	10	
石油エーテル	1	正晃化学薬品	3	3	203	
	1	関東化学	1	1	100	
					60	
トリクロール酢酸	特	伊勢久商店	4	4	600	25g
トルエン	特	大阪有機化学工業	1	1	100	
ニトロベンゼン	特	〃 〃	2	2	277	
	1	守随彦太郎商店	1	1	100	
尿素	1	和光純薬工業	2	2	71	
	1	日本純薬	1	1	188	
	1	石津製薬	1	1	100	
フェノールフタレイン	特	伊勢久商店	1	1	200	25g
					800	
N-ブチルアルコール	特	大阪有機化学工業	5	5	11	14kg
ブロムクレゾール緑	特	伊勢久商店	1	1	100	1g
ブロムチモール青	特	〃 〃	1	1	200	1g
ベンジジン	特	片山化学工業	1	1	700	25g
ベンゼン	特	大阪有機化学工業	9	9	1,810	
	特	上野化学工業	2	2	200	
	特	守随彦太郎商店	1	1	160	
	1	〃 〃	1	1	196	
	1	大阪有機化学工業	1	1	100	

品名	等級	会社名	合格件数	封緘件数	封緘本数	備考
	1	上野化学工業	1	1	300	
無水酢酸	特	大阪有機化学工業	2	2	200	
	1	〃 〃	1	1	100	
メチルアルコール	特	〃 〃	3	3	700	
	特	上野化学工業	3	3	300	
					20	14kg
	1	和光純薬工業	2	2	20	18l
	1	守随彦太郎商店	1	1	188	
	1	大阪有機化学工業	1	1	40	14kg
	1	上野化学工業	1	1	300	
メチルオレンジ	1	和光純薬工業	1	1	28	25g
硫酸メチルアミノフエノール	1	日本純良薬品	1	—	—	

一般化学工業品の依頼分析

（1） 近来貿易競争が熾烈の度を加えると共に化学製品のみならず雑貨、金属製品までもその構成成分を厳密にする必要に迫られ、当所に組成分析又は反応試験を依頼する者が日に月に増加しており、これに対し全面的に受入設備を持つことは国家貿易経済に著しく貢献することは衆知の事実であるにも拘らず、寧ろ当該工業検査部門は縮少傾向にあるのは誠に遺憾である。工業検査部門は少くとも現在の5倍程度の予算をもつて拡充する必要があることは、需要家側の等しく認める処で今後とも我国が国際貿易競争面の敗者とならないように当部門の拡充に注力したい。

以下に示す受付件数は実際当所に要望された検査件数の十分の一にも満たないものであることは特に注意を払う必要がある。

昭和28年度化学工業依頼検査実績表

	期別	化学工業品依頼検査 受付件数	成分数 定性	定量	計	手数料
東京本所	1/4	32	2	80	82	16,200
	2/4	31	5	94	99	19,300
	3/4	43	8	157	165	32,200
	4/4	15	2	23	25	4,800
	計	121	17	354	371	72,500
大阪支所	1/4	13	0	41	41	8,200
	2/4	32	1	84	85	16,900
	3/4	26	2	46	48	9,400
	4/4	17	0	61	61	12,200
	計	88	3	232	235	46,700
名古屋支所	1/4	0	0	0	0	0
	2/4	2	0	2	2	400
	3/4	1	0	2	2	400
	4/4	2	0	8	8	1,600
	計	5	0	12	12	2,400
福岡支所	1/4	0	0	0	0	0
	2/4	0	0	0	0	0
	3/4	0	0	0	0	0
	4/4	1	7	7	14	2,100
	計	1	7	7	14	2,100
丸亀出張所	1/4	1	0	4	4	800
	2/4	0	0	0	0	0
	3/4	1	0	5	5	1,000
	4/4	0	0	0	0	0
	計	2	0	9	9	1,800
化学製品部総計	1/4	46	2	125	127	25,200
	2/4	65	6	180	186	36,600
	3/4	71	10	210	220	43,000
	4/4	35	9	99	108	20,700
	計	217	27	614	641	125,500

（2） 依頼分析実績

受付件数による有機化学工業品および無機化学工業品の依頼分析の実績は次表の如くであつた。

	無機化学工業品	有機化学工業品	計
本所	105	16	121
大阪支所	66	22	88
名古屋支所	7	1	8
計	178	39	217

依頼者別分類

	生産業者	販売業者	消費者
本所	62件	54件	5件
支所出張所	40件	47件	9件
計	102件	101件	14件
	47.0%	46.5%	7.5%

調査件数 217件

依頼者の目的による分類

国内取引の証明書	47.0%
輸出の証明書	16.1%
規格合格の判定	11.0%
試作品の成分判定	21.2%
未確認	4.7%
調査件数	217件

受付月	品名	成分数	依頼の目的
28年4月	酸化チタン	3×(1)	契約上成分の判定
	消石灰	1×(2)	〃
	硝酸銀	1×(1)	〃
	粗製亜ヒ酸	〃	輸出品成分の証明
	Dessert knife	〃	〃
	〃 fork	〃	〃
	〃 spoon	〃	〃
	Tea spoon	〃	〃
	硫酸アルミニウム	1×(4)	契約上成分の判定
	デバルダ合金	1×(1)	JIS．JES社内規格に適否判定
	安息香酸	〃	契約上成分の判定
28年5月	純良氷酢酸	当試料は定性分析の結果氷酢酸(CH_3COOH)と認められる	未知物質の判定
	硫酸アルモニウム	1×(4)	契約上成分の判定
	消石灰	1×(5)	〃
	弁柄	1×(1)	〃
	純良氷酸酸	1×(1)	〃
	蛍石	1×(1)	その他
	酒石酸カリウムナトリウム	1×(1)	JIS表示品の成分確認
28年6月	工業用硫酸亜鉛	1×(8)	契約上成分の判定
	液体カセイソーダ	3×(9)	〃
	粗製セレン	1×(1)	〃
	酸性フ化アンモニウム	1×(2)	輸出品成分の証明
	弗化水素酸	1×(2)	〃
	C_2Cl_6	1×(7)	特需品成分の証明
28年7月	二酸化チタン	3×(1)	契約上成分の判定
	硫酸廃液	2×(4)	〃
	フエニール・アルファ・ナフチルアミン	1×(1)	試作品の成分究明
	精製濃硫酸	1×(3)	輸出品成分の証明
	塩化亜鉛	1×(2)	契約上成分の判定
	ハイドロサルファイト	2×(4)	試作品の成分究明
29年8月	工業用硫酸	1×(3)	輸出品成分の証明
	水銀	1×(1)	契約上成分の判定
	アルミニウム粉	1×(3)	〃
	六塩化エタン	1×(4)	特需品成分証明
	亜鉛末	1×(1)	契約上成分の判定
	硝石	1×(1)	特需品成分の証明
	マグネシウム粉	1×(3)	契約上成分の判定
	硝酸バリウム	1×(6)	〃
	亜鉛華	1×(3)	〃
	デバルタ合金	1×(1)	JIS，JES社内規格に適否判定
	ベンガラ	1×(5)	契約上成分の判定
	硫黄	1×(1)	〃

受付月	品名	成分数	依頼の目的
28年10月	無水ピロリン酸ソーダ	4×(6)	契約上成分の判定
	硝酸銀	2×(1)	〃
	銀屑	4×(1)	〃
	硝酸銀	1×(2)	〃
	カセイカリ	1×(1)	輸出品成分証明
29年1月	酸化チタンHIKN，PR	6×(11)	JIS，JES社内規格に適否判定
	固形カセイカリ	1×(1)	輸出品成分の証明
	硝酸銀	2×(1)	契約上成分の判定
29年2月	硝石	1×(3)	契約上成分の判定
	木炭	1×(2)	〃
	硫黄	1×(2)	〃
	ベナジウム精鉱	1×(1)	未知物質の判定
	陶磁器	2×(1)	輸出品成分の証明
	木炭	3×(2)	契約上成分の判定
	硫黄	1×(1)	〃
29年3月	フエロマンガン	1×(3)	契約上成分の判定
	硫酸	2×(1)	輸出品成分の証明
	無水芒硝	1×(1)	契約上成分の判定
28年9月	塩素酸カリウム	1×(5)	契約上成分の判定
	濃硫酸	1×(14)	〃
	活性炭	1×(4)	〃
	六酸化エタン	1×(4)	〃
	マグネシウム粉	1×(2)	〃
	珪藻土	1×(3)	〃
	塩素酸カリウム	1×(4)	未知物質判定
28年10月	ホウ酸アンモニウム	5×(2)	契約上成分の判定
	亜鉛華	1×(2)	〃
	タングステン酸ナトリウム	1×(1)	〃
28年11月	青化カリウム	1×(9)	JIS，JES社内規格に適否判定
	無水ピロリン酸ソーダ	4×(9)	契約上成分の判定
	水酸化カリウム	1×(1)	試作品の成分究明
	シアン化カリウム	11×(1)	輸出品成分の証明
	亜鉛華	1×(1)	契約上成分の判定
	硝酸銀	1×(1)	〃
28年10月	硫酸コバルト	1×(4)	〃
	三硫化アンチモン	1×(9)	未知物質の判定
	六塩化エタン	1×(5)	特需品成分の証明
	シアン化カリウム	2×(1)	輸出品成分の証明
28年4月	煆性マグネシア	1×(3)	試作品の成分究明
	アマツ粉白粉	1×(1)	〃
	アマツオリーブカラー	1×(1)	〃
28年5月	臭化カリウム	1×(2)	〃
	ドロマイトプラスター	3×(6)	〃

受付月	品名	成分数	依頼の目的
28年6月	粒状硼砂	1×(1)	契約上成分の判定
	希硫酸	1×(2)	〃
	純トリオール1号	1×(1)	特需品成分の証明
	粒状黒鉛	1×(3)	契約上成分の判定
28年7月	ソルベントナフタ特号	1×(1)	〃
	尿素	1×(1)	輸出品成分の証明
	軽質炭酸カルシウム	1×(1)	契約上成分の判定
	高度サラシ粉	1×(1)	〃
	土状黒鉛	2×(4)	〃
	焼性マグネシア	3×(9)	試作品の成分究明
	硝酸銀	1×(1)	〃
	亜鉛華三号(発煙管用)	1×(4)	契約上成分の判定
28年8月	硫酸メチルパラアミノフエール(写真用)	1×(1)	試作品の成分究明
	ブローム水素酸	2×(1)	〃
	ホルマリン	1×(1)	契約上成分の判定
28年9月	写真用メトール	1×(6)	JIS，JES社内規格に適否判定
	硫化ナトリウム	1×(1)	契約上成分の判定
	〃	1×(2)	〃
	稀硫酸	2×(4)	JIS，JES社内規格に適否判定
	亜鉛華	2×(1)	試作品の成分究明
	ブロム水素酸	2×(1)	契約上成分の判定
	ホルマリン	〃	〃
	無煙炭(和久登)	1×(3)	〃
	亜鉛板	1×(1)	〃
	メトール	1×(6)	JIS，JES社内規格に適否判定
	金属カドミウム	1×(2)	試作品の成分究明
	分留石炭酸	1×(2)	契約上成分の判定
	酸化チタン	1×(1)	〃
28年10月	亜砒酸	1×(1)	契約上成分の判定
	タングステン酸ソーダ	1×(1)	〃
	亜鉛華	1×(2)	試作品の成分究明
	ブロム酸カリ	1×(1)	契約上成分の判定
	メタノール	〃	〃
	亜ヒ酸	2×(1)	試作品の成分究明
	亜鉛華	3×(1)	〃
	硝酸第二鉄	2×(2)	〃
	フーゼル油	1×(1)	契約上成分の判定
28年11月	鉛室沈澱物	2×(1)	未知物質の判定
	半田錫	2×(2)	試作品の成分究明
	亜鉛華(発煙管用)	1×(4)	契約上成分の判定
	メタクレソニル酸1号	1×(2)	〃
	錫合金	1×(3)	未知物質の判定
	ソルベントナフタ特号	1×(2)	契約上成分の判定

受付月	品名	成分数	依頼の目的
28年12月	ソーダ灰(デンス粉末)	1×(6)	輸出品成分の証明
	亜硫酸ソーダ	1×(5)	契約上成分の判定
	無水亜硫酸曹達	1×(1)	試作品の成分究明
	(結晶) 〃	〃	〃
	塩化カリウム	1×(2)	〃
29年1月	焼性マグネシア	1×(9)	〃
	亜ヒ酸	1×(2)	契約上成分の判定
	酸化チタン	1×(5)	JIS，JES社内規格に適否判定
	ソーダ灰	1×(6)	輸出品成分の証明
29年2月	無水塩化マグネシウム	1×(3)	〃
	土状黒鉛	3×(4)	契約上成分の判定
	硝酸ナトリウム	1×(1)	試作品の成分究明
	ソーダー灰(デンス)	1×(6)	輸出品成分の証明
29年3月	二酸化マンガン(天然)	1×(2)	契約上成分の判定
	亜硫酸ソーダ(無水) ABCD	4×(3)	試作品の成分究明
	硫酸第二鉄	1×(2)	〃
	二酸化マンガン	1×(1)	〃

名古屋支所

受付月	品名	成分数	依頼の目的
29年7月	アンチモン鉱石	1×(1)	契約上成分の判定
	〃	〃	〃
29年10月	月珪カル肥料	1×(2)	試作品の成分究明
〃 2月	化成肥料	1×(3)	〃
	珪カル肥料	1×(5)	未知物質の判定

福岡支所

受付月	品名	成分数	依頼の目的
29年2月	ダイナマイトグリセリン	1×(14)	輸出品成分の証明

丸亀出張所

受付月	品名	成分数	依頼の目的
29年6月	塩化バリウム	1×(4)	契約上成分の判定
〃 10月	硝酸カリウム	1×(5)	〃

ビルマ向輸出品の依頼検査

ビルマ国政府関連機関の要請により本邦よりの輸出品に対する証明書が必要となる事態が本年度下期において一時的に発生し、3月を以てこの事態も終了したが、当部としても之に即応して輸出振興の一助となるべく証明書を発給する措置を講じたが、その実績は次の通りであつた。

ビルマ向輸出依頼検査証明書発給実績

月	地区	品名	数量	契約規格	合否
11	大阪	化粧品頬紅	40グロース		合
12	本所	硫酸	2 Tons	66°Be, 98.7%	合
	〃	〃	2 Tons	〃 〃	合
	〃	〃	10Tons	〃 〃	合
	〃	〃	5 Tons	〃 〃	合
	(日検)	(〃)	(9.9Tons)		合
	(〃)	(サルフアプラツク BC 300)	(1 Ton)		合
1	本所	硫酸	3 Tons	66°Be, 98%	合
	大阪支所	印刷インキ	593 lb		合
	〃	硫酸	25 Tons		合
2	本所	〃	10 Tons	66°Be, 98.7%	合
	〃	〃	5 Tons	66°Be, 98%	合
	〃	〃	10 Tons	〃 〃	合
	大阪支所	頬紅	40 グロス	〃 〃	合
	〃	頬紅	480 ダース	〃 〃	合
3月	本所	硫酸	9.9 Tons	〃 〃	合
	〃	〃	10 Tons	〃 〃	合
	名古屋支所	潤滑油	494 Tons	〃 〃	合

計 16件

品種別内訳

硫酸	11件	91.5Tons
頬紅	3件	80グロス、480 ダース
潤滑油	1件	494Tons
印刷インキ	1件	593lb

地区別内訳

東京本所	10件
大阪支所	5件
名古屋支所	1件

所内委託検査

前年度に引続き行つている他部検査に協力して工検の機能を有機的に十分発揮させる目的をもつ本検査は、前年度の 25 件、51成分を遙かに越えて、83件、167 成分に達した。内容は別表に示す如くであつたが第四、四半期において急減しているのは、ビルマ向の証明書を必要とする輸出品の検査に重点を置いたためである。

このように、雑貨品目の受託が多いのは硝子玉生地や石けんのような殆んど化学分析が主体となるものを雑貨品目として指定している現状によるものが多く、早急に指定の切換え又は所管の切換え措置を講じなければならないものと思う。ただし比較的化学的組成についての判定が少いものについては、我国唯一の専門綜合検査機関の妙味を発揮するため、将来とも本検査は続行する積りである。

月別	地区別	品名	件数×成分	成分数	備考
4	本所	ペン先	5×(2)	10	Cr の Ni 含量測定
	大阪支所	人造真珠用硝子玉	1×(2)	2	
	〃	硝子黒玉	1×(2)	2	
	〃	硝子生地	1×(2)	2	
	名古屋支所	人造真珠	2×(1)	2	
	〃	硝子光玉生地	2×(1)	2	
5	本所	スプーン	2×(1)	2	Cr の含量
6	大阪支所	洗濯石鹸	1×(4)	4	
	〃	サンスター黒砂糖石けん	1×(5)	5	
	〃	サンスター化粧石けん	1×(5)	5	
	〃	けんび鏡カバーグラス	1×(2)	2	
7	〃	硝子光玉	1×(4)	4	
	〃	釦用硝子生地	5×(2)	10	
	〃	けんび鏡カバーグラス生地	1×(1)	1	

月別	地区別	品名	件数×成分	成分数	備考
8	本所	ペン先	1×(1)	1	Cr の含量
	〃	ステンレス板	1×(1)	1	〃
	大阪支所	化粧石けん（リリー印）	1×(7)	7	
	〃	化粧石けん（黒砂糖）	1×(7)		
	名古屋支所	バターナイフ陶磁器板	6×(2)		
	〃	碍子用ストラット	8×(1)		
8	名古屋支所	Ni 合金線(点火プラグ電極用)	2×(9)	18	
	〃	可鍛鋳鉄製品継手	2×(4)	8	
9	大阪支所	黒龍特殊洗顔石けん	1×(6)	6	
	〃	化粧石けん（黒水仙）	1×(3)	3	
	〃	石けん（南ぼん印）	1×(6)	6	
	名古屋支所	人造真珠用硝子玉生地	1×(1)	1	アルカリ溶出量
	〃	輸出陶磁器包装用木毛	1×(1)	1	水分
	〃	輸出陶磁器包装用藁	1×(1)	1	水分
10	大阪支所	硝子釦生地（アラバスター）	1×(2)	2	
	〃	〃（白色）	1×(2)	2	
	名古屋支所	碍子用ピン	6×(1)	6	
	〃	人造真珠硝子玉生地	1×(1)	1	輸出規格 不合格
11	大阪支所	輸出グラスボール生地(A～F 6種各色)	6×(2)	12	
12	〃	色太(白泉玉用硝子生地)柏 硝子	1×(2)	2	
	〃	〃〃 山崎ガラス	1×(2)	2	
	〃	アラバスダー真珠原玉用硝子生地	1×(2)	2	
1	名古屋支所	ピン碍子	1×(1)	1	
	〃	茶台碍子	1×(1)	1	
2	本所	陶磁器	3×(1)	3	

昭和28年度委託検査実績表

期別		所内委託検査 受託件数	成分数 定性	定量	計
東京本所	1/4	7	0	12	12
	2/4	2	0	2	2
	3/4	0	0	0	0
	4/4	3	0	3	3
	計	12	0	17	17
大阪支所	1/4	14	0	22	22
	2/4	12	0	44	44
	3/4	11	0	22	22
	4/4	0	0	0	0
	計	37	0	88	88
名古屋支所	1/4	4	0	4	4
	2/4	21	0	49	49
	3/4	7	0	7	7
	4/4	2	0	2	2
	計	34	0	62	62

期別		所内委託検査 受託件数	成分数 定性	定量	計
福岡支所	1/4				
	2/4				
	3/4				
	4/4				
	計				
丸亀出張所	1/4				
	2/4				
	3/4				
	4/4				
	計				
化学製品部総計	1/4	25	0	38	38
	2/3	35	0	95	95
	3/4	18	0	29	29
	4/4	5	0	5	5
	計	83	0	167	167

附　録

Ⅰ　輸出品取締法関係告示等一覧表

年月日	告示番号	摘要
28. 4. 1	通商産業省告示第101号	タイル、万年筆、セルロイド生地の等級標準改正
4. 1	厚生、農林、通商産業省告示第1号	陶磁器、万年筆、セルロイド生地等の最低標準改正制定
5. 4	通商産業省告示第130号	軸受の新登録基準制定
5. 4	通商産業省告示第131号	軸受の旧登録基準廃止
5. 11	厚生、農林、通商産業、運輸省告示第1号	第3条輸出品電球その他機械金属関係品目の等級標準制定
〃	同　第2号	上記に伴い、昭和25年6月2日告示中機械金属の部を抹消
〃	同　第3号	第4条輸出品電気機械その他機械金属関係品目の最低標準、包装条件の制定
〃	同　第4号	上記に伴い、昭和25年6月2日告示中機械金属の部を抹消
5. 18	通商産業省告示第137号	被登録者の「アールジエー・デルバン・コーポレーシヨン」を「インターナショナル・インスペクション・エンド・テスティング・コーポレーション」に名称変更
5. 28	通商産業省告示第143号	日本軸受輸出検査株式会社登録
6. 10	通商産業省告示第158号	軸受、旧被登録者に社の廃業許可
〃	同　第157号	軸受の旧被登録者 12 社を登録した告示の廃止
7. 3	通商産業省告示第183号	自転車及び同部品を第7条2の輸出品として指定
8. 1	通商産業省告示第231号	財団法人日本自転車検査協会を登録
8. 11	政令第180号	輸出品取締法関係手数料令の一部改正〔自転車(新)、軸受（全面改正）等〕
8. 26	通商産業省告示第247号	電球、軸受および同部品、伸銅品の等級標準改正
8. 26	通商産業省告示第248号	電気機械器具等の最低標準改正
8. 29	通商産業省告示第254号	(輸出品取締法の規定に基き輸出品の品目、機械器具その他の設備を定める件）の一部改正、(鋼球、軸受、自転車、部品)の一部改正並に追加
9. 1	通商産業省告示第255号	セルロイド製品、鉛筆、帽体、金属がん具、機械がん具等の等級標準改正
9. 1	通商産業省告示第256号	セルロイド製品、鉛筆、帽体、金属がん具、機械がん具類の標準改正
9. 29	通商産業省告示第282号	8月29日附、告示に伴う軸受検査会社の取扱品目の追加
9. 29	通商産業省告示第283号	8月29日附、告示に伴う自転車検査協会の取扱品目の追加
10. 1	通商産業省告示第285号	炭素鋼を使用したラジアル玉軸受の最低標準
10. 14	通商産業省告示第291号	双眼鏡、ミシンの新登録基準制定
10. 30	通商産業省告示第304号	双眼鏡、家庭用ミシンおよび同部品（ミシン針を除く）の表示様式
10. 31	通商産業省告示第305号	財団法人日本ミシン検査協会登録
11. 2	(28通第21947号)	財団法人日本ミシン検査協会の業務規程認可
11. 2	(28通第21689号)	日本軸受輸出検査株式会社の業務規程変更認可
11. 4	通商産業省告示第312号及び第313号	双眼鏡の登録機関を廃止、(旭光学、日本光学協同組合)
11. 7	通商産業省告示第316号及び第317号	ミシンの旧被登録者を廃止（中央検査所外 14 社）
11. 7	通商産業省告示第318号	財団法人日本望遠鏡検査協会を登録
11. 9	(28通第22160号)	財団法人日本望遠鏡検査協会の業務規程認可
11. 16	通商産業省告示第330号	ミシンの旧被登録者の残り全部廃止
11. 21	通商産業省告示第336号	
12. 21	通商産業省告示第357号	平ゴムベルト等の等級標準改正
12. 21	通商産業省告示第358号	試薬等の最低標準改正
12. 21	通商産業省告示第359号	伸銅品等の標準改正
12. 21	通商産業省告示第360号	双眼鏡、自転車部品等の標準改正
12. 25	厚生、農林、通商産業、運輸省令第2号	輸出品取締法施行規則の一部改正
29. 2. 1	通商産業省告示第 18 号	自転車および同部品の小部品を第7条2の輸出品に追加指定

年月日	告示番号	摘要
3.2	通商産業省告示第 39 号	セルロイド生地およびセルロイド製品を第７条の２輸出品に指定
3.20	通商産業省告示第 57 号	２月１日附告示に伴う自転車検査協会の取扱品目の追加
3.23	通商産業省告示第 60 号	財団法人日本ミシン検査協会の住所変更
3.25	通商産業省告示第 64 号	財団法人セルロイド検査協会を登録
3.26	政令第 32 号	輸出品取締法関係手数料令の一部改正（自転車、リヤカーの部品および附属品）
3.26	通商産業省告示第 65 号	電熱器、ラジアル玉軸受、伸銅品等の等級標準改正）
3.26	通商産業省告示第 66 号	陸用内燃機関の最低標準改正、アルミニウム波板の最低標準制定等

Ⅱ　輸出品取締法による登録検査機関一覧表

（ミシンおよび同部品）

財団法人日本ミシン検査協会	東京都中央区銀座東６の７	
〃　事業所	東京都中央区銀座東６の１	
	名古屋市中区東田町３の４	
	大阪市生野区勝山通８の40	

（双眼鏡）

財団法人日本望遠鏡検査協会	東京都千代田区丸の内３の８	仲６号館
〃　事業所	東京都千代田区丸の内３の８	仲６号館
	東京都板橋区板橋町２の652	

（軸受および同部品）

日本軸受輸出検査株式会社	東京都中央区銀座４の５	三原ビル内
〃　事業所	東京都中央区銀座４の５	三原ビル内
	富山県富山市石金20	
	大阪市北区梅田町47	新阪神ビル内

（自転車リヤカーおよび同部品）

財団法人日本自転車検査協会	東京都中央区銀座西６の５
〃　事業所	東京都台東区御徒町１の32
	名古屋市中区大池５の２
	石川県江沼郡三木村熊坂イの197
	大阪市西区本田二番町20の１
	福岡市住吉平田町1325
	堺市南清水町２の78

（セルロイド生地及びセルロイド製品）

財団法人セルロイド検査協会	東京都台東区浅草柳橋２の11
〃　事業所	東京都台東区浅草柳橋２の11
	大阪市東成区大今里本町１の127